A photograph of a university campus. In the background, there is a large, multi-story white building with a central tower-like structure. The building has many windows and a modern architectural style. In the foreground, there is a paved road that curves to the right. On either side of the road, there are green lawns and several trees, some of which are young and supported by stakes. The sky is a clear, pale blue. The overall scene is bright and well-maintained.

2004年度

自己点検・評価報告書

会津大学短期大学部

2004 年度

自己点検・評価報告書

会津大学短期大学部

はじめに

この会津大学短期大学部 2004 年度自己点検・評価報告書は、2004 年 6 月の時点で、会津大学短期大学部の各学科、委員会での活動を自己点検・評価したものです。

今後導入される学位授与機構による認証評価、福島県の評価委員会による評価の前提は、本学自身による自己評価です。その際必要になるのは、自己評価が客観的データに基づいていること、さらにその前提として、自己評価がいかなる目標・計画に対する達成度の評価であるのか、という基準です。

前者の、自己評価の客観性を保証するデータは、この報告書でも盛り込む努力をしていることを読みとっていただければ幸いです。2004 年度後期に 84%という、Web 入力としてはかつてなく高い回収率を達成した「学生による授業評価」も今後の一助となるものです。

後者の、自己総括の前提になる、そもそもの目標・基準は、2006 年 4 月からの法人化に向けた中期目標・中期計画に示されていますが、今後一層の具体化が必要です。

そうした自己評価の発展に向けての一到達点として、ここに 2004 年度会津大学短期大学部自己点検・評価報告書を公表いたします。

総括をお寄せ頂いた皆様のご努力に深く感謝申し上げますとともに、公表が遅れましたことをお詫び申し上げます。

2005 年 3 月 31 日

会津大学短期大学部
学長 池上 徹彦

目次

はじめに

将来構想委員会	1
教養基礎会議	3
産業情報学科	11
食物栄養学科	23
社会福祉学科	34
教務厚生委員会	40
入学試験委員会	52
進路指導委員会	61
附属図書館並びに附属図書館委員会	66
公開講座運営委員会	79
広報委員会	85
地域総合調査室集	91
コンピュータセンター並びにコンピュータセンター運営委員会	95
学生相談員	114
セクシャルハラスメント防止委員会	117
自己評価総括委員会	119
2003年度アンケート調査報告書「学生による本学の評価」	123
2003年度アンケート調査報告書「学生による授業評価」	159
資料「学生による授業評価システムへの応用」	256

将来構想委員会

I 目的及び目標

1. 目的

本委員会の会務は、下記のとおり本学の将来構想などについて協議することが目的である。

- (1) 本学の学科の再編成に関すること
- (2) 本学の組織・機構の改変及び将来の構想に関わること

2. 目標

本学は、2006年4月から地方独立行政法人に移行する。短期大学部を法人化するのに伴い、将来に対する中期目標・計画、組織のあり方、財政・会計、人事制度などについて、設置者と大学が緊密な協力関係の下に具体的な検討を進めて行くことが重要な課題である。

II 評価項目ごとの自己評価

1. 将来構想委員会の運営体制

(1) 将来構想委員会の整備に関する取組状況

法人化に向けて、将来構想委員会の下部組織として、地方独立行政法人化ワーキンググループ(以下、法人化ワーキンググループと略す)を設置した。法人化ワーキンググループは、中期目標・計画部会、条例・組織部会、人事制度部会、財政・会計部会および地域貢献部会の五つの部会からなる。尚、各学科、委員会においては具体的な将来像について学科課程・カリキュラム、時間割などを含めて検討を進めてもらっているところである。

(2) 目的及び目標の趣旨の周知及び公表に関する取組状況

各学科、委員会、法人化ワーキンググループにて検討していただいた内容について将来構想委員会でまとめて教授会に提案している。

(3) 特に優れた点及び改善点等

各学科、委員会、法人化ワーキンググループなどに権限を委譲し、具体時な将来構想について協議を具体的に進めてもらう。その案について双方向でまとめて行きたい。

2. 将来構想委員会での取組

(1) 将来構想に関する取組と達成状況

本学の取り組みについて、前回の自己点検・評価報告書が出された2002年以降について、福島県の施策と併せて概略を下記する。

・福島県「県立大学のあり方検討会」設置(2002年1月)

福島県内の県立大学の基本的な将来に対する方向性と、大学の主な取組について検討された。本学においては、将来に対する方向性と主な取組について検討し報告書を作成した。それらを基にして、福島県内の県立大学について「県立大学

のあり方検討会報告書」が作成された。(2003年3月)

・福島県「県立大学法人制度等検討会議」設置(2003年4月)

「県立大学のあり方検討会」の報告書をさらに推し進めるために検討会議が設置され、地方独立行政法人化について協議が行われた。本学では、法人化について検討を進めて要望書「短期大学の法人化に向けての基本的な見解について」(2003年10月)を作成して提出した。同年12月には検討会議報告書「県立大学の法人化について」が作成され提出された。

・地方独立行政法人化の公表

2004年1月に、佐藤栄佐久知事より下記の3点が公表された。

- 1) 福島県内の公立大学を法人化し、その時期は2006年4月を目途とする。
- 2) 法人・大学の構成については県立医科大学と会津大学それぞれに法人化する。
- 3) 法人の長(理事長)と学長は同一の人物とする。

・福島県「県立大学法人化推進本部」を設置(2004年1月)

法人化を具体的に進めるために、推進本部が設置された。下部組織として、幹事会と四つの専門部会(条例・組織、人事制度、目標・計画、財政・会計)が設置された。

・福島県「県立大学法人化基本方針」作成(2004年3月)

法人化の基本方針が作成され、今後は組織・業務(13項目)、人事制度(6項目)、目標・計画、評価(8項目)、財務会計制度(7項目)等を中心に具体的に検討を進めることになった。

(2) 特に優れた点及び改善点等

今後は、各学科、委員会、法人化ワーキンググループなどに権限を委譲し、具体時な将来構想について協議を進めてもらい、時間等の効率化を進める。

3. 将来構想活動の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 将来構想活動の質の向上及び改善の取組に結び付けるシステムの整備及び機能状況

福島県の公立大学の法人化は、いま存在する公立大学をそれぞれに法人化するものであり、教育・研究レベルの更なる向上とともに、地域社会に対する保健・医療・福祉・産業分野での貢献など、本県にふさわしい県立大学としての役割を的確に果たしていくことが目的である。今後は、設置者と大学が緊密な協力関係の下に具体的な検討を進めてゆくことが肝要である。特に、四年制大学に併設された短期大学の組織上のあり方、評価委員会のあり方、外部監査のあり方など慎重に協議を重ねる必要がある。

(2) 特に優れた点及び改善点等

会津大学コンピュータ理工学部および設置者を交えて緊密な協力関係の下に協議を進めて行くことが大切であると考えている。

教養基礎会議

I 教養教育に関するとらえ方

情報化やグローバル化、少子高齢化傾向の加速や大学の大衆化といった社会状況や教育環境の変化の中で、大学に関する環境も流動的である。平成3年のいわゆる「大綱化」以来、一般教養教育を運営する組織・機構が消滅したが、一般教養教育の存在意義は決して否定されるものではない。むしろ激変する社会の中で、その重要性は以前にも増して強調されていると言える。

混迷を続ける世界情勢や多様化する価値観の中で、人間は新たな幸福観や文明観を構築していかなければならない。特に、科学技術・環境・生命・倫理・人権・情報などの領域における凄まじい変化に適切に対応していくためには、自己の専門分野だけでなく、総合的な視野からの判断力が必要となる。そうした能力養成のために、教養教育の重要性は再認識されなければならない。

II 教養教育に関する目的及び目標

1. 目的

短期大学教育の目的は、「学科に係わる専門の学芸を教授し、職業又は實際生活に必要な能力を育成するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない」(短期大学設置基準5条)とされている。「幅広く深い教養及び総合的な判断力…豊かな人間性」は美辞麗句的印象ではあるが、健全な社会建設と社会貢献を目指す場合、誰でも備えるべき基本的な精神性であろう。そしてこれらは大学の全教育活動を通して培われるものであるが、教養教育はこれらの能力の涵養を直接の目的とするとよいであろう。

現代の日本の急速な社会的変動と科学技術の利便性・効率性の中で、ともすれば、日本人の伝統的な価値観・美意識・生活慣習などが軽視される傾向にある。既存の価値観の見直しが迫られているとはいえ、それは自国文化の価値を放棄することを意味しない。日本人のアイデンティティを再考し、均衡のとれたグローバル化を可能にする能力を育成することが教養教育の目的に含まれよう。

個々の学生は、専門教育を通して獲得した知識・技能が社会全体の中でどのような意義と重要性をもつのか、といった自己の専門性と社会との関わりを正しく認識しなければならない。また、職業人としてその専門性を適切に発揮するためには、幅広い知見、柔軟な思考法や創造性が不可欠である。教養教育はそうした能力の獲得を目指すものである。こういう意味で、専門を踏まえた新しい教養人の養成が教養教育の目的であると言えよう。

2. 目標

上述の目的を達成するため、学生への具体的な教養基礎教育の目標は、次のようなものが考えられる。

- (1) 人生・幸福・愛・死といった人間にとって根元的な問題に真摯に向き合う精神性を備えた学生を育成する。
- (2) 主体的・積極的に勉学に取り組み、学問全般に対する強い知的探求心をもつ人材を養成する。
- (3) 情報メディア活用能力を高め、情報化社会に相応しい人材の育成に努める。
- (4) グローバリゼーションに適切に対応できるような意識と感覚と能力を備えた人材を養成する。
- (5) 外国語教育の充実を図り、異文化を正しく理解し、コミュニケーション能力を持った学生を養成する。
- (6) 幼児から高齢者に至るまでの生涯学習を視野に入れて、自己啓発・自己実現に努めることのできる人材を養成する。

Ⅲ 評価項目ごとの評価結果

1. 実施体制

(1) 教養教育の実施組織に関する状況について

平成5年、会津大学開学に伴って本学の元一般教養科の教員5名が会津大学文化研究センターに移動した。その時点で組織としての一般教養科は解体したが、本学の教養教育のために新たに教養基礎会議が組織された。その具体的な構成メンバーは、教養基礎会議の組織母体となる元一般教養科教員6名と、本学の教養基礎科目担当者8名(平成16年度)の計14名であり、共に教養基礎教育と組織の運営に当たってきた。各種委員会のうち、自己評価総括委員会、将来構想委員会、教務厚生委員会、附属図書館委員会、広報委員会、学生相談委員に教養基礎会議からも委員が出るようになっており、元一般教養科教員6名のうち本学に残った1名が教養基礎会議の中核として、議長・教務厚生委員・自己評価総括委員・広報委員を兼ね、文化研究センター所属の教員2名が附属図書館委員と学生相談員となっている。

(2) 目的及び目標の周知・公表に関する状況について

教養教育の目的等に関しては、学生に対してはまず入学生ガイダンスにおいて周知し、さらに「学生便覧」と「教授要綱」において詳細に述べている。とくに「教授要綱」では、各科目の内容、毎時間の授業内容の公表によってその目指するところを明確にしている。また学外に対しては、「大学案内」や「授業科目ガイド」、さらに本学のホームページ等を通して広く公表している。

(3) 今後の課題

元一般教養科教員6名のうち本学に残った1名は、近い将来退職を迎えることになる。その後の円滑かつ効果的な組織運営と教養基礎教育を視野に入れながら、後任人事、役割分担、組織運営形態などを慎重に検討していかなければならない。また遠い将来においては、元一般教養科教員で現在文化研究センター所属の教員も退職することになり、教養基礎会議の組織母体は消滅することになる。その後の運営は本学の教員だけで担うことが推測されるが、そ

れを見越した運営方法・形態等を創出していかなければならない。

2. 教育課程の編成

(1) 教育課程の編成に関する状況について

平成 13 年度から 16 年度までについて 教育課程の再編成・見直しについて述べる。

- ①教養基礎科目の「現代社会と福祉」は社会福祉学科の専門科目と内容的に重複するところが多いため、14 年度より、社会福祉学科の学科課程表より削除した。
- ②教養基礎科目の「コンピュータと情報」は産業情報学科の専門科目と内容的に重複するところが多いため、16 年度より産業情報学科の学科課程表より削除した。
- ③平成 13 年度に、自由科目として「検定英語 I」(前期・2 単位)、「検定英語 II」(後期・2 単位)を新設した。様々な分野におけるグローバル化とそれに伴う国際コミュニケーションの重要性がますます増加しており、本学でも TOEIC、TOEFL、英語検定などを視野におく学生が微増しており、これは客観的な英語力測定のために望ましいことである。また四年制大学への編入学者も年々微増し、英語力養成のための学習機会を増やすことは重要であり、こうした目的達成のためである。
- ④平成 14 年度に、自由科目として「基礎英語」(前期・2 単位)を新設した。種々の理由により、高校時代まで英語学習機会が足りなかった学生を対象に、全くの初級英語から学び直し、本学の英語科目(「英語 I・II・III・IV」、「英会話 I・II・III・IV」)への橋渡しを目的とする。
- ⑤平成 14 年度より産業情報学科の自由科目に「運動技術 I」を新設した。「運動技術 I」は食物栄養学科1年と社会福祉学科1年にクラス単位に行われる授業であるが、産業情報学科の希望学生はどちらかの授業を履修できるようになった。様々な大学への編入学に際して、可能な限り多くの体育実技の単位を取得したいという要望に応えるためであるが、これにより、体育実技に関しては、最大 4 単位を取得できるようになった。

(2) 教養基礎科目修得単位について

教養基礎科目卒業必修単位は 12 単位である。学生には 12 単位に満足することなく、意欲的に多くの科目履修に挑戦するよう指導している。現在 33 科目(62 単位)が開講され、2 年間で最大 37 単位まで取得できるカリキュラム体制となっている。過去 6 年間の教養基礎科目修得単位一覧は下表のようである。

単位数	平成 10 年度卒	11	12	13	14	15	計	
							人	%
12	70 人	30	55	31	39	33	258	26.9
13	16	25	25	31	49	36	182	19.0
14	13	35	31	36	33	28	176	18.3
15	10	11	8	16	15	22	82	8.5
16	9	20	6	18	13	10	76	7.9
17	7	9	5	5	1	8	35	3.6

18	3	7	4	7	8	8	37	3.9
19	5	5	3	4	1	6	24	2.5
20	3	1	3	3	2	1	13	1.4
21	1	1	2	2	1	1	8	0.8
22	0	3	0	2	1	2	8	0.8
23	1	2	2	1	0	0	6	0.6
24	1	4	1	0	2	5	13	1.4
25	1	2	1	0	0	1	5	0.5
26	1	1	2	2	0	0	6	0.6
27	1	2	0	0	1	0	4	0.4
28	4	1	3	3	0	1	12	1.3
29	1	1	1	0	0	1	4	0.4
30	0	0	1	0	1	0	2	0.2
31	1	0	3	0	1	0	5	0.5
32	0	0	0	0	0	1	1	0.1
33	0	1	0	0	0	0	1	0.1
34	0	0	1	1	0	0	2	0.2
計	148	161	157	162	168	164	960	99.9

最低単位で卒業する者は平均で 27%ほどであり、20 単位までの修得者が 92%を占める。21 単位以上修得者(8%)の大部分は四年制大学への編入学者であろう。短期大学の特徴の1つは過密カリキュラムであり、学生に課される専門科目の負担も小さいものではないであろうが、そうした困難な状況にあっても、教養基礎科目を履修したいと思える魅力ある教養教育を模索しなければならない。

(3) 入学前の既修得単位認定について

本学入学前に他大学、短期大学で履修した教養科目及び専門科目を本学の教養基礎科目に読み替えることを行っている。平成 12 年度に 3 名(17 科目)、平成 14 年度に 3 名(17 科目)、平成 16 年度に 2 名(10 科目)に対して、既修得単位認定を行った。

(4) 今後の検討課題

①会津大学コンピュータ理工学部への編入学履修科目として教養基礎科目 26 科目がある。そのうち自然科学分野においては、本学において履修する「数学 I」(2 単位)を会津大学における「線形代数 I」(1.5 単位)に、「数学 II」(2 単位)を「微積分 I」(1.5 単位)に、「力学」(2 単位)、「電磁気学」(2 単位)は会津大学のその科目に読み替え、2 科目 5 単位以上履修が編入学の条件となっている。現在、「線形代数 I」「微積分 I」「力学」「電磁気学」の全てを会津大学科目等履修生として履修することは物理的に不可能であるので、上述のように読み替えているのであるが、これらの 4 科目は学外の 2 名の非常勤講師に担当してもらっている。しか

し近い将来、会津大学の関係教官にこれらの科目の担当を依頼できるような制度を確立していかなければならない。

- ②この数年「総合科目」の受講生が少ない。学際的な内容をもつこの科目は、1つの問題を様々な視角から眺め、思索するためには恰好の科目であり、広い立場からの総合的判断能力を培うのに最適な科目である。また、自分の専門性と社会全体との関係を正しく認識するためにも、好適な学習機会を提供することになろう。学生にとって魅力的な科目になるように、内容や授業形態を考えていかなければならない。
- ③小学校からの情報教育に伴って、入学生の情報関連知識とコンピュータ操作スキルは年々向上していくものと期待される。しかし情報化の負の部分も目立ち始めた昨今、情報と社会の正しい関係を常に思考するような人材を養成しなければならない。情報教育に限らず、激しい社会変動と社会の要請に的確に対応した科目設定と科目内容を常に意識していかなければならない。

3. 教育方法

(1) 授業形態及び学習指導法等に関する取組状況について

- ①平成12年度と15年度の学生による授業評価の結果を踏まえ、それぞれの教員が授業形態や教授方法の改善に取り組んでいる。板書の仕方・発声などから、機器の使用・進度・学生の理解度・反応まで、できるだけ広範に、きめ細かに気を配りながら進めている。毎回あるいは数コマ毎に小テストを実施したり、授業の最後にその授業のまとめを記述して提出させるなど、学生に絶えざる集中と緊張を求め、教育効果をあげようと工夫している教員も見受けられる。
- ②高校までの諸事情により、本学のある教養基礎科目に関して特に基礎学力の低い学生がいるが、彼らへのきめ細かい個人指導を心掛けている。オフィスアワーとして固定したものではないが、できるだけ多くの機会をとれるよう学生と時間調整を図りながら、今後も継続的に努めていきたい。また、編入学、短期外国留学、英語検定試験に関すること等、学生の要求に応えて適切な指導・助言など与えるようにしている。

(2) 学習環境(施設・設備等)に関する取組状況について

平成11年度にすべての教室にビデオ機器、OHP設備が設置され、教養基礎科目の授業も視聴覚を利用した変化に富んだ教授法が展開可能になった。「英会話 I・II」及び「英語 I・II・III・IV」は視聴覚機器をフルに利用しているが、設置後10年ほど経過した機器の小さな故障などが発生してきた。特に英会話の授業に不可欠な自習用語学システムの不具合は効果的な授業には大きな障害となる。長期休業中の徹底した定期点検が必要である。

4. 教育の効果

(1) 教育の実績や効果について

- ①入学目的について

成 15 年度のアンケート調査「学生による本学の評価」中、「本学入学の目的」についての質問事項「(2) すぐ役に立つ実践的知識・技術・技能を身につけるため」に対する回答は下表のようである。(評価 5—そう思う、4—いくらかそう思う、3—どちらともいえない、2—あまりそう思わない、1—そう思わない、以下同じ。)

質問項目	学年	回答数(人)	評価 5 (%)	4	3	2	1	評価平均
(2)	1	56	39.3%	37.5	17.9	1.8	3.6	4.1
	2	43	44.2	46.5	9.3	0	0	4.3

「5」と「4」を選んだ者は1年生が 76.8%、2 年生 90.7%にのぼるが、この数値に専門教育への高い期待感を見て取れる。直裁的な教育効果を自覚できる専門教育に対して、即効力をもたぬ曖昧性が教養教育の特質の一つと言えるだろうが、それに対する学生の期待感は専門教育に比べて低いようである。

教養教育に対する質問項目「(5) 広く教養を身につけ総合的能力を向上させるため」と、この目的に対する達成度を問う質問項目「(13) 広く教養が身に付き総合的能力が向上している」に対する回答は下表のようである。

質問項目	学年	回答数(人)	評価 5	4	3	2	1	評価平均
(5)	1	54	31.5	35.2	27.8	1.9	3.7	3.9
	2	44	34.1	31.8	18.2	9.1	6.8	3.8
(13)	1	55	10.9	47.3	32.7	7.3	1.8	3.6
	2	45	22.2	35.6	28.9	11.1	2.2	3.7

(5)に対して「5」と「4」を挙げた者は全体平均66.3%であり、教養教育の一般的目的を3人に2人が抱いていることがわかる。一方、その達成感がある程度持っている者(「5」と「4」の評価)は全体平均 58.0%である。そう高いとは言えないこの数値は、教育システムと個人の勉学の両者に関わる問題であろう。2 年生はこうした目的を持たない者は 15.9%、その達成感を持たない者は 13.3%であり、1 年生の 5.6%、9.1%に比較すると多い。1年生の理想主義、2年生の現実主義の表れと言えようか。

②教養基礎科目の授業、カリキュラムについて

「学生による本学の評価」中の教養基礎教育に関して、「教養基礎科目の授業、カリキュラムについて」の質問項目は「28」から「37」までである。それぞれの内容は、「28 授業は自分の将来に大いに役立つ」、「29 教育目的の一つである『豊かな人間性の形成』に役立った」、「30 『幅広く深い教養と総合的な判断力を養う』のに役立った」、「31 専

門を学び、理解する上で役立った」、「32 選択の幅を増やすための並列開講はやむを得ない」、「33 科目の種類・数は今のままでよい」、「34 学科課程、カリキュラムは現代社会の必要性に応じている」、「35 単位数や選択・必修科目について満足している」である。

それぞれの質問項目に対する回答数値は下表のようになっている。

質問項目	学年	回答数(人)	評価 5 (%)	4	3	2	1	評価平均
28	1	56	23.2%	55.4	21.4	0	0	4.0
	2	45	31.1	33.3	31.1	4.4	0	3.9
29	1	56	12.5	48.2	35.7	3.6	0	3.7
	2	43	23.3	48.9	16.3	11.6	0	3.8
30	1	56	14.3	39.3	44.6	1.8	0	3.7
	2	45	15.6	37.8	33.3	8.9	4.4	3.5
31	1	56	16.1	50.0	33.9	0	0	3.8
	2	44	29.6	29.6	29.6	6.8	4.5	3.7
32	1	55	21.8	32.7	41.8	3.6	0	3.7
	2	42	16.7	47.6	28.6	2.4	4.8	3.7
33	1	55	16.4	21.8	40.0	16.4	5.5	3.3
	2	43	25.6	25.6	20.9	14.0	14.0	3.3
34	1	55	14.6	21.8	60.0	1.8	1.8	3.5
	2	44	15.9	38.6	34.1	6.8	4.5	3.5
35	1	53	15.1	34.0	43.4	3.8	3.8	3.5
	2	44	25.0	38.6	22.7	9.1	4.5	3.7

回答数は全学年計で97～101人で、総計340人の30%程であるから、総合的な判断は困難であるが、この表から読みとれることを列挙してみる。

質問項目「28」～「31」に対する肯定的評価である「5」と「4」の合計を2学年全体平均で挙げてみると、「28」は71.5%、「29」は66.5%、「30」は53.5%、「31」は62.6%である。これら4項目の評価平均は3.5～4.0であり、「5」と「4」の合計平均値は63.5%である。学生の評価は概ね肯定的と判断できるが、数値は決して高いものとは言えない。特に「豊かな人間性の形成」に役立った、とは思わない者が2年生に11.6%おり、考えさせられる。もっとも、「豊かな人間性」、「深い教養」、「総合的な判断力」、という言葉の意味するところは極めて主観的・感覚的で曖昧であり、それに関する評価数値にどれほどの客観的な信頼性を置けるかは判断の難しいところである。

カリキュラムに関する質問事項の内容とそれに対する肯定的評価数値（「5」と「4」の計）の全体平均は、「32」が59.4%、「33」が44.7%、「34」が45.5%、「35」が56.4%である。「32」は

物理的にいって「並列開講」の変更は極めて困難であり、これまでを踏襲するしかあるまい。「33」で科目の種類・数に満足した者、「34」でカリキュラムが社会の要請に応じていると評価した者が、半数に満たない事実を真摯に受けとめなければならない。特に「33」に対する否定的評価(「2」と「1」)は、平均 25.0%にのぼる。不満は科目数に対してなのか、科目の種類に対してなのかは不明である。「36 開設して欲しい科目」に対する自由記述では、「倫理、ドイツ語、韓国語、コミュニケーション学系、デザイン基礎学系」がそれぞれ1つ挙げられているだけで、切実な要望科目は明らかでない。「34」に対する肯定的評価も半分に満たず、否定的評価は平均 3.7%である。不満度は高くはないが、「現代社会の必要性に応じている」カリキュラムを学生は望んでいることを真摯に受けとめなければならない。「37 カリキュラムに関する希望」に対する自由記述では、「32」の「並列開講」に対する不満が 2 人あるが、前述の通り、やむを得ないものがある。

③学生自己評価

「学生による授業評価」に、学生自身の学習方法・態度に関する質問項目がある。主体的・意欲的に学ぶ学生の育成が教養基礎教育目標の1つであるので、これに触れてみたい。関係するそれぞれの質問項目内容は、「(14)出席率は良好であった」、「(15)受講態度は良好であった」、「(17)意欲的に学ぼうとした」、「(18)予習や復習をおこなって授業に出席した」である。15年度の全ての教養基礎科目 33 科目に対する全学年の回答集計結果は下表のようである。

質問項目	回答数(人)	評価 5 (%)	4	3	2	1	評価平均
14	208	60.0	23.1	11.8	4.3	1.0	4.4
15	208	38.5	33.7	20.7	6.3	1.0	4.0
17	209	34.0	31.6	29.2	4.8	0.5	3.9
18	197	12.2	13.7	35.0	23.4	15.7	2.8

の結果から、出席率は良好と答えた者は 83.1%、受講態度は良好とした者は 72.2%、意欲的に学んだ者は 65.6%であり、概ね真面目な勉学態度と見てよいだろう。ただ予習や復習をして授業に臨む者は少なく、むしろ否定的回答が 40%近くにのぼる。これは、講義・演習・実技という授業形態・内容に深く関わっており、学生の勉学意欲と直接にはリンクしないと見るのが妥当であろう。本学では伝統的に、授業中の学生の私語もほとんどなく、教員側からすればやりやすい授業であるが、さらに学習意欲に富む学生の育成を目標としていきたい。

産業情報学科

I 教育目的及び目標

1. 教育目的

科学技術の急速な進展、社会の複雑化・高度化、少子高齢化、地球環境の変化などに伴い、産業界では幅広い視野に基づいた発想や判断がより重要度を増しており、市場環境の変化に対応できる柔軟性と創造性を持ち、高度な専門性を備えた人材が強く求められている。

こうした状況を踏まえて、本学科では経営情報コースとデザイン情報コースの2コースを配置し、それぞれの視点から今日的課題を見つめ、経済社会および地域社会の生活、文化の向上発展に寄与できる人材育成を教育目的にしている。

- (1) 実践的な専門基礎能力の育成。
- (2) 豊かな人格の形成、自発的な学習意欲の育成。
- (3) 幅広い教養に根ざした判断力や総合力の育成。
- (4) 問題解決能力と創造的展開能力の育成。

2. 教育目標

幅広い教養基礎科目群と系統的専門教育科目群を提供することにより、豊かな人間形成を促す教育を行い、充実した人生や成熟した地域社会を形成するための価値判断や総合判断が出来る素養を身に付ける。また、コンピュータ関連科目はもとより、情報処理教育を多角的に援用し、価値ある情報の発見と創造的活用を図る。さらに、少人数教育によるきめ細かな教育を実現し、実践的専門基礎教育により実務能力を磨くとともに、早期からゼミナール教育を実施し、自立的学習や課題発見・探求能力・整理分析能力などの基盤となる素地を育成し、変容する現代社会に適応できる能力を育てることなどを目標とする。

II 評価項目ごとの自己評価

1. 教育の実施体制

(1) 教育実施組織の整備に関する取組状況

学科及び大学の教育実施体制は各種委員会が重要な役割を担ってきた。各種委員会は委員会の所轄事項について学科及び大学全体に渡って議論し機能している。

学科の教育の実施組織としては、学科会議が総合的に取り組んでいる。教務厚生委員会、入学試験委員会、進路指導委員会、自己評価総括委員会等の各種委員(16部門)が中心となり、それぞれの直面する課題について討議している。

教育課程の編成については、これまで教務厚生委員が中心となって行ってきたが、平成15年度に、カリキュラム検討ワーキンググループを設置し、カリキュラムの変更・改善

について検討を行っている。

コンピュータ関連機器の保守・管理業務とコンピュータ関連科目(コンピュータ概論、コンピュータ創造基礎演習A・B、デジタルデザイン論演習等)や実習関連科目への補助・支援体制として、3名の実習助手を配置している。また、デザイン棟を管理・運営する実習助手についても1名配置している。

(2) 教育目的及び目標の趣旨の周知及び公表に関する取組状況

目的及び目標の趣旨の教職員、学生への周知は、「教授要綱」を年度ごとに配布し、教育科目ごとの学習意図を明示することで理解を促している。また、入学時の学科ガイダンスやオリエンテーションにおいて周知を図っている。

学外への公表としては、受験生や高校生において、主要な情報源として考えられる「大学案内」に記載している。また、総合的な情報としてウェブサイトにも公開している。「シラバス」(「教授要綱」と同じ内容)については、平成12年度よりウェブサイトでも公開している。また、その他、主要科目の要点をまとめた授業科目ガイド(平成12年度から発行)、大学説明会、教員による高校訪問、公開講座による open junior college の開講、高等学校による本学での見学会、受験雑誌への掲載などで適宜行っている。公表の効果・有用性については確認できないが、入学者へのアンケート調査では、ウェブサイトの認知度が上昇しているといえ、内容の充実化と操作性の向上がより一層望まれている。

(3) 学生受入方針(アドミッション・ポリシー)に関する取組状況

大学案内、大学説明会、高校訪問、ウェブサイト等により教育目的および目標を公開し、それに応じた相応しい多様な内外の人材を求めている。同時に、入試制度に対する検討を重ね、平成13年度入試より推薦入学における推薦基準値であった評定平均値の設定を撤廃した。これは、特に進学校からの要望に応えるもので、志願者数の増加を期待するとともに受験機会の拡大を図ったものである。また、同時にデザイン情報コースでは、特別推薦制度(指定校制)を設けた。大学受験に見られるここ数年の傾向は、①受験生の減少、②国公立志向、③四年制大学志向、④資格取得可能な学科志望などがあげられており、厳しい状況下における対策の一つとして導入に踏み切った。

我が国の少子化現象は受験生の減少に繋がっており、今日的受験事情に拍車をかけ、全国の大学、短期大学にとっても大きな問題となっている。本学科でもその影響を受けているが、その対策として、教員による高校訪問、大学説明会の実施、入試制度の改革などに取り組み学習意欲のある学生確保に努めてきた。高校訪問においては、県内高校を重点的に全教員が分担して訪問し、学科の特色を始め、カリキュラム、学生生活、入試、進路状況等を具体的に説明している。また、大学説明会では、学科内容の説明の充実などに取り組み、質問コーナーや体験セミナーの機会を設けている。ここに参加した高校生は、これらの内容に興味と関心を持ち、そのほとんどの生徒が推薦入試または一般入試で本学を受験してきている。

しかしながら、短期大学とりわけ本学科のおかれている状況は依然として厳しい状況にあることに変わりはなく、教育目標の確実な達成とアドミッション・ポリシーのより具体的な明示や教育内容の具体的提示、受入後の教育・支援体制の強化、卒業後の進路像などをより明確化し、内外に公表していく必要がある。

●推薦入学試験の入試動向

	募集 人員 (a)	志願 者数 (b)	受験 者数 (c)	合格 者数 (d)	入学 者数 (e)	受験 率 (c/b)	実質競争 倍率 (c/d)	入学率 (e/d)
平成12年度	21	38	38	22	22	100	1.7	100
平成13年度	26	59	59	28	28	100	2.1	100
平成14年度	26	64	64	30	30	100	2.1	100
平成15年度	26	46	46	26	26	100	1.8	100
平成16年度	26	56	55	27	27	98	2.0	100

●一般入学試験Ⅰ期の入試動向

	募集 人員 (a)	志願 者数 (b)	受験 者数 (c)	合格 者数 (d)	入学 者数 (e)	受験 率 (c/b)	実質競争 倍率 (c/d)	入学率 (e/d)	
平成12年度	27	106	99	57	33	93	1.7	58	
平成13年度	24	86	82	55	34	95	1.5	62	
平成14年度	24	46	46	26	26	100	1.8	100	
平成15年度	24	94	89	43	33	95	2.1	77	
平成16年度	学力	21	93	88	39	20	95	2.3	51
	センター	5	82	82	20	4	100	4.1	20

●一般入学試験Ⅱ期の入試動向

	募集 人員 (a)	志願 者数 (b)	受験 者数 (c)	合格 者数 (d)	入学 者数 (e)	受験 率 (c/b)	実質競争 倍率 (c/d)	入学率 (e/d)
平成12年度	12	26	22	14	8	85	1.6	57
平成13年度	10	45	36	13	7	80	2.8	54
平成14年度	10	35	33	19	18	94	1.7	95
平成15年度	10	33	27	12	12	82	2.3	100
平成16年度	8	41	37	15	15	90	2.5	100

2. 教育内容面での取組

(1) 教育課程の編成に関する取組状況

学科会議および教務厚生委員を中心に、カリキュラムを逐次見直し、検討・変更を重ねて行ってきた。特に、社会環境の変化に対応した科目の新設や学生の要望を取り入れた科目の追加等を行い、カリキュラム全体を学科の理念にそった内容にすべく整備をしている。

平成15年度より学科内にワーキンググループを設け、経営情報コースとデザイン情報コースそれぞれの視点から見た専門教育と相互にまたがる基礎教育および視野を広めることを目的にした共通選択科目に対する考え方やあり方等の検討を行い、時代の要請に即応したカリキュラムの再構築を行っている。

経営情報コースでは、情報化、国際化の動向に対応して、共通選択科目としている「コンピュータ概論」および「プログラミング論」を必修科目とし、専門教育科目の選択科目であった「情報産業論」を廃止し、「国際経営論」を新設した(平成11年度)。また、選択科目が多いことが一因と思われるが、1年次に多くの授業科目を履修し、2年次後期には必修科目以外には数科目しか履修しないという学生が少なからず見受けられるため、履修方法に大きな偏りが見られる。さらに、セメスター制への移行に伴い、継続的履修が望まれる授業科目であるにもかかわらず、卒業に必要な単位を取得できれば履修をやめてしまう学生も見受けられる。このような問題を解決するために履修指導を重ねてきたところであるが、より即効性のある方策として、2年次の取得単位を12単位以上から17単位以上へと改めた(平成13年度)。同時に、「会計情報システム論演習」は関連科目が充実していることから廃止し、「会計情報システム論」を「会計情報システム論Ⅰ・Ⅱ」として講義内容を一層充実させることとした。これまで共通選択科目の必修科目として位置づけてきた「プログラミング論」については、コース全学生にとって必要な科目かどうか、社会動向・需給動向などから判断して、平成15年度より必修科目から除外した。平成15年度には、就職希望者の間で増加している簿記資格の取得率向上と工業簿記の原理についての理解を高めるうえで欠かせない科目として「工業簿記論Ⅰ」、「工業簿記論Ⅱ」が必要となり、既設の「簿記概論」と併せて開講することによって、会計学分野の基礎的学力を向上させる目的として平成16年度より新設することを決定した。また、経済学の応用領域である既設の「金融論」と対をなすものとして充実をはかり、増加する公務員希望者や大学進学希望者にとって意義あるものとして、「財政学」についても次年度から開講することとした。

デザイン情報コースでは、定年退職教員が担当であったことも一因となるが、短期高等教育におけるデザイン教育での「材料学実験」の位置づけや本コース内の教育目標や教育体制などから検討し、「材料学実験」を廃止することとした(平成14年度)。「デザイン情報実習Ⅰ」および「デザイン情報実習Ⅱ」については、インテリア、クラフト、グラフィック、コスチューム、プロダクト、マテリアルといった6分野に分かれて実施する体制を取ってきたが、平成13年度の入学生からマテリアル分野を廃止し、平成15年度からイ

ンターフェース分野を新しく加えた。また、学科設立当初から、コンピュータ機器をデザインツールとして援用したデザイン教育を多面的に取り入れてきたが、情報関連技術の進展に伴いコンピュータ画面による情報提供としてのデザイン教育についてもその必要性が望まれていることから、平成15年度より、Webデザインおよびコンテンツデザインを中心にWebサイト構築に対応した「デジタルデザイン論」および「デジタルデザイン演習」を新設した。

(2) 授業(研究指導も含む)の内容に関する取組状況

産業情報学科では、学科設立当初より2年間の研究・学習成果をまとめる「卒業研究ゼミ」を必修科目として設けている。短期大学としては卒業研究を必修として実施している例は希少である。学生の身近な問題や地場の問題を授業・研究テーマに取り入れ、課題を通して体験することで、社会にどのように活用されるかを考えながら学ぶ動機付けをしている。自ら問題を掘り起こし、調査研究を組み立てながら、問題解決に向けて知識を広め、創造展開していくことを経験することは、将来の実社会で役立つことが大きく期待できる。さらに、1年次後期から2年次後期までの1年半の長い期間にわたって、少人数で進める卒業研究ゼミの授業は、学生と教員が自由に意見を交わすことによって、研究の進展と共に相互の信頼関係を強くすることができるものであり、今後も卒業研究ゼミの充実を目指すべきである。

経営情報コースとデザイン情報コースから成る学科としては、目指す人材育成の観点からカリキュラムにはそれぞれの特徴を持ち、それを教育に活かすべく努力を重ねてきているが、いくつかの点で見直しを必要としている。

共通選択科目は両コースの学生が学科の理念を追求する上で、共に基礎となる知識や相互に視野を広げ総合的知識を身につけることを目的としている。理想的ではあるが、実際にはコースごとに授業科目の意味合いに違いが見られ、学生の理解と関心度にも違いがみられる。このことは、必ずしも両コースの学生が同時期に受講する必要もなく、授業科目の性格に合わせてコース別、学期別、学年別等の履修が可能となるような履修形態の検討が必要である。

コンピュータ関連科目においては、高度情報化の進展に伴います重要性を増しており、中等教育における情報処理教育との関係や教養基礎科目との関係、更には学科内の関連科目間の重複や内容の精選等を図る必要がある。一部科目については、内容の変更を実施した。また、他の科目においても科目相互間の関係性や整合性に加え、内容の重複等について逐次確認していく必要がある。

自己評価総括委員会が中心となって行っている学生による授業評価では、教育内容や教授法の点検・改善などに効果を上げているが、授業科目の特性にあった質問内容、担当者独自の興味や教育姿勢に対する対応等をきめ細に行える方法の検討が必要との意見がある。

3. 教育方法及び成績評価面での取組

(1) 授業形態、学習(研究)指導法などの教育方法に関する取組状況

授業の実施形態としては、非常勤講師が行う授業科目については、原則隔週授業(2コマ/週)を実施してきているが、教育効果としては毎週授業(1コマ/週)が望ましいとされてきた。しかしながら、経済的な効率性と地理的制約からの講師の負担軽減策として、実現されていない。これを解決する方法として、学期を分割して、前半・後半とするクォーター制の導入が考えられることから、非常勤講師の協力を仰ぎながら検討していきたいと考えている。

学習(研究)指導法としては、デザイン情報コースでは、在学した2年間の作品と「卒業研究ゼミ」の研究成果を設立当初から卒業展という方法で積極的に一般公開してきたが、学生には一般公開されることによる緊張、外部の評価、達成感の充足、自ら展示会の企画・運営を行うことなど、教育的相乗効果が得られている。平成15年度には両コースとも「卒業研究ゼミ」の研究発表会を一般公開した。研究成果はそれぞれの立場で還元しているものの、学生の総合評価の場として非公開としてきたが、多方面への研究成果の公表、有益情報の発信、大学の開放、地域・関係機関の外部評価、地域ニーズの発掘、研究意識の活性化などといった視点から幅広い情報交換を目指すため一般公開に踏み切った。卒業展と同様の効果が得られている。また、デザイン情報コースの授業科目である「デザイン情報基礎実習」についても、授業成果を「企画展」として一般公開している。

学生による授業評価結果の中で、シラバスの有用性と予習・復習の実行が低調であったことをうけて、平成16年度よりシラバスの補完と予習・復習への喚起となる手段を教員がそれぞれの立場で試行することとした。任意取組みではあるが、シラバスの内容を授業日以前に具体的に周知させる方法やキーワード等を事前学習させることで予習への取り組みを行わせる。また、前回の行われた授業内容を再確認させるなどで復習への取り組みを喚起するなど各自工夫を行うこととしている。

教育方法に関する取組みとしては、「デザイン情報基礎実習」では、通算3度のプレゼンテーションに際し、統一した評価項目にそって学生相互による評価プログラムを実施している。その効果は、他者の発表・作品に対し批判的視点で評価する眼を養う、学生個々に対する課題への到達度の確認、見落としている部分、提案に対する改善・工夫・反省すべき事項等について再考する資料となるなどが挙げられる。こうした取り組みは、他科目への応用展開が可能といえ、教授方法や到達度の評価方法について積極的に情報交換を行う必要がある。

学科行事の一つである学科ガイダンスやオリエンテーションキャンプ等では進路指導に関する機会を設定し、進路指導を通して、自己分析・自己実現の目標設定等を啓発することにより、学ぶ動機付けを誘発している。

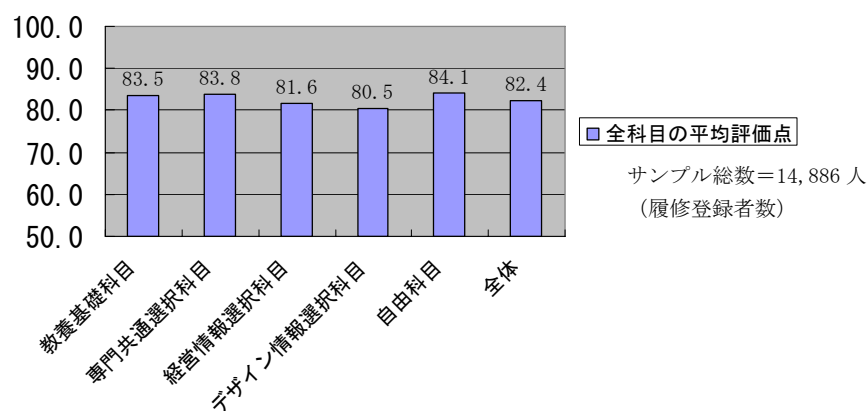
(2) 施設・設備の整備・活用に関する取組状況

平成11年度において、全学科関連教室を対象に視聴覚系機器の点検を行い、スクリーンおよびビデオ機器、モニタ設備の更新を行った。平成15年度にはコンピュータシステムの更新に伴い、各教室等の教卓周辺にネットワークの情報コンセントが配備され、教室内において学内各種サーバーおよび学外との接続が可能となり各種情報を取得・利用できる環境となった。さらに、各主要教室(学科関連では201・202・203教室)に液晶プロジェクタが設置された。これらにより、変化に富んだ授業展開が可能になるとともに、機器を利用する教員が増加している。このように各教室等におけるネットワーク利用環境が可能となったものの、一方では、学生のPC保有者が増加しつつあり、普通教室等においても学生が自由に利用できるPC利用環境やネットワーク利用環境を増設することが望まれている。

4. 教育の達成状況

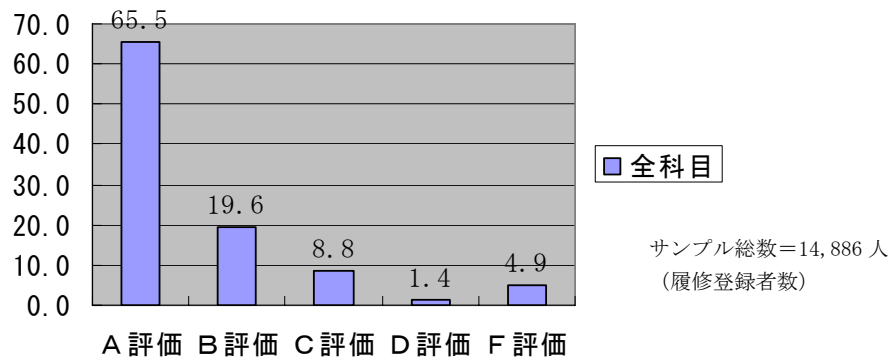
(1) 学生が身につけた学力や育成された資質・能力の状況から判断した達成状況

過去5年間の産業情報学科における点数評価を系統科目群別にみると、下に示すような図となる。これは、各系統群別に評価点の平均をとったものであり、教養基礎科目群をはじめ、専門教育科目群とも大きな差がなく、概ね良好な評価点を得ていると言える。(サンプル総数:14,886人)



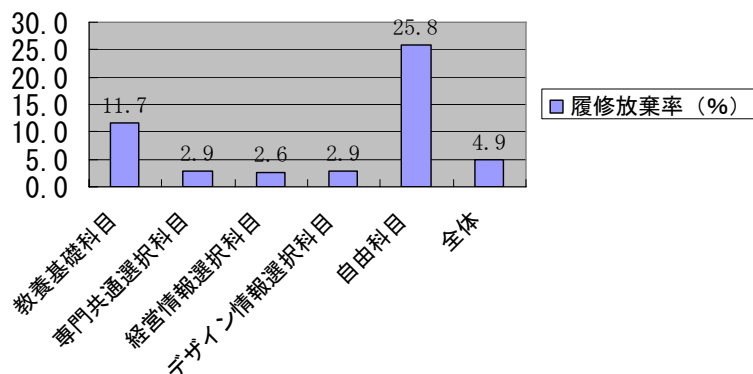
過去5年間の全科目における平均評価点

次に、過去5年間の全科目を対象として、認定された評価の分布状況を見てみると以下のようなになる(サンプル総数 14,886人)。分布状況はA評価(80点以上)が65.5%に達しており、B評価(70~79点)19.6%、C評価(60~69点)8.8%となっている。前述の平均評価点と同様にA評価の高さを示しており、概ね良好な達成状況である。



過去5年間の点数評価の分布状況 (%)

しかしながら、F評価の割合が 4.9% (730 人)あり、履修登録した科目を途中で放棄する学生がみられる。この内訳を系統別科目群でみてみると、会津大学コンピュータ理工学部への編入科目や他学科の授業科目の一部を受講できる自由科目が最も多く 25.8%となっており、次いで教養基礎科目の 11.7%となっている。いずれも、安易な履修計画が履修放棄に繋がっていると推測される。



系統科目群別に見る履修放棄状況 (過去5年間 : %)

履修放棄や健全な履修計画を促す方法として、GPA (Grade Point Average) 評価が知られているが、自分の目標を定めたり、十分な履修計画を促進させる方法として、また、アウトカムズを高めるような学習指導や日常の学習努力を積上げ大学生としての資質を向上させる方法などを模索していく必要がある。そうした意味では、GPA評価システムの導入について検討することも必要である。

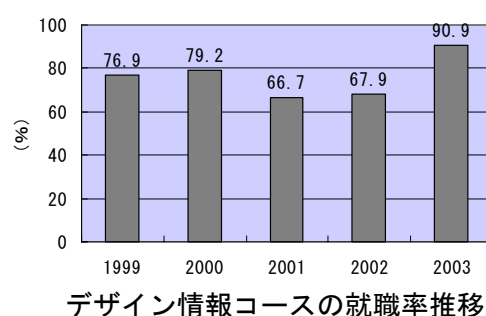
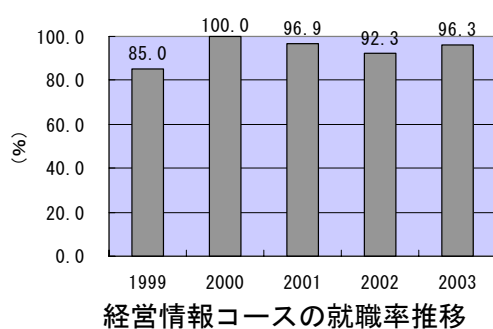
産業情報学科では、1 年次後期より卒業時までの 1 年半に及ぶ期間を「卒業研究ゼミ」に当てている。この科目は本学科の教育目的・目標を総合的に実践するもので必修科目として位置づけ、問題の発見から問題解決に至るプロセスとその実践、探求能力・判断力・総合力・創造的展開能力などの育成、自発的学習意欲の育成などを目的としている。学生はこの「卒業研究ゼミ」には特に真摯な姿勢で取り組み、当初の目標に対する効果が着実に現れており、大きく成長している。また、地域の問題を取り上げること

で、地域への還元についても期待されているところであり、今後も「卒業研究ゼミ」の一層の充実を目指すべきである。

達成状況に関する今後の課題としては、過去5年間の科目群別に見た評価では一様の成果がでていますが、個々の科目による評価であり、学科の目的及び目標の達成への貢献度を意識した評価には必ずしも至っていない。教育目的・目標と各授業科目との関係をより明確化する議論、各授業科目間の役割と分担に対する議論、目的及び目標の達成への貢献指標を明確化、評価項目全体の水準の設定など、教育目的と教育目標に関係する評価システムのさらなる構築が必要である。同時に、時代に即応した教育目的及び目標の点検と学科課程の見直しを随時行う必要がある。

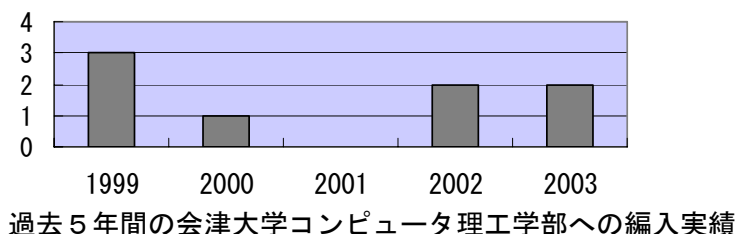
(2) 就職や進学などの卒業後の進路の状況から判断した達成状況

学生の就職は経済の低迷と同調して依然として厳しい状況にある。経営情報コースの主な進路先は、金融業、製造業、サービス業などのあらゆる産業の管理・事務・営業部門となっているため、求人数の大幅な減少は少なく、比較的早期から或程度の内定数を確保している。過去5年間の就職率の平均は 94.1%と高い水準である。一方、デザイン情報コースの進路先については、製造業のデザイン部門、地場産業の漆器関連会社、各種建築設計・デザイン事務所・印刷・広告関連会社、服飾関連会社、情報関連会社などと幅広い分野となっている。景気低迷の余波を直接的に受けて、デザイン部門の縮小、採用の手控え、アウトソーシングによる経営の効率化などが顕著に表れており、短期大学への求人減少や求人規模そのものが縮小されている。こうした中であって、内定時期についても遅くなりがちであるが、過去5年間の平均就職率は 76.3%と一応の成果を挙げていると云える。

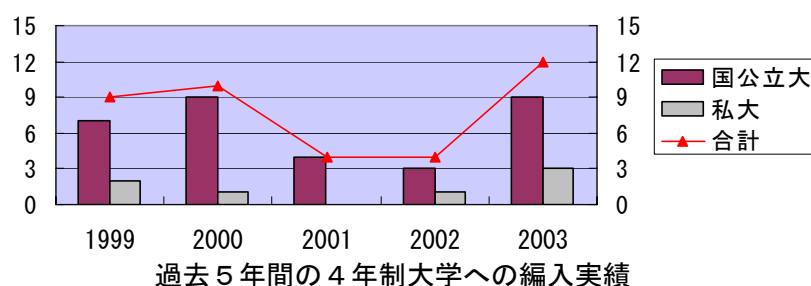


就職活動の早期化と長期化に伴い、いくつかの問題点が指摘されている。早期化に伴う問題として、就職活動を理由とした学生の欠席者が増加し、2年次前期授業の困難な状況が見られるようになった。長期化に伴う問題として、本学の地理的条件と就職希望先企業の所在地との関係において、学生の財政的負担を重くしている。そのことが原因で活動そのものが消極的になったり、就職環境の厳しさに耐えられず活動を中断する学生も現れている。こうした状況にあって、学生の就職活動のあり方、大学及び教員側からの指導および指導体制等について検討する必要がある。

学生への指導や就職開拓は、進路指導委員が中心となって行っているが、学生個々へのきめ細かな指導には限界がある。こうした厳しい環境下では、学内に専任の就職担当者が必要であり、強力な就職開拓および指導を展開していく必要がある。



進学については、年々4年制大学へ編入を希望する学生が増加しており、多数の編入学が実現している。また、私立4年制大学からの特別推薦制度や推薦入学枠が増加してきている(平成15年度産業情報学科関連実績:18大学23学部・学科)。平成10年度に、会津大学コンピュータ理工学部への制度が設けられ、11年度より編入学試験が実施された。産業情報学科からは平成15年度までに8名が編入学を決めている。過去5年間の国公立大学への編入学では、東北大学、新潟大学、福島大学、筑波大学図書館情報専門学群(図書館情報大学)、群馬大学、高崎経済大学、千葉大学、秋田県立大学等に32名が決めている。また同様に、私立大学への編入学では中央大学、杏林大学などに7名の実績がある。過去5年間の編入学をコース別に見ると、経営情報コース32名、デザイン情報コース7名の計39名であり、その82%が国公立大学への編入学となっている。その他、卒業後により実務能力を磨く、資格を取得する、公務員試験の再受験などといったことを主な目的とした専門学校への入学も見られる。



5. 学習に対する支援

(1) 学習に対する支援体制の整備・活用に関する取組状況

学生が学業や学校生活全般に関する質問をしたり、相談あるいは個人的な指導等を受けるために、特別に設定された時間を設ける支援体制としてオフィスアワーがあるが、本学では小規模大学でもあり、いつでも対応できるよう特別の制限を行っていない。こうしたことは、学生の学習意欲の向上や学生生活への不安解消に役立っているといえる。しかしながら、

教員は不定期に訪れる学生への対応に時間的な拘束を受けることもしばしば見受けられている。こうした状況から学習に対する支援体制のあり方について検討をする必要がある。

コンピュータ関連科目の演習科目(コンピュータ概論、コンピュータ創造基礎演習A・B、デジタルデザイン演習等)においては、個々の学生の少しのつまずきが授業全体のへ進行に影響を及ぼしかねない。本学科ではその補助・支援体制として、授業担当者の補助業務を実習助手が支援している。このことは、学生の進捗状況や質問・相談をきめ細かくサポートし習熟度を上げるのに役だっている。また、同時にコンピュータ関連機器の維持・管理についてもサポートしている。平成16年度予算要求においては、コンピュータ関連科目への学習支援の拡大を図るために、TA(ティーチング・アシスタント)に関する予算要求を行っている。

デザインの創作活動を支援する体制として、デザイン棟を管理する実習助手を配置している。ここでは、作品の制作手段、材料や製作方法、工作機械の操作方法等について相談することができる。

(2) 自主的学習環境(施設・設備)の整備・活用に関する取組状況

産業情報学科のカリキュラムではコンピュータを道具として、多くの授業科目で採用している。その結果、学生はコンピュータセンターおよびCG室などのコンピュータ機器を授業時間外や放課後に利用するケースが多く見られている。時間外利用については、学生からの要請で教員が対応してきたところだが、特定の教員への負担が増加傾向にあったため、カードエントリーシステム等の対応策を検討してきた。平成15年度には、暗証番号による電気錠の設置を行い、平日の時間外および土曜日において暗証番号を取得することで自由に入室することが可能となった。本学は、機械警備システムを導入していることもあり、大学が終日開放されていないため、一定の時間になると施設全体が施錠されてしまう。学生の学習意欲があっても施設を利用出来ない時間帯が発生するなどの問題点が指摘されている。

Semester制の導入等により授業の実施期間を変更したが、中でも、前期授業を7月末日までに行い、8月上旬に集中講義を行うよう変更した。当地はこの期間が最も高温で蒸し暑い日々が続くため、教室の室内環境は極めて悪い状態で、受講意識にも影響を与えていた。この問題を改善するために、平成15年度より、各教室にエアコンを配備した。

デザイン情報コースでは、実習・演習の課題として作品を制作することが多く、従来から創作活動の発表の場を学内に確保することが検討課題であった。そこで、授業科目であった「材料学実験」を廃止したことから、平成15年度に、材料学実験室をデザイン資料室に改修し、作品展示等の環境整備を行うことが決定した。

6. 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 組織としての教育活動及び個々の教員の教育活動を評価する体制

教育の到達状況を客観的に評価するには、組織としての教育目的および教育目標に対する評価システムを確立することが重要であるが、明確に定まっているわけではなく今後の検討課題である。同時に、教員の教育活動を評価する体制についても、特に実施していない。現在のところ、個々の教員がそれぞれの立場で目標設定、評価および授業評価などを行いつつ、教育の質の向上や改善のために努力しているが、全体的な位置づけから相互に評価できる体制の確立が今後の課題である。

(2) 評価結果を教育の質の向上及び改善の取組に結び付けるシステムの整備及び機能状況

学生による授業評価は、平成11年度に専任教員を中心に実施し、平成15年には全科目で実施した。評価結果を受けて、集計結果を授業科目担当者に開示し、集計結果に対する担当教員の見解と結果を学生に公表している。各教員がこれを受けて授業改善を行っているところであるが、継続的实施と授業改善・工夫を共通の資源として活用することも必要な課題である。また、学科としての授業評価の利用(授業改善)、FD講習会の実施、学科の体制などが検討課題である。平成15年度に実施した授業評価については、シラバスの有用性や予習・復習についての項目が相対的に低調であった。これを受けて、学科では、工夫・改善のための意見交換を行っているが、平成16年度から任意ではあるが、各教員の立場で試験的に工夫・改善を行うこととしている。

食物栄養学科

I 教育目的及び目標

1. 教育目的

健康の保持や増進に関する正しい理解を地域社会の人々に広めることを目的とする。食習慣や嗜好はそれぞれ各人の健康状態に大きな影響を与える。食と健康との関連を考えるに当たって、科学的にみて正しい食生活習慣を人々が定着させにくいので、健康上の種々の問題が生ずる。このことから、栄養や食品に関する専門知識をもつ指導者の養成を図ることが社会の要請に応えるための施策となるのである。

高齢化社会での疾病治療をはじめ、生活習慣病予防や健康の保持と増進について「食の立場」から指導できる人材の育成を行い、人の健康や生命に直接関わる責任ある資格であることを深く認識させ、人間性豊かな実践力を身につけた栄養士の養成を行っている。

2. 教育目標

健康増進法の施行を受け、栄養士法の改正に伴う栄養士養成課程の変更を行うことにした。

表 学科課程表(旧)

必修科目	食生活論	選択科目	栄養学各論実習	運動生理学実習
	栄養学総論		臨床栄養学実習	食料経済
	栄養学各論		食品学総論実験	社会福祉
	臨床栄養学		食品学各論実験	病理学
	公衆栄養学		食品加工学実習	健康管理概論
	食品学総論		食品衛生学実験	介護技術
	食品学各論		公衆衛生学Ⅱ	臨床患者学
	食品加工学		栄養指導論Ⅱ	高齢者心理学
	給食管理		栄養指導論実習	食品機能化学
	食品衛生学		給食管理実習(学内)	食環境科学
	公衆衛生学Ⅰ		給食管理実習(学外)	基礎化学
	栄養指導論Ⅰ		調理学実験	有機化学Ⅰ
	調理学		調理学実習Ⅰ	有機化学Ⅱ
	解剖生理学		調理学実習Ⅱ	食物栄養情報学Ⅰ
	生化学		解剖生理学実習	食物栄養情報学Ⅱ
生物機能論	生化学実験	特別演習		
	運動生理学			

「学科課程表(旧)」を改訂して、「学科課程表(新)」を平成 14 年度入学生から適用して、特に次の 4 項目の実現を図った。

- (1) 栄養士免許取得資格を得るための充実した専門科目を用意する。
- (2) 超高齢化社会に対応する栄養士のための専門科目を設ける。
- (3) コンピュータを専門科目教育のツールとして、有機的に活用する。
- (4) 1 学年 40 名として、少人数の行き届いた教育を行う。

表 学科課程表(新)

社会生活と健康	公衆衛生学 社会福祉概論	健康管理概論 介護技術
人体の構造と機能	生化学 生化学実験 解剖生理学 解剖生理学実習	病理学 運動生理学 運動生理学実習 生物機能論
食品と衛生	食品学総論 食品学総論実験 食品学各論 食品学各論実験	食品衛生学 食品衛生学実験 食品加工実習
栄養と健康	栄養学総論 臨床栄養学概論 臨床栄養学概論実習	臨床栄養活動論 ライフステージ栄養学 ライフステージ栄養学実習
栄養の指導	栄養指導論Ⅰ 栄養指導論Ⅱ 栄養指導論実習 食生活論	公衆栄養学概論 地域栄養活動論 コミュニケーション学
給食の運営	調理学 調理学実習Ⅰ 調理学実習Ⅱ 調理学実験	給食管理 給食管理実習(学内) 給食管理実習(学外) 給食経営論 食料経済
関連科目	臨床患者学 高齢者心理学 栄養情報管理Ⅰ 栄養情報管理Ⅱ 食物栄養情報学Ⅰ 食物栄養情報学Ⅱ	食品機能化学 食環境科学 基礎化学 有機化学Ⅰ 有機化学Ⅱ 特別演習

Ⅱ 評価項目ごとの自己評価

1. 教育の実施体制

(1) 教育実施組織の整備に関する取組状況

所属常勤教員 11 名(内助手 3 名)を配置し、担当科目の再検討を行ない、平成 16 年度より、「栄養指導」関連科目と「給食管理」関連科目の担当状況を検討した結果、「給食管理」関連科目を専任が単独で担当することとし、その準備に着手した。

(2) 教育目的及び目標の趣旨の周知及び公表に関する取組状況

学科単独での周知・公表は行なっていないものの、全学的な広報手段(ホームページ、大学案内等)によって、食物・栄養に関する啓蒙、食物栄養教育の周知を行い、栄養士免許を取得して社会で活躍する卒業生の現況や、管理栄養士国家試験合格の状況等を公表している。

(3) 学生受入方針(アドミッション・ポリシー)に関する取組状況

平成 15 年度入学生まで推薦入学試験に加えて、一般入学試験を 2 回実施してきた中で、センター試験の導入の可否を検討した結果、平成 16 年度入学生よりセンター試験結果を用いる入学試験を導入することになった。入学試験の状況は推薦入試の競争率は 2.0 倍を超えて推移しており、一般入試(I期)の競争率は低くても 3.0 を下回らないものになっている。

入学試験の状況

年度	平成 12 年度		平成 13 年度		平成 14 年度		平成 15 年度		平成 16 年度	
	入学者	競争率	入学者	競争率	入学者	競争率	入学者	競争率	入学者	競争率
推薦	18	2.6	18	1.8	21	2.0	21	2.2	16	2.3
一般(I期)	19	3.6	25	2.7	24	3.0	16	3.7	22	3.6
学力									20	3.6
センター									3	13.0
一般(II期)	5	4.7	4	7.0	3	5.8	5	2.4	4 (1)	3.3
社会人	1	3.0	1	4.0	0	-	0	-	0	-
外国人	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
合計	43 (0)	3.4	48 (0)	2.8	48 (0)	2.8	42 (0)	3.0	42 (1)	3.2

しかし、一般入試(II期)では、競争率が高いものの、重複受験者が目立つようになっており、その打開策が望まれるところである。

入学試験制度の改革の一つとして、平成 16 年度入学生から導入したセンター試験結果を用いる入試では、競争率が予想を上回って高く、3 名の入学者があった。

更なる入学試験制度改革においても、本学科の場合は特に、栄養士養成施設として入学定員の厳正な適用が求められるのことに留意しなければならない。

(4) 特に優れた点及び改善点等

栄養士養成制度の改訂に対応し、実社会が求めている栄養士職像の先取りして、学科課程表の改訂に取り組み、前項の教育目標を実現するための体制をとることが出来たことは、優れた点である。

今後、青少年の職業観の変遷、社会において求められる栄養士の職域等を見極めつつ、勉学に関する学生の自由裁量を十分に取り入れるためには、選択性の低い学科課程表は見直して、改善すべき所もあろう。

2. 教育内容面での取組

(1)教育課程の編成に関する取組状況

栄養士免許取得を前提とした教育課程を編成している本学科では、在籍学生全員が栄養士必修科目を勉学し、単位を修得している。しかしながら、数年に1名程度の学生は、栄養士免許取得を断念して卒業することもある。

(2)授業(研究指導も含む)の内容に関する取組状況

本学科では、改訂された栄養士養成課程に基づいて、その骨子にある教育内容を拡張した精細な内容を含む授業を実施している。

(3)特に優れた点及び改善点等

前項の教育目標(1)～(3)を達成していることは特記すべき点である。

3. 教育方法及び成績評価面での取組

(1)授業形態、学習(研究)指導法などの教育方法に関する取組状況

専門教育科目は、講義と実験・実習を対応させて開講することによって、理論と実証を合わせ修得出来るようにしている。

(2)施設・設備の整備・活用に関する取組状況

栄養士養成施設としての設備・備品に関しては、多くが耐用年数を超え、その性能・機能が陳腐化している。そのような状況の中で、食品衛生や環境衛生に十分配慮して、問題発生を回避していること特記すべきことである。

生理学、理化学関連についても同様であることは言を待たない。

(3)特に優れた点及び改善点

集団給食施設および調理実習室、試食室関連については、昭和55年以来施設・設備の改善・改良、大規模な清掃を行なってこなかった。平成14年度において調理実習室のレンジ周りの更新を行ない、平成15年度において実習室床面の全面清掃を実施した。

精密機器室内の精密測定機器も年度計画による更新を行なっている。

4. 教育の達成状況

(1) 学生が身につけた学力や育成された資質・能力の状況から判断した達成状況

授業において課した課題および試験等によって、学生の理論と実証に関する理解度や習熟度を把握して、教授方法の改善などを行なっている。

(2) 就職や進学などの卒業後の進路の状況から判断した達成状況

近年の就職率から見ると、栄養士養成施設としての実績は完璧なものである。

	就職率	栄養士としての就職率						
		計	内 訳					
			公務員	民間 病院	民間 企業	委託給食・産 業	幼稚園・保育 所	福祉施設
平成 11 年度	95.1	89.7						
12	97.3	75.0						
13	97.2	80.0						
14	97.7	83.3						
15	100.0	87.5	2.5	20.0	2.5	30.0	15.0	17.5

(3) 特に優れた点及び改善点等

若年者が就職難に喘いでいる近年の社会経済状況の中で、驚異的な就職率を達成している。更に、学生の職業意識の高さと教育効果と相まって、栄養士としての就職率も全国的に最高に位置するものである。

5. 学習に対する支援

(1) 学習に対する支援体制の整備・活用に関する取組状況

平成 15 年度にコンピュータシステム更新に伴う講義室への LAN 導入とプロジェクト配備を行ない、学習支援体制の IT 化を図ることによって、教育現場の AV 化を促進することになった。更に、コンピュータソフトウェアを高機能化して、栄養士養成教育の CAE 化を図った。

(2) 自主的学習環境(施設・設備)の整備・活用に関する取組状況

講義室や実験・実習室に限定した勉学の間だけでなく、学科演習室を活用することによって、学生の自主的・主体的な勉学の間を提供することにした。

(3) 特に優れた点及び改善点等

コンピュータセンター演習室の利便性が向上し、自習の間を与えることによる勉学意欲が向上している。

6. 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1)組織としての教育活動及び個々の教員の教育活動を評価する体制

自己評価・総括委員会による「学生による授業評価」及び学生と卒業生による「本学に関する評価」を実施しているところであり、別に記述されるものである。

(2)評価結果を教育の質の向上及び改善の取組に結び付けるシステムの整備及び機能状況

平成 15 年度に実施した全授業科目に関する「学生による授業評価」に関して、5 点満点の平均評価点として、「1 年生による常勤教員担当授業科目の評価」及び「2 年生による常勤教員担当授業科目の評価」に分けて整理してある。なお、非常勤講師の担当科目については省略してある。

更に、「食物栄養学科 1 年生による本学の評価」及び「食物栄養学科 2 年生による本学の評価」についても、5 点満点の平均評価点としてまとめてある。

常勤教員担当授業科目の評価

質問項目	1 年生		2 年生	
	講義 科目	実験 実習 科目	講義 科目	実験 実習 科目
授業計画について				
1 授業の目的・内容(概要)について十分な説明があった	3.7	3.9	4.1	4.1
2 評価方法について十分な説明があった	3.6	3.8	4.1	4.1
授業方法について				
3 ポイントをおさえて、要領よく説明している	3.3	3.6	3.5	3.9
4 話し方や説明が適切で、内容を理解しやすい	3.1	3.6	3.3	3.9
5 教員の声は聞きとりやすい	3.4	3.7	3.5	3.7
6 ノートはとりやすい	3.1	3.6	3.5	3.7
7 いろいろな見解なども紹介し、多角的に考える機会をあたえている	3.6	3.6	3.8	4.1
8 学生の質問や意見が出しやすい授業であった	3.1	3.8	3.7	3.9
9 学生の知識・理解の進み具合を考慮して授業を進めている	3.4	3.6	3.6	4.0
10 授業への情熱が感じられる	4.0	4.0	4.0	4.3
11 状況に応じて資料を配布したり、映像を利用したり、工夫している	3.8	3.9	3.9	4.2
12 教科書や参考書・資料などを活用している	3.9	3.9	4.0	4.0
13 板書や OHP、プロジェクタなどの字は見やすい	3.5	3.7	3.7	3.8
あなた自身の学習方法・態度について				
14 出席率は良好であった	4.5	4.7	4.2	4.4

質問項目	1 年生		2 年生	
	講義 科目	実験 実習 科目	講義 科目	実験 実習 科目
15 受講態度は良好であった	3.7	4.2	3.9	4.2
16 「教授要綱」(シラバス)はこの授業を受けるのに役立った	3.1	3.3	3.5	3.7
17 意欲的に学ぼうとした	3.4	3.9	3.7	4.2
18 予習や復習をおこなって授業に出席した	2.5	3.1	3.0	3.4
総合評価について				
19 この授業は自分にとって意義深いものであった	3.8	4.2	3.9	4.3
20 授業の内容は、ほぼ理解できた	3.2	3.7	3.5	4.1
21 この分野に関して、専門的な関心や興味をもてるようになった	3.5	3.9	3.8	4.1
22 この授業はよい授業であった	3.4	3.9	3.7	4.2
23 自由記述欄				
実験・実習・演習科目について				
24 事故・けがを予防するように配慮している		4.3		4.3
25 課題を実施・解決するための授業時間は十分であった		4.2		4.2
26 専門的な知識に対して理解が深まった		4.0		4.2
27 課題を実施・解決するための専門的な応用力がついた		3.8		4.1

食物栄養学科 1 年生の本学評価

質問項目	評価
本学へ入学した目的について伺います	
1 将来の職業に役立つ資格を取得するため	4.6
2 すぐ役に立つ実践的知識・技術・技能を身につけるため	4.4
3 専門分野の学問を体系的に修得するため	4.3
4 自分の学力の向上をめざすため	4.0
5 広く教養を身につけ総合的能力を向上させるため	3.8
6 サークル活動や社会活動を通じて人間性を養うため	3.2
7 その他(具体的に書いて下さい)	
上記の目的に対する現時点での達成度について伺います	
8 入学時の目的を達成できている	3.3
9 将来の職業に役立つ資格を取得できる予定である	4.1

質問項目	評価
10 実践的知識・技術・技能を身につけることができている	3.7
11 専門分野の学問を修得することができる	3.6
12 自分の学力は向上している	3.3
13 広く教養が身につき総合的能力が向上している	3.5
14 サークル活動等を通じて人間性を養うことができている	3.4
15 その他(具体的に書いて下さい)	
本学で学んでいる現時点での全体的な印象について	
16 本学での学生生活に満足している	3.5
17 自分自身の勉学に満足している	2.7
18 専門学科の授業に満足している	3.3
19 授業はおおむね理解できている	2.9
20 高校までに学んだこととのギャップを感じたことがある	3.9
21 授業はきちんと行われている	3.9
22 教員の授業内容・授業方法におおむね満足している	3.0
23 教員とのふれあいに満足している	3.1
24 さらに勉強したくなった	3.3
25 コンピュータ教育に満足している	3.3
26 学科課程、カリキュラムは現代社会の必要性に応じている	3.4
27 単位数や選択・必修科目について満足している	3.3
教養基礎科目の授業、カリキュラムについて	
28 授業は自分の将来に大いに役立つ	4.0
29 教育目的の一つである「豊かな人間性の形成」に役立った	3.6
30 「幅広く深い教養と総合的な判断力を養う」のに役立った	3.5
31 専門を学び、理解する上で役立った	3.8
32 選択の幅を増やすための並列開講はやむを得ない	3.7
33 科目の種類・数は今のままでよい	3.3
34 学科課程、カリキュラムは現代社会の必要性に応じている	3.4
35 単位数や選択・必修科目について満足している	3.6
36 教養基礎科目について、開設して欲しい科目、不要と思う科目があったら書いて下さい	
37 その他教養基礎科目のカリキュラムに関する希望を書いて下さい。	
専門学科の授業、カリキュラムについて	
38 専門教育科目の内容はよく理解できている	3.3
39 実験・実習科目に満足している	3.5
40 欠番(他学科の質問項目との関係で欠番としました。)	3.5
41 専門教育科目について、開設して欲しい科目、不要と思う科目があったら書いて下さい	

質問項目	評価
42 その他専門教育科目のカリキュラムに関する希望を書いて下さい 本学の将来のあり方などについてのご意見を伺います	
43 短大2年卒業後、1～2年の専攻科があれば受講したい	3.5
44 職業に従事する者に対して行われる教育・研修制度(リカレント教育)があれば卒業後に受講したい	3.5
45 時代にあった整備・充実を図りつつ短期大学として発展した方がよい	4.2
46 2年間の教育では不足なので、将来は四年制大学を目指した方がよい	3.3
47 四年制大学と短期大学の併設が望ましい	4.1
48 会津大学への編入制度をもっと改善すべきだ	3.2
49 他大学の科目を履修する制度があった方がよい	3.5

食物栄養学科2年生の本学評価

質問項目	評価
本学へ入学した目的について伺います	
1 将来の職業に役立つ資格を取得するため	4.8
2 すぐ役に立つ実践的知識・技術・技能を身につけるため	4.5
3 専門分野の学問を体系的に修得するため	4.5
4 自分の学力の向上をめざすため	4.1
5 広く教養を身につけ総合的能力を向上させるため	3.7
6 サークル活動や社会活動を通じて人間性を養うため	3.8
7 その他(具体的に書いて下さい)	
上記の目的に対する現時点での達成度について伺います	
8 入学時の目的を達成できている	3.8
9 将来の職業に役立つ資格を取得できる予定である	4.6
10 実践的知識・技術・技能を身につけることができている	4.2
11 専門分野の学問を修得することができている	4.0
12 自分の学力は向上している	3.5
13 広く教養が身につけ総合的能力が向上している	3.4
14 サークル活動等を通じて人間性を養うことができている	3.4
15 その他(具体的に書いて下さい)	
本学で学んでいる現時点での全体的な印象について	
16 本学での学生生活に満足している	3.4
17 自分自身の勉学に満足している	3.0
18 専門学科の授業に満足している	3.4
19 授業はおおむね理解できている	3.6

質問項目	評価
20 高校までに学んだこととのギャップを感じたことがある	3.1
21 授業はきちんと行われている	3.7
22 教員の授業内容・授業方法におおむね満足している	3.5
23 教員とのふれあいに満足している	3.5
24 短大を卒業するに当たってさらに勉強したくなった	3.3
25 コンピュータ教育に満足している	3.0
26 学科課程、カリキュラムは現代社会の必要性に応えている	3.5
27 単位数や選択・必修科目について満足している	3.4
教養基礎科目の授業、カリキュラムについて	
28 授業は自分の将来に大いに役立つものであった	3.9
29 教育目的の一つである「豊かな人間性の形成」に役立った	3.7
30 「幅広く深い教養と総合的な判断力を養う」のに役立った	3.5
31 専門を学び、理解する上で役立った	3.5
32 選択の幅を増やすための並列開講はやむを得ない	3.6
33 科目の種類・数は今のままでよい	3.5
34 学科課程、カリキュラムは現代社会の必要性に応えていた	3.5
35 単位数や選択・必修科目について満足している	3.6
36 教養基礎科目について、開設して欲しい科目、不要と思う科目があったら書いて下さい	
37 その他教養基礎科目のカリキュラムに関する希望を書いて下さい。	
専門学科の授業、カリキュラムについて	
38 専門教育科目の内容はよく理解できた	3.7
39 資格を取る上で現在のカリキュラムは適切である	4.0
40 現在のカリキュラムは就職する上で役に立った	3.9
41 実験・実習科目に満足できた	3.7
42 特別演習に満足できた	3.6
43 専門教育科目について、開設して欲しい科目、不要と思う科目があったら書いて下さい	
44 その他教養基礎科目のカリキュラムに関する希望を書いて下さい	
本学の将来のあり方などについてのご意見を伺います	
45 短大2年卒業後、1～2年の専攻科があれば受講したい	3.6
46 職業に従事する者に対して行われる教育・研修制度(リカレント教育)があれば卒業後に受講したい	4.1
47 時代にあった整備・充実を図りつつ短期大学として発展した方がよい	4.0
48 2年間の教育では不足なので、将来は四年制大学を目指した方がよい	3.5
49 四年制大学と短期大学の併設が望ましい	4.1
50 会津大学への編入制度をもっと改善すべきだ	3.6
51 他大学の科目を履修する制度があった方がよい	3.9

(3) 特に優れた点及び改善点等

「学生による授業評価」に基づいた教員の意見、授業改善策等に関しては、学生に公表しているところである。

社会福祉学科

I 教育目的及び目標

1. 教育目的

わが国はノーマライゼーション(共生社会)及び高齢化社会をむかえ、福祉の人材養成は緊急な課題になってきている。こうした状況のなかで、本学科では社会福祉士及び保育士の養成を教育目的に福祉社会に貢献できる人材育成に力を注いでいる。こうした福祉の人材は福祉系の公立短大でもっとも古い歴史をもつ伝統が息づくなかで、1千名を超える卒業生たちの活躍が背景となっている。

こうした伝統のなかで引き継がれてきた人材養成の目的のなかで、教育目標の主眼は以下の通りである。

- (1) ヒューマニズムの思想と豊かな人格形成。
- (2) 人間性の尊重と人間の価値の平等性という民主主義思想の形成。
- (3) 幅広い教養と国際的な洞察力の形成。

2. 教育目標

福祉の現場では多様なニーズや複雑な人間の営みのなかで、高度な専門的知識や洞察力などに裏打ちされた実践的な技量と判断力が強く求められている。そこで、本学科では1クラス50名という少人数教育体制のなかで、8名の専任教員がきめ細かに一人一人の学生指導にあたり、1. の「教育目的」達成に努力を注いでいる。また、ゼミ(特別演習)活動や社会福祉援助技術演習活動などを通して、学生一人一人が自主的に課題への問題解決に向けて教員の支援を受けながら果敢に挑むことを教育目標に、洞察力と判断力そして協調性が獲得されていくように努めている。

また、本学科は資格取得を目的とする「目的学科」であることから施設及び機関の実習と事前、事後の実習指導に力を注いでいる。

II 評価項目ごとの自己評価

1. 教育の実施体制

(1) 教育実施組織の整備に関する取り組み状況

厚生労働省の告示及び通知科目の変更があったため、学科内に検討委員会を設け検討し、保育士課程のカリキュラムの見直しを行った(平成14年4月施行)。その主な点は、①多様な社会のニーズや保育士に求められる資質の変化に対応すること ②従来、本学保育士養成のポイントとしてきた福祉的視点をより多く導入することである。

(2) 教育目的及び目標の趣旨の周知及び公表に関する取り組み状況

社会福祉学科のカリキュラムは、社会福祉に関する基礎科目を学びながら、専門領域(児童・高齢者・障害者・地域・社会保障など)の専門知識や対人援助に関する基礎技術

を習得できるように配慮している。保育士資格と社会福祉士受験資格を同時に取得できる体制にあり、2年間という短期間であっても広範囲にわたる専門知識や基礎技術を身につけることが可能である。

(3) 学生受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)に関する取り組み状況

1学年 50 人定員の少人数で授業・演習・実習を展開し、丁寧な個人指導に重点をおいている。特に特別演習(ゼミ)では、論文指導、就職指導に力を入れ、教員と学生相互の学びを柱としている。また推薦入試、学力入試、センター試験では多くの受験生を受け入れている。

(2004 年度入試状況) 社会福祉学科・定員 50 人

入試区分	志願者数	受験者数	合格者数	競争倍率
推薦	44	44	15	2.9
社会人	3	2	1	2.0
外国人	0	0	0	—
一般Ⅰ期(学力試験)	146	138	48	2.9
一般Ⅰ期(センター)	132	132	10	13.2
一般Ⅱ期	32	27	5	5.4
合計	245	238	74	3.2

1学年50人定員の少人数で授業・演習・実習を展開し、丁寧な個人指導に重点をおいている。特に特別演習(ゼミ)では、論文指導、就職指導に力を入れ、教員と学生相互の学びを柱としている。幸いにも推薦入試、学力入試で多くの受験生を受け入れている。

(4) 特に優れた点及び改善点等

保育士資格取得・約80%、社会福祉士受験資格・約60%、両方の資格取得・約40%に及んでおり、学生の目的志向は入学当初から高い。また4年制大学への編入学・約15%、就職率・95%以上など、受験生から高い評価を得ている。

2. 教育内容面での取組

(1) 教育課程の編成に関する取り組み状況

社会福祉学科は、保育士、社会福祉主事任用資格、社会福祉士国家試験受験資格の取得を目的としている。これら資格の取得に必要な科目を中心に、充実したカリキュラムが組まれている。

また、福祉専門職養成のためには現場経験が重要であるとの認識から、実習や実習の事前・事後指導に力を注いでいる。社会福祉士の実習指導は、実習希望先の分野ごとに分かれて指導をおこなっている。また保育所実習では、平成15年度から、指導の一貫性を重視し、同一保育所に2度実習するようになった。

(2) 授業(研究指導も含む)の内容に関する取り組み状況

授業はそれぞれ専門性をもった教員が担当している。また非常勤講師も現場の生の声を伝える実践経験の豊富な人材が多い。

2年次にはゼミ形式の特別演習があり、卒業論文の執筆などに向けた研究指導をおこなっている。

(3)特に優れた点及び改善点等

学生にとって濃密な時間割をこなす毎日が続くゆえか、和気あいあいとした雰囲気学科に流れているという点が良い点であるように思える。

しかしながら、一方で改善点も存在する。実習の謝礼金を学生が負担することとなったが、今年から少額の実習費に対しても、予算のシーリングがかかっているという問題を抱えている。また、国の指導において、社会福祉士養成施設には、専任の実習助手を確保するよう求められているが、現在、非常勤の助手が一名存在するのみである。学生指導の充実を図り、将来の超高齢化社会を支える福祉専門職を育成するためには、助手の専任化や人数の確保が望ましい。

3. 教育方法及び成績評価面での取組

(1)授業形態、学習(研究)指導法などの教育方法に関する取組状況

- ・講義と演習が有機的に連携するような教育方法を模索している。例えば、社会福祉実習指導の中で施設訪問を取り入れたり、事例研究に力を入れたりしている。
- ・少人数制の利点を活かし、特別演習での個別指導に力を入れている。各自のゼミ論文を冊子にまとめたり、発表会を行うことにより動機付けを行い、個別指導の効果が出るように工夫している。

(2)施設・設備の整備・活用に関する取組状況

- ・今年度、授業における集中力を高めるために、教室にロッカーを設置した。これは、これまで机の上で当該授業のテキスト以外の物を置かざるを得なかった教室内の状況を改善した。
- ・2003年7月、冷房装置を、308・309教室に設置した。これにより、以前にも増して快適な学習環境を提供できるようになった。
- ・2003年度、パソコンを購入し、301演習室に設置した。学生のレポート作成、ゼミ論文作成の利便を図ることができた。
- ・2003年度、308教室前に掲示板を設置した。これにより、掲示板が計2つになり、休講情報や呼び出しの他に、ボランティア情報なども掲示することができるようになった。

(3)特に優れた点及び改善点等

特に優れた点は(2)で述べたとおり。改善すべき点は以下のとおり。

- ・3階トイレの個室数が少なすぎる。現状3つではとても足りない。
- ・3階トイレの照明が暗く、不潔な感じがする。異臭がする。洗面台も低く使用しにくい。洗面台の水の出具合が弱い。
- ・バリアフリー、ユニバーサルデザインなどが提唱されている現在、エレベーターは必要

である。本学科に即して言えば、特別講義などで車椅子を利用している方を招致した場合、階段を上がるのに大変な手間がかかる。

- ・ピアノ室にエアコンがなく、夏場の練習に支障が出ている。全室への設置が望ましい。
- ・301 演習室のパソコンを増設できるとよい。学習の便宜をよりはかることができるだろう。

4. 教育の達成状況

(1) 学生が身につけた学力や育成された資質・能力の状況から判断した達成状況

例年2, 3名にとどまっていた社会福祉国家試験合格者が平成15年度は12名という近年にない多くの合格者を達成した。

つぎに、社会福祉士(国家試験受験)資格および保育士資格の取得状況はつぎの通りである。

	1999度	2000度	2001度	2002度	2003年度
保育士	41名	29名	40名	37名	39名
社会福祉士	38名	30名	43名	30名	36名

(2) 就職や進学などの卒業後の進路の状況から判断した達成状況

近年の就職率及び進学状況(編入学)はつぎの通りである。

	1999度	2000度	2001度	2002度	2003度
就職率	95. 7%	88. 9%	97. 9%	91. 5%	92. 9%
進路決定率	96. 4%	90. 6%	98. 2%	92. 5%	94. 1%

社会福祉学科における過去5年間の就職率は平均で93%程度であり、全国の短期大学の就職率と比較すると、比較的就職の達成状況は良好であるといえる。

また就職先として、社会福祉関連への就職率は就職者中95%以上の割合である。就職先としては保育園、老人関係、障害児者施設が主である。

進学に関しては毎年15%程度の学生が四年制大学へ編入している。最近の経済事情の影響か、私学への編入学希望者が減少し、国公立への編入が増加している。進学希望者における進学率は毎年100%に近い状況である。

(3) 特に優れた点及び改善点等

公務員模試などの模擬試験は○表に掲げているように、毎年おこなってきている。また、進学(編入学)情報なども掲示して学生へ周知徹底を期してきている。こうした進路指導委員の指導以外で、ゼミを中心とした就職活動や進学活動にも力を注いでいる。

5. 学習に対する支援

(1) 学習に対する支援体制の整備・活用に関する取り組み状況

実習関連科目について、2002年度より新たに実習助手が配置され、教員と連携を取りながら、学生達の実習に関する学習の支援をおこなっている。また、4年生大学への編入や就職活動に役立つ、基礎的な資料を揃えつつある。それらの資料は、学生が自由に閲覧できるようになっている。

(2) 自主的学習環境(施設・設備)の整備・活用に関する取り組み状況

自主的学習環境整備の一環として、2002年度より、301 演習室を学生達に開放している。また、学生達より要望が出されていたインターネットを用いる自己学習環境の整備については、2003年度に学科でコンピュータ等を新たに導入し、内1台に学内ランを使用可能とすることで応えてきた。ただ、コンピュータの台数に限りがあるため、今後、さらに充実する課題を残している。

実技系の科目を履修する中で、収納スペースが足りなくなり、教室内および机の上が若干乱雑になりがちであった。そうした状況を改善するため、学生からの要望もあり、309 教室内にロッカーを導入した。

(3) 特に優れた点及び改善点等

これまで事務室にあった本学科の実習助手の仕事の場を本学科の講義室や研究室がある北棟3階に移したことによって実習関係のサポート事務などの改善がすすんだ。また、2003年2月、学生たちへの連絡体制の整備のために、同じく北棟3階の講義室(308)前に新たに掲示板を設置し、従来の講義室(309)前の掲示板と合わせて、学生への連絡が整理されて伝達しやすくなり、学生への学習支援に大いに役立っている。

6. 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 組織としての教育活動及び個々の教員の教育活動を評価する体制

日本社会福祉士養成校協会及び日本社会福祉教育学校連盟に加盟し、情報を得ることにより、社会福祉士の養成にかかわる現在の動向を把握している。そこから直接、学生への還元がなされている。また日本社会福祉士養成校協会及び日本社会福祉教育学校連盟が主催する、「社会福祉教育セミナー」に毎年参加している。このセミナーでは、社会福祉士養成にかかわる問題や教材の開発、今後の展望など、さまざまなテーマが掲げられ議論されており、教員への再教育の場を提供している。

社会福祉学科における教育の達成状況に関しては、現在の所、組織的に具体的な目標を設定しているわけではなく、個々の教員の担当科目における教育達成状況により、個別的に判断している。毎年実施しているオリエンテーションキャンプや、特別講義、ゼミ対抗スポーツ大会など社会福祉学科全体での教育活動などは組織的に学科全体の教育的成果を期待した取り組みであるが、より具体的に目標、達成状況などを考察、検討し今後の教育活動を客観的に評価することが求められている。

学科教員の教育活動の評価体制についてはとくに構築されていない。個々の教員の担

当分野における目標を個々の教員の評価でその達成度が把握されているが、今後学科教員内で、他からの評価或いは相互の評価も視野に入れながら、教育の質の向上や改善が図られる体制の構築が必要ではないかと思われる。

- (2)評価結果を教育の質の向上及び改善の取組に結び付けるシステムの整備及び機能状況
学生の授業評価を平成11年度より実施し、評価結果から、個々の教員の授業改善に活用している。またその評価に対する担当教員の見解をまとめ、学生に公表をしているところである。

卒業時に実施している2年生への本学の評価により、学科全体としての教育の向上や質の改善への取り組みが積極的に検討されなければならないところであるが、個々の教員の改善が優先され、学科の改善としては生かされていないという現状であり、今後学科内で協議、検討することが必要であると思われる。

- (3)特に優れた点及び改善点等

具体的な改善を実施してきた事例としては保育士養成における音楽関連科目(音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、表現Ⅰb)において教員の要請、及び学生の授業評価などを考慮して、音楽教育の質の向上を目標に、非常勤ピアノ講師の増員などを行ってきた。社会福祉学科開設時はピアノ授業における担当教員は1名のみであり、1、2年生60名～70名の個人レッスンを1名で行わなければならない状況であった。学科として予算要求を重ねてきた結果として、現在は3名のピアノ担当教師が連携をもちつつピアノ教育を行っている。

教育効果としてはピアノ担当教員1名での時期には(ピアノ学習経験が無い学生)学生の2年間でピアノ技術到達がバイエルを修了するのが最大の進捗であった。現在は入学時にピアノ学習経験が無い学生であっても、80%程が2年間でバイエルを修了するようになり、バイエル以後の教則本に進む学生の割合が飛躍的に上昇している。

今後改善されなければならない点として、社会福祉学科全体の設備はほとんどが社会福祉学科開設時のものであり(1980年)、その老朽化が授業の妨げになりつつあり、抜本的な改善が必要である。

教務厚生委員会

I 目的及び目標

1. 目的

本委員会は学生の勉学・生活に最も広範にまた最も深く係わる委員会である。教学・厚生両面において、学生にできるだけ快適な環境を整備し提供するのが、本委員会の目的である。そのためには、社会的状況の目まぐるしい変化と本学への社会的要請を鋭敏にキャッチしながら、常に教育内容・勉学条件・厚生施設等の改善に努めていかななければならない。

II 評価項目ごとの自己評価

1. 教育の実施体制

教務厚生委員会は学生部長、各学科・各コース、教養基礎会議から選出された1名ずつの委員、事務局代表1名をもって構成されている。毎月1回教務厚生委員会を開催し、教務と厚生に関する事項を協議してきた。

以下、平成13年度から現在までの活動内容と今後の検討課題について述べる。

2. 教育内容面での取組

(1)教育課程の編成・見直しに関する取組状況

①産業情報学科 経営情報コース

- ・平成13年度入学生から、高度情報化社会における会計情報システムの理解を深めるため、休講となっていた「会計情報システム論」を「会計情報システム論Ⅰ」として開講し、また演習科目であった「会計情報システム論演習」を講義科目「会計情報システム論Ⅱ」として再構築し講義内容の充実を図った。
- ・平成16年度入学生から、これまでに行ってきた簿記関連の講義に加えて、「工業簿記Ⅰ」および「工業簿記Ⅱ」を新設した。これまでの講義では、商業簿記3級の範囲に対応していたため、科目を新設し同2級程度にも対応していけるようなカリキュラムにした。
- ・平成16年度入学生から、経済学の応用科目としての「財政学」を新設科目とし、編入学を希望する学生や公務員試験を受験する学生にも十分対応できるようにした。
*今後の課題・改善点(共通選択科目についての改革案)
- ・コンピュータ教育に関し、情報分析のための統計学の充実、およびWebプログラミングの講義の開設を検討する。
- ・企画能力やプレゼンテーション能力を養うため「伝達学」を新設する。
- ・「データベース」に関する講義を新設する。
- ・情報の収集、分類、分析、創造といった知的生産活動に関する技法を学ぶ科目の新設を検討する。
- ・共通科目と専門科目を逆転させて、コース間でより横断的に学生が履修できるようカリキ

ュラムの再編・見直しを検討する。ただし、楽な科目だけを履修出来るようにすることは避けなければならない。

②産業情報学科 デザイン情報コース

- ・平成 5 年 4 月の産業情報学科開設以来、デザイン情報コースはインテリア・グラフィック・クラフト・コスチューム・プロダクト・マテリアルの6分野(6ゼミ)を中心とした体制であったが、マテリアル分野を担当していた専任教員の平成 14 年 3 月定年退職に伴い、マテリアル分野を廃止した。変わって、時代の要請や分野別実習教育の見直し等により、インターフェース分野を新設した。つまり、平成 15 年 4 月より、インターフェース・インテリア・グラフィック・クラフト・コスチューム・プロダクトの6分野(6ゼミ)体制となった。
- ・これにより、学科課程表の中で、次のような専門教育科目の変更と実習体制の変更を行った。
- ・「材料学実験」は平成 14 年度末で廃止した。
- ・デザイン情報実習 I・II における実習体制については、平成 13 年度入学生からマテリアル分野を廃止した。
- ・「デジタルデザイン論」・「デジタルデザイン演習」を平成 15 年度より新設した。
- ・デザイン情報実習 I・II における実習体制については、平成 15 年度より新たにインターフェース分野を追加した。
- ・デザイン情報コースの必修科目である「デッサンI」は、平成 14 年度学科課程表まで2年生前期での開講であったが、平成 15 年度より1年生前期での開講に変更した。

*今後の課題・改善点

- ・現在のデザイン情報コースは、インターフェース・インテリア・グラフィック・クラフト・コスチューム・プロダクトの6分野(6ゼミ)体制である。しかし、専任教員中の2名が平成 17 年 3 月で定年退職する予定であるため、学科の理念・使命、教育に対する社会的要請、教育目標等を再確認し、カリキュラムの再編・見直しを計画している。

③食物栄養学科

- ・栄養士法の一部改正に伴い、平成 14 年度から栄養士養成施設指導要領が全面的に改正された。基礎分野(教養基礎科目)は従来通りであるが、専門分野(専門教育科目)については大幅な見直し、編成を行うこととなった。
- ・従来は栄養士免許取得に必要な専門教育科目は、各科目名及び単位数が示されていたが、本改正では専門分野は大卒の教育内容「社会生活と健康」「人体の構造と機能」「食品と衛生」「栄養と健康」「栄養の指導」「給食の運営」とその教育目標が示され、具体的なカリキュラムについては各養成校に委ねられた。栄養士免許の取得必要単位数は 56 単位以上から 63 単位以上となった。
- ・本学科では「社会生活と健康」については公衆衛生学 I・II (4 単位)を 2 単位に、「食品と衛生」では食品加工学を廃止し、「栄養と健康」では臨床栄養活動論(2 単位)を新設、「栄養の指導」では公衆栄養学(2 単位)を 1 単位にし、地域栄養活動論(1 単位)、コミュニケーション

学(1単位)を新設、「給食の運営」では給食経営論(1単位)を新設し、給食管理実習(学外)1単位を2単位に増やした。また、専門関連科目として栄養情報管理Ⅰ・Ⅱを新設した。

- 本学科は、栄養士としての就職希望者が非常に多く、且つ、就職率も高いことから、社会のニーズである「即実践力のある栄養士の養成」に応えるべく、特に今日の高齢社会への対応、情報処理教育の充実を図ってきた経緯があり、さらに、平成16年度から給食管理の専任教員を採用してより充実を図ったものである。

*今後の課題・改善点

- 平成14年度に管理栄養士の資格が登録制から免許制になり、管理栄養士はより高度な専門的知識及び技能を要する…とその業が明文化され、平成17年度の国家試験(第20回)からは新教育カリキュラム、管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)が適用されることとなっている。本学科は管理栄養士国家試験受験に対応したカリキュラムを設定し、鋭意、教育してきているが、新教育カリキュラムを2年制課程で網羅することは厳しい状況にある。管理栄養士国家試験受験希望者が多く、且つ、合格率は全国平均の約3倍である現状を維持するためには、より専門性の高い教育内容が求められる。
- 栄養士免許での多様な職域に対応できる専門性の高い選択科目、コース等の検討。
- 栄養士職の基本となる給食管理分野の充実: マネージメント論、フードスペシャリスト論、フードコーディネーター論等の検討。
- 四年制大学への編入学を希望する学生や、栄養士職以外の進路を希望する学生の基礎力の充実。

④社会福祉学科

本学科のカリキュラムは、社会福祉に関する基礎科目を学びながら、分野別の専門知識や対人援助に関する基礎技術を習得できるように構成され、保育士資格関連科目、社会福祉士受験資格のための指定科目等を開講している。

本学科では、厚生労働省の告示(平成13年・第198号)及び通知科目の変更により本学科の保育士課程見直しについて委員会を設け、検討した。その結果、多様な社会のニーズや保育士に求められる資質の変化に対応すること、また従来本学の保育士養成のポイントとしてきた福祉的視点をより多く導入することが必要と判断し、平成14年4月から以下のとおり見直しを行った。

- 本学の保育士養成は、社会福祉学科の枠組みの中で行うことから、ほとんどが科目の読み替えによって対応可能であった。したがって、資格取得を希望する学生にとっては、履修上の負担は従来とそれほど変わらない。
- 科目を読み替え、授業形態を変更することで、相談業務への対応や問題解決能力の向上なども図られ、これによって保育士の専門性が一層強化される。
- 開講時期についても検討し、保育士養成を科目間の系統性や関連性という観点から整理することができた。
- 本学科の学生を対象とした調査から保育実習の不足が浮き彫りになったが、実習を強化する

ことにより、この点についても解決が図られた。

⑤教養基礎会議

- ・「現代社会と福祉」は社会福祉学科の専門科目と内容的に重複するところが多いため見直しを行い、14年度より社会福祉学科の学科課程表より削除した。
- ・「コンピュータと情報」は産業情報学科の専門科目と内容的に重複するところが多いため見直しを行い、平成16年度より産業情報学科の学科課程表より削除した。

⑥自由科目の増設

- ・平成13年度に、自由科目として「検定英語 I」(前期・2単位)、「検定英語 II」(後期・2単位)を新設した。グローバル化とそれに伴う国際コミュニケーションの重要性がますます増加している。本学でも TOEIC、TOEFL、英語検定などを視野におく学生が微増している。こうした目的を持つ学生の要望に対応するためである。
- ・平成14年度に自由科目として「基礎英語」(前期・2単位)を新設した。英語学力の低い学生に英語の基本を学ばせ、苦手意識を払拭することを目的とする。
- ・平成14年度より産業情報学科の自由科目に「運動技術 I」を新設した。様々な大学への編入学に際して、可能な限り多くの体育実技の単位を取得したいという要望に応えるためである。これにより、体育実技に関して最大4単位を取得できるようになった。

3. 教育方法及び成績評価面での取組

(1)授業形態、学習(研究)指導法などの教育方法に関する取組状況

①FD 講習会

自己評価総括委員会が主催して、平成14年3月、東北大学より講師を招き、効果的な授業方法を学んだ。学生側から見た場合の良い授業、面白い授業、教育効果の上がる授業などについて再考し、それぞれの教員が自分の授業を見直すよい機会となった。今後も引き続き機会を見て講習会を開き、より有効な教授方法を模索しながら授業改善に努めていかなければならない。

②教員授業方法の公開

本学の教員親和会が主催して、平成15年には、学内の分野の異なる4名の教員が自分の授業内容、教授方法の特徴と工夫点などを他の教員に開陳し、意見交換をする場を設けた。専門分野が異なるため授業内容の理解度に深浅はあったが、発表教員の授業に対する熱意ある取り組みを知ることができ、有効な刺激剤となった。

③学生の成績評価

成績評価は従来より100点法であり、学生に交付する成績表には点数の範囲によりABCD評価を記していた。しかし学生の学習意欲を引き出すために、平成14年度より、ABCDと共に素点も記すことにした。しかし成績証明書は従来通りABCで記している。

(2)施設・設備の整備・活用に関する取組状況

- ①平成15年度、コンピュータシステムの更新と共に、学務システムも変更になり、「学舎」

が導入された。先の GAKUEN システム同様、教務・入試・就職等の統括的事務処理を効率的に行っている。コンピュータによる履修登録に際しては、教務厚生委員が中心となり各学科の教員が指導しているが、基本的には学生の自己責任により、学内用ホームページから登録する。学生は確認用時間割にて確認し、修正、決定を行い、もし登録に誤りがあった場合の救済措置は時限的に認めている。

また、それまで就職活動による授業欠席は個人的理由による欠席と同様に、紙による欠席届を担当者に提出していたが、就職活動によるものは、平成 15 年度よりコンピュータによって担当者に報告するようになった。

- ②コンピュータの機種更新に伴い、エントランスホールにコンピュータ 5 台を新たに設置した。学生はコンピュータセンターに行かずに手軽に利用できる状況となり、自主的学習環境がさらに整備された。

(3) 今後の課題・改善点

- ①今後の検討課題として、より客観的な成績評価がある。現在の成績評価は絶対評価であり、全面的に担当者の判断に任されている。それによって、いわゆる楽勝科目や難関科目などが取り沙汰されることになる。学習目標に対する達成度をできるだけ厳密に客観的に測定できるような方法を案出し、信頼のおける成績評価がなされるように努めなければならない。
- ②特に優れた成績評価として、学生に交付する成績表と成績証明書に「まる A」(例えば素点95点以上)を新設することを検討したい。学生の勉学意欲を鼓舞するよい刺激となるのではないかと期待される。

4. 学習に対する支援

(1) 学習に対する支援体制の整備・活用に関する取組状況

① 編入学支援

- 平成 14 年度より会津大学編入学合格者はコンピュータ理工学部の授業を一部聴講することができるようになったが、単位取得は認められなかった。しかし、平成 15 年度より編入学合格発表を1ヶ月繰り上げ9月とし、合格者は後期の10月より会津大学科目等履修生として単位を取得できるようになった。合格者は「電磁気学」「線形代数」「微積分」などを履修し、編入学後、スムーズに会津大学の授業についていけるように支援体制を整えた。なお会津大学の配慮により、本学の学生が科目等履修生として履修する場合の授業料等は一切免除されることになった。
- 前述したが、様々な大学への編入学に際して、可能な限り多くの体育実技の単位を取得したいとする要望に応じて、平成 14 年度より産業情報学科の自由科目に「運動技術 I」を新設した。

② 福島県高等教育協議会加盟大学間相互単位互換

本学を含む福島県高等教育協議会加盟大学 13 校は、平成 12 年度より相互単位互換

(特別聴講学生制度)について協議を重ねてきた。この制度は大学間交流の活性化により、学習意欲に燃える学生に多くの学習機会を与えることを目的としたのだが、いよいよ平成 16 年度より実施に踏み切った。本学は科目等履修生開講科目全 167 科目をこの制度の開講科目とした。初年度で情宣活動期間が短かったため学生への周知は充分ではなかったが、会津大学コンピュータ理工学部 2 年生 1 人を「デッサン I」(前期・2 単位)の特別聴講学生として受け入れた。本学生を他大学に派遣することはできなかったが、今年度後期早々に学生に周知徹底を図り、本制度の利用を促したい。

③奨学金制度

本学では、日本育英会(平成 16 年度より独立行政法人日本学生支援機構と改称)への奨学生の推薦事務を行っている。この 3 年間における日本育英会奨学金の申請者と受給者数は下表の通りである。

		平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	
予約奨学生(人)		28	34	32	
一 次	希望者数	34	33	36	
	一種	内示数	9	9	16
		採用数	9	9	16
	二種	内示数	13	14	18
		採用数	13	14	16
	不採用		12	10	4
二 次	希望者数	6	2	5	
	一種	内示数	—	2	—
		採用数	3	2	5
	二種	内示数	—	—	—
		採用数	2	—	—
	不採用		1	—	—
採用者計		55	59	69	

福島県育英会採用状況は下表の通りである。

	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
奨学生数(人)	3	1	1

現今の経済不況を反映してか、受給者数は微増を続けており、平成 15 年度 1 年生は全体の 42.4%が奨学生となっている。

④授業料免除の状況

授業料等の免除については、「会津大学等の授業料等に関する条例」第 5 条に定めら

れている。授業料等の免除を受けることができる者は、学業優秀で、経済的理由により、あるいはやむを得ない事情により、授業料の納入が困難であると認められた者である。この3年間の授業料免除申請者は全員全額免除を認定されている。平成13年度は2名、平成14年度は1名、平成15年は2名であった。

⑤留年、休学、退学等の状況

過去3年間の状況は下表の通りである。年度によっては、2年次に単位不足により卒業延期者が若干名いる。留年の理由は、怠学、適応不良、経済的理由などである。これらの者は、留年した後、概ね卒業している。休学者は毎年数名いる。休学の理由は経済的理由、病気、不適応、不本意入学などである。休学後復学する者もいるが、退学する者もいる。退学者は年度により、数名いる。退学の理由は進路変更、経済的理由、適応不良などである。

	学年	平成13年度	平成14年度	平成15年度
留年 (人)	1年	0	0	0
	2年	3	0	10
休学 (人)	1年	1	1	3
	2年	1	0	2
退学 (人)	1年	4	0	3
	2年	2	0	1

(2) 今後の改善点

特別聴講学生制度に関連して、他大学の学生は自由に本学の科目を履修できるのに、本学の学生は所属学科以外の学科の専門教育科目をほとんど履修できない等の矛盾が生じている。これまで他学科の専門科目の一部は自由科目として履修を認めているが、今後その枠を大幅に拡大し、学習意欲のある学生に十分な機会を提供出来るようにしなければならない。

5. 厚生補導に対する取組

(1) 厚生補導に関する取組状況

毎年4月、2年生に対して、「学生生活アンケート調査」を実施している。学生の住居環境・生活費・仕送り・アルバイト・通学状況・学校行事への参加状況・各種トラブル・教育環境・厚生施設設備・卒業後の進路希望等についての細かな質問事項に対して回答してもらうものである。この調査結果によって、学生の実生活の現状と本学に対する彼らの要求を総体的に捉えることができ、今後の改革・改善の手掛かりとすることができよう。

①学校行事・サークル活動への参加状況は、下表のようである

。

回答者数(人)	参加など	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
		166	148	146
オリエンテーションキャンプ	不参加	2	2	0
	消極的参加	31	28	35
	積極的参加	132	118	110
スポーツ大会	不参加	10	3	1
	消極的参加	36	34	40
	積極的参加	120	111	105
会津の歴史散歩	不参加	146	127	120
	消極的参加	2	0	4
	積極的参加	18	21	22
文化講演会	不参加	69	66	90
	消極的参加	64	60	38
	積極的参加	32	21	18
大学祭	不参加	13	9	10
	消極的参加	52	50	45
	積極的参加	101	89	91
会津大学のサークル活動	不参加	63	39	47
	消極的参加	39	44	34
	積極的参加	63	64	65
学生自治会	不参加	111	109	109
	消極的参加	45	24	29
	積極的参加	10	9	6

オリエンテーションキャンプは3学科共通日で1泊 2 日で行っている。学科によってその目的は多少異なるが、教員と学生、学生同士の親睦と友情を深め、非常に有意義な行事である。大方の学生が積極的に参加し、これとは別のアンケート調査(平成 16 年 4 月、2 年生に実施)では、「今後も実施した方がよい」とする者は 87.0%である。

スポーツ大会にはほとんどが参加し、積極的参加は毎年 72%前後である。5種目の競技にわたるクラス対抗である。クラスの団結、友情の深まり、相互理解などその教育的効果は大きい。

会津の歴史散歩は、豊富な文化遺産に恵まれた会津の特殊な地域性を理解し、さらに自分の故郷を見直す一助として 10 数年前から実施している。毎年 5 月の土曜日 1 日かけてバスによる会津の史跡巡りであるが、参加者は毎年教員を含め 40 人前後である。平成 16 年度の参加者へのアンケート調査(有効回答数 32 名)では、実施時期、行き先、スケジュールなどについてはほぼ全員が満足し、さらに全員が企画の継続を希望している。

文化講演会は平成 3 年度より毎年後期開始日に開催している。これまでのテーマは会津や東北の歴史・文化・風土、21 世紀の女性像、愛と生、国際化といったように広範囲に及ぶ。しかし、表に見るように、積極的な参加者は少ない。学生を惹きつけるようなテーマ探しと同時に、学生に多様なものへの知的好奇心を育成し、広い視野と価値観をもてるよう指導していかなければならない。

大学祭は平成 8 年度より「蒼翔祭」として会津大学と合同で開催してきたが、平成 13 年度より分離し、本学独自の「紅翔祭」を開催することになった。この年は奇しくも本学開学 50 周年にあたり、本学の教育や学科の特徴とリンクした様々な企画が催され、好評を博した。毎年 90%を超える学生が何らかの形で学校祭に参加しているが、自分たちだけの文字通りのお祭り騒ぎに終始するのではなく、今後も大学祭に相応しい内容をもった企画、地域と関わりをもてるような企画を創出するよう指導したい。

約 30 ほどのサークルの多くは会津大学と合同であり、本学単独のサークルは少ない。70%前後の学生は何らかの形でサークル活動に関わり、約半数は積極的に参加しているようである。

アンケート調査結果からもあきらかであるが、自治会への関わりは非常に薄い。学生大会への参加者も少なく、円滑な活動・運営に支障をきたしている。これは本学だけでなく、全国の短大の一般的趨勢と言えるだろう。しかしそうした中で、本学では平成 16 年度に学内向け自治会ホームページを立ち上げ、本学教員の指導のもとに希望者がホームページ作成に取り組んでいる。アイテムにはまず「BBS」と称する学生生活サポート掲示板がある。それはバイト情報・物品譲渡・探し物等に関する情報交換の場である。また「My eyes」では本学の特定学生の紹介が視覚・聴覚的になされ、「What's 自治会」は現在制作中であるが、自治会活動の活性化を狙ってその存在意義等が論じられると期待される。作成者は自治会委員となりさらなるホームページの内容の充実に取り組み、近い将来、学外への発信も視野に入れて努力している。

②セクシャルハラスメント防止

全国的なセクシャルハラスメントの増加が報道されているが、本学では、セクシャルハラスメントを防止・排除し、良好な教育・研究環境の維持・確立を図るため、平成 15 年度に「セクシャルハラスメントの防止等に関する指針」を定めた。そこでは、セクシャルハラスメント防止の「目的」、「定義」、「教職員・学生及び関係者の責務」、「相談への対応」、「不利益取扱いの禁止」、「懲戒処分」等について述べている。さらに「教職員・学生及び関係者の責務」に基づく「本学教職員がセクシャルハラスメントの防止等のために認識すべき事項」について、多くの具体例を挙げながらその防止に努めている。また、「指針」と「認識すべき事項」については学内・学外用ホームページにも掲載し、本学の防止に向けた努力を公表している。さらに各学科及び事務局より防止委員会委員、苦情相談委員を任命し、全学を挙げてセクハラ防止に取り組む体制を整備した。

③犯罪に巻き込まれないために

キャッチセールス・マルチ商法などの悪質商法や窃盗・ストーカーによる被害、宗教絡みのトラブル等については「学生生活に関するアンケート調査」等で把握するよう努めている。さらに徹底した学生への指導・啓蒙のために、毎年4月の新入生ガイダンスにおいて、専門家による講演を行っている。これまでの講演会のテーマは、平成14年度「だまされなくて悪質商法」(福島県消費生活センター 主任主査 大須賀ミチコ氏)、平成15年度「身近な犯罪の実態と防犯の心得についてー具体的防犯対策」(会津若松警察署 主任警察補導員 松崎美紀子氏)、平成16年度「だまされなくて悪質商法」(福島県消費生活センター 主査 鈴木正子氏)であり、学生の意識向上に役立っている。

(2) 厚生補導の環境(施設・設備・人)の設備・活用に関する取組状況

① 教室の冷房完備

平成15年度にすべての教室に空調設備を設置した。それまで管理棟や教員研究室のみに設置されていたが、これで冷房設備が完備することになる。前期は7月末日までであるので、これまで学生は焦熱地獄の中であったが、その苦しみも解消されることになった。

② 一箕寮

今年で築41年目となり老朽化が目立っているが、常に32名の女子学生が入寮しており、すべて相部屋で友情関係の形成に役立っている。平成11年度には浴室改修、電灯盤改修を行い、平成13年度には室内模様替え、畳改修、裏口外灯修理、さらに平成15年度には埋設水道管修理を行い、洗濯機一台を更新した。ストーブや空調機などの小さな不具合などはその都度対応し、可能な限り快適な生活環境作りに努めてきた。

③ 受動喫煙防止対策

受動喫煙による健康への悪影響が懸念され、全国でその対策が講じられてきたが、本学では平成11年度より分煙を実施し、学内の喫煙個所は5カ所となった。平成15年度、健康増進法第25条の制定により、さらに厳しい受動喫煙防止対策を迫られ協議を重ねたが、校舎内全面禁煙とは至らなかった。しかし、たばこの煙が完全に外に排出され、学内に流出しないような完全密閉型の小さな部屋を校内3カ所に造ることを計画し、さらなる分煙の徹底化を図っている。

(3) 今後の改善点

「学生生活アンケート調査」に見る本学の厚生面の施設・設備に関する不満を高い順に並べると下表のようになる。

		平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
回答者数 (人)		166	148	146
学生食堂のメニューの充実度 や料金	不満	85	78	82
	どちらとも	59	57	49
	満足	21	13	15
エントランスホールや更衣室 などの福利厚生施設	不満	85	70	67
	どちらとも	59	58	53
	満足	21	20	26
図書館の購入図書・蔵書数や 開館時間及びその人的配置	不満	53	44	63
	どちらとも	67	67	52
	満足	45	37	31
実験・実習用の機器などの設 備や施設	不満	40	40	45
	どちらとも	85	80	66
	満足	40	28	35
保健・学生相談等の保健関係 施設及びその人的配置	不満	31	40	32
	どちらとも	102	83	90
	満足	32	25	24
コンピュータ理工学部施設の 本学生の利用	不満	53	40	31
	どちらとも	95	93	101
	満足	14	13	12

ここに掲載された不満の対象の多くは、ことの性質上、一朝一夕に改善され、不満が解消されるものではない。

学生食堂のメニューや料金、売店の取り扱い商品の品数、営業時間が短いことについてはかねてより不満度が高かった。平成 12 年度に食堂と売店を一体的に経営できる業者を選定し、光熱水費を本学が負担する委託契約に変更し、学生へのサービス向上に努めた。これにより、ある程度の改善はなされたが、不満解消にはつながらないようである。学生数が少ないのが最大のネックであり、業者の慢性の赤字が続いている。

学生の休養・くつろぎのための快適な空間整備は、限られた既成空間と管理運営費の中では困難な問題であるが、可能な限り努めなければならない。

図書館の開館時間が短いことへの不満がある。数年前まで閉館時間は午後 5 時であったが、平成 14 年度より時間外開館に踏み切り 7 時閉館とした。しかし授業日のすべてに渡っての時間外開館ではなかった。その後開館日を次第に増やし、平成 16 年度は計 89 日にのぼる。週末開館を含め、今後の改善点である。

実験・実習用の機器などの整備は直接授業に係わることであり、早急の改善が求められる。

保健・学生相談等のための快適で専門の施設はないのが現状である。しかし人的配置に

については、学生相談のための専門カウンセラーを平成 16 年 1 月から設置し、毎週 1 回だけがカウンセリングにあたることになった。

コンピュータ理工学部施設の利用については、本学事務より ID カードを借用し、会津大学で定められた方法で施設利用できるようになっている。この手続きは少々やっかいであるかもしれないが、仕方ないところであろう。

6. その他の問題点

(1) 学外からの受入れについて

平成 16 年度から始まった特別聴講学生制度など、新たに学外から受講生を受け入れる制度が今後拡充されることが予想される。それに伴い、履修体制についてはこれまでは学内・学科内にいる学生だけを考慮すればよかったが、これからは教育の地域貢献も含め、高校生、社会人など学外からの受け入れも視野に入れて検討していかなければならない。

(2) 他委員会との連携・調整

現在、学外の業者が自主的に行っている卒業アルバムの件や、教育後援会費、下宿先の様々なトラブル・相談など、元々本学とは直接関係ないが、学生の福利厚生に関わりをもつため、教務厚生委員会で主に議論している問題がいくつかある。しかし、どこまでのことを委員会で対応・議論すべきか、また他の委員会との連携など、今後ある程度、運用上の調整が必要だと思われる。

(3) 各種イベントの実施形態について

本学では年間を通じて学業以外の各種イベントを行っている。5月のオリエンテーション・キャンプ(学内予算約 500 万円)を皮切りに、スポーツ大会(同約 30 万円)、学園祭(同約 250 万円)、卒業パーティ(同約 100 万円)など、いずれも学生から預かった教育後援会費・実習費から多額の支出がなされるものである。独立行政法人化が実施されると、あらゆる「資金の動きの透明化」「資金の管理」「資金の有効活用」が求められるようになる。すべてのイベントを、従来通りに教務厚生委員会が管轄するのか否かという点も含め、今後、各種イベントの実施形態について、学内全体で再考する必要が生じてこよう。

入学試験委員会

I 目的及び目標

1. 目的

18歳人口の減少に伴い大学全入時代が到来すると言われている中で、短期大学を志願する生徒数の減少が危惧されている。本学の将来展望を考えるに際し、その課題の一つに、いかに学力水準の高い入学者を確保するかがあげられる。

このためには、将来に向かって魅力ある教育環境を整えることが第一義であるが、入学者選抜においては、本学の教育理念や教育内容に則した入学者の受入方針(アドミッション・ポリシー)に基づき、受験生の能力・適性等を多面的に評価・判定するための入学試験制度を確立するとともに、志願者数を維持・確保するための対策を積極的に展開していく必要がある。

2. 目標

本委員会では、上記目的を達成するため、次の視点から本学の入学試験制度の現状を常に検証し見直しを図るとともに、本学の入学試験の目的や内容等の入学試験情報を積極的に提供することにより、常に4倍程度の志願倍率を維持していくことを目標とする。

- ① アドミッション・ポリシーに応じ、受験生の学ぶ姿勢や意欲、思考力、判断力などを多面的な視点から、公正かつ適正に評価・判定できる制度とする。
- ② 本学の教育を受けるにふさわしい能力・適性を有している入学生が確保できる制度とする。
- ③ 受験生の受験機会や選択肢が広がり、受験者数の増加が期待できる制度とする。
また、入学試験業務、特に問題の作成、合否判定、入試システムの運用等の実施にあたっては、チェック体制に万全を期すなど、公正かつ適正な実施に努める。

II 評価項目ごとの自己評価

1. 入学試験の実施体制

(1) 入学試験実施組織

入学試験委員会は、会津大学短期大学部学内運営組織等に関する規則第19条に基づき、入学者選抜の公正かつ円滑な実施を図るため学生部に設置されている。

また、入学試験の実施組織は、会津大学短期大学部入学者選抜規程に基づき、出題者、採点者、調査書審査者、面接者及び試験監督者を公正に厳選しているところである。しかしながら、出題者は、本学の教育目的等を踏まえ、高等学校の学習指導要領に則った試験問題を作成しなければならないなど重責を担っている。出題者の選任にあたっては、大学運営組織全体の中で、個々の教員の負担均衡を十分に考慮する必要がある。

(2) 入学試験情報の周知及び公表

① ホームページ

本学の入学試験制度の概要や入学試験日程、出願状況などの入学試験情報については、平成12年度からホームページ上で公表している。また、平成16年度入試に際しては、入試項目に限らず、教育内容から学生生活にいたるまで、質問頻度の高い項目について、Q&A形式で掲載し志願者の便宜に供している。

しかしながら、平成16年度入学生に対するアンケート調査結果を見る限り、ホームページの情報が本学を志願するにあたってそれほど参考となっていない結果となっており、広報委員会と連携の上、改善を図る必要がある。

<本学のホームページを見たか(複数回答あり)>

回 答	人 数	割合(%)
見た	133	82.1
見ていない	27	16.7
無回答・その他	2	1.2
合 計	162	100.0

<本学のホームページを見た場合、志望校決定に役立ったか>

回 答	人 数	割合(%)
はい	74	47.7
どちらとも	41	26.5
いいえ	8	5.2
無回答	32	20.6
合 計	155	100.0

② 大学説明会

高等学校の1・2年生及びその父母等を対象に大学説明会を毎年7月末に開催し、本学の特色、入学試験概要等の説明を行っている。入学試験の説明においては、入試日程、試験科目や配点など単なる入学試験制度の説明にとどめず、試験問題の傾向と対策にまで踏み込んだ説明を行っている。また、高校生に本学の教育内容を少しでも理解していただくことを目的に、平成16年度からは、従来からの体験セミナーに加えて模擬授業を企画している。

平成16年度入学生に対するアンケート調査結果をみると、大学説明会に出席した者のほとんどから志望校決定に役立ったという回答を得ているが、大学説明会の開催すら知らなかったという者が半数以上を占めており、広報の仕方に課題を残している。

<本学説明会の開催を知っていたか>

回 答	人 数	割合(%)
はい	74	47.7
いいえ	77	49.7

無回答	4	2.6
合 計	155	100.0

<本学説明会に出席したか>

回 答	人 数	割合(%)
はい	61	39.4
いいえ	83	53.5
無回答	11	7.1
合 計	155	100.0

<本学説明会は志望校決定に役立ったか>

回 答	人 数	割合(%)
はい	51	83.6
どちらとも	7	11.5
いいえ	0	0.0
無回答	3	4.9
合 計	61	100.0

③ 高校訪問・進学説明会・キャンパス見学

本学教員による県内の高等学校を対象とした高校訪問、受験企画会社が主催する進学説明会、高校生によるキャンパス見学など、種々の機会を通じて入学試験情報の提供に努めている。

(3) 入学試験制度の改善

① 推薦入学者選考

本学の教育を受けるにふさわしい能力・適性を多面的に評価・判定する視点から、推薦入学者選考試験を実施している。推薦入試では、基礎学力や能力のほか、学ぶ意欲や姿勢、思考力、判断力をみるために、小論文、面接及び調査書による総合的な評価・判定を行っている。(産業情報学科では、小論文又は実技(鉛筆デッサン)の選択としている。)

なお、産業情報学科では、平成13年度推薦入試から、門戸を開くことを目的に出身高等学校における学習成績の全体の平均評定に係る資格要件を廃止するとともに、推薦入学者数の実績等を勘案し県内の高等学校10校を特別推薦指定校に指定し、志願者の確保に努めている。(平成17年度入試からは、地元会津地区において男女共学化された高等学校を加え11校を特別推薦指定校とした。)

② 一般入学者選抜

一般入学者選抜では、基礎学力に重点をおいた選抜試験とし、英語と国語(産業情報学科では、英語と国語又は実技(鉛筆デッサン)の選択。)による試験を課している。平成10年度までは3月に実施していたが、受験生の多くは早期に出願先を決定するため、平成11年度から、2月(I期)と3月(II期)の二回に分けて実施した結

果、志願者数が増加した。

また、「平成16年度大学入学者選抜に係る大学入試センター試験実施大綱(平成14年5月、文部科学省高等教育局長通知)」により、平成16年度入試から短期大学においても大学入試センター試験を利用できるようになった。

本学においても、18歳人口が減少する中で大学の学力水準の維持に努めながら、受験生の要請に応じた入学試験制度とするため、次の視点からセンター試験を導入することとし、平成16年度一般入試Ⅰ期では、前年度比51名の志願者増となった。

- ・従来の短期大学専願型とは異なる入学生の確保が期待できる。
- ・志願者の受験機会や選択肢がひろがり、受験生の増加が期待できる。
- ・全国の公立短期大学にさきがけてセンター試験を導入することにより、各種受験雑誌等に掲載され、本学の宣伝効果が期待される。

③ 社会人入学生特別選考及び外国人留学生選考

リカレント教育の普及や教育の国際化に対応するため、従来から社会人入学生特別選考及び外国人留学生選考試験を実施しているが、例年数名程度の志願者数にとどまっている。

④ 入学資格の個別資格審査制度

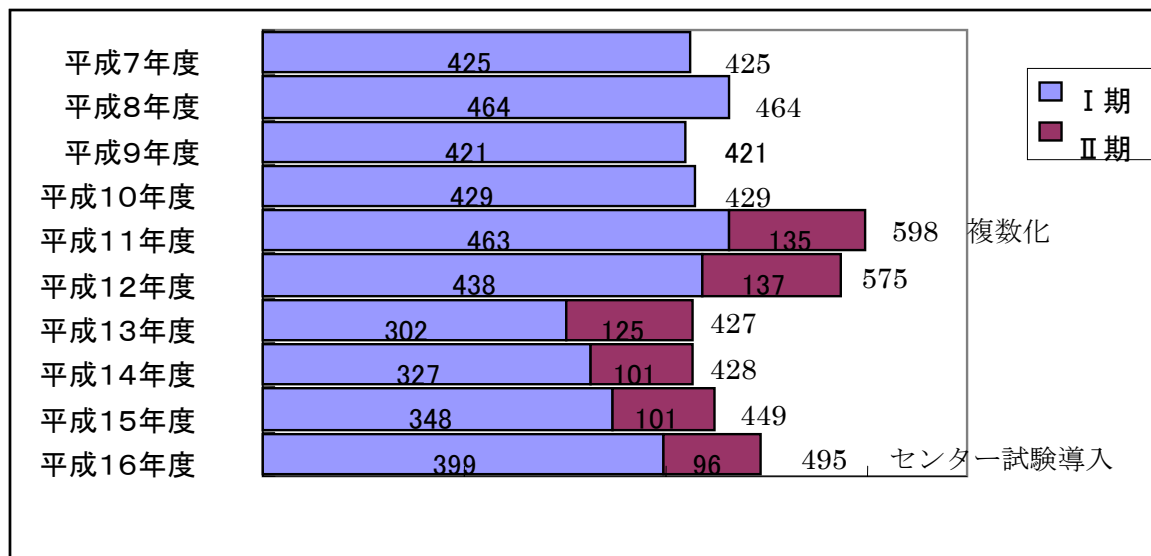
学校教育法施行規則の一部を改正する省令が平成15年9月に公布・施行された。これにより、社会の様々な学習歴を有する者に対し大学入学の門戸が開かれた。本学においても、平成16年度入試から、外国人学校や各種学校などでの学習歴を有する者を対象に入学資格個別審査制度を創設し出願資格の弾力化を図ったが、平成16年度入試においてはこの個別審査を利用して受験した者はなかった。

(4)特に優れた点及び改善点等

前述のように、入試情報の提供及び入学試験の実施にあたっては、受験生によるアンケート調査結果を踏まえ、短期大学をとりまく社会的情勢を勘案し、改善を行ってきた。

ここで、特筆すべきものとしては一般入学者選抜の見直しによる志願者数の増加があげられる。平成11年度からの複数化実施により、志願者数の増加がもたらされ、また、平成16年度からの大学入試センター試験の導入により、従来の短期大学専願型以外の受験者層からの志願増がみられた。

<一般入学者選抜の改善状況と志願者数>



2. 入学試験の志願者・受験者・合格者の状況

(1) 入学試験の実施状況

過去5年間の入学試験の実施状況については、次表のとおりである。

過去5年間の入学試験の実施状況

全体

年度	入試区分	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争倍率
平成12年度	推薦・特別推薦	52人	135人	135人	55人	55人	2.5倍
	一般I期	72	438	416	138	83	3.0
	一般II期	26	137	110	32	22	3.4
	社会人	若干名	7	5	3	3	1.7
	外国人留学生	若干名	1	1	1	1	1.0
	計	150	718	667	229	164	2.9
平成13年度	推薦・特別推薦	57	128	128	62	62	2.1
	一般I期	69	302	286	134	82	2.1
	一般II期	24	125	106	38	25	2.8
	社会人	若干名	7	7	1	1	7.0
	外国人留学生	若干名	0	0	0	0	-
	計	150	562	527	235	170	2.2
平成14年度	推薦・特別推薦	57	143	143	67	67	2.1
	一般I期	72	327	319	116	81	2.8
	一般II期	21	101	92	30	26	3.1

平成 14 年度	社会人	若干名	4	4	1	1	4.0
	外国人留学生	若干名	0	0	0	0	-
	計	150	575	558	214	175	2.6
平成 15 年度	推薦・特別推薦	57	144	144	62	62	2.3
	一般Ⅰ期	72	348	327	113	77	2.9
	一般Ⅱ期	21	101	89	29	24	3.1
	社会人	若干名	5	5	2	1	2.5
	外国人留学生	若干名	0	0	0	0	-
	計	150	598	565	206	164	2.7
平成 16 年度	推薦・特別推薦	57	136	135	58	58	2.3
	一般Ⅰ期	76	399	398	137	74	2.9
	学力	62	344	329	116	69	2.8
	センター	14	305	305	37	13	8.2
	一般Ⅱ期	17	96	84	26	22	3.2
	社会人	若干名	5	4	1	1	4.0
	外国人留学生	若干名	0	0	0	0	-
	計	150	636	621	222	155	2.8

産業情報学科

年度	入試区分	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争倍率
平成 12 年度	推薦・特別推薦	21 人	38 人	38 人	22 人	22 人	1.7 倍
	一般Ⅰ期	27	106	99	57	33	1.7
	一般Ⅱ期	12	26	22	14	8	1.6
	社会人	若干名	1	1	1	1	1.0
	外国人留学生	若干名	0	0	0	0	-
	計	60	171	160	94	64	1.7
平成 13 年度	推薦・特別推薦	26	59	59	28	28	2.1
	一般Ⅰ期	24	86	82	55	34	1.5
	一般Ⅱ期	10	45	36	13	7	2.8
	社会人	若干名	0	0	0	0	-
	外国人留学生	若干名	0	0	0	0	-
	計	60	190	177	96	69	1.8
平成 14 年度	推薦・特別推薦	26	64	64	30	30	2.1
	一般Ⅰ期	24	92	91	42	27	2.2
	一般Ⅱ期	10	35	33	19	18	1.7

平成 14 年度	社会人	若干名	1	1	0	0	-
	外国人留学生	若干名	0	0	0	0	-
	計	60	192	189	91	75	2.1
平成 15 年度	推薦・特別推薦	26	46	46	26	26	1.8
	一般Ⅰ期	24	94	89	43	33	2.1
	一般Ⅱ期	10	33	27	12	12	2.3
	社会人	若干名	1	1	1	0	1.0
	外国人留学生	若干名	0	0	0	0	-
	計	60	174	163	82	71	2.0
平成 16 年度	推薦・特別推薦	26	56	55	27	27	2.0
	一般Ⅰ期	26	114	114	51	21	2.2
	学力	21	93	88	39	20	2.3
	センター	5	82	82	20	4	4.1
	一般Ⅱ期	8	41	37	15	15	2.5
	社会人	若干名	0	0	0	0	-
	外国人留学生	若干名	0	0	0	0	-
	計	60	211	206	93	63	2.2

食物栄養学科

年度	入試区分	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争倍率
平成 12 年度	推薦・特別推薦	16 人	46 人	46 人	18 人	18 人	2.6 倍
	一般Ⅰ期	20	136	130	36	19	3.6
	一般Ⅱ期	4	32	28	6	5	4.7
	社会人	若干名	4	3	1	1	3.0
	外国人留学生	若干名	0	0	0	0	-
	計	40	218	207	61	43	3.4
平成 13 年度	推薦・特別推薦	16	32	32	18	18	1.8
	一般Ⅰ期	20	108	102	38	25	2.7
	一般Ⅱ期	4	39	35	5	4	7.0
	社会人	若干名	4	4	1	1	4.0
	外国人留学生	若干名	0	0	0	0	-
	計	40	183	173	62	48	2.8
平成 14 年度	推薦・特別推薦	16	41	41	21	21	2.0
	一般Ⅰ期	20	93	88	29	24	3.0
	一般Ⅱ期	4	23	23	4	3	5.8

平成 14 年度	社会人	若干名	1	1	0	0	-
	外国人留学生	若干名	0	0	0	0	-
	計	40	158	153	54	48	2.8
平成 15 年度	推薦・特別推薦	16	47	47	21	21	2.2
	一般Ⅰ期	20	97	92	25	16	3.7
	一般Ⅱ期	4	18	17	7	5	2.4
	社会人	若干名	1	1	0	0	-
	外国人留学生	若干名	0	0	0	0	-
	計	40	163	157	53	42	3.0
平成 16 年度	推薦・特別推薦	16	36	36	16	16	2.3
	一般Ⅰ期	20	119	119	33	22	3.6
	学力	16	105	103	29	20	3.6
	センター	4	91	91	7	3	13.0
	一般Ⅱ期	4	23	20	6	4	3.3
	社会人	若干名	2	2	0	0	-
	外国人留学生	若干名	0	0	0	0	-
	計	40	180	177	55	42	3.2

社会福祉学科

年度	入試区分	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争倍率
平成 12 年度	推薦・特別推薦	15 人	51 人	51 人	15 人	15 人	3.4 倍
	一般Ⅰ期	25	196	187	45	31	4.2
	一般Ⅱ期	10	79	60	12	9	5.0
	社会人	若干名	2	1	1	1	1.0
	外国人留学生	若干名	1	1	1	1	1.0
	計	50	329	300	74	57	4.1
平成 13 年度	推薦・特別推薦	15	37	37	16	16	2.3
	一般Ⅰ期	25	108	102	41	23	2.5
	一般Ⅱ期	10	41	35	20	14	1.8
	社会人	若干名	3	3	0	0	-
	外国人留学生	若干名	0	0	0	0	-
	計	50	189	177	77	53	2.3
平成 14 年度	推薦・特別推薦	15	38	38	16	16	2.4
	一般Ⅰ期	28	142	140	45	30	3.1
	一般Ⅱ期	7	43	36	7	5	5.1

平成 14 年度	社会人	若干名	2	2	1	1	2.0
	外国人留学生	若干名	0	0	0	0	-
	計	50	225	216	69	52	3.1
平成 15 年度	推薦・特別推薦	15	51	51	15	15	3.4
	一般Ⅰ期	28	157	146	45	28	3.2
	一般Ⅱ期	7	50	45	10	7	4.5
	社会人	若干名	3	3	1	1	3.0
	外国人留学生	若干名	0	0	0	0	-
	計	50	261	245	71	51	3.5
平成 16 年度	推薦・特別推薦	15	44	44	15	15	2.9
	一般Ⅰ期	30	166	165	53	31	3.1
	学力	25	146	138	48	29	2.9
	センター	5	132	132	10	6	13.2
	一般Ⅱ期	5	32	27	5	3	5.4
	社会人	若干名	3	2	1	1	2.0
	外国人留学生	若干名	0	0	0	0	-
	計	50	245	238	74	50	3.2

(2) 特に優れた点及び改善点等

全国的に受験生が減少するとともに、女子学生の四年制大学志向が高まっている今日であっても、常に4倍程度の志願倍率を維持してきたのは、一つは少人数教育によるきめ細かな指導と7千名を超える卒業生の社会での活躍のたまものである。また、入学試験制度においては、特別推薦指定校制度の創設、一般入学者選抜の複数化実施、大学入試センター試験の導入など、多様化する受験生の要請に応じ、入学試験改革を推し進めてきたためである。

特に平成16年度の入学試験から、全国の公立短期大学にさきがけて大学入試センター試験を導入したことにより、短期大学専願型とは異なる受験者層を確保することができ、18才人口が減少する中で、4年ぶりに600名を超える志願者数を確保できたことは評価すべき点である。

進路指導委員会

I 教育目的及び目標

－自己実現を可能とする進路指導を目指して－

1. 目的

学生が卒業後に選択する進路は、学生自身の自己実現の達成と深く関わるとともに、本学を目指す高校生や社会からの評価に直結する重要性を持っている。

本学の学生は経営、デザイン、食物栄養、社会福祉の専門分野の特性を活かした領域での進路選択を行っている点に特徴がある。しかし、長引く国内経済不振のなかで、全国的に若年層の就職活動を取り巻く状況は大変厳しいものがある。よって、学生に対する進路指導の重要性は一層高まりつつあるとともに、学生に対する進路指導の方法は絶えざる改善を図る必要がある。また、東北地域の公立短期大学の特長を踏まえた進路指導のあり方についても考慮しながら、学生の自己実現を可能とする進路指導を次のような視点から実施する必要がある。

- (1) 学生の特性に応じた進路の実現を図れるように援助すること。
- (2) 専門分野の特性を活かした進路の実現を図れるように援助すること。
- (3) 長期的視点に立脚した勤労観を体得させること。
- (4) 地域社会の視点から人材育成を行う使命を確実に果たすべく努力すること。

2. 目標

学生の卒業時の進路決定率を向上させることは、大学に課せられた使命であるとともに、大学の教育や指導の力量を問われる部分でもある。しかし、決定率をできるだけ高くするだけでなく、学生の希望や夢の実現に適う方向での決定を実現できるように指導することが進路指導の目標となる。

II 評価項目ごとの自己評価

1. 進路指導の実施体制

(1) 進路指導組織の整備に関する取組状況

各学科、コースごとに専任教員を1名ずつと、事務局1名の5人体制で進路指導組織を構成している。就職活動は卒業年度の前年後半から始まるという早期化と卒業時まで続くという長期化が同時並行的に進行している。したがって、就職内定に至るまでの期間が長期化し、受験回数も増加している。したがって、現状の教員のみによる指導体制の限界を乗り越え、さらに徹底した指導ができるように、指導組織に専門指導員の配置を加える必要がある。

(2) ハード・ソフト面を含めた進路指導方法の改善に関する取組状況

学生の夏期休業中を利用してのインターンシップ事業について平成13年度から本学でも学生の参加を開始した。参加学生数は平成13年度10名、14年度12名、15年度22名と次第に増加している。勤労体験を通じて進路決定についての主体的な決定ができるように

なるなどの効果が得られている。しかし、この事業については一定の課題がある。まず、学生の希望する産業と職種が必ずしも十分満たされていないという不一致が存在している。次は、実施時期の不一致である。特に会津地域では、この事業の取組み規模が小さいためにこのような不一致が大きい。したがって、特定事業所のみで学生の希望が集中する一方、学生の参加希望のない事業所も少なくない。さらに、福島県以外の出身学生に対して、インターンシップについての情報が不足していることである。インターネット上で情報を収集し、参加を申し込むなどの取組みが行えるように仕組みを整備する必要がある。

インターンシップに続いてコンピューター・センターのパソコンから常時就職活動のための情報収集やエントリー、さらに欠席届や活動結果報告まで処理できるように設備とソフトの両面から整備をはかった。

次に、進路ガイドの編集と発行を初めて行った結果、1年生後期の段階で、進路選択の考え方やその対策、さらに先輩のアドバイス等について情報提供できた。このことによって主体的に進路決定に向けて行動できる素地作りができた。

しかしながら、引き続いての懸案事項は、実務経験のある進路カウンセラーによる専門的指導体制の整備に努めることである。現状では予算確保が困難な状況下であり、よって会津大学と連携しながら共同の指導体制の構築をはかることも考えられる。

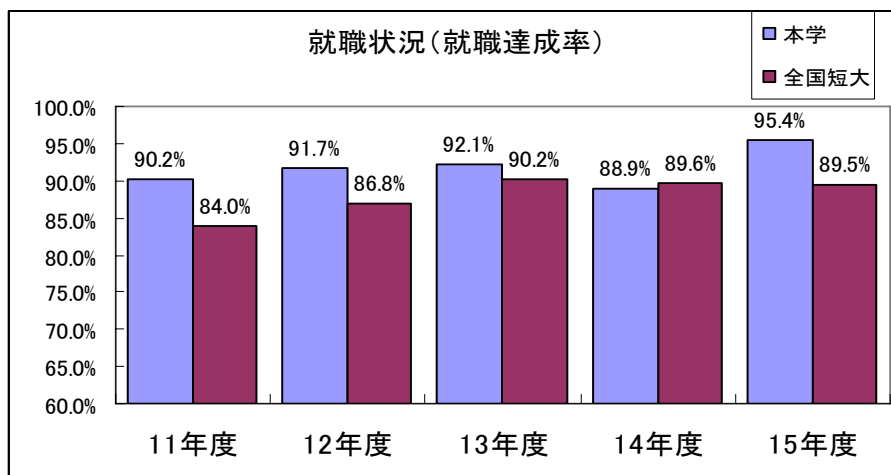
(3) 特に優れた点及び改善点等

活動結果報告を欠席届と連動させたことによって、個々の学生レベルで就職活動の状況把握が可能となったことと、学生が利用できる受験情報の蓄積が確実に進行している。さらに学生入力の確実性を高めるための改善指導を継続している。コンピューター・システムおよび進路ガイドの発行によって、進路情報の利用が進むとともに、進路決定の手順と対策が明確化された。そのことによって学生は主体的に意志決定を行い、就職活動を自主的に展開できるようになった。

2. 進路指導の達成状況

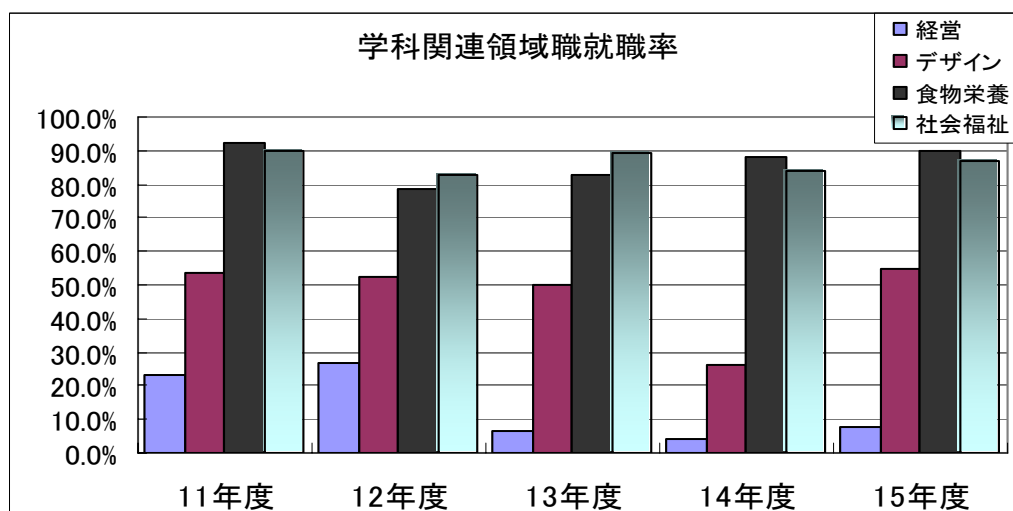
(1) 就職指導の達成状況

民間企業への就職指導については、バブル経済破綻後から続く長期経済不振からの求人減少と、雇用構造が学卒正社員採用から中途採用やパート及び臨時的人员雇用にシフトしている影響を強く大変厳しい状況にある。そのなかで就職指導においては、学生自身がまず自己分析を確実にを行い、早期の就職活動展開が可能となるような動機付けを与える指導を行うことが求められる。そして、最終合格に至るまで、粘り強い取組みを継続できるように支援することが必要である。現在までのところ、短期大学の全国平均値を上回る就職達成率を実現している年度が大半であるが、特に平成15年度は大幅な上昇を示した。



* 就職達成率 = 就職者数 / 就職希望者数

次に、学科関連領域への就職状況では、資格取得に重点を置いている食物栄養学科と社会福祉学科の就職率が格段に高い実績をあげている。他方、産業情報学科の経営情報コースの関連領域での就職実績が低水準なのは、情報処理と会計事務職分野のみを専門領域とする分類方法を採用しているために、最も就職実績が多い一般事務職や販売営業職が含まれないためである。



* 学科関連領域職

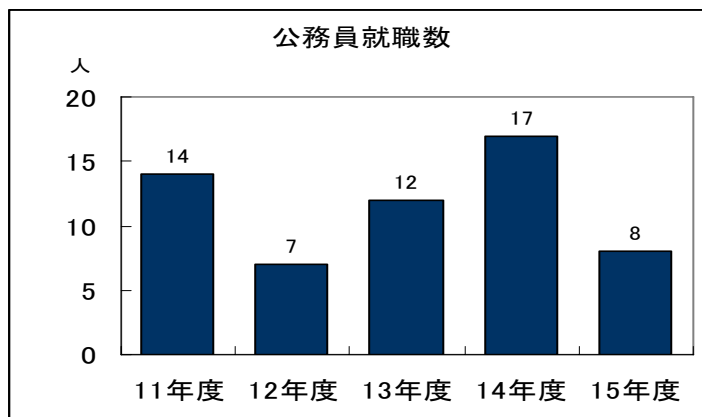
経営情報コース: プログラマー、S・E、経理関連職

デザイン情報コース: デザイン関連職

食物栄養学科: 栄養士、調理員職

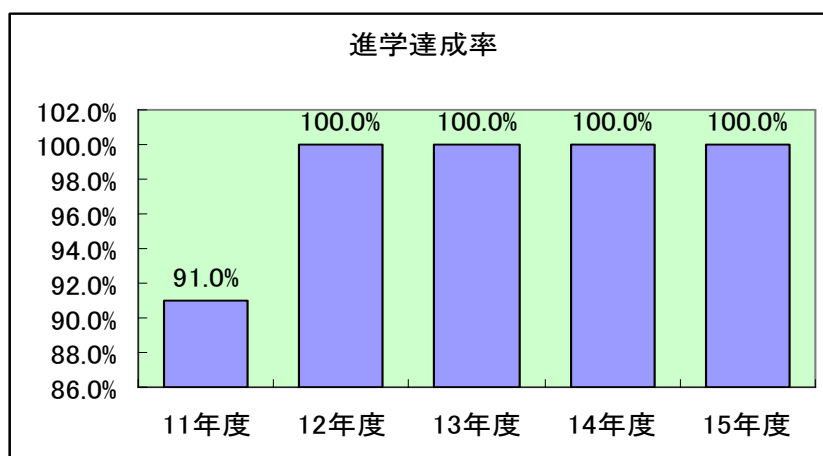
社会福祉学科: 保育士、指導員、寮母(父)、介護職

公務員就職に対する指導については、全国的に採用数が大幅に減少していることと、合格可能性が低下している現状を踏まえて、学生の目的意識を明確化させるとともに、継続的な受験準備に取り組めるように指導する必要がある。

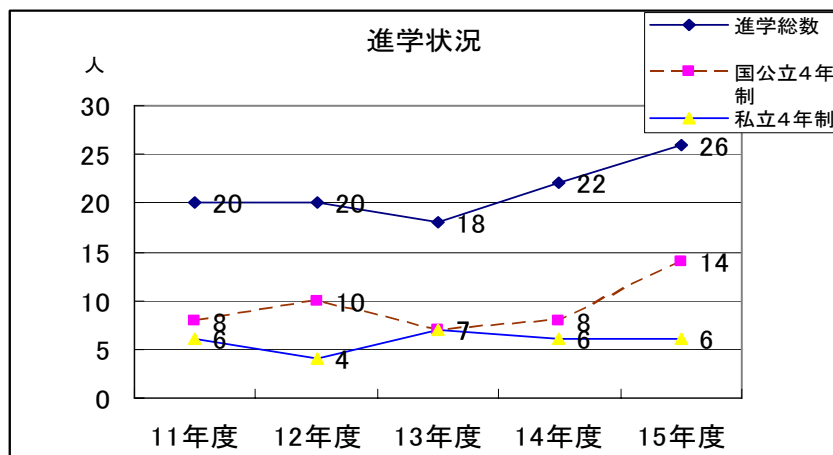


(2)進学(編入学等)の達成状況

進学状況については大半が4年生大学への編入学と少数の専門学校進学に分けられる。国立大学への編入希望が多くなる傾向があるが、一定の学力を修得させるだけでなく、進学後の勉学・研究目的を学生自ら決定できるような指導も求められる。専門学校進学は専門分野のスキルアップ、資格取得さらに公務員試験対策などの進学目的に分けられる。



* 進学達成率 = 進学者数 / 進学希望者数



(3) 特に優れた点及び改善点等

就職指導においては、就職率が向上し、特に平成15年度は最近5年以内で初めて、全体で95%を超えたことは、指導の成果であると評価できる。また、進学指導では第一志望の大学への編入学合格数が着実に上昇しているといえる。それは国公立四年生大学編入学合格数の増加として現れている。また、平成11年度から会津大学コンピューター理工学部へ若干名の指定校推薦が可能となったことは、本学の進学希望学生にとってばかりでなく、本学入学志願者にとっても大きな効果をもたらした。

就職と進学を問わず、一定の成果が挙げられているのは、進路指導委員の指導だけではなく、少人数教育の特性を活かしたゼミ指導を通じて担われているということも大いに貢献している。

Ⅲ 特記事項

なし

附属図書館並びに附属図書館委員会

I 目的及び目標

1. 目的

・附属図書館

附属図書館の設置目的は「会津大学短期大学部附属図書館規則」の第 1 条に記されているように「会津大学短期大学部学附属図書館(以下「図書館」という。)は、会津大学短期大学部(以下「本学」という。)の必要とする図書資料を、収集、整理、保管し、学内一般の利用に供し、もってその調査、研究及び教養に資すること」である。

・附属図書館委員会

附属図書館委員会の目的は「会津大学短期大学部学内運営組織等に関する規則」に「第 21 条 附属図書館及び本学の学術研究(研究年報、奨励研究)に関する事項を審議するため、附属図書館委員会を置く。」とある。さらにその審議事項は「会津大学短期大学部学附属図書館委員会規程」の「(審議事項)第 4 条」に以下の事項が挙げられている。

一 図書館規則及び図書館利用細則並びに研究年報の編集及び発行に関する細則の改廃に関すること。

二 図書及び研究年報の予算要求並びに同予算の配分に関すること。

三 図書及び資料の購入並びにその利用に関すること。

四 研究年報の論文募集、編集、発行及び配付、交換に関すること。

五 奨励研究に関すること。

六 図書施設の改廃に関すること。

七 図書館の企画並びに運営に関すること。

八 その他重要な図書館、研究年報に関すること。

2. 目標

・附属図書館

附属図書館の活動目標は学生や教職員の利用の利便性を向上させ、その設置目的を達成させることにある。ここにいう目標としては従来の施設サービスの維持に加え、未達成部分並びに社会状況の変化等に対応するために必要な改革改善事項をいう。具体的には前回の自己点検・評価報告書(平成 13 年 3 月)に施設および設備、時間外開館および週末開館、貸借手続き、図書館資料、図書館の電子化等の項目でまとめられており、今期の目標はそれらの諸事項の改革改善が主となる。

・附属図書館委員会

附属図書館委員会の活動目標は予算のマイナスシーリングが続く中で附属図書館並びに附属図書館委員会の各種業務の円滑な継続的履行が困難となっており、それらの維持、改変、縮小、廃止等をおこなって適切な附属図書館運営、並びに奨励研究、研究年報の発行が行えるようにすることにある。

II 評価項目ごとの自己評価

1-1. 附属図書館の活動体制

(1) 附属図書館の整備に関する取組状況

a. 施設

「附属図書館として十全に機能していないことの最大の理由は、附属図書館施設・設備備品の陳腐化・劣悪化のためであり、この課題の解決が望まれる。具体的には附属図書館は校舎の一部に取り込まれているために、避難通路によって施設が分断されているうえ、事務室が最奥部にあり、学生等の利用者に対して十分なフロントサービスを行うことができないことや、書庫は窓がなく密室に近い環境で、空気の流通が少なく、利用者が立ち入って図書や製本雑誌を探し求める環境としては最悪であること、さらに元々狭隘な所に随時書架を追加した事情から、書架列どうしの間隔が狭く、排架されている図書の書名や著者名などを確認しがたい状況にあること等がある。」(*1)と、「旧来の研究室を附属図書館資料室として利用しているが、既設書架や新設書架に対する床面の耐荷重性や利用可能空間などを考慮すると、便宜的にしか使うことができない」といった点が指摘されていたが、設計積載荷重等を検討した結果一般的な配架であれば問題ないと判明したため改善案を作成した。しかし、予算の関係から数年をかけて実施せざるを得ない状況にある。

*1:「自己点検・評価報告書」(平成13年3月)での指摘事項 以下同じ

b. 設備

「視聴覚資料を利用するための設備はVTR再生装置のみであり、多様な情報媒体を利用するためのマルチメディア対応の設備が配置されていない。」(*1)との指摘があったが、この事項の改善策としてCDやDVDも再生することのできるコンピュータを2台閲覧室内にコーナーを設けて設置した。

「学内ネットワークを利用できないために、学内外の情報ネットワークから隔離されている現状にある。最小単位で利用できる商用データベースに加入しているものの、利用頻度は低い現状にある。」(*1)や「書籍中心の図書館の特性を活かしながら、図書館の電子化を目指して、附属図書館を学内ネットワークへ組み込み、学外ネットワークへのアクセスを可能にし、図書館情報データベースの公開を図るべきである。これには学内組織の見直しも必要であろう。」(*1)との指摘に対しても上記のコンピュータを学内ネットワークに接続することで解決を図っている。

その他の設備の改善点は以下の通りである。

- ・館内に書架(2 棚)を増設(平成 14 年度)。
- ・館内及び資料室に書架を増設(平成 15 年度)。
- ・従来の図書館利用者用のコンピュータ端末機(スタンドアロン型)1 台に換え、ネットワーク型を 2 台設置(平成 15 年度)。

c. 学習・研究支援

本項に関しては「3. 学習に対する支援」に記す。

d. 業務

- ・「図書館の利用性を高めるには、図書館資料の充実と図書館資料の貸借手続きの簡素化とが重要である。平成 11 年度には図書返却箱を導入して、返却の時間的制約を排除することができたが、貸出手続きには、関連規程に従うことによる煩雑さが解消しがたい状況にある。」(*1)という点については平成 12 年度から図書館関係規定の見直しを行い、規定の改定が行なわれ、手続きの簡素化を図り改善に努めている。また、平成 13 年 4 月 1 日施行の利用細則により、それ以前に義務付けられていた館内図書閲覧時の「館内図書閲覧票」、館外帯出時の「館外図書閲覧票」への記入を廃止し改善を計っている。
- ・「貸出手続きの簡素化については、関連規程の見直しを行うとともに、図書館資料にバーコードを付与して、蔵書管理や貸借管理等を一元的にできるような設備装置を導入することによって、利用者自身による貸出手続きができるようにする必要がある。それに伴い、図書館資料の不正持ち出しの解消防止策も検討する必要がある。」(*1)という課題については平成 14 年度から資料へのバーコード付与に着手している。しかし、蔵書管理や貸借管理等を一元化にできるような設備・装置(図書館システム)には、予算がつかず、未設置のままである。また、図書館資料の不正持ち出しの解消防止策としての盗難防止装置についても平成 12-13 年度に予算要求を行ったが、却下され、未整備のままである。
- ・附属図書館所蔵目録のデータベース化については平成 11 年度より準備作業に着手し、購入図書の書誌事項を電磁化して蓄積することにしデータの入力を行っているが、それ以前のものデジタルデータ化は困難を極めている。ちなみに手入力を試行して計ったところ現在の陣容では約 35 年かかるとの結果を得ており、国立情報学研究所目録所在情報サービスの利用を見込んだ図書館システム等の設備の導入が強く望まれるところである。
- ・休館日および時間外の図書返却のために図書返却箱を導入した(平成 11 年度)。
- ・岩波文庫(約 1,500 冊)の破損・劣化が激しいため、新規購入による代替えを計っている(平成 13 年度)。
- ・県の雇用創出事業として 1 名の非常勤嘱託員を 1 年間雇用し、図書館蔵書(約 7 万冊)の管理方式の変更に伴う排架蔵書の整備に着手した(平成 14 年度)。
- ・学術雑誌総合目録に参加し、所蔵雑誌 208 種のデータ登録を行なった(平成 14 年

度)。これにより、ある雑誌について、当館での所蔵の有無、所蔵巻号を学内外から把握できるようになった。翌平成 15 年度には、和雑誌データの更新作業を行なった。

- ・読書は個人的なものであり、学科での取りまとめは必要ないこと、図書の購入希望はホームページ上やリクエストカードで可能であること、小中高校までは委員として働くことで教育的な効果が期待されるが、自主性を問われる大学で委員を継続することは疑問視する向きもあることその他、学生が図書館の仕事に接する機会は夜間アルバイトや蔵書点検があることなどから、各学科の希望図書の取りまとめを依頼していた学生図書委員制を中止した。(平成 15 年度)。

- ・館内図書の除籍について、亡失や破損・劣化などの実情に併せ、作業・手続きを行なった(平成 15 年度)。

- ・平成 11 年度に当面の図書館利用環境を改善するために、閲覧室および書庫における蔵書の排架を見直して、利用者の利便性を一義とし、受入図書の排架も考慮して、閲覧室および書庫の蔵書配架の全面的変更を実施していたが、平成 15 年度にあらたに閲覧室の様様替えを行い、閲覧室内図書すべての配置を変更した。(注)排架:書籍資料を書棚等に配置すること。

e. 資料

- ・「各学科の専門分野を中心とした図書館資料を包括的に受け入れて、所蔵図書館資料数は一応の増加をみているが、網羅的な図書館資料の受入だけでは、附属図書館としての存在意義が問われかねないことから、附属図書館として所蔵すべき図書館資料に専門性を持たせることが望まれる。」という点については予算上の問題があり附属図書館を明確に特徴づける図書館資料の蒐集は困難な状況にある。そこで本館が受け入れてきた他大学の研究年報(約 600 種)を地域的に見れば他の図書館と差別化を図る素材として位置づけ、その充実と活用が望まれる。

f. その他

- ・平成 12 年度公立短期大学図書館協議会図書館職員研修会の当番校として、平成 10 年度から開催に向けての準備作業を行い、平成 12 年 8 月 17 日から 18 日に本会を開催した。テーマは「多種多様な情報の氾濫の中で」であった。

- ・予算削減による経費不足のため、日本図書館協会を退会した(平成 14 年度)。

g. 附属図書館委員会

附属図書館委員会の諮問事項の審議がその主たる業務であるが、図書館の各学科間の調整という仕事もある。予算削減のあおりを受けての継続図書や雑誌の購入中止候補の選定は大変難しい問題であるが、委員が学科との間に立って作業をすすめてきている。また 61 号を数えた研究年報の募集並びに編集も大切な業務である。平成 11 年度は応募論文数が 4 と大変落ち込んだが翌年度よりは持ち直してきている。これに関してはよりスムーズな出版を目指して以下のような改革を続けてきている。

- ・図書館予算配分の見直しを行い、教員図書費はその一部を教育後援会補助金でも

って充当することを廃止し、全額県費とした(平成 11 年度)。

・研究年報投稿要項を改正した(原稿の頭初に、表題、著者名、身分及び専門分野を記し、1,000 字以内の論文要旨を付けることとした。)(平成 13 年度)。

・研究年報を開校 50 周年記念号として発行し、特別寄稿として名誉教授、学長経験者などの論文も掲載した(平成 13 年度)。

・文字数の他各部の文字の大きさ、上下左右のマージン等を決め、現行段階と発行段階での紙面の食い違いの防止を図った(平成 15 年度)。

表 1: 過去 5 年間の研究年報掲載論文数等

年度(号数)	論文	報告	資料	学会 発表	論文 抄録	著書	報告	解説	講演
H11(第 57 号)	4	0	0	10	1	1	0	1	0
H12(第 58 号)	7	0	1	3	5	4	0	0	0
H13(第 59 号)	7	0	1	5	5	1	0	0	0
H14(第 60 号)	8	1	0	7	2	3	1	0	2
H15(第 61 号)	7	0	0	11	6	4	0	0	2

附属図書館員会には奨励研究の研究課題の採用という仕事もある。通常の研究費ではできないようなテーマに対して研究費を支給し行ってもらおうというのが本来の狙いである。過去 5 年間には以下のような研究テーマが採用され、その成果を本学の研究年報をはじめ学会等に発表している。各年度の研究テーマ、研究者並びに成果の発表先は以下の通りである。

平成 11 年度

・研究課題: 社会保障における裁判研究

— 社会保障裁判分析を通しての社会保障制度の問題点と課題の提示

研究者職・氏名: 助教授 安岡英美子 講師 田中 明彦

研究形態: 共同

発表先等: 研究年報第 59 号

・研究課題: 日本生産性本部の付加価値分析に関する一考察

研究者職・氏名: 助教授 武田 義一 個人

研究形態: 個人

発表先等: 研究継続中

平成 12 年度

・研究課題: グローバル企業の人材育成と組織管理

研究者職・氏名: 平澤 賢一

研究形態: 個人

発表先等: The 3rd Asia Pacific International Conference of Association for Business
Communication, Kyoto, August 2000 (単)

- 研究課題: 郷土料理と神饌の関連性について

－南会津地方の郷土料理について－

研究者職・氏名: 助教授 宮下 朋子

研究形態: 個人

発表先等: 研究継続中

- 研究課題: 生活習慣病の一次予防における食生活改善について

研究者職・氏名: 講師 西村 政子

研究形態: 個人

発表先等: 研究年報第 58 号 第 59 号 第 60 号

平成 13 年度

- 研究課題: 児童自立支援施設入所児童の教育保障

研究者職・氏名: 助教授 小林 英義

研究形態: 個人

発表先等: 研究年報第 59 号、60 号、61 号

- 研究課題: 生活習慣病の一次予防における食生活改善について

研究者職・氏名: 講師 西村 政子

研究形態: 個人

発表先等: 研究年報第 59 号、第 60 号

- 研究課題: グローバル企業の人材育成と組織管理

研究者職・氏名: 平澤 賢一

研究形態: 個人

発表先等: 日本経営学会全国大会(2001・単)、経営学論集 72 集・日本経営学会編
(2002・共)、日本労務学会全国大会報告論集(2004・共)

- 研究課題: 料理の調理形態に及ぼす社会的要因についての検討

－南会津地方の葬式で用いられる「モチ」と「オコワ」について

研究者職・氏名: 助教授 宮下 朋子

研究形態: 個人

発表先等: 日本家政学会北海道東北支部第 48 回総会・研究発表会 2004

平成 14 年度

- 研究課題: 会計情報と株価の反応及び経営者の会計行動

研究者職・氏名: 講師 及川 拓也

研究形態: 個人

発表先等: 博士論文「年金負債の償却に係る経営者の会計行動」(東北大学)

- 研究課題: リース取引のフレームワーク

研究者職・氏名:講師 山田 恵一

研究形態:個人

発表先等:著書「現代初等会計学」 研究年報第 60 号

平成 15 年度

・研究課題:画像情報教育の今後のあり方について(考察)

研究者職・氏名:講師 高橋 延昌

研究形態:個人

発表先等:研究年報第 61 号

(2) 目的及び目標の趣旨の周知及び公表に関する取組状況

学生への周知方法としては入学時のガイダンスを続けているが、その他以下の様な取り組みを実施してきた。

・利用案内を改訂(平成 15 年度)。

・附属図書館業務を広報(開館カレンダー、時間外開館日の年間スケジュール、新着図書を紹介、利用サービスの紹介、延滞者リストの掲示等)するための案内板等を設置した(平成 11 年度)。

・本学ホームページの改訂に伴い、本学ホームページのトップに「附属図書館」を設け、内容の整理および充実を図った。(平成 15 年度)

(3) 特に優れた点及び改善点等

a.特に優れた点

学内向け図書館ホームページ上に、学生希望図書の依頼画面や読後感想を投稿する画面を用意している。学生が主体的かつ気軽に資料に接近できる一手段となっている。

b.改善点

改善を計った事柄については前項に記したのでここでは今後改善を要する点について記す。

・予算の確保

当館の利用促進を阻む最大の問題点は、財政難にある。特に資料費不足かつ削減は、資料の収集・提供という図書館の本質に関わる打撃である。常に最新情報を必要とする研究者に対し、新刊の専門書が揃えられず、また、内容の速報性に優れ継続的に刊行される雑誌においても、価格高騰等の理由により受入中止を余儀無くされる状態が続いている。予算不足は全学的な問題であり、他部署との調整が必要かと思われるが、大学図書館として、最低限の予算の確保が望まれる。

・収納スペースの確保

当館は他館と比較して建物の面積が小さく、長年、慢性的な収納スペース不足に苦慮してきた。少しでも利用しやすくなるよう、限られた人員・予算の中で、既存資料の整理や配置場所の変更、書架の増設など、最大限の努力をしている。しかし、特に館外

にある 2 つの附属図書館資料室は物置化が激しいため、今後も引き続き、改善を図る必要がある。

・図書館サービスの電算化

前項の「d.業務」で指摘したとおり、図書館サービスに必要な設備装置が導入されていないため、利用者への迅速な情報提供やサービスの拡充が困難な状態である。当館は電算化の面では発展途上であり、今後の改善が急がれる。

・研究年報

これは附属図書館員会の業務であるがマイナスシーリングが続く中窮屈な予算で執筆ページ数を制限しなければならない状態が続いている。また、図書館のスペースの問題から他大学等からの研究年報等の受け入れを制限してはとの声も聞こえる状況で、紙を媒体とした出版からCD等への切り替えを検討しなければならない状況にある。しかし、電子媒体としたときその保存性(CDでは余り問題ではないとされているが)や解読装置の存続性等まだまだ解決すべき問題は残っている。

・奨励研究

これも予算がらみの問題であるが、マイナスシーリング続きで当初の 6 割を切ってしまった状態ではその目的を十分に果たすことは困難な状態にある。学内の他の研究補助費等との連携を深めこれらの制度を再構築する必要がある。

2. 教育内容面での取組

(1) 授業(研究指導も含む)等の支援に関する取組状況

授業支援ということでは指定図書制度を導入してきたが、より効果的にするために教員への貸出制限や教授要綱に示された参考図書の学生指定図書への自動参入(平成 11 年度)等の見直しをおこなった。また平成 15 年度には指定図書登録期間を原則 5 年とし、教員への指定図書募集方法を決めた。また、改訂版が出たときの取り扱いについて、改訂版を指定図書とし、旧版は指定解除することとした。

(2) 特に優れた点及び改善点等

a.特に優れた点

当館には開学から 50 年余に収集された資料が保管されている。館内の書庫にある資料も貴重書以外は、閲覧室同様開架式である。所蔵資料が古いという指摘もあるが、反面、新設大学にはない資料も揃っているため、学内外の教育者や研究者にとって、貴重な情報資源を所有していると言える。

b.改善点

当館では図書館間相互貸借によって、教育・研究に必要な資料を他館に依頼し、利用者に提供している。また当館でも他館から依頼された資料を提供している。迅速な提供に努めているが、図書館事務室には FAX やコピー機が設置されていないため、別室にあるそれらの機器を使用せざるを得ず、時間を空費している。FAX からオンラインによる依頼方法に切り替えるなど、より迅速に資料提供ができるよう改善が必要である。

3. 学習に対する支援

(1) 学習に対する支援体制の整備・活用に関する取組状況

・平成8年より、冷房設備が完備し、時間外開館の要望があることから、土曜日開館に代えて時間外開館を実施している。しかし、時間外の利用は試験期間と卒業研究の取りまとめ時期により多くなるので、授業のある日のすべてに渡って時間外開館できる体制にはなっていない。また、週末の開館は行っていない。学生による附属図書館の利用が伸び悩む中で、短期大学の教育形態から、学生の利用は授業時間外が主とならざるを得ず、現状の時間外開館の拡充と週末の開館を行うことが必要であろう。この問題は予算のマイナスシーリングが続く中、現状維持が精一杯でありその後の改革改善は行われていない。

・情報検索サービス(NACSIS-IR)の機関別定額制登録をし、利用の拡大を図った(平成15年度)。

・利用促進のためのパンフレットの設置(平成11年度)。

・学生指定図書および学生参考図書の充実を図るために、教員の推薦による当該図書を積極的に導入した。これらの図書の購入はすべて教育後援会補助金によるものであり、学生の利用を最優先とし、教職員に対する貸出は認めないものとした(平成11年度)。

・現有設備を活用して、学生に対するリファレンスサービスや情報検索サービスの提供を行うことにした。情報検索サービスの費用は教育後援会補助金を充当するために、教員に対するサービスは当面行わないこととした(平成11年度)。

・学内ホームページ内での蔵書検索開始(平成12年)。

・本学学生及び教職員の会津大学情報センター(附属図書館)での館外貸出が可能になった(平成14年度)

・附属図書館規則、利用細則を改正し、利用者範囲の拡大(本学の名誉教授および会津大学の学生、教職員、名誉教授を追加)、貸出期間の延長、貸出冊数の増加、館外帯出手続きの簡素化などを図り利用し易くした(平成15年度)

・従来の図書館利用者用のコンピュータ端末機(スタンドアロン型)1台に変え、ネットワーク型を2台設置した(平成15年度)。

(2) 自主的学習環境(施設・設備)の整備・活用に関する取組状況

閲覧室には、狭い場所を工夫して必要最小限ではあるが、キャレット(自習のできる一人用机)を配置し、休息用椅子も備えているものの、利用者にとって、閲覧室は読書を楽しむ安楽室、授業の合間に休息をとる知的空間、排架図書を参考にして勉学する居室を包含する環境のほずであるが、あまりにも貧弱極まりない現状であるとの指摘に対し閲覧スペースとブラウジングスペース(リラックスした雰囲気自由に雑誌や新聞、軽い読み物などを読むことができる空間)を分離しこの問題の緩和に努めた(平成15年度)。

(3) 特に優れた点及び改善点等

a.特に優れた点

・平成 14 年度に会津大学情報センター(附属図書館)との連携を強め、相互の図書館が館外貸出サービスの改善に努めた。会津大学開学以来 10 年余、本学学生・教職員は会津大学情報センター(附属図書館)において、学外者という位置付けであり、資料の館外貸出は認められていなかった。一方、当館においても会津大学の学生・教職員は学外者としての位置付けであったため、貸出手続きの煩雑さが解消できなかった。現在は、所属者と同様の条件で各々の図書館から資料の館外貸出ができ、また、来館しなくても図書の返却ができるなど、利便性が向上している。図書館同士が対等な立場で協力し合うことが、相互の利用促進につながると考える。

b.改善点

・蔵書情報のデジタルデータ化

インターネットが発達普及している状況において、他館では、蔵書データベースの構築、蔵書情報のインターネット上への公開、さらには図書館間相互蔵書検索システムの導入が実現しようとしている。当館は未だに旧来のカード目録による蔵書検索であり、電算化が大幅に遅れている。なおかつ、既存のカード目録にも不備があり、蔵書の一部は書名からの検索ができない状態である。

十分な人員・予算が確保できない状態でのデータ入力作業は至難の極みであるが、学生をはじめ、学内外の利用者の利便性を考慮すると、蔵書情報データベースの構築および公開は不可欠であろう。

・時間外開館の拡充

利用促進のため、時間外開館日の増設、開館時間の延長、週末開館の検討が必要である。

・地域貢献に向けてのサービスの拡充

他館では、地域貢献として、学外者への図書館利用を積極的に推進する傾向がある。当館では、「図書館長が許可した者」という枠の中で、学外者の図書館利用を認めているものの、建物の構造上の問題等から全面的な一般公開には至っていないため、今後の検討課題となろう。

なお、前述の蔵書情報の公開や時間外開館の拡充は、地域貢献の上でも重要な課題である。

Ⅲ 特記事項

(施設の利用状況)

(1)図書館資料の受け入れ状況

図書資料の受け入れ状況は表 1 に示す通りである。図書受入冊数は平成 14 年までは順調に伸びてきたが平成 15 年は 40%以上の落ち込みとなった。平成 12 年に 10%の伸びを見せた雑誌受入数も図書館総予算の削減に伴い受け入れ雑誌の見直しを行った結果年に 4 から

5 タイトル少なくなっている。

表 2: 図書館資料の受け入れ状況

年度	図書受入冊数(冊)	雑誌受入冊数(種)	内洋雑誌(種)	受入新聞種数(種)
H11	1,049	129	37	8
H12	1,580	142	36	8
H13	1,645	142	38	8
H14	1,739	138	39	11
H15	1,022	133	36	11

(2) 図書館利用状況

表 3-1: 図書館利用状況(開館日・貸出冊数等)

年度	開館日数	貸出冊数	貸出人数	1日平均 貸出冊数	1人当たりの 貸出冊数
	(日)	(冊)	(人)	(冊)	
平成 11 年度	233	3,923	2,088	16.8	1.9
平成 12 年度	236	3,545	1,869	15.0	1.9
平成 13 年度	236	4,420	2,325	18.7	1.9
平成 14 年度	232	4,312	2,394	18.6	1.8
平成 15 年度	232	5,248	2,384	22.6	2.2

図書館の利用状況は表 2-1 及び表 2-2 に示す通りである。貸出冊数は総数(34%)並びに 1 日平均(34%)共に伸びている。1 人当たりの貸出数は横這いできたが平成 15 年度は 16%の伸びをみせている。

複写や相互貸借ということでは本館への依頼というケースは少なく、本館から他館へ依頼するケースが圧倒的に多い。その一因としては蔵書データベースの構築、蔵書情報のインターネット上への公開、さらには図書館間相互蔵書検索システムの導入などの外部からの利用にも十分に対応できるシステム構築の遅れがある。

表 3-2: 図書館利用状況(複写依頼等)

年度	複写依頼		相互貸借	
	本館へ	他館へ	本館へ	他館へ
	(件)	(件)	(冊)	(冊)
平成 11 年度	6	50	1	16
平成 12 年度	5	42	1	27

平成 13 年度	1	17	0	68
平成 14 年度	0	47	0	36
平成 15 年度	6	81	2	22

(3)館内 PC の利用状況

平成 15 年度より図書館内に学生が自由に利用できる PC が 2 台設置された。表 3-1、表 3-2 並びに表 3-3 はその利用状況を示したものである。月平均の利用のべ人日数は全体で 232.8 人日。月の開館日 21 日前後のうち平均 16 日、76%前後使用されていることになる。学科別では社会福祉学科が 95.7 で断然多く、次いで経営情報コースの 70.8、食物栄養学科の 61.3 となっている。デザイン情報コースは 6.0 と桁違いに少ないが、これはデザイン情報コースがほぼ独占的に使用できる CG 室の存在が大きく関わっていると思われる。

表 4-1:図書館内PCの利用状況(月当のべ使用人日数)単位:人日

年月	1, 2 年生合計				
	全体	経営情報	デザイン情報	食物栄養	社会福祉
2003 年 10 月	279	92	12	60	115
2003 年 11 月	284	85	5	84	110
2003 年 12 月	293	78	6	80	129
2004 年 1 月	291	74	2	77	138
2004 年 2 月	150	48	5	42	55
2004 年 3 月	100	48	0	25	27
平均	232.8	70.8	6.0	61.3	95.7

1 回当たりの使用時間は平均で 48 分、最も多い経営情報が 53 分、食物栄養学科と社会福祉学科は同じ 45 分、デザイン情報コースは 35 分となっている。これはセンター演習室 A の 1 時間 31 分やセンター演習室 B の 1 時間 20 分と比較すると少ないようにも思えるが、センター演習室 A や B の使用時間には授業での使用も含まれることを考慮するとこの数字は決して少ないとはいえない。ちなみに各設置場所毎の使用人日数を設置台数で除した値では 5.54 と断然大きな値を示しており、図書館に設置された PC の利用率の高さはこのような点からも見て取れる。

表 4-2:図書館内PCの利用状況(月毎使用日数)単位:日

年月	1, 2 年生合計				
	全体	経営情報	デザイン情報	食物栄養	社会福祉
2003 年 10 月	22	22	9	19	22
2003 年 11 月	17	16	5	17	17

2003年12月	19	18	4	19	19
2004年1月	19	17	2	19	17
2004年2月	15	13	5	13	15
2004年3月	19	17	0	16	13
平均	16.0	17.2	5.0	17.2	17.2

表 4-3:図書館内PCの利用状況(のべ使用時間)

年月	1, 2年生合計				
	全体	経営情報	デザイン情報	食物栄養	社会福祉
2003年10月	194時間20分	81時間02分	8時間05分	35時間53分	69時間18分
2003年11月	213時間38分	67時間22分	0時間49分	65時間10分	80時間15分
2003年12月	244時間49分	64時間14分	1時間26分	70時間04分	109時間04分
2004年1月	209時間36分	56時間40分	2時間22分	53時間48分	96時間46分
2004年2月	113時間17分	42時間47分	3時間39分	29時間21分	37時間29分
2004年3月	106時間50分	56時間45分	0時間00分	22時間57分	27時間07分
平均	180時間25分	61時間28分	3時間16分	46時間12分	70時間00分

表 4-4:図書館内PCの利用状況(平均使用時間)

年月	1, 2年生合計				
	全体	経営情報	デザイン情報	食物栄養	社会福祉
2003年10月	0時間41分	0時間52分	0時間40分	0時間35分	0時間36分
2003年11月	0時間45分	0時間47分	0時間09分	0時間46分	0時間43分
2003年12月	0時間50分	0時間49分	0時間14分	0時間52分	0時間50分
2004年1月	0時間43分	0時間45分	1時間11分	0時間41分	0時間42分
2004年2月	0時間45分	0時間53分	0時間43分	0時間41分	0時間40分
2004年3月	1時間04分	1時間10分	0時間00分	0時間55分	1時間00分
平均	0時間48分	0時間53分	0時間35分	0時間45分	0時間45分

公開講座運営委員会

I 目的及び目標 (市民との連携を目指して)

1. 目的

本学の公開講座は、昭和47年から30有余年の長きにわたり、本学の教員が中心となって運営してきた。これにより、本学における教育・研究の成果を講義や実習を通して一般市民に分かりやすく提供し、地域の生涯学習の要請に答えてきた。

- (1) 地域における生涯学習への積極的な支援
- (2) 地域に開かれた大学の一環としての公開講座の推進
- (3) 地方自治体、企業及び市民等との連携を目指した公開講座の推進

2. 目標

近年、大学と地域との有機的な交流により、高度な学習機会を発展的に進化させることが求められている。会津地域が現在又は将来にわたって必要とする、一般的教養、学術的知識、科学的技術等を取り入れた内容の公開講座を積極的に実践していくことが重要であると考えている。

公開講座のテーマは、自然科学、人文科学、社会科学、環境問題、インターネットによるトラブル防止、趣味、トピックスなど幅広い分野を対象としているが、講座の企画にあたっては、参加者に楽しく学んでいただくとともに、実生活に役立てていただけるような講座開設に努めている。このため、アンケート調査等により受講者のニーズを把握し、受講者の興味関心に応じた講座内容とするため創意工夫している。

- (1) 地域社会の一般的なニーズに即した講座の開設
- (2) 環境問題、インターネット活用・トラブル防止など実践的な講座の開設
- (3) 企業や社会人、地域等の学習ニーズにマッチした講座の開設
- (4) 地域産業の振興に寄与する講座の開設
- (5) 高校生以下を対象とした「もの作り」などの体験学習講座の開設

II 評価項目ごとの自己評価

1. 公開講座の実施体制

- (1) 実施組織の整備に関する取組状況

公開講座の円滑な実施を図るため、平成4年度から、学内に公開講座運営委員会を設置し運営してきた。公開講座運営委員会のメンバーは学生部長及び各学科から選出された教員各1名により構成されているが、実施組織としては、会津大学との連携はもたれていない。

(2) 公開講座の周知及び公表に関する取組状況

現在、地元誌や市町村広報誌への掲載、市町村、教育委員会、学校、公民館やマスコミ(テレビ局、ラジオ局、新聞社など)への案内やポスター掲示依頼などにより広報を行っている。

平成15年度からは、会津若松市内のスーパーマーケットにもポスターの掲示を依頼するとともに、新聞折り込みチラシによる広報を行っている。

さらに、平成16年度からは、一般市民の方々が受講しようとする動機付けを促すため、広報用リーフレットの裏面に各講座の概要を掲載し、周知方法の改善を図った。なお、大型ポスター、リーフレットのデザインについては、在学生から公募している。

(3) 特に優れた点及び改善点等

本学の実施体制として、公開講座の企画に関しては公開講座運営委員会が学内各教員の協力のもとにまとめている。公開講座の実施日においては、講座担当講師に関連がある教員及び関連学科が対応するように申し合わせている。

公開講座運営委員会の活動は事務局と協力・連携を取りながら行われているが、公開講座のほとんどは土曜日に実施されており、事務職員の週休などの関係から実施当日の事務職員の公的な担当は行われていない。事務職員の自発的な協力により、出校している現状にある。なお、公開講座当日の準備、受付などは学生アルバイトにより対応している。

会津大学コンピュータ理工学部では、公開講座の企画立案、運営など事務職員が担当しているが、今後の独立法人化への移行、大学評価などを視野に入れた地域貢献などを鑑みると、大学部と短期大学部の相互協力・連携が必要となり、両大学の施設を一般市民の生涯教育の場として活用し得る体制づくりが求められている。

2. 公開講座の実施状況

(1) 公開講座の実施状況

平成13年度から平成15年度までの公開講座開催一覧は資料で示す。

毎年のべ10回程度の公開講座を企画し実施している。本学教員総数が30名の人員であることを考えると、毎年10回程度の公開講座企画の実施が限界に近いものと思われる。

(2) 公開講座への市民などの参加状況

公開講座資料で示すように13年度からの受講者数は、平成13年度186名、平成14年度307名、平成15年度319名である。受講者数に関しては講座の担当講師が著名人

である場合には極端に受講者が多いが、講座によっては7～8名のときもある。今後、講座の企画内容、一般市民への広報のさらなる工夫、講座の実施日、実施時間等についての検討が求められる。

(3) 参加者のアンケートによる評価

公開講座のアンケートは毎回行い、その集計結果は学内で公開している。

平成15年度の集計結果を考察すると、参加者が何により講座を知ったかについては、知人、友人からが29%、ホームページが22%、市町村広報誌が19%、新聞が10%、リーフレットが12%、大型ポスターが5%となっている。公開講座にあてられるかぎられた予算の中で、今後も引き続きこれらの方法を組み合わせながら周知していく必要がある。

また、公開講座の開催曜日、時間帯については、95%の方が適切と答えている。しかし、実際に参加している受講者に開催曜日、時間帯を尋ねても、今後の受講者増につながる開催曜日、時間帯を模索することはできないであろう。

また、公開講座の内容に関しては、87%の受講者が内容に興味をもてたとの回答を得られた。今後の課題としては、受講者におおむね満足していただいている本学の公開講座の受講者数を増やすため、どのような方法で周知し、より活発な公開講座の実施を実現できるかが大きな課題である。

(4) 特に優れた点及び改善点等

今後地域に密着した公開講座の役割は、さらにその期待が増加していくものと推測されるが、教員30名規模の短期大学として現在の公開講座を維持・継続することさえも相当な全学的労力が必要である。マイナスシーリングが毎年実施される厳しい財政状況下において地域のニーズに十分に応えることのできる充実した公開講座を実施して行くためには、教職員の献身的な働きのみが頼りとなっている。

このような厳しい運営状況の中で、本学の公開講座を通じて少しでも会津地域の伝統産業振興に寄与することを目的に、平成15年度には「伝統産業振興の可能性について～地域産業とまちづくり～」を開講し、平成16年度には「東南アジアの漆工と日本の漆工～生活用品から工芸美術品まで～」、「アジアの伝統文化産業振興～メコン川周辺諸国の取り組み～」を企画している。

また、平成11年度からは、本学の教育内容を少しでも理解していただくために中学生・高校生を対象とした実践的な講座、Open Junior Collegeを開講している。近年、高大連携の気運がますます高まる中で、高等教育機関としての初等中等教育への貢献の視点から、中学生・高校生を対象とした公開講座のさらなる充実が求められている。

平成13年度会津大学短期大学部 公開講座実績

回	日 時	テーマ	講師	場所	受講者数
1	6月23日(土) 13:30～15:30	環境破壊を 前にした人類学	東京大学 東洋文化研究所 松井 健 教授	310教室	一般 10人 短大関係者70人 計 80人
2	6月30日(土) 13:30～15:30	会津若松市の まちづくりを考える 第1回 まちづくり運動の 現状と課題	産業情報学科 後藤 忠俊 教授 産業情報学科 森 文雄 助教授	310教室	一般 11人 短大関係者23人 計 34人
	7月14日(土) 13:30～15:30	会津若松市の まちづくりを考える 第2回 中心市街地の 環境づくり	産業情報学科 牧田 和久 教授 産業情報学科 時野谷 茂 助教授	310教室	一般 15人 短大関係者16人 計 31人
	7月28日(土) 13:30～15:30	会津若松市の まちづくりを考える 第3回 中心市街地の 活性化とまちづくり (シンポジウム)	産業情報学科 後藤 忠俊 教授 産業情報学科 森 文雄 助教 授 ほか	310教室	一般 16人 短大関係者13人 計 29人
3	8月1日(水) 8月2日(木) 8月3日(金) 13:00～17:00	Open Junior College 2001 ～インターネットが切り開く 新しい世界の体験学習～ 1) インターネット入門 2) ホームページ作り入門 3) インターネット プログラミング入門	産業情報学科 高田 容士夫 教授	コンピュータ センター	一般 12人 短大関係者 0人 計 12人
5講座					合計 186人

平成14年度会津大学短期大学部 公開講座実績

回	日時	テーマ	講師	場所	受講者数
1	9月 7日(土) 9月14日(土) 9月21日(土) 9月28日(土) 13:30～16:30	陶芸を楽しむ	陶芸家 宗像 利浩	窯芸室	一般 (9/7) 14名 (9/14) 14名 (9/21) 14名 (9/28) 15名 延べ 57名
2	9月14日(土) 13:30～16:00 9月15日(日) 10:00～12:00	CG入門 ～Open Junior College2002～	産業情報学科 高橋 延昌 講師	コンピュータ センター	一般 (9/14) 13名 (9/15) 12名 延べ 25名
3	9月28日(土) 13:30～15:30	「自然とつきあう」 ～環境問題と 民俗自然誌～	国立歴史民俗博物館 民俗研究部教授 篠原 徹	310教室	一般 19人 短大関係者47人 計 66人
4	10月12日(土) 13:30～15:30	「生活者の現場と 新しい環境倫理学 の構築」 ～人間と自然の かかわりを考える～	東京農工大学 農学部教授 鬼頭 秀一	310教室	一般 22人 短大関係者44人 計 66人
5	11月2日(土) 13:30～15:30	少女たちの迷走 ～施設出身者への 自立支援から～	社会福祉学科 小林 英義 助教授	310教室	一般 19人 短大関係者10人 計 29人
6	11月 9日(土) 11月16日(土) 13:30～15:30	食べ物がたどる道 ～消化と吸収～	食物栄養学科教授 成田 健	310教室	(11/9)一般 28人 短大関係者11人 計 39人 (11/16)一般14人 短大関係者11人 計 25人
6講座					合計 307人

平成15年度会津大学短期大学部 公開講座実績

回	日時	テーマ	講師	場所	受講者数
1	8月31日(日) 10:00～16:00	CG入門 ～Open Junior College2003～	産業情報学科 高橋 延昌 講師	CG室	一般 8人
2	9月 6日(土) 9月13日(土) 13:30～15:30	『法律入門』 市民のための インターネットをめぐる 法律問題解決講座	会津大学 清野 正哉 助教 授	310教室	一般 21人 短大関係者 7人 計 28人
	9月27日(土) 13:30～15:30	市民のための 法律の読み方	会津大学 清野 正哉 助教 授	310教室	一般 16人 短大関係者 3人 計 19人
	10月4日(土) 13:30～15:30	市民のための 政策参加	会津大学 清野 正哉 助教 授	310教室	一般 6人 短大関係者 4人 計 10人 合計 57人
3	9月20日(土) 13:30～15:30	生きがいの創造 ～最先端の科学的 研究が解明した 人生のしくみ～	福島大学 飯田 史彦 助教 授	310教室	一般 159人 短大関係者 5人 計 164人
4	9月27日(土) 13:30～15:30 9月28日(日) 10:00～12:00	コンピューターの中に 別荘を建てよう!!	デザイナー 川口 圭司	CG室	(9/27・28) 一般 36人 延べ 72人
5	10月11日(土) 13:30～15:30	伝統産業振興の 可能性について ～地域産業とまちづくり～	産業情報学科 森 文雄 教授	第1会議室	一般 7人 短大関係者 4人 計 11人
6	10月25日(土) 13:30～15:30	日本における 音楽教育の現状と課題 ～音楽基礎能力を 中心に～	社会福祉学科 飯嶋 尚 助教授	音楽室	一般 5人 短大関係者 2人 計 7人
6講座					合計 319人

広報委員会

I 目的及び目標

1. 目的

かつて象牙の塔と揶揄された大学が、その閉鎖性から脱却し実社会へ自己開放を始めてから久しい。様々な情報手段の著しい発達と共に、その開放度は範囲と深度においてますます強まっている。本学でも、本学の全体像を可能な限り社会に周知するために種々の努力を重ねてきた。特に高校生に対しては、様々な方法により、本学の教育内容、入学試験、進学・就職状況、学園生活などに関するより正確な情報を発信することに努めてきた。本委員会は、今後もより開かれた大学像を模索しながら、本学の有効な広報活動の中核組織として機能していかなければならない。

II 評価項目ごとの自己評価

1. 広報委員会の運営体制

本委員会は広報活動に関する事項を審議し、広報活動を円滑かつ効果的に行うことを目的に、平成 11 年 4 月に設置された。委員会は学生部長、附属図書館長、コンピュータセンタ一長、教養基礎会議議長及び各学科・各コースから選出された1名ずつの委員、事務局代表1名、入学試験委員長、進路指導委員長、公開講座運営委員長、ホームページワーキンググループ代表1名で構成されている。

年に5回広報委員会を開催し、それぞれの時期に係わる広報活動の企画、立案、運営に当たってきた。高校訪問や進学説明会といった具体的な広報活動は少数の広報委員だけでは困難であり、全学的な協力体制のもとに取り組んでいる。

2. 広報活動の達成状況

(1) ホームページ

① ホームページの充実

この数年間、学内外への情報公開のためその充実に最も力を注いできた情報媒体はホームページである。平成 15 年 4 月より短大ホームページが大幅にリニューアルされた。下表にある通り、内容も項目(ページ)数も約 1.6 倍に増加した。

	平成 14 年度以前		平成 15 年度以降	
	大項目	中項目	大項目	中項目
学外向けホームページの項目数	11	102	26	168
学内向けホームページの項目数	21	29	18	37
項目数の合計	32	131	44	205

毎年入学生に行う「受験と入学試験に関するアンケート調査」の結果によると、本学のホ

ホームページに関する質問とその回答については、下表のようになっている。

	平成 14 年度 入学生	平成 15 年度 入学生	平成 16 年度 入学生
回答者計	175 名	162 名	155 名
(1) ホームページを見た	59%	78%	83%
(2) 志望校決定するのに役だった	56%	64%	60%
(3) どちらとも言えない	33%	33%	33%
(4) いいえ	7%	2%	7%

* (2)～(4)は見た者に対する質問と回答である。

これらの結果から、本学のホームページを見る者は年毎に増加しており、ホームページが本学の志望校決定に大きく役立っていることがわかる。ホームページのますますの充実が重要である。

②ワーキンググループ中心によるリニューアル

短大ホームページをリニューアルさせる上で、その企画や実際の制作作業は、広報委員会の下部組織であるホームページワーキンググループによって行われた。平成 14 年 4 月に第 1 回目のグループ会議が行われ、その後、毎月 1 回程度のペースで打ち合わせが行われた。平成 15 年度からのスタートに間に合うようにすべてのページが新たにつくられたが、すべての制作は、学内の教員や実習助手による分担作業で行われた。よって、外部へ発注するような制作コストはかからなかった。

③学生向け情報サービス

平成 15 年度からのリニューアルに伴い、学内ホームページ「進路情報」の項目では本学に来る求人情報をすべてブラウザで検索・閲覧できるようになり、また、就職活動等による欠席届・活動報告書もブラウザからそのままダイレクトに入力できるようになった。ホームページは、そのような進路指導の支援にも効果を発揮し、全学の最終進路決定率が 6.4 ポイントも上昇させた(平成 14 年度 89.9%、平成 15 年度 96.3%) 要因になっていると思われる。

④今後の課題

ホームページは、今後とも充実させる方向に誰も異存はない。しかし、コンテンツ制作の負担については常に問題となっており、今後の課題となる。ホームページの新規作成や更新には、目に見えない多くの負担がある。その負担については、個人のスキルやセキュリティの問題もあるため分業化しづらく、現在は産業情報学科の実習助手が兼業で被っている。今後、ホームページのコンテンツ制作や更新作業については、より専門化が必要である。

(2)「大学案内」

①「大学案内」の現状

「大学案内」(パンフレット)は本学広報活動の主要な情報媒体の一つであり、その充実に年々意を注いできた。全頁カラー化は既に平成 11 年度に踏み切っており、予算の関係

で頁数は固定しているが、内容の充実、見易さ、アピール度を高めるため、種々工夫を重ねてきた。「大学案内」は大学説明会、高校訪問、進学説明会、キャンパス見学、求人依頼、就職開拓・指導教員の会社訪問などで利用している。過去 3 年間に於いては、毎年 5000 部制作し、そのほとんどを配布している。

「受験と入学に関するアンケート調査」によると、下の表にあるように、「大学案内」については、ほとんどの入学生が見ており、志望校決定に役立っている。しかも、役立ったと答える割合は年々微増している傾向にある。このように「大学案内」は本学の広報ツールとしても欠かせないものであり、今後とも制作し続けていく必要がある。

「大学案内」について	平成 13 年度入学生	平成 14 年度入学生	平成 15 年度入学生	平成 16 年度入学生
(1) 見た	94%	92%	94%	93%
(2) 志望校決定に役立った	77%	73%	79%	83%
(3) どちらとも言えない	23%	24%	18%	17%
(4) 役立たない	0%	3%	3%	1%

* (2)～(4)は、(1)で見た者に対する質問と回答である。

②今後の課題

「大学案内」制作の大部分は1人の教員の多大な労力と奉仕の上に成立している。各学科の内容説明、写真などは各学科広報委員が責任をもち分担しているが、企画、レイアウト編集、版下作成などデザイン全般にわたる作業は、予算の関係もあり、学外に委託することなく学内で処理してきた。それによって満足のいくパンフレット制作も可能であったが、その教員への負担は今後も避けられそうもない。

しかし、前述した通り、「大学案内」は本学の広報ツールとして欠かせないものであるから、その充実には今後も意を注いでいかなければならない。そのためには、デザイン制作等を外部に委託できる位の予算拡充が重要である。

現在、大学案内は冊子のみであるが、ビデオや CD-ROM などの映像による媒体利用も考える必要があろう。

(3) 高校訪問と進学説明会

少子化に伴う 18 歳人口の減少、女子高生の四年制大学志向の増加などの社会状況の変化の中、平成 8 年以來、県内の高校を対象に、8 月・9 月に高校訪問を実施してきた。高校生の進学・就職動向などを探りまた本学の広報宣伝のため、全教員分担のもとに毎年 60 以上の高校を訪問してきた。訪問校数は 13 年度 61 校、14 年度 61 校、15 年度 63 校にのぼる。

受験企画会社や新聞社主催の進学説明会・進路ガイダンスなどは年毎に増加している。高校訪問と同様に、本学の全教員分担のもとに積極的に参加し、広報宣伝に努めてきた。下表にあるように、訪問者数(高校生、教諭、保護者)も年を追って増加している。

進学説明会の実績

	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
県内	16 会場	21 会場	25 会場
県外	1 会場	2 会場	3 会場
訪問者数	97 人	164 人	254 人

しかし、16 年度入学生に対するアンケート調査によると、この種の進学説明会において本学の進学説明会の存在を知っていた者は 28 名(18%)であり、さらに本学説明会への訪問者は 15 名に過ぎなかった。またそのうち、その訪問が本学の志望決定に役立ったという回答は 12 名(8%)であった。この質問項目は今年度初出であるので、これから数年のデータ蓄積が必要であろうが、この説明会に係わる教員の負担とその効果を考慮すれば、今後の検討課題となろう。

(4) 大学説明会、

本学では毎年 7 月末に大学説明会を実施してきた。入学試験、3 学科の教育内容、就職・進学等に関するより明確な情報を提供するとともに、本学の施設・設備を始めとした教育環境を直接に見てもらい、本学への関心を高めてもらうことを目的としている。これまで各学科の体験学習や在学生とのフリートークを実施し、参加者に大変好評であったが、今年度はそれに加えて、2 学科で高校生向けの模擬授業を実施する予定である。参加者数(高校生、教諭、保護者)は平成 13 年度 167 名、14 年度 225 名、15 年度 204 名となっており、かなりの盛会であった。

入学者に対するアンケート調査では、大学説明会に対する質問と回答は下表のようである

大学説明会について	平成 14 年度 入学生	平成 15 年度 入学生	平成 16 年度 入学生
(1)開催を知っていた	47%	52%	48%
(2)出席した	29%	40%	39%
(3)志望校決定に役立った	84%	81%	84%

* (3)は出席者に対する質問と回答である。

大学説明会開催の情報源の上位 3 つは、下表のようになっている。

	平成 14 年度 入学生	平成 15 年度 入学生	平成 16 年度 入学生
高校等のクラス担任や進路指導 教員からの紹介	33%	25%	36%
ホームページ	19%	21%	24%
高校宛に送付したポスターや文書	24%	28%	19%

これらの結果からわかるように、大学説明会は本学志望決定に大きな役割を果たしているが、開催を知らなかった者は毎年半数近くにのぼるのである。これからコンピュータの一層の普及浸透により、「ホームページ」の役割はますます大きくなると予想されるが、それを含めて情宣活動の方法を工夫しなければならない。

(5) 受験雑誌などへの広報

毎年いわゆる受験産業から本学の入試情報を求められる。受験企画会社、受験雑誌、予備校など、その数は20近くにのぼる。入学生へのアンケート調査で、「本学をどうして知ったか」という質問に対する回答は上位6つは下表のようである。

	平成14年度 入学生	平成15年度 入学生	平成16年度 入学生
前から知っていた	23%	23%	23%
受験雑誌	37%	26%	21%
先輩・知人・友人の紹介	10%	10%	12%
親の紹介	9%	10%	10%
本学の「大学案内」	11%	8%	8%
高校や予備校のクラス担任や進路 指導教員	15%	10%	8%

これによると、受験雑誌などで本学の受験情報を得た者が年を追って微減しているものの、有効な媒体であることは疑いない。これからもきめ細かい情報提供を心がけていかなければならない。

(6) キャンパス見学と出前大学説明会

高校独自の自主的な本学キャンパス見学がこの3年間に5件あった。大学の教育内容説明や施設・設備等の見学を通して、高校生に勉学と進路に対する強い意識を促すのが高校側の主眼であるようだが、本学では受験生確保のための情宣活動だけでなく、そうした目的に沿うように見学者に対応する必要がある。高校生に知的世界への興味関心を惹起し、強い知的探求心をもって勉学に励めるような刺激を与えるのが、地域貢献が役割の一つとされている公立大の使命であろう。

高校へ出かけての説明会、いわば、出前大学説明会が高校から要請され始めた。今年度に入って既に2件ある。全学科あるいは特定学科の説明など、その依頼内容は様々だが、これも自主的なキャンパス見学と同じ理念のもとに、真摯に対応していかなければならない。

3. 広報活動の質の向上及び改善のための今後の課題

本学の教員は日々の教育活動、研究などで多忙であるにも拘わらず、全員が分担しながら高校訪問を実施し、進学説明会に参加している。学生の教育指導は勿論のこと、さらに本学の運営に一丸となってあたるその協力体制が本学の広報活動の優れた点として挙げることができる。

さらなる広報活動に係わる課題として以下に2点述べてみたい。

(1) 高大連携

将来に向けての改善点の1つとして、高校と大学の連携(高大連携)がある。これは平成16年度福島県高等教育協議会において、今後の検討課題の1つとして提案された。これまで県内でも幾つかの高大連携の試みについてマスコミに取り上げられてきたが、それは個別的なものであった。今後はこれを制度化し組織的に運営していく方向で、各大学で検討を始めなければならない。

本学ではこれまで、CG入門に関する中・高校生向けの公開講座をここ数年連続して実施してきた。これをさらに拡大する形で、全教員分担のもとに、高校生を対象とした種々の分野の公開講座も検討する時期であろう。その他、本学での単発的な授業体験だけでなく、それを進めた形の授業・集中講義を高校生が受講できる体制作り、さらに高校に出かけての出前授業・出前講座など、検討課題が浮上する。

(2) 教員の外部向けホームページ

改善点の2つ目として、本学教員の外部向けホームページ作成がある。これについては既に検討中であるが、各教員の研究内容、授業内容、ゼミ等に関する情報を外部に発信することは、本学教育の情報宣伝のための非常に有効な手段となろう。このホームページにおいて、高校や地域社会での各教員の出前授業・出前講座のタイトルとその簡単な内容を掲載出来ればさらに充実したものになるろう。

地域総合調査室

I 目的及び目標

1. 目的

地域社会の生活、文化、産業、科学及び技術等の調査研究を通して大学と地域の発展に寄与するために、以下の事業を実施することになっている。

- (1) 本室の事業に必要な図書及び資料の収集。
- (2) 機関誌「地域研究」その他印刷物の刊行。
- (3) 地域社会の各種団体からの依頼による調査研究、翻訳及び調査研究の斡旋並びに各種研究機関との連絡(連携)。
- (4) 研究会、講演会並びに講習会の開催。
- (5) その他本質の目的を達成するための必要な事業。

2. 目標

学科持ち回りによる複数年間の継続研究形態をとる年度計画を設定し、逐次実行した成果を最終年において機関誌「地域研究」に取り纏める。

過年度の研究課題は「地域における健康維持・増進指導のあり方」(平成 8～9 年)、「中心市街地の再生」(平成 10～12 年度)であった。

II 評価項目ごとの自己評価

1. 地域総合調査室の実施体制

(1) 実施組織の整備に関する取組状況

本室は執行機関としての地域総合調査室と、審議機関としての地域総合調査室委員会とからなっている。1名の教員が両者の長を兼ね、調査研究の実施者である室員は学科配属教員が兼ねている。本室の目的に適う調査研究を地域と協同して実施し、その成果を地域社会に還元する。しかし、これからの課題として、大学と地域の高度な連携を図るためには、室員の専任化が望まれるところである。

(2) 目的及び目標の趣旨の周知及び公表

機関誌「地域研究」の定期刊行によって、調査研究成果を公表し、本室が目指す大学と地域の連携について周知を行なっている。講演会、研究会等は他の委員会が担当している中で、平成 13～15 年度において、本室では特段の事業を実施することはなかった。

2. 地域総合調査室の活動状況

(1) 地域総合調査室の活動状況

平成 13～15 年度において、「福島県における社会福祉の実態について」を課題とする調査研究を行なった。分担課題名と室員名は次の通りである。

「なぜおこる生活保護裁判 ―福祉事務所対応から考える―」藤澤宏樹
「子育て支援ニーズの把握に関する研究」鑑 さやか・品川満紀
「福島県の痴呆高齢者のグループホームの実態調査報告」安岡芳美子
「社会福祉施設における音楽環境の現状と課題(福島県会津地方を中心に)」飯嶋 尚
「サークル『ハンセン病を知る会』の活動報告」藤澤宏樹
平成16年度からの研究課題は「小児, 学童・生徒の食環境における問題提起とその改善策の検討」を中心とした各年齢層における食環境に関わる諸要因の解析を行なうものである。

表 機関誌「地域研究」刊行状況

号数	刊行年月	研究課題名	論文題名	著者名	ページ
第10号	平成13年3月	地域における健康維持・増進指導のあり方	第I章 有酸素的運動指導の方法論と技術論 ―特に、運動生理生化学的側面から―	安江俊二、緑川英子、西村政子、大塚紋子、久田和子、小野知恵	1～5
			第II章 地域における生活習慣病予防と健康維持・増進指導のあり方―栄養と運動の面から―		7～52
			第III章 塩分摂取構造に関する調査研究		53～181
第11号	平成13年3月	中心市街地の再生	はじめに	後藤忠俊	1
			中心市街地活性化と会津若松市のTMO	後藤忠俊	3～20
			中心市街地活性化運動の主体について―TMOによるまちづくりとNPOによるまちづくり―	森 文雄	21～34
			類似都市調査報告	時野谷 茂	35～76
			会津若松市における中心市街地商店街の街路環境	牧田和久	77～94

			会津七日町のまちづくり—地域住民と 商店主の意識調査を中心として—		95～128
			会津若松市中心市街地商店街の現 状と課題	後藤忠俊	129～ 147
第 12 号	平成 15年 3月	福島県に おける社会 福祉の実 態につい て	はじめに		1
			なぜおこる生活保護裁判—福祉事務 所の対応から考える—	藤澤宏樹	2～22
			子育て支援ニーズの把握に関する研 究	鑑 さやか、品川満紀	23～34
			福島県の痴呆性高齢者のグループホ ームの実態調査報告	安岡芳美子	35～56
			社会福祉施設における音楽環境の現 状と課題(福島県会津地方を中心に)	飯嶋 尚	57～70
			サークル「ハンセン病を知る会」の活 動報告	藤澤宏樹	71～108

(2) 特に優れた点及び改善点等

潤沢とは言い難い予算内で、本室の目的に従って、年度計画の目標を順調に達成していることは、評価に値するものである。これらの目標を達成するためには、本室の専任教員でない室員による、人的・時間的に過重な負担があったことを、特に言及しておく。

今後更に、地域社会の生活、文化、産業、科学及び技術等の調査研究を通して、大学と地域の発展に本室が寄与するためには、専任教員を配置して、大学と地域が連携して、両者が共有できる発展に結びつく調査研究支援体制を確立することが望まれる。

Ⅲ 特記事項

大学と地域の連携を図り、大学と地域が調査研究成果を共有して、それぞれの発展を目指すために、本学では、教員の職務発明等に関する規程及び事務取扱要領、受託研究取扱規程、奨学寄附金取扱規程、研究等受入審議委員会設置要綱、並びに学術奨励会規約を整

備し、学術研究奨励会を平成 14 年 4 月 1 日に発足させたところである。

学術研究奨励会と本室の主務たる事業を明確にし、その業務に重複するところがあれば、両者がもつ目的の整合性を図りつつ、学術研究奨励会と本室の両者が果たすべき『大学と地域との連携と地域貢献』を行なうために、規程及び組織の見直しを行なうことが早急の課題となっている。

会津大学短期大学部コンピュータセンター
並びに
会津大学短期大学部コンピュータセンター運営委員会

I 目的及び目標

1. 目的

・コンピュータセンター

コンピュータセンターの設置目的は「会津大学短期大学部学内運営組織等に関する規則」に「11 条 各種コンピュータシステムの統括、管理、運営を行うため、本学にコンピュータセンターを置く。」とある。

・コンピュータセンター運営委員会

コンピュータセンター運営委員会の目的は「会津大学短期大学部コンピュータセンター運営委員会規定」に「(所管事項)第4条 コンピュータセンター運営委員会は、コンピュータセンターの円滑な運営を図るため、次の各号に掲げる事項を所管する。

一 各種コンピュータシステムの統括、管理、運営に関すること。

二 情報処理教育に関すること。

三 その他コンピュータセンターの統括、管理、運営に関して必要と認められること。

(会務)第5条 コンピュータセンター運営委員会は、前条に規定する各号について、コンピュータセンター長より提案された事項を審議する。」と記述されている。

これらよりコンピュータシステム自体の主設置目的が情報処理教育にあることが読みとれる。

2. 目標

本学における情報処理教育は昭和 55 年に商科にコンピュータ室を設置し「情報処理、システム設計、プログラミングⅠ、Ⅱ、Ⅲ、コンピュータ会計Ⅰ、Ⅱ及び特別演習」を開講し、デザイン科では「コンピュータ図学、コンピュータ概論」が開講されたのが始まりである。その後平成 5 年の学科再編を機に商科のコンピュータ室はコンピュータセンターとして全学的組織に組み込まれ同時に、コンピュータセンター運営委員会も設置された。情報処理教育は主にセンターのメインフレームシステムを通して行われたが、産業情報学科デザイン情報コースには CG 室、CG 入出力室が設けられ、マッキントッシュを用いたデザインの道具としてのコンピュータ教育が新たに始められた。また平成 10 年には学内のネットワーク化が実現し、教育のみならず学内事務処理等でのコンピュータ利用も開始され、コンピュータセンターの業務内容も複雑化してきた。「データを入力し、処理して使う」といったことに加え、データを検索して入手し、処理をして発信するという風にコンピュータの役割も拡大するとともに、センターの業務内容も拡大してきている。

このように業務が拡大する中、限られた陣容で如何にしてシステム全体を統括し、管理し、滞りなく運営すること並びに本学の情報処理教育の支援をするかが問題となる。具体的には先の平成 13 年度版の自己点検・評価報告書にも指摘されているように時間外利用の問題、ウイルスや不正アクセスに対する問題、新たなコンピュータ教育支援への問題等への対応である。

II 評価項目ごとの自己評価

1. コンピュータセンターの運営体制

(1) 運営組織の整備に関する取組状況

a. システムの整備

平成 12 年度に次期コンピュータシステム検討委員会を設け審議を重ねた結果次のような基本方針が確認され、それに基づいて新システムの導入が行われた。基本方針と主な対応策は以下の通りである。

・基幹ネットワークの高速化

LAN 高速化と拡張を実現するためにバックボーンを従来の ATM622 からギガ Ethernet に変更し、支線 LAN も Ethernet10MB から 100MB にアップした。

・学内共有ファイルシステムの大規模化・高速化

ファイルシステムは、学内で共有するデータ以外にユーザのデータを保存するシステムとし、大規模容量かつ高速なファイルサーバを導入した。

・サーバ及びファイルシステムの信頼性・耐故障性の向上

主要なサーバには RAID を導入し、ファイルシステムはファイルのミラーリングおよび SAN によるバックアップサーバへの高速バックアップシステムを導入し、全体の信頼性を確保し耐久性の高いシステムとした。

・運用管理作業の軽減化

アンチウイルス対策としてシステムログイン時に最新のウイルスパターンをダウンロードする構造としたためタイムリーなウイルス対策が可能となり運用管理作業の軽減化が図られた。また学生用 PC は起動時にセットアップ時の状態に戻るシステムとなっており、これによって PC の安定稼働と不正インストール防止が図られ、運用管理作業の軽減化に寄与している。

・利便性の向上

LAN 拡張: 教室、各学科の主要な実習室等並びに会議室に LAN を拡張し様々な場面でのネットワーク利用の利便性を高めた。

Web メール: Web メールを採用したことでどこからでもメールの使用が可能になった他、学外のインターネット接続している PC から学内メールが利用可能になった。

ダイナミック LAN 接続: 研究室設置 PC の IP アドレスを変更することなく学内のダイナミックポートに接続可能となり教室でも研究室で使用しているネットワーク環境が

実現した。

エントランス、図書館閲覧室、進路指導室などへの学生使用 PC の設置: エントランスに 5 台・図書館閲覧室に 2 台、進路指導室に 1 台 PC を配置し学生の PC 利用度を高めた。特にエントランスの PC はオープンパソコンとし開学時間中は自由に使うことができ、就職活動等に多用されている。

・安全性の確保

システム全体のセキュリティを確保するために、学内では先の運用管理作業の軽減化で述べた対策以外に、拡張した LAN においては学内への持ち込み PC が容易に LAN 接続できないようにセキュリティ面を強化している。また、学外から学内への不正アクセスを防御するためにファイアウォールを設置し、学外への公開サーバを DMZ 内に配置することでセキュリティ強化を図った。

b. システム更新に関わらない改善事項

- ・本学と会津大学とを結ぶ専用線を 128kb から 1.5MB に増強した(平成 14 年 9 月)。しかし E ラーニング等の新しい流れに対応するためには 100MB 以上の増強が必要であり、これは今後の課題である。

c. 懸案事項への対処

①「教育面に於けるコンピュータ教育の全学化が進んだことによる学生の開館時間外の利用希望が急速に増大し、教育補助業務が激化する中で非常勤実習助手の超過勤務が日常化しており、勤務時間や賃金など雇用面での問題が依然として未解決のままである。現在は、学生の夜間や休日の利用希望には教員も加わって保守管理業務を行っているが、今後は機械入退館システム、ビデオ監視システム等の設置も検討が必要となってくるであろう。」という件に関しては以下のような対策をとった。これらにより時間外管理の担当教員が不要になり教員・センター要員の負担が軽減された。学内機械警備時間まで利用可能としているため学生の夜間利用が可能となり利用者も増加している。

- ・センター演習室 A、CG 室、CG 演習室にネットワークカメラを設置(平成 12 年度)。
- ・センターロッカーでの靴の紛失があり CG 演習室のネットワークカメラをセンター入口に移動し PC 画像の保存を開始した(平成 13 年度)。
- ・平成 15 年度からはセンター入口の他演習室 A、CG 室でも画像保存(夜間利用時間帯)を開始した。
- ・平成 16 年には CG 入出力室、CG 演習室にネットワークカメラを設置し画像の保存を開始した。画像の保存期間は 3 日であり、これは次に記す電気錠の設置によるサービス時間の延長に対応したものである。

・平成 15 年 10 月よりセンター入口、CG 室、CG 入出力室に電気錠を設置し、サービス時間の拡大を図るとともに、非常勤実習助手や教員の負担軽減を図った。これにより平日は午前 8 時から午後 10 時まで利用でき、これまで利用できなかった土曜日も午前 8 時から午後 5 時まで利用可能となった。セキュリティ面での配慮としては学生用暗証番号を毎日変更するなどの処置がとられている。

②「入学時に行われる全学的なコンピュータガイダンスによって学生へのリテラシー教育は一定の成果を収めているが、それにもかかわらず、インターネットの隆盛と情報技術の発展のもと、コンピュータウィルスや不正アクセスへの対策等、新たな問題点の出現によってコンピュータシステムの保守管理業務は一層困難さを増しており体制の強化が必要不可欠となっている。」という点に関しては先に記したコンピュータシステムの更新によって対応されており現在実質的な被害は無い。

③「単なる「PC の利用法の教育」を超えて、今後も継続的に各学問分野・専門教育科目へのコンピュータの援用の可能性を探る必要があると思われる。」という指摘については、運営委員会での議論も見られたが、教育プログラム自体は各学科専権事項であり、コンピュータセンターとしては委員会等を通してコンピュータ利用の状況の変化等を知らせるにとどまっているのが現状である。

(2) 目的及び目標の趣旨の周知及び公表に関する取組状況

- ・学生の入学時に行われるコンピュータガイダンスにおいて周知。
- ・本学ホームページへの掲載を通して公表している。
- ・学内的には随時Eメールで学生並びに職員へタイムリーな案内を送っている他、掲示板を用いた案内も行っている。

(3) 特に優れた点及び改善点等

システムの整備のところで記したアンチウィルス対策、起動時毎にセットアップ時の状態に戻るシステム等セキュリティ面が特に優れている。また、学生用オープンパソコンとしてエントランスホールと進路指導室に設置したPCはいつでも自由に使える学生の就職活動を支援する強力な武器と成っている。

さらに、導入している Microsoft 社のソフトウェアはキャンパスアグリーメント契約を結んでおり、学生および教職員は自宅などの個人所有の PC に自由にインストールすることができ、大学と同様の学習環境が構築可能である。平成 15 年度の利用者数はのべ 12 名(学生 6 名・教職員 6 名)であった。

改善を要する点としては学内の幹線を光ケーブルとして通信の高速化を計っている

が、外部との接続が 1.5MB であり、この部分の改善が望まれる。

また組織、人力的なことではコンピュータセンターの位置づけが明確でないこと、実質的に業務を処理している職員も身分的には他部門に属するなど組織がしっかりしていないことが挙げられる。またホームページの作成管理等も産業情報学科の非常勤実習助手が兼務している状態であり、教育内容の充実を図る必要性からも専属の人員確保が望まれる。

2. 教育内容面での取組

(1)情報教育の編成に関する取組状況

情報教育の編成ということでセンター並びにセンター運営委員会が直接関わられるのは入学時に行われる全学的なコンピュータガイダンスのみである。このガイダンスはコンピュータセンター運営委員会が中心となって平成 10 年度より実施されており、Windows 系と Mac 系とに分かれて実施されてきた。Windows 系では各学科共通でコンピュータ設備の使用マナー、使用方法並びにワード、エクセルといった基本的アプリケーションの使用方法について合わせて 3 コマ実施してきたが、ネットワーク利用の拡大に伴い倫理や利用マナーに関する部分が強化されてきた。また CG 系ではコンピュータ関係の科目が新学期早々から高度に展開できるように 10 から 13 コマを費やしてきたが、集中的な学生への負担を減らすためと、平成 15 年に導入された新システムとの関連から外部メディアへの保存方法等については分離して学期半ばに行う等の工夫をしている。

(2)授業(研究指導も含む)の内容に関する取組状況

教育プログラムに関してセンターは何の権限も無く、この項目には該当するものはない。

(3)特に優れた点及び改善点等

ここ数年の新生は高校や自宅等でのパソコン使用経験者が多くみられ、コンピュータガイダンスは実際の操作に大きな混乱もなくスムーズに行われている。そこで今年度は、パソコンの基本操作以外にコンピュータを利用する上でのリテラシーやモラル、ネット社会のトラブル事例などをもりこみ、学内外での生活ツールとしてのコンピュータを強く意識した内容へと充実させた。

3. 教育方法及び成績評価面での取組

(1)授業形態、学習(研究)指導法などの教育方法に関する取組状況

平成 15 年度のシステム更新を機に各教室に情報コンセントを設置し、各学科当たり 1 教室の割合で液晶プロジェクターを設置した他、ポータブル型プロジェクターを備えたことでコンピュータを用いた画像表示による授業が可能となり、動きのある資料を提示することを容易とした。

学内関係者が自由にアクセスできるサーバを設置し、参考資料や課題の配付、課題

の提出等がネットワークを通して行えるようにした。

(2)施設・設備の整備・活用に関する取組状況

先にシステム更新のところで記した事項の他には PC の増設がある。新システム導入と同時に機器レイアウトを見直し PC を増設した。これによって演習室 B は 46 台から 49 台に、CG 室は 34 台から 37 台になり学生数が変動した場合でも 1 人 1 台の使用環境を保持できるようにした。

(3)特に優れた点及び改善点等

LAN 拡張した教室等でもインターネットアクセスを可能にし、授業における多様な資料の提示が可能となっている点。

4. 情報教育の達成状況

(1) 学生が身につけた学力や育成された資質・能力の状況から判断した達成状況

本学における情報教育は学科対応でありセンターとしてそれを判断するのは困難であるが、図 11 にも見られるようにコンピュータシステムの利用状況から見るとかなりの成果を上げているということができよう。

(2) 特に優れた点及び改善点等

とにかくさわれることである。図書館やエントランスホールに設置された PC は非常に利用度が高く、この環境が学生に PC 利用のインセンティブを与えているといえよう。自由に使える、気軽に使えることが大きな成果につながっている。

5. 学習に対する支援

(1) 学習に対する支援体制の整備・活用に関する取組状況

・Windows 系では技能員 1 名と非常勤実習助手 1 名が保守管理室に常駐し学生のコンピュータ利用のサポートを行っている。

・CG 系でも保守管理室 2 に非常勤実習助手が 2 名常駐し学生へのサポートを担当している。

・サポート時間は午前 8 時 30 分から午後 5 時 30 分となっている。

(2)自主的学習環境(施設・設備)の整備・活用に関する取組状況

・自主的学習環境を改善するために電気錠を設置し、利用時間の拡大を図ったことは先に記した通りであるが、平成 15 年度からは国立情報学研究所の情報検索サービス(NACSIS-IR)の機関別定額制登録をし、学内どの PC からも学术论文等の検索閲覧を可能とした。

・Windows 系はセンター研究室及び演習室入り口前、CG 系は CG 室に関係書籍を配置し学生の利用に供している。

(3) 特に優れた点及び改善点等

これに該当する内容は上に記したとおりであるが、まとめると

- ①技能員や非常勤実習助手のサポートがあること、
 - ②参考資料が近くに豊富に揃っていること、
 - ③全ての PC から蔵書の検索ができること、
 - ④自由にインターネットに接続できる他、無料で NACSIS-IR、NACSIS-ELS が使えること
- と
が挙げられる。

6. 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 教育の質の向上及び改善の取組に結び付けるシステムの整備及び機能状況

これまでに述べてきたシステム自体の改善並びにサポート体制の全てが教育の質の向上及び改善のための取組である。

(2) 特に優れた点及び改善点等

新入学生に対するコンピュータガイダンスは学期当初より質の高い教育を可能にし、2年間という短い修業期間におけるコンピュータ教育では大きな役割を果たしている。しかしこれはあくまでもその後の授業を高度に進めていくための下準備であり、コンピュータ教育としては不十分であることは言を待たない。学科課程における情報処理教育の適切な配置が望まれる場合も見受けられる。

Ⅲ 特記事項

(施設の利用状況)

(1) Windows 系の利用状況

Windows 系システムの利用状況を年間でみると表 11 に示すように学期の始まりから前期末にかけて上昇し、夏期休業には月平均の 4 分の 1 程になるものの後期が始まるとほぼ前期末と同様の利用数に戻るがその後は徐々に減っていく傾向にある。卒業研究のまとめ等もあることから後期末が最大になるのではという予測とは異なった結果となっている。この表を年度毎の動きでみると 1999 年度から 2002 年度にかけて利用者数は減少傾向にあった。(これは携帯電話の普及によりメールの使用が携帯に電話に移行したことからきているのであろうか。)

しかし新システムとなった 2003 年度は急激な伸びを示している。図 1-2 には学科コース別の利用数の動きが示されているが、ここでデザイン情報コースのみが 2003 年度に減少している。これは 2002 年度までは CG システムからのメール利用も同じサーバに記録されていたのに対し新システムでは分離されたことによるものである。デザイン情報コースのメール利用分が無くなった上での全体としてのこの伸びは注目に値する。デザイン情報コースを除いて各学科コースとも大きな伸びを示しているが、その内でも食物栄養学科 2 年生と経営情報コース 1 年生の伸びが顕著である。

表 11:Win 系 年度別月別のべ使用人数(全学科合計)

月\年度	1999	2000	2001	2002	2003
4月	2475	2623	1966	1827	資料無し
5月	2873	2817	2281	2467	資料無し
6月	4068	3061	2349	2384	資料無し
7月	4137	3685	2955	2811	資料無し
8月	570	550	549	489	資料無し
9月	1003	716	186	236	473
10月	3328	3345	2569	資料無し	3366
11月	2813	3025	2245	資料無し	3592
12月	554	2242	1824	資料無し	3804
1月	2652	2589	2019	資料無し	3584
2月	2159	1404	1138	資料無し	2328
3月	648	292	282	資料無し	687
平均	2273.3	2195.8	1696.9	1702.3	2547.7

サービス時間外の利用については表 1-2 に示す。時間外利用については 1999 年度を 100 とすると 2000 年度は 52、2001 年度は 27、2002 年度は 40 と低い値にとどまっていたが 2003 年度は 192 と倍増した。前半のデータが無いなど資料の不備を考慮してもかなりの伸びといえよう。前半の急激な落ち込みにはデザイン情報コースの動きが大きく影響している(図 11~3 参照)。年間の動きでは 7 月に特大のピークがある他 6、10、1、2 月にも山が見られる。さすがに長期休業中の利用は少ない。

表 1-2:Win 系 年度別月別のべ使用人数(全学科合計:時間外)

月\年度	1999	2000	2001	2002	2003
4月	146	111	44	38	資料無し
5月	310	187	90	138	資料無し
6月	757	275	103	129	資料無し
7月	867	444	253	238	資料無し
8月	35	8	5	0	資料無し
9月	29	4	3	4	33
10月	269	161	53	資料無し	665
11月	191	145	50	資料無し	724
12月	41	119	82	資料無し	815
1月	363	168	129	資料無し	819

2月	263	100	80	資料無し	489
3月	50	2	4	資料無し	186
平均	276.8	143.7	74.7	109.4	533.0

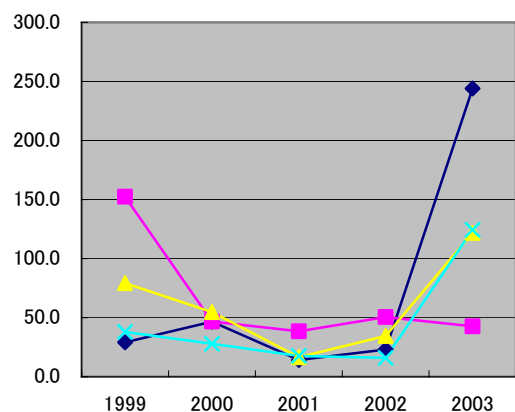
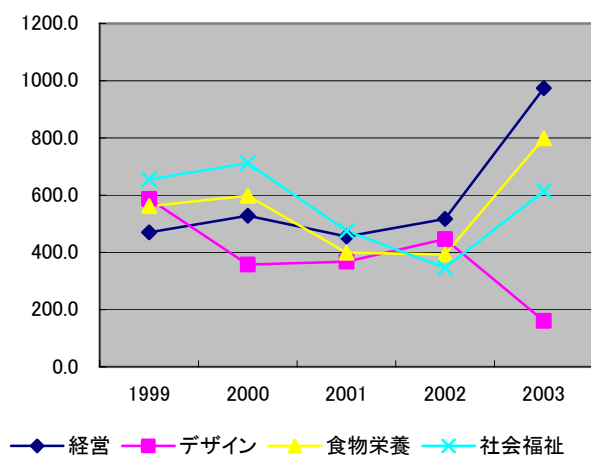


図 11:Win 系 年度別月別のべ使用人数(平均値による学科間比較)

1, 2 年生合計 左:総数 右:時間外利用

学科コース別の動きで顕著なものは経営情報コースの 1、2 年生と食物栄養学科、社会福祉学科の 2 年生が非常に大きな伸びを示している点とデザイン情報コース 2 年生は落ちているのに対し 1 年生は伸びている点である。この伸びの最大の原因は電気錠と Web による延長使用登録の導入で気軽に使えるようになったことであろう。

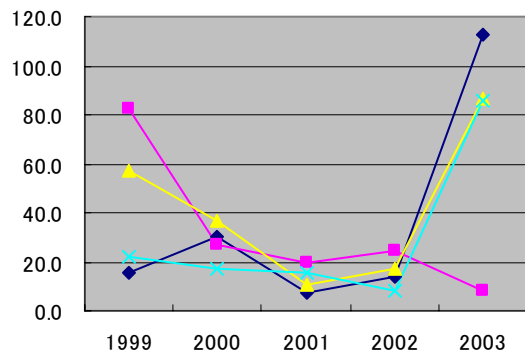
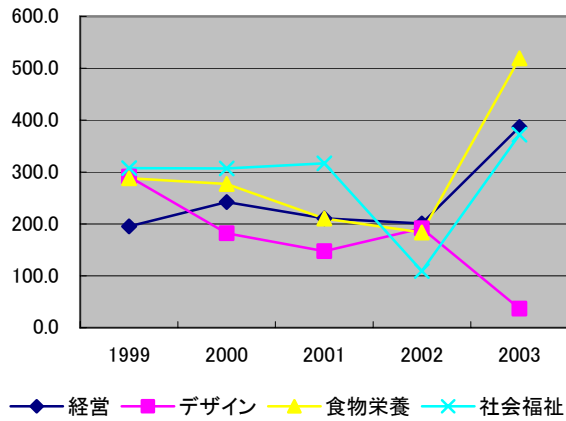
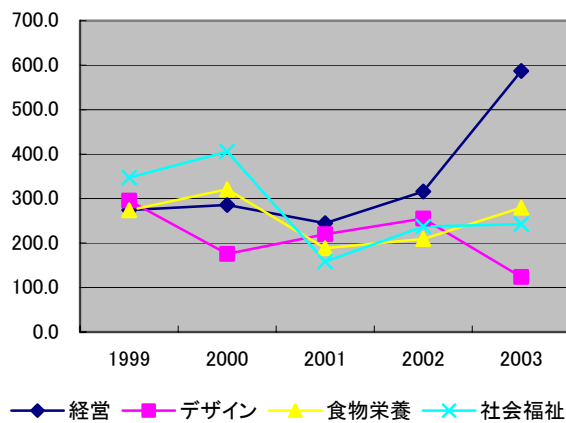


図 1-2: Win 系 年度別月別のべ使用人数(平均値による学年別学科間比較)
2 年生 左:総数 右:時間外利用



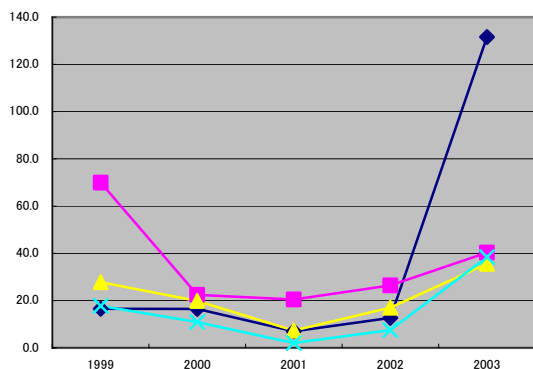


図 1-3:Win 系 年度別月別のべ使用人数(平均値による学年別学科間比較)

1 年生 左:総数 右:時間外利用

表 1-3 と表 1-4 は月にどれくらいの時間利用されているかを見たものである。年間の動きで見ると、4 月 5 月と徐々に伸びていき 6 月、7 月がピークとなる。夏期休業でいったん下がるものの 10 月からは休業期間を除きほぼ横ばいの状態となる。

年度毎の動きでみると 1999 年度から 2002 年度にかけて利用者数は減少傾向にあったが、新システムとなった 2003 年度は急激な伸びを示している。これはのべ使用人数の結果とおなじである。

1 回当たりの接続時間数(表 1-4)を年間を通して見てみると 1999 年度のデータでは 4 月(44 分)から年度末(1 時間 11 分)に向けて 60%も増加している。これは程度の差はあるもののどの年度にも見られる傾向である。

年度毎の動きの特徴としては 1999 年度から 2002 年度にかけて使用人数ほどではないが徐々に減少している点と 2003 年度には 36%(対 1999 年)の伸びが見られる点である。2003 年度年にはアクセス回数の伸びとともに 1 回当たりの接続時間も長くなっており、コンピュータシステムの利用が進んできていることが伺われる

表 1-3:Win 系 年度別月別のべ使用時間数(全体)

月\年度	1999	2000	2001	2002	2003
4 月	1827 時間 40 分	2262 時間 36 分	1488 時間 23 分	1352 時間 36 分	資料無し
5 月	2245 時間 13 分	2376 時間 57 分	1565 時間 30 分	1790 時間 23 分	資料無し
6 月	3189 時間 53 分	2678 時間 59 分	1593 時間 59 分	1923 時間 11 分	資料無し
7 月	3438 時間 25 分	3229 時間 35 分	2275 時間 59 分	2268 時間 54 分	資料無し
8 月	487 時間 58 分	531 時間 34 分	467 時間 40 分	492 時間 59 分	資料無し
9 月	860 時間 41 分	654 時間 01 分	111 時間 42 分	201 時間 46 分	528 時間 42 分

10月	2758時間46分	2998時間29分	1793時間18分	資料無し	3555時間29分
11月	2605時間40分	2965時間17分	1678時間47分	資料無し	4212時間31分
12月	533時間56分	2209時間56分	1474時間54分	資料無し	4582時間10分
1月	2741時間38分	2318時間06分	1738時間21分	資料無し	4108時間02分
2月	2721時間59分	1636時間26分	1123時間10分	資料無し	3426時間02分
3月	777時間17分	325時間59分	251時間41分	資料無し	1109時間13分
平均	2015時間46分	2015時間40分	1296時間57分	1338時間18分	3074時間36分

表 1-4: Win系 年度別月別平均使用時間数(全体:のべ使用時間／のべ使用人数)

月\年度	1999	2000	2001	2002	2003
4月	0時間44分	0時間51分	0時間45分	0時間44分	資料無し
5月	0時間46分	0時間50分	0時間41分	0時間43分	資料無し
6月	0時間47分	0時間52分	0時間40分	0時間48分	資料無し
7月	0時間49分	0時間52分	0時間46分	0時間48分	資料無し
8月	0時間51分	0時間57分	0時間51分	1時間00分	資料無し
9月	0時間51分	0時間54分	0時間36分	0時間51分	1時間07分
10月	0時間49分	0時間53分	0時間41分	資料無し	1時間03分
11月	0時間55分	0時間58分	0時間44分	資料無し	1時間10分
12月	0時間57分	0時間59分	0時間48分	資料無し	1時間12分
1月	1時間02分	0時間53分	0時間51分	資料無し	1時間08分
2月	1時間15分	1時間09分	0時間59分	資料無し	1時間28分
3月	1時間11分	1時間06分	0時間53分	資料無し	1時間36分
平均	0時間55分	0時間56分	0時間46分	0時間49分	1時間15分

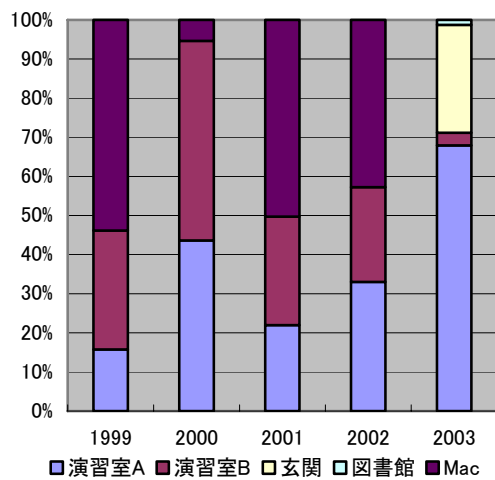
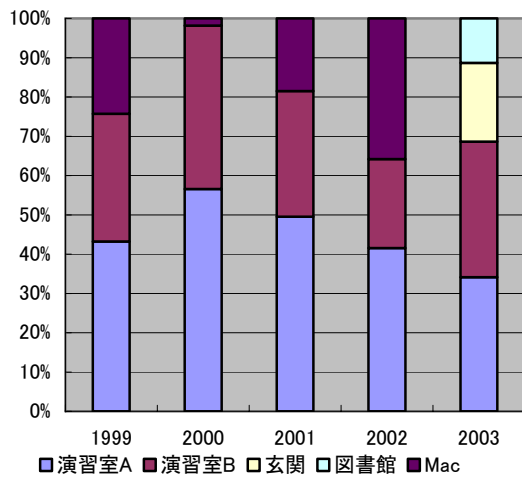
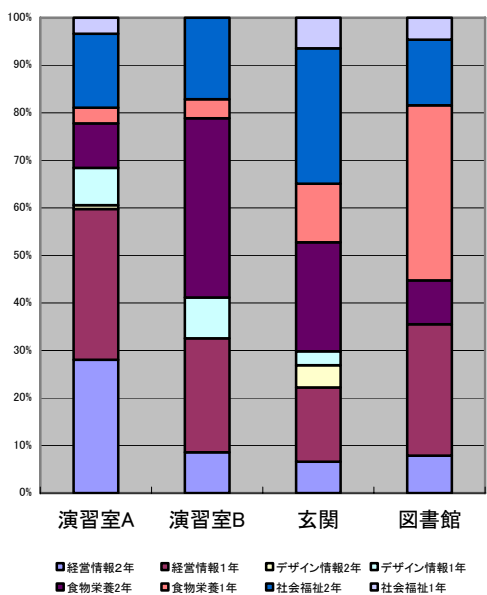
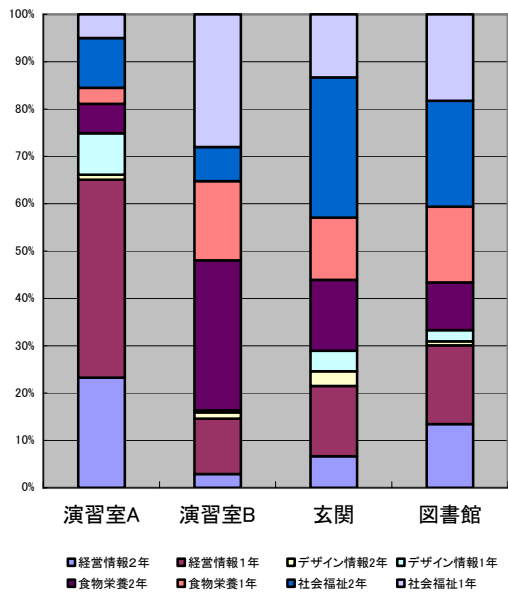


図 2-1: Win 系 のべ使用人数の年平均値に占める各設置場所の割合
 1、2年生合計 左:総数 右:時間外利用

図 2-1 はどこに設置された PC がよく使われるのかを見たグラフである。これによると 2002 年度まではセンター演習室 A が半分近くを占めるが後はセンター演習室 B とメール使用の CG 系施設が 2 分する形となっている。但し 2000 年度は CG 系の割合が極端に小さくなっている。原因は不明である。システムの変った 2003 年度は CG 系の代わりにエントランスホールの学生用オープンパソコンと図書館で 3 分の 1 を占める割合となっている点が注目される。



左:総数

右:時間外利用

図 3:Win 系 設置場所毎に見たのべ使用人数の年平均値に占める
学科学年別の割合(2003 年度)

時間外利用の方では 2002 年度までは 2000 年度を除き CG 系が約半分となっているのはデザイン情報コースの学生が CG 室に残ってメールを使用していたことを示している。2003 年度センター演習室 B の利用が極端に減ったのは電気錠による時間外利用は原則としてセンター演習室 A のみとしたことによる。約 3 割がエントランスホールの学生用オープンパソコンを利用しており、延長開館している図書館での利用もわずかではあるが見られる。

2003年度のデータを基にどこのPCをどの学科コースが多く使うのかについて見てみると、センター演習室Aは経営情報コースの1年生が約40%を占め、2年生と合わせると65%は経営情報コースが使用している。残りの部分ではデザイン情報コースの1年生と社会福祉学科の2年生の使用がそれぞれ10%前後ある。時間外利用では経営情報コースは60%と少し減り、内訳では2年生が少し伸びている。他の部分では食物栄養の2年生と社会福祉の2年生の割合が多くなっている。

センター演習室Bは食物栄養学科の2年生が30%、1年生の15%程度を占め半分弱を食物栄養学科が利用していることが解る。センター演習室Bには食物栄養学科専用のソフトもインストールされておりそれよりのOSも選ぶことができるようになっていることから、当然の結果である。その他では社会福祉の1年生が30%弱を占めている。時間外利用では社会福祉の1年生が0%、食物栄養学科の1年生が3%程度に少なくなり他はその分多くなっている。その中でデザイン情報コースの1年生が約10%を占めている点は注目に値する。

エントランスホールに設置された学生用オープンパソコンは社会福祉学科の2年生が30%弱と多くを占めており経営情報コースの1年生、食物栄養学科の1、2年生、社会福祉学科の1年生がそれぞれ15%前後を占めている。デザイン情報コースや経営情報コース2年生の利用は少ないようである。時間外利用については社会福祉学科の1年生が半分ほど減りその分食物栄養学科の2年生が多くなっている。

図書館に設置されたPCについては社会福祉学科の2年生が20%強、次いで社会福祉学科の1年生20%弱、食物栄養学科の1年生と経営情報コースの1年生が17%程度となっている。デザイン情報コースは1、2年生共非常に少ない。時間外利用については食物栄養学科の1年生が38%程度と高く、次いで経営情報コースの1年生が30%前後と高くなっている。ここでもデザイン情報コースの利用は見られない。

(2)CG系の利用状況

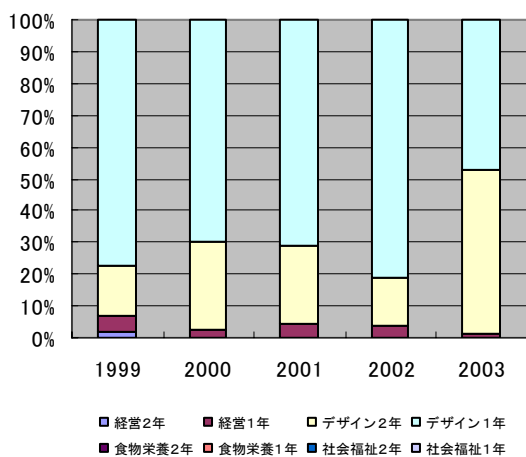
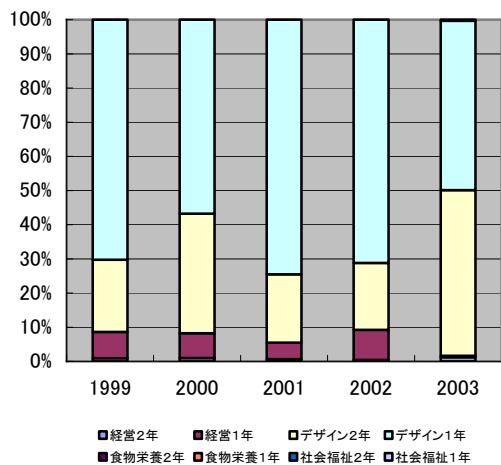
CG系システムは図4からも明らかなようにデザイン情報コースが主に使用するシステムである。年間の利用状況としては表2-1に示すようにほぼ一定している。ここでの特徴は1999年の8月こそ平均の42%に落ち込んだものの他は長期休業中も高い利用数を示していることである。これはWindows系と異なる点である。

年度毎の動きでもWindows系でみられた様な1999年度から2002年度にかけての利用者数の減少傾向はみられない。しかし新システムとなった2003年度に急激な伸びを示しているのはWindows系と同じであるが、その伸びは300%弱と驚異的な値となっている。

時間外利用についてみると、年間の動きとしては7月と1月にピークがあり極端に多くなっている。年度毎の動きとしては2000年度と2001年度の少々下がったものの2002年度には1999年度レベルに復活し、2003年度には約500%の伸びとなった。

このような動きは平均接続時間数にも見られる。1999年度に1時間42分であったものが2000年度、2001年度に少し減少し2002年度には1時間45分と盛り返している。2003年度

は1時間59分と15分近く伸びており、新システムの導入は使用機会の増加にとどまらず接続時間の増加にも結びついている。



左:総数

右:時間外利用

図 4:CG 系 月平均のべ人日数に占める学科コース学年別の割合

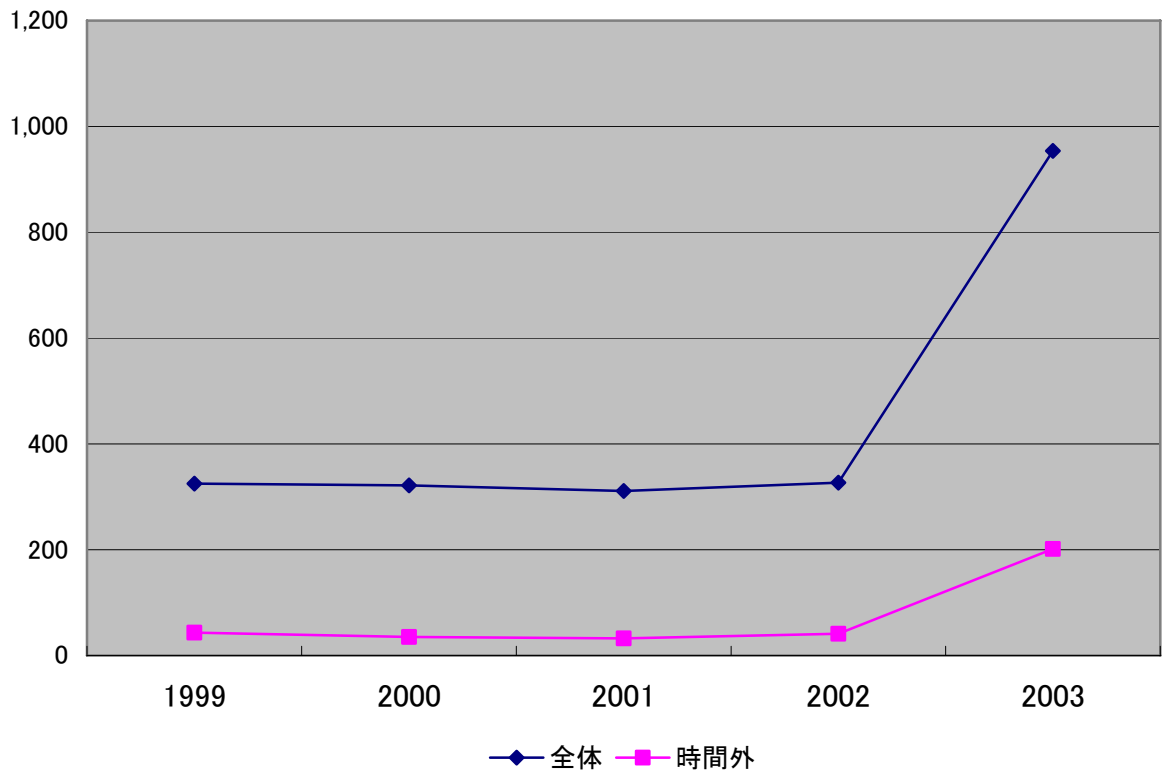


図 5:CG 系 月平均のべ人日数の推移

表 2-1:CG 系 年度別月別のべ使用人日数(全学科合計)

年度	1999	2000	2001	2002	2003
4 月	276	285	216	285	資料無し
5 月	339	331	301	321	資料無し
6 月	376	363	305	347	資料無し
7 月	374	368	337	354	資料無し
8 月	139	315	333	274	資料無し
9 月	389	221	273	283	資料無し
10 月	376	374	341	362	資料無し
11 月	342	364	369	357	1148
12 月	295	355	316	359	267
1 月	373	332	333	資料無し	1,693
2 月	369	323	309	資料無し	1,326
3 月	253	230	301	資料無し	335
平均	325	322	311	327	954

表 2-2:CG 系 年度別月別のべ使用人数(全学科合計:時間外)

年度	1999	2000	2001	2002	2003
4 月	9	5	2	4	資料無し
5 月	25	65	9	18	資料無し
6 月	95	37	34	21	資料無し
7 月	103	82	78	81	資料無し
8 月	9	26	9	0	資料無し
9 月	7	4	12	7	資料無し
10 月	63	34	35	54	資料無し
11 月	34	35	32	54	154
12 月	33	32	40	90	39
1 月	97	68	78	資料無し	418
2 月	41	22	51	資料無し	361
3 月	3	10	10	資料無し	36
平均	43	35	33	41	202

表 2-3:CG 系 年度別月別のべ使用時間数(全体)

年度	1999	2000	2001	2002	2003
4 月	391 時間 08 分	385 時間 33 分	349 時間 40 分	364 時間 43 分	資料無し
5 月	333 時間 25 分	438 時間 06 分	354 時間 28 分	494 時間 23 分	資料無し
6 月	607 時間 20 分	530 時間 46 分	526 時間 42 分	521 時間 12 分	資料無し
7 月	712 時間 22 分	672 時間 04 分	749 時間 06 分	665 時間 42 分	資料無し
8 月	211 時間 39 分	497 時間 46 分	562 時間 11 分	369 時間 19 分	資料無し
9 月	681 時間 57 分	267 時間 48 分	288 時間 44 分	399 時間 41 分	資料無し
10 月	610 時間 31 分	450 時間 31 分	470 時間 32 分	598 時間 13 分	資料無し
11 月	608 時間 10 分	511 時間 29 分	436 時間 54 分	798 時間 18 分	2022 時間 15 分
12 月	498 時間 24 分	485 時間 14 分	550 時間 27 分	1044 時間 35 分	494 時間 54 分
1 月	846 時間 25 分	706 時間 58 分	659 時間 21 分	資料無し	3929 時間 53 分
2 月	787 時間 27 分	625 時間 14 分	536 時間 58 分	資料無し	2865 時間 20 分
3 月	451 時間 57 分	402 時間 43 分	509 時間 48 分	資料無し	637 時間 03 分
平均	561 時間 44 分	497 時間 51 分	499 時間 34 分	584 時間 01 分	1989 時間 53 分

表 2-4:CG 系 年度別月別平均使用時間数(全体:のべ使用時間/のべ使用人数)

年度	1999	2000	2001	2002	2003
4月	1時間25分	1時間21分	1時間37分	1時間16分	資料無し
5月	0時間59分	1時間19分	1時間10分	1時間32分	資料無し
6月	1時間36分	1時間27分	1時間43分	1時間30分	資料無し
7月	1時間54分	1時間49分	2時間13分	1時間52分	資料無し
8月	1時間31分	1時間34分	1時間41分	1時間20分	資料無し
9月	1時間45分	1時間12分	1時間03分	1時間24分	資料無し
10月	1時間37分	1時間12分	1時間22分	1時間39分	資料無し
11月	1時間46分	1時間24分	1時間11分	2時間14分	1時間45分
12月	1時間41分	1時間22分	1時間44分	2時間54分	1時間51分
1月	2時間16分	2時間07分	1時間58分	資料無し	2時間19分
2月	2時間08分	1時間56分	1時間44分	資料無し	2時間09分
3月	1時間47分	1時間45分	1時間41分	資料無し	1時間54分
平均	1時間42分	1時間32分	1時間36分	1時間45分	1時間59分

表 2-5:設置場所別に見た PC1 台当たりの 1 日平均利用回数(2003 年度)

設置位置	演習室 A	演習室 B	図書館	玄関	CG
回数	0.5	0.6	5.5	3.9	0.85

学生相談員

I 目的及び目標

1. 目的

少子化時代を迎え、従来にも増して、資質・興味・関心などの点において、多様な学生が入学してきている。また、近年の社会経済情勢の変化に対応して、学生を取り巻く環境も大きく変化している。このような中で、文部省は平成12年6月に「大学における学生生活の充実方策について」をとりまとめ、学生相談機能を学生の人間形成を促すものとして捉え直し、大学教育の一環として位置づけている。

本学の学生相談は、さまざまな悩みと問題を抱えている学生に対して、学生の立場に立った視点から、次に掲げる基本理念の共通理解の下、適宜・適切な学生相談活動を行い、自立した学生を社会に送り出すことを目的としている。

- ① 学生相談は学生の抱えるどんな問題にも責任をもって対応する。個人的な心配ごとや、勉学、進路、対人関係、健康、家族のことにいたるまで、「よろず相談」を基本とする。
- ② 問題の解決にあたっては、相談に関わるすべての人々の理解と協力の下、連携を密にする。
- ③ 精神衛生上の内面的な問題を抱える学生に対しては、非常勤カウンセラーの支援を仰ぐなど、専門的な立場から、責任ある助言・指導を行う。
- ④ 長期の治療を必要とする心の病の場合は、相談者の意向を尊重し精神科医師の診療を勧める。
- ⑤ 大学の学生相談は、学生に対するサービス機関であると同時に、研究機関でもある。学生相談員は、責任ある助言・指導を行うために自己研鑽に努める。

2. 目標

学生一人ひとりが充実した学生生活を送れるように学生相談機能の充実を図り、きめ細やかな責任ある対応をすることで、問題を抱えている学生の悩みを少しでも和らげ解決に導く。

II 評価項目ごとの自己評価

1. 学生相談員の運営体制

(1) 学生相談体制

学生相談は、各学科(教養基礎、産業情報、食物栄養、社会福祉)から選出された4名の学生相談員と会津大学のカウンセラー(臨床心理士)の5名により対応してきたが、平成16年1月からは、本学に非常勤カウンセラー1名を配置し、現在、6名体制で相談活動を行っている。

(2) 学生相談の周知及び公表に関する取組状況

学生に対しては、年度始めのガイダンス時に学生相談のしおりを配布し、学生相談の目的、趣旨、利用方法・利用時間等の周知を行っている。また、学生便覧や学内ホームページの掲載方法を工夫するとともに、折に触れて学生相談の周知徹底を行っている。

(3) 特に優れた点及び改善点等

学生相談の運営に関して優れた点は、各学科から選出された学生相談員が、気軽に相談できる雰囲気づくりに努めていることである。

また、心理的な問題を抱えている学生に対しては、会津大学学生相談室や本学の非常勤カウンセラーと相互連携をとり、責任ある助言・指導を行っている。

また、相談することを人に知られたくない場合や、早急に相談したい場合には、相談者の意向を配慮して電話やメールによる相談にも応じている。

2. 学生相談の実施に関する取組状況

(1) 学生相談の利用状況

平成 11 年度から平成 15 年度の5年間における学生相談利用状況は、次のとおりである。

年度	会津大学学生相談室 非常勤カウンセラー		本学非常勤カウンセ ラー		本学学生相談員	
	実数(人)	延数(人)	実数(人)	延数(人)	実数(人)	延数(人)
平成 11 年度	4	20	—	—	32	49
平成 12 年度	8	50	—	—	19	26
平成 13 年度	6	33	—	—	27	38
平成 14 年度	10	54	—	—	17	26
平成 15 年度	16	49	2	5	31	95

(電話・メールによる相談を含む)

相談内容は、学業、人間関係、身体健康、進路、家族、経済問題、不登校、心理(性格、無気力)、心の健康等多種多様である。心の病に関する相談は比較的少ないが、近年増傾向にあり、重くなっている。

(2) 学生相談の質の向上及び改善のための取組等

- ① 適宜、学生相談員会議を開催し、相談活動の充実と円滑化に努めている。
- ② 平成5年度からは、全国学生相談研修会や北海道・東北地区メンタルヘルス研究協議会に参加し、学生相談員各人の相談業務の質的向上に努めている。
- ③ 長期欠席者や学生の単位取得状況などの教務情報から、学生へのアプローチを積極的に行い、長期欠席者や学業成績不振者の悩みごとを把握し、早期の問題解決に努めている。

3. 特に優れた点及び改善点等

(1) 特に優れた点

学生相談は、人間に対する深い関心と愛情をもって個々人の悩みごとを理解できたときに初めて大きな成果がもたらされるものである。また、学生の悩みや問題にストレートに入るのではなく、学生の話をよく聞き個々の学生の立場からアプローチを行い、考え方、行動の仕方、生き方について学生とともに考え、学生自らが解決する途を見据えながら助言・指導を行う必要がある。このような観点から、学生相談員各人が責任ある助言・指導を行ってきた結果、重い心の病を抱える学生以外は、普通の学生生活が送れるようになっており、十分に評価される場所である。

(2) 学生相談における今後の課題

現代学生は「心の悩み」への対処能力が低下している傾向がみられ、学生相談を通じて、人間として成長し成熟することを援助する必要がある。いかに自立した人間を社会に送り出すかが、学生相談活動の主目的であり、大学に対する社会的要請でもある。本学の教育現場全体が学生相談の重要性を再認識し、今後とも大学として責任ある助言・指導を心がけていくことがますます重要となってきている。

セクシャルハラスメント防止委員会

I 目的及び目標

1. 目的

本委員会は、「会津大学短期大学部におけるセクシャルハラスメントの防止及び排除並びにセクシャルハラスメントに起因する問題に適切に対応するため」(セクシャルハラスメント防止委員会規程1条、以下「規程」)、平成15年7月に設置された。

2. 目標

本委員会の目標は、以下の事柄への対応である(規程3条1項)。

- ① セクシャルハラスメントの調査及びその対応に関すること。
- ② セクシャルハラスメント防止に関する広報及び啓蒙に関すること。
- ③ その他セクシャルハラスメントの防止に関すること。

II 評価項目ごとの自己評価

1. セクシャルハラスメント防止委員会の運営体制

(1) 委員会活動の整備に関する取組状況

昨年12月15日に、第一回委員会を開催した。

(2) 目的及び目標の趣旨の周知及び公表に関する取組状況

目的及び目標の趣旨の周知をはかるため、本学ホームページにセクハラ防止に関するページを設けることとし、これを実施した。

(3) 特に優れた点及び改善点等

優れた点は以下の通り。

- ① ページ内に、「セクハラ防止対策概略」と題するフローを設けた。
- ② 規程をダウンロードできるようにした。

改善点は以下の通り。

- ① ビジュアル的に見やすいものにしていきたい。

2. 相談の取組状況

(1) 相談に関する取組状況

相談はなかった。

(2) 特に優れた点及び改善点等

学内窓口について、その存在を周知し、学生が相談しやすい体制を整えたい。

3. 啓蒙の達成状況

(1)啓蒙の達成状況

本学ホームページに、セクシャルハラスメントに関するページを設けたこともあり、セクシャルハラスメント防止委員会の存在を周知することができた。

(2) 特に優れた点及び改善点等

改善点は以下の通り

- ①学内にパンフレットを置くとさらに周知が徹底すると思われるので、検討したい。
- ②セクシャルハラスメントに関する講演会を開催したい。各人にセクハラとは何か、どうしたらセクハラを防止できるか(教員、職員、学生のセクハラに対する対応)について知る必要があるからである。講演会は、学内のすべての人が講演を聴くという形をとるのが効果的であるとする。
- ③セクハラ理解のためのビデオ、資料、書籍をそろえる。
現在、本学のセクハラ防止委員ならびに教職員、学生は、セクハラについて勉強不足である。加害者にも被害者にもならないため、関連ビデオ、資料、書籍をそろえる必要がある。特に相談員は、関連ビデオを見たり、書籍を読む必要がある。

4. 学生相談の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 学生相談の質の向上及び改善の取組に結び付けるシステムの整備及び機能状況 立ち上がったばかりであり、整備や機能状況について述べることはできない。

(2) 特に優れた点及び改善点等

本委員会は立ち上がったばかりであるが、改善すべきであると思われる点はある。

本委員会の仕組みでは、委員会に相談がもちこまれ、委員会での審議の結果「セクハラを行った」との認定がなされれば、ほぼ自動的に加害側の教職員は処罰の対象となるが、実際には相談員だけで解決できる問題も多く存在する。軽微な問題に迅速に対応できるよう、委員の構成を変更する必要がある。具体的には、①委員の数を減らし、軽微な問題に迅速に対応できるよう改善する。②懲罰に係る事案については、学部長、各学科長を「懲罰委員」という形で加え、事案の処理にあたる。

大分大学では、調停委員会、イコール・パートナーシップ委員会、調査委員会を設け、事例の重大さ、被害者の要望を鑑みて対応する組織を作っている。本学でもこのような仕組みを取り入れる必要がある。

自己評価総括委員会

I 目的及び目標

1. 目的

自己評価総括委員会は、本学の目的及び目標がいかに達成されたか自己点検評価し、学内外に公表することを目的としている。その目的は、本学の教育研究活動等の質を高めるために役立てること、また活動状況等を社会に示すことにより地域住民の理解と支持を目指すものである。

大学(短期大学を含む)は、平成16年度から学校教育法第69条の3第2項の規定に基づき、7年以内に外部認証評価機関による評価を受けることが義務づけられた。大学評価・学位授与機構では、短期大学機関別認証評価実施大綱(案)及び短期大学評価基準(機関別認証評価)(案)を取りまとめた。この案は、社会に公開され、短期大学関係者等から幅広く意見が求められ、今後設置される予定の短期大学機関別認証評価委員会(仮称)において、さらに検討が行われ、最終的に決定されるものと思われる。今後は、これらの大綱(案)及び評価基準(機関別認証評価)(案)について検討を行って行く必要がある。

2. 目標

今回は、「学生による授業評価」、「学生による本学評価」及び「卒業生による本学の評価」調査を実施して、教育効果を上げるための授業改善を図ることが目標である。今後は、上記短期大学機関別認証評価実施大綱及び短期大学評価基準(機関別認証評価)を参考にして、自己評価総括のあり方について検討を行って行く必要がある。短期大学評価基準(機関別認証評価)は、下記の11の基準と2つの選択的評価基準からなる。各基準には機構として「各短期大学において満たすことが必要と考えられる内容」が具体的で実質的な評価基準として示されている。また、この基準を満たしているかどうかを判断するための観点として基準ごとに「基本的な観点」が設定されている。まず、原則として全ての基本的な観点到に係る状況を分析、整理することが求められ、それが基準を満たしているか否かを判断するための重要な要素になっていくものと思われる。これら全ての基準を満たしている場合に、短期大学評価基準を満たしていると判断されることになる。

- (1) 基準1 短期大学の目的
- (2) 基準2 教育研究組織(実施体制)
- (3) 基準3 教員及び教育支援者
- (4) 基準4 学生の受入
- (5) 基準5 教育内容及び方法
- (6) 基準6 教育の成果
- (7) 基準7 学生支援等
- (8) 基準8 施設・設備
- (9) 基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム
- (10) 基準10 財務
- (11) 基準11 管理運営

今回は、調査を実施することにより、これらの評価基準に基づいて評価するための資料づくりを第一の目的とした。

Ⅱ 評価項目ごとの自己評価

1. 自己評価総括の実施体制

(1) 実施組織等の整備に関する取組状況

実施体制としては、全学教職員の協力体制の下に行った。

調査により「学生による授業評価」、「学生による本学評価」及び「卒業生による本学の評価」を行った。「学生による授業評価」及び「学生による本学評価」においては、全ての科目について調査を実施した。調査の回答は、学内 LAN の Web 上において直接入力できるシステムを開発し行った。回収率を上げる目的で、質問項目と回答の控えを科目ごとに作成し、各授業後に担当教員の協力により学生に記入してもらった。この控えに基づきコンピュータセンタで学生に Web 上で直接入力してもらった。

「卒業生による本学の評価」においては、本学を卒業して3年、6年、10年経過した全卒業生に郵送により調査した。

(2) 目的及び目標の趣旨の周知及び公表に関する取組状況

学生及び教職員には、事前に調査の趣旨について周知し協力をお願いした。調査結果については、各科目の調査の個人別データおよび集計結果を調査対象科目の担当教員にのみ電子ファイルとして渡した。各教員は、調査結果を各々の責任において分析し、各教員の意見や授業改善などの方向性を明文化して本委員会に提出した。これをまとめて結果報告書とし、学生に対する調査の回答とした。結果報告書を各3冊ずつ図書館及び非常勤講師室に置き、学生及び教員の閲覧に供するとともに、学内の Web 上でも学生及び教員に公表した。原本は電子ファイルにして、丸秘情報として厳重に保管する。(保存期間は10年間とする。)

(3) 特に優れた点及び改善点等

特に優れた点としては、以下の点である。

- 1) 「学生による授業評価」においては、全ての科目について調査を実施した。
- 2) 調査の回答を学内 LAN の Web 上において直接入力できるシステムを開発し行ったこと。結果として、集計業務が簡素化できた。
- 3) 「卒業生による本学の評価」を、本学を卒業して3年、6年、10年経過した全卒業生に郵送により調査したこと。社会に出て活躍している卒業生の評価を反映することができる。
- 4) 各教員の調査結果に対する意見や授業改善などの具体的な計画を明文化して本委員会に提出させた。(これをまとめて結果報告書とし、学生に対する調査の回答とした。結果報告書を各3冊ずつ図書館及び非常勤講師室に置き、学生及び教員の閲覧に供するとともに、学内の Web 上でも学生及び教員に公表した。)

2. 教育方法及び成績評価面での取組

(1) 授業形態、学習(研究)指導法などの教育方法に関する取組状況

授業に IT の積極的な活用を進めている。教職員への講習会を通して、コンピュータセンタ及び各教室においてインターネット及びパワーポイントの活用を進めている。シラバス等の Web 上での公開と履修登録の IT 化なども行った。成績管理も Web 上で入力しデータベースとして管理できるようにした。

FD について先端的に取り組んでいる東北大学に講師を依頼し、講演会を実施した(東北大学 齋藤紘一教授 2003 年 2 月 26 日)。教員相互の研修としては、教員親和会の席上で各学科・コースから計 4 人の教員に授業の工夫などについて提案してもらい意見交換を行った(2003 年 10 月 24 日)。

(2) 施設・設備の整備・活用に関する取組状況

コンピュータセンタにおいては、学生が一台ずつ専用で使用することが可能となった。各教室には、学内LANを継いでインターネットを授業に活用することが可能となった。また、液晶プロジェクタを設置してパワーポイント等を授業に活用することが可能となった。オープンPCスペースの設置、学内LANを使ったナレッジマネジメントとして進路情報及び読書情報に関して実施している。図書館情報システムの電子化等も行っている。

(3) 特に優れた点及び改善点等

上記のように、IT 技術を積極的に活用することにより、授業等の効率化、深化及び利便性が可能になった。

3. 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 組織としての教育活動及び個々の教員の教育活動を評価する体制

組織としての教育活動としては、「2. 教育方法及び成績評価面での取組」で具体的に示した内容を行っている。

個々の教員の教育活動の評価する体制としては、「1. 自己評価総括の実施体制」の「(2) 目的及び目標の趣旨の周知及び公表に関する取組状況」で述べたとおりである。各教員が委員会で集計した各科目の調査結果を各々の責任において分析し、各教員の意見や授業改善などの方向性を明文化して本委員会に提出した。全学的な評価としては、「学生による本学評価」及び「卒業生による本学の評価」を行った。

(2) 評価結果を教育の質の向上及び改善の取組に結び付けるシステムの整備及び機能状況

各教員が委員会に提出した授業改善計画を結果報告書としてまとめて、学生及び教員に対する調査の回答とした。全学的な評価としては、「学生による本学評価」及び「卒業生による本学の評価」を行った。結果報告書を各 3 冊ずつ図書館及び非常勤講師室に置き、学生及び教員の閲覧に供するとともに、学内の Web 上でも学生及び教員に公表した。原本は電子ファイルにして、丸秘情報として厳重に保管する。(保存期間は 10 年間とする。)

(3) 特に優れた点及び改善点等

下記の点が優れた点であると思われる。

- 1) 「学生による授業評価」においては、全ての科目について調査を実施した。
- 2) 調査の回答を学内 LAN の Web 上において直接入力できるシステムを開発し行ったこと。結果として、集計業務が簡素化できた。
- 3) 「卒業生による本学の評価」を、本学を卒業して 3 年、6 年、10 年経過した全卒業生に郵送により調査したこと。社会に出て活躍している卒業生の評価を反映することができる。
- 4) 各教員の調査結果に対する意見や授業改善などの具体的な計画を明文化して本委員会に提出させた。(これをまとめて結果報告書とし、学生に対する調査の回答とした。結果報告書を各 3 冊ずつ図書館及び非常勤講師室に置き、学生及び教員の

閲覧に供するとともに、学内の Web 上でも学生及び教員に公表した。)

5) IT 技術を積極的に活用することにより、授業等の効率化、深化及び利便性が可能になった。

改善点としては、Web 上での調査の回収率が悪かった点である。

2003 年度自己評価総括委員会アンケート調査報告書 在学生および卒業生の基礎調査

はじめに

自己評価総括委員会は、在学生および卒業生の基礎調査により「学生による本学の評価」、「学生による授業評価」および「卒業生による本学の評価」を実施した。

本学の教育の現状を調査分析して、教育効果を上げるための授業改善を図り、本学の教育研究活動等の質を高めるために役立てることが目的である。

また、基礎調査を実施することにより、外部認証評価機関による評価基準に基づいて自己評価するための資料を蓄積することも目的の一つである。

本報告書では、「学生による本学の評価」および「学生による授業評価」について概要を報告する。「卒業生による本学の評価」は、現在、分析を進めている。まとまり次第、本学ホームページに公開する予定である。

「学生による本学の評価」

1. 目的

この基礎調査は、在学生を対象に本学に対する評価を調査したものである。

本学に入学した目的など下記の 6 群に分類して 1 年生は計 49 項目、2 年生は計 51 項目を五件法により調査した。

- (1) 本学に入学した目的について
- (2) 上記の目的に対する現時点での達成度について
- (3) 本学で学んでいる現時点での全体的な印象について
- (4) 教養基礎科目の授業、カリキュラムについて
- (5) 専門科目の授業、カリキュラムについて
- (6) 本学の将来のあり方などについて

2. 調査対象

本学の全学生を基礎調査の対象とした。1 年生と 2 年生に分けて各々質問項目を作成し実施した。

3. 調査期間

2004 年 1 月に Web 上で入力してもらった。

4. 調査方法

本学教員 時野谷 茂教授(会津大学短期大学部研究年報 第 61 号)が開発した Web 上で入力するシステムによりアンケート調査を行った。このシステムは、学生が Web 上のアンケート入力システムに各々入力するものである。(次頁以降の担当者別作業の流れ(表 1)、システムの概要図(図 1)、アンケート回答フロー(図 2)を参照のこと)。

質問項目は 1 年生と 2 年生に分けて作成した。質問項目「V 専門科目の授業、カリキュラムについて」は、学年および学科毎に独自の質問を作成した。

回答は、学期末に基礎調査用紙(控え)(1 年生 表 2、2 年生 表 3)を配付して、コンピュータセンタにおいて Web 上で入力してもらった。

表 1 担当者別作業の流れ

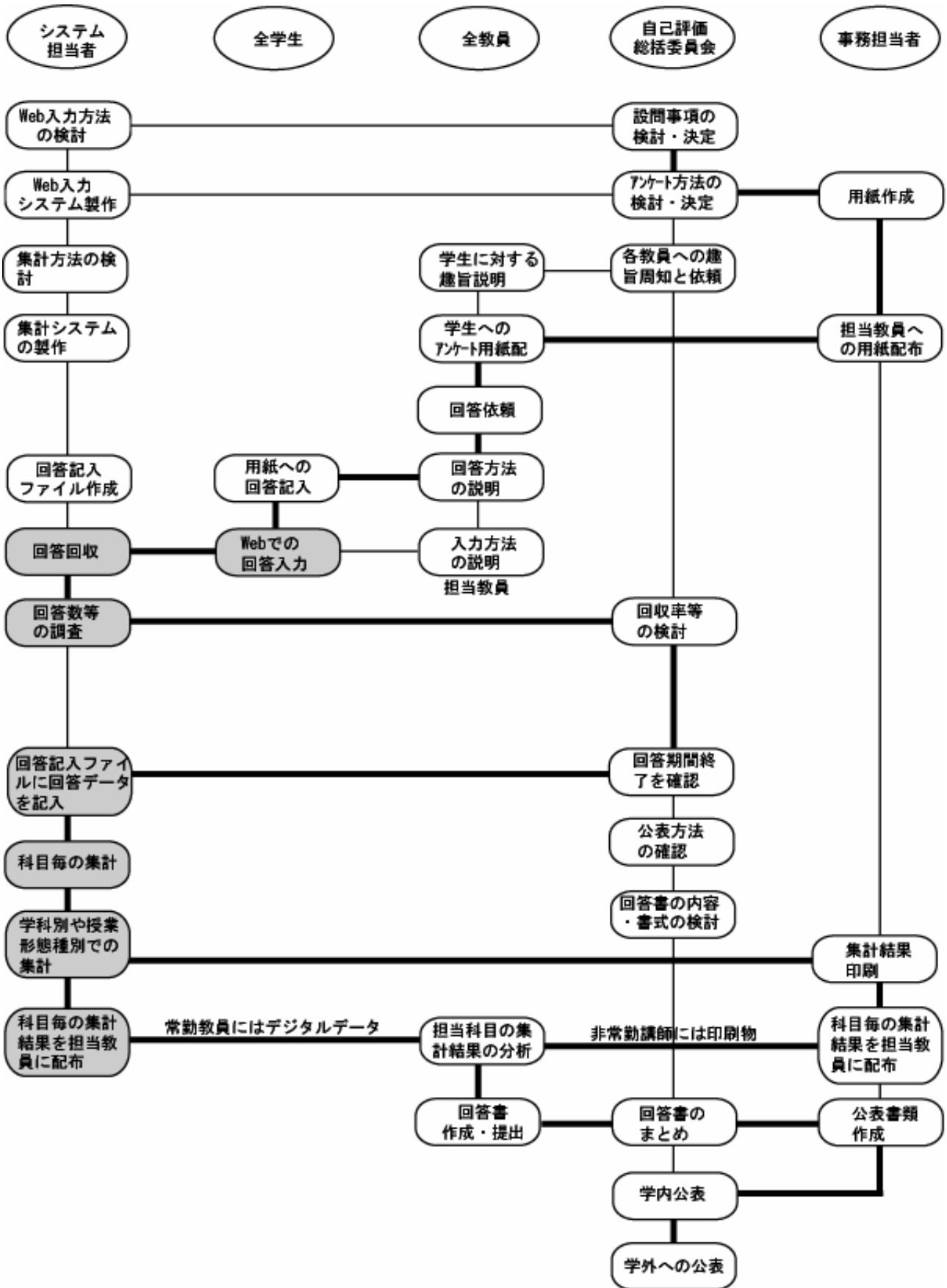
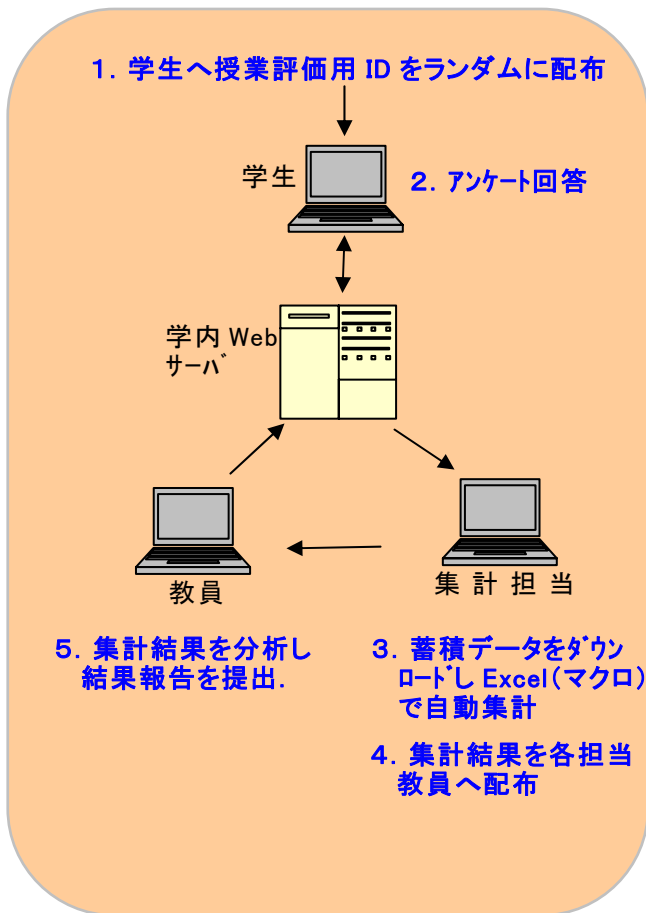


図1. 概要図

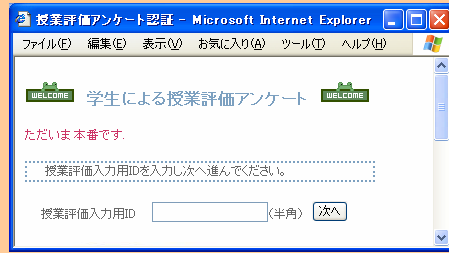


③では、

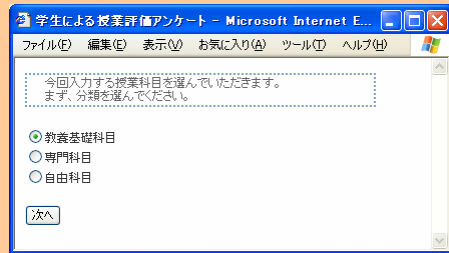
- 学生所属の学科・コースにより履修可能な授業科目のみを表示。(選択肢の簡素化)
- 回答済みの授業科目は選択できないように表示。(多重送信の回避)

図2. アンケート回答フロー

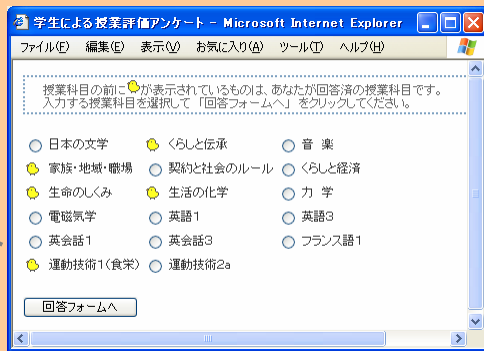
① 授業評価用IDによる認証を行う。



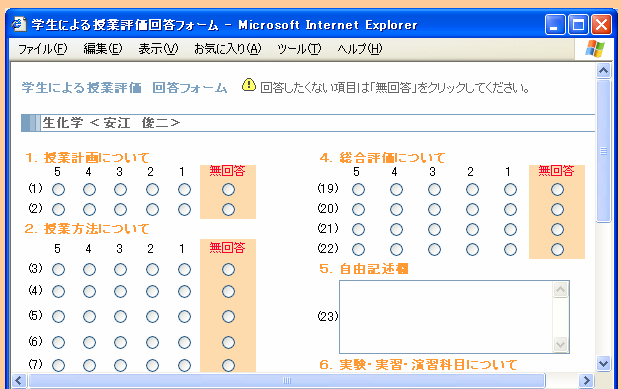
② 科目分類を選択する。



③ 回答する授業科目を選択す



④ アンケート回答フォームに入力し送信す



⑤ 終了。(続ける場合は②へリンクする)

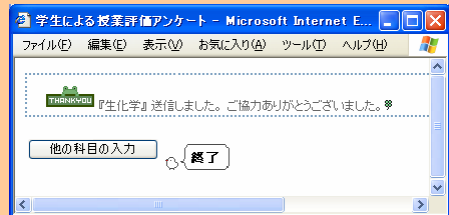


表2 学生による本学の評価 [学 科 名 1年生] (控え)

このアンケート調査は1年間本学で学んだ皆さんの本学に対する評価を伺うものです。アンケートの結果は広く公表すると共に、本学の一層の発展のために役立ててゆきます。皆さんの率直なご意見を聞かせて下さい。このアンケート用紙(控え)に記入後、コンピュータセンターにおいて Web 上でアンケート回答フォームに入力して下さい。質問項目Ⅱ、Ⅲの質問「その他」については、あなた自身の質問項目がありましたら具体的に内容を記入して、その評価を5段階でお願いいたします。

自己評価総括委員会

I 本学へ入学した目的について伺います (あてはまる番号を○でかこんで下さい)

	そ う 思 う	そい うく 思ら うか	いど えち なら いと も	思あ わま なり いそ う	思そ わう ない
(1)将来の職業に役立つ資格を取得するため	5	4	3	2	1
(2)すぐ役に立つ実践的知識・技術・技能を身につけるため	5	4	3	2	1
(3)専門分野の学問を体系的に修得するため	5	4	3	2	1
(4)自分の学力の向上をめざすため	5	4	3	2	1
(5)広く教養を身につけ総合的能力を向上させるため	5	4	3	2	1
(6)サークル活動や社会活動を通じて人間性を養うため	5	4	3	2	1
(7)その他 (具体的に書いて下さい)					
()	5	4	3	2	1

II 上記の目的に対する現時点での達成度について伺います

(8)入学時の目的を達成できている	5	4	3	2	1
(9)将来の職業に役立つ資格を取得できる予定である	5	4	3	2	1
(10)実践的知識・技術・技能を身につけることができている	5	4	3	2	1
(11)専門分野の学問を修得することができている	5	4	3	2	1
(12)自分の学力は向上している	5	4	3	2	1
(13)広く教養が身につけ総合的能力が向上している	5	4	3	2	1
(14)サークル活動等を通じて人間性を養うことができている	5	4	3	2	1
(15)その他 (具体的に書いて下さい)					
()	5	4	3	2	1

III 本学で学んでいる現時点での全体的な印象について

(16)本学での学生生活に満足している	5	4	3	2	1
(17)自分自身の勉学に満足している	5	4	3	2	1
(18)専門学科の授業に満足している	5	4	3	2	1

(19)授業はおおむね理解できている	5	4	3	2	1
(20)高校までに学んだこととのギャップを感じたことがある	5	4	3	2	1
(21)授業はきちんと行われている	5	4	3	2	1
(22)教員の授業内容・授業方法におおむね満足している	5	4	3	2	1
(23)教員とのふれあいに満足している	5	4	3	2	1
(24) さらに勉強したくなった	5	4	3	2	1
(25)コンピュータ教育に満足している	5	4	3	2	1
(26)学科課程、カリキュラムは現代社会の必要性に答えている	5	4	3	2	1
(27)単位数や選択・必修科目について満足している	5	4	3	2	1

IV 教養基礎科目の授業、カリキュラムについて

(28)授業は自分の将来に大いに役立つ	5	4	3	2	1
(29)教育目的の一つである「豊かな人間性の形成」に役立った	5	4	3	2	1
(30)「幅広く深い教養と総合的な判断力を養う」のに役立った	5	4	3	2	1
(31)専門を学び、理解する上で役立った	5	4	3	2	1
(32)選択の幅を増やすための並列開講はやむを得ない	5	4	3	2	1
(33)科目の種類・数は今のままでよい	5	4	3	2	1
(34)学科課程、カリキュラムは現代社会の必要性に答えている	5	4	3	2	1
(35)単位数や選択・必修科目について満足している	5	4	3	2	1
(36) 教養基礎科目について、開設して欲しい科目、不要と思う科目があったら書いて下さい。					

(37) その他教養基礎科目のカリキュラムに関する希望を書いて下さい。

V 専門学科の授業、カリキュラムについて

(38)専門科目に関連した資格が取れた方がよい	5	4	3	2	1
(39)コンピューター関連科目に満足している	5	4	3	2	1
(40)欠番（他学科の質問項目との関係で欠番としました。）					
(41) 専門教育科目について、開設して欲しい科目、不要と思う科目があったら書いて下さい。					

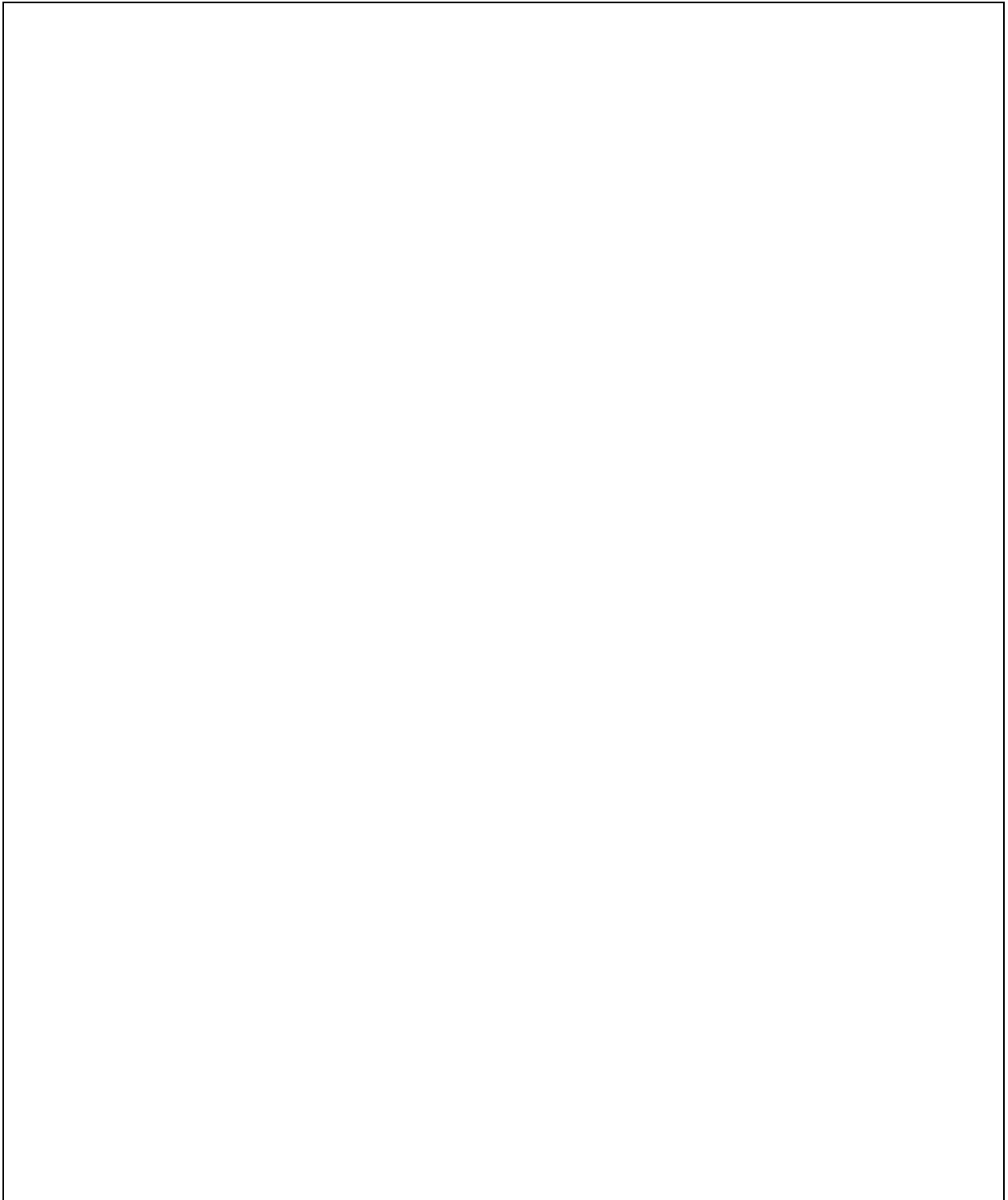
(42) その他専門教育科目のカリキュラムに関する希望を書いて下さい。

--

VI 本学の将来のあり方などについてのご意見を伺います

(43)短大2年卒業後、1～2年の専攻科があれば受講したい	5	4	3	2	1
(44)職業に従事する者に対して行われる教育・研修制度（リカレント教育）があれば卒業後に受講したい	5	4	3	2	1
(45)時代にあった整備・充実を図りつつ短期大学として発展した方がよい	5	4	3	2	1
(46)2年間の教育では不足なので、将来は四年制大学を目指した方がよい	5	4	3	2	1
(47)四年制大学と短期大学の併設が望ましい	5	4	3	2	1
(48)会津大学への編入制度をもっと改善すべきだ	5	4	3	2	1
(49)他大学の科目を履修する制度があった方がよい	5	4	3	2	1

VII (50)アンケートの内容以外にも気づかれた点があると思います。本学へのさまざまな思いを、下の欄に自由に書いて下さい。



<注意>この用紙はアンケート控えです。コンピュータセンターで入力して下さい。

表3 学生による本学の評価 [学 科 名 2年生] (控え)

このアンケート調査は2年間本学で学んだ皆さんの本学に対する評価を伺うものです。アンケートの結果は広く公表すると共に、本学の一層の発展のために役立ててゆきます。皆さんの率直なご意見を聞かせて下さい。このアンケート用紙(控え)に記入後、コンピュータセンターにおいて Web 上でアンケート回答フォームに入力して下さい。質問項目Ⅱ、Ⅲの質問「その他」については、あなた自身の質問項目がありましたら具体的に内容を記入して、その評価を5段階でお願いいたします。

自己評価総括委員会

I 本学へ入学した目的について伺います (あてはまる番号を○でかこんで下さい)

	そ う 思 う	そい うく 思ら うか	いど えち なら いと も	思あ わま なり いそ う	思そ わう ない
(1)将来の職業に役立つ資格を取得するため	5	4	3	2	1
(2)すぐ役に立つ実践的知識・技術・技能を身につけるため	5	4	3	2	1
(3)専門分野の学問を体系的に修得するため	5	4	3	2	1
(4)自分の学力の向上をめざすため	5	4	3	2	1
(5)広く教養を身につけ総合的能力を向上させるため	5	4	3	2	1
(6)サークル活動や社会活動を通じて人間性を養うため	5	4	3	2	1
(7)その他 (具体的に書いて下さい)					
()	5	4	3	2	1

II 上記の目的に対する達成度について伺います

(8)入学時の目的を達成できた	5	4	3	2	1
(9)将来の職業に役立つ資格を取得できる予定である	5	4	3	2	1
(10)実践的知識・技術・技能を身につけることができた	5	4	3	2	1
(11)専門分野の学問を修得することができた	5	4	3	2	1
(12)自分の学力は向上した	5	4	3	2	1
(13)広く教養を身につけ総合的能力の向上がはかれた	5	4	3	2	1
(14)サークル活動等を通じて人間性を養うことができた	5	4	3	2	1
(15)その他 (具体的に書いて下さい)					
()	5	4	3	2	1

III 本学で学んだ全体的な印象について

(16)本学での学生生活に満足している	5	4	3	2	1
(17)自分自身の勉学に満足している	5	4	3	2	1
(18)専門学科の授業に満足している	5	4	3	2	1

(19)授業はおおむね理解できた	5	4	3	2	1
(20)高校までに学んだこととのギャップを感じたことがある	5	4	3	2	1
(21)授業はきちんと行われていた	5	4	3	2	1
(22)教員の授業内容・授業方法におおむね満足している	5	4	3	2	1
(23)教員とのふれあいに満足した	5	4	3	2	1
(24)短大を卒業するに当たってさらに勉強したくなった	5	4	3	2	1
(25)コンピュータ教育に満足できた	5	4	3	2	1
(26)学科課程、カリキュラムは現代社会の必要性にんでいた	5	4	3	2	1
(27)単位数や選択・必修科目について満足できた	5	4	3	2	1

IV 教養基礎科目の授業、カリキュラムについて

(28)授業は自分の将来に大いに役立つものであった	5	4	3	2	1
(29)教育目的の一つである「豊かな人間性の形成」に役立った	5	4	3	2	1
(30)「幅広く深い教養と総合的な判断力を養う」のに役立った	5	4	3	2	1
(31)専門を学び、理解する上で役立った	5	4	3	2	1
(32)選択の幅を増やすための並列開講はやむを得ない	5	4	3	2	1
(33)科目の種類・数は今のままでよい	5	4	3	2	1
(34)学科課程、カリキュラムは現代社会の必要性にんでいた	5	4	3	2	1
(35)単位数や選択・必修科目について満足できた	5	4	3	2	1
(36) 教養基礎科目について、開設して欲しい科目、不要と思う科目があったら書いて下さい。					

(37) その他教養基礎科目のカリキュラムに関する希望を書いて下さい。

V 専門学科の授業、カリキュラムについて

(38)専門科目に関連した資格が取れた方がよい	5	4	3	2	1
(39)卒業研究と発表会は今の通りでよい	5	4	3	2	1
(40)コンピュータ関連科目に満足できた	5	4	3	2	1
(41)欠番（他学科の質問項目との関係で欠番にしました。）					
(42)欠番（他学科の質問項目との関係で欠番にしました。）					
(43) 専門教育科目について、開設して欲しい科目、不要と思う科目があったら書いて下さい。					

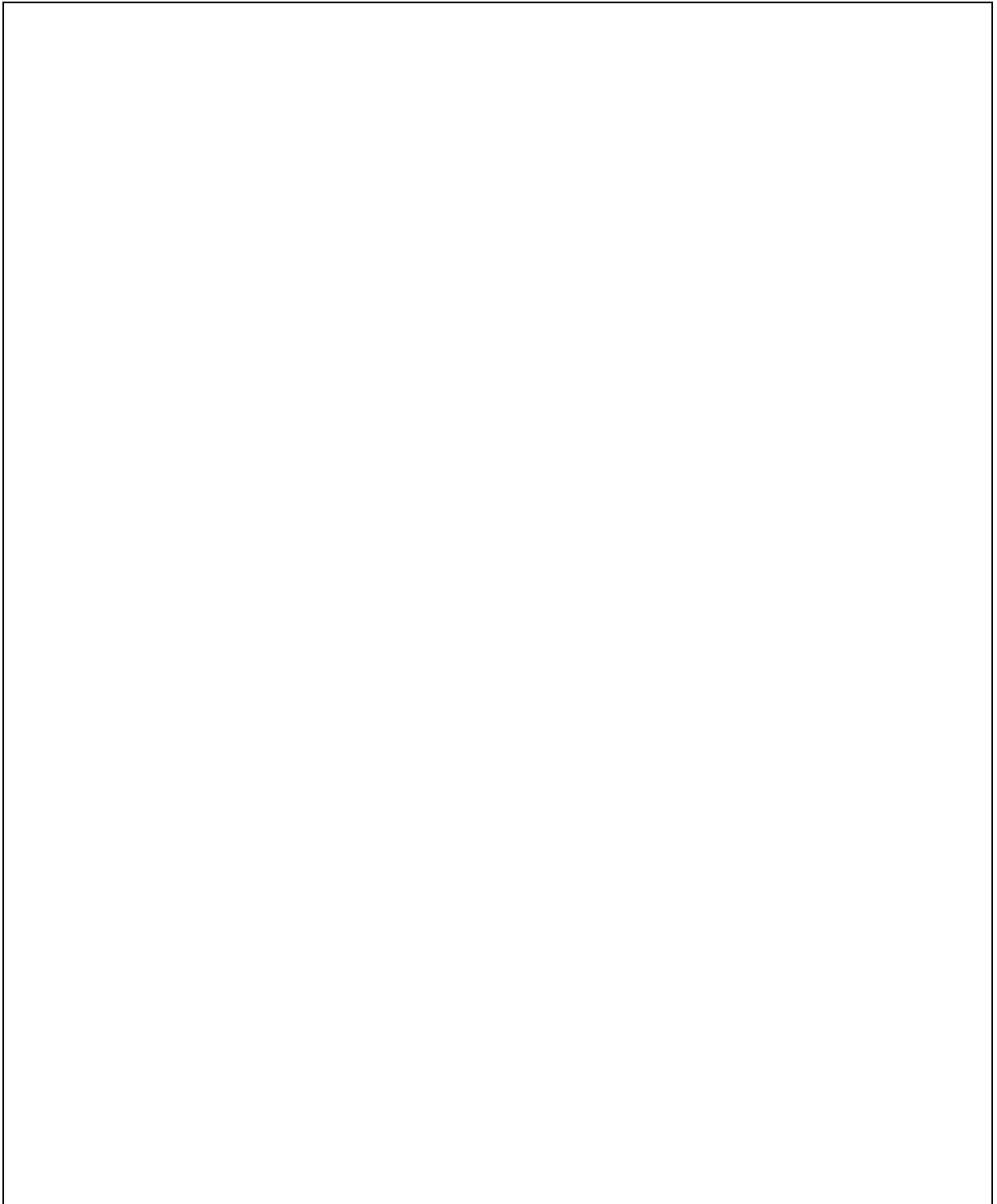
(44)その他専門教育科目のカリキュラムに関する希望を書いて下さい。

--

VI 本学の将来のあり方などについてのご意見を伺います

(45)短大2年卒業後、1～2年の専攻科があれば受講したい	5	4	3	2	1
(46)職業に従事する者に対して行われる教育・研修制度（リカレント教育）があれば受講したい	5	4	3	2	1
(47)時代にあった整備・充実を図りつつ短期大学として発展した方がよい	5	4	3	2	1
(48)2年間の教育では不足なので、将来は四年制大学を目指した方がよい	5	4	3	2	1
(49)四年制大学と短期大学の併設が望ましい	5	4	3	2	1
(50)会津大学への編入制度をもっと改善すべきだ	5	4	3	2	1
(51)他大学の科目を履修する制度があった方がよい	5	4	3	2	1

VII (52)本学の卒業を目前にした皆さんには、アンケートの内容以外にも気づかれた点があると思います。本学へのさまざまな思いを、下の欄に自由に書いて下さい。



<注意>この用紙はアンケート控えです。コンピュータセンターで入力して下さい。

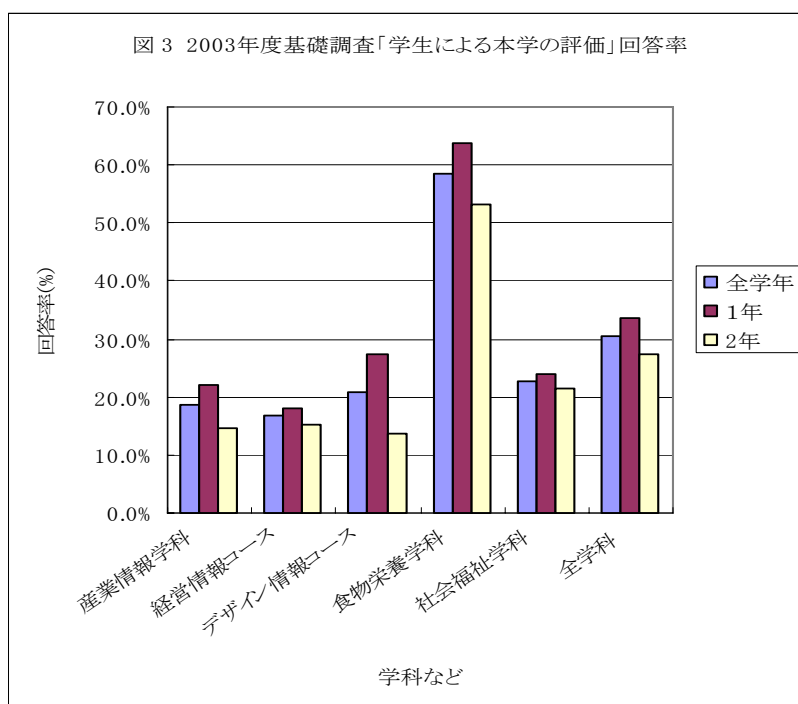
5. 基礎調査の回収結果

本基礎調査において、産業情報学科および社会福祉学科の回答率(表4、図3)は30%未満と低かった。食物栄養学科は、1年生が約64%、2年生が53%の回答率であった。食物栄養学科の回答率が50%を超えた理由として、コンピュータセンタで行われた授業の後に入力をお願いしたことが上げられる。回答率が低かった理由としては、コンピュータセンタ以外の教室における授業の後に基礎調査用紙(控え)を配付したために、センタに行って入力するという煩わしさがその原因として考えられる。

今回は、回答率が低く全体を反映しているとは言い難い。今後は、回答率を上げるために基礎調査の入力方法などについて検討する必要がある。例えば、コンピュータセンタで基礎調査の回答を一斉入力してもらうなどの方法が効果的であると考えられる。

表4 2003年度基礎調査「学生による本学の評価」回答率

学科等	在籍者・配布数			回答者数(人)			回答率(%)		
	全学年	1年	2年	全学年	1年	2年	全学年	1年	2年
産業情報学科	140	72	68	26	16	10	18.6%	22.2%	14.7%
経営情報コース	78	39	39	13	7	6	16.7%	17.9%	15.4%
デザイン情報コース	62	33	29	13	9	4	21.0%	27.3%	13.8%
食物栄養学科	89	44	45	52	28	24	58.4%	63.6%	53.3%
社会福祉学科	101	50	51	23	12	11	22.8%	24.0%	21.6%
全学科	330	166	164	101	56	45	30.6%	33.7%	27.4%



6. 集計方法および分析方法

1年生と2年生および各学科に分けて集計した。産業情報学科の経営情報コースとデザイン情報コースについては、各コースの回答者が少なかったため、統計処理の関係から併合して産業情報学科とした。学科間における各質問項目の差の検定は Kruskal-Wallis 検定により行った。Kruskal-Wallis 検定が有意な質問項目については、さらに Peritz の検定により各学科間の差の検定を行った。学科以外の各質問項目の回答は、五件法で行ったので回答のカテゴリは順序尺度である。抛って、質問項目間の相関関係については Kendall の τ_b により順位相関分析を行った。

7. 結果および考察

(1) 本学へ入学した目的について

質問項目「(1)将来の職業に役立つ資格を取得するため」の回答において、1、2年生ともに、食物栄養学科と社会福祉学科のグループ中央値がそれぞれ4.77、4.83および4.50、4.80と非常に高い値を示した。産業情報学科の値よりも有意に高かった。この結果から、食物栄養学科および社会福祉学科に入学した学生は、栄養士および保育士等の資格を取得して就職することを目的としていることが考えられる。産業情報学科の値は、2.89、2.75と低く資格の取得にはこだわっていないようである。(表5、6)

その他の入学目的として、質問項目(2)実践的知識、(3)体系的学問、(4)学力向上などおよび(5)広い教養などは各学科において高い値を示していたが、(6)人間性を養うはあまり高い値を示していなかった。

表5 本学へ入学した目的について(1年生)
(学科別グループ中央値 検定結果)

質問項目	産業情報学科 グループ中央値	食物栄養学科 グループ中央値	社会福祉学科 グループ中央値	全学科 グループ中央値	Kruskal-Wallis 検定	尤度比 検定
(1)資格の取得	2.89 bb,cc	4.77 aa	4.50 aa	4.39	**	**
(2)実践的知識	3.62 bb,cc	4.48 aa	4.22	4.21	*	*
(3)体系的修得	4.17	4.37	4.45	4.34		
(4)学力向上	3.80	4.09	4.10	4.02		
(5)広い教養	3.86	3.77 c	4.50 b			
(6)人間性を養う	2.57 c	3.21	3.63 a	3.17		

注:Kruskal-Wallis検定 :各質問項目における各学科間の値の差の検定;* P<0.05, ** P<0.01
 注:尤度比検定 :各質問項目と学科間の適合度検定;* P<0.05, ** P<0.01
 注:数字の下のaa :Peritzの検定で産業情報学科に対してP<0.01で有意な差がみられた。
 注:数字の下のa :Peritzの検定で産業情報学科に対してP<0.05で有意な差がみられた。
 注:数字の下のbb :Peritzの検定で食物栄養学科に対してP<0.01で有意な差がみられた。
 注:数字の下のb :Peritzの検定で食物栄養学科に対してP<0.05で有意な差がみられた。
 注:数字の下のcc :Peritzの検定で社会福祉学科に対してP<0.01で有意な差がみられた。
 注:数字の下のc :Peritzの検定で社会福祉学科に対してP<0.05で有意な差がみられた。

表6 本学へ入学した目的について(2年生)
(学科別グループ中央値 検定結果)

質問項目	産業情報学科 グループ中央値	食物栄養学科 グループ中央値	社会福祉学科 グループ中央値	全学科 グループ中央値	Kruskal-Wallis 検定
(1)資格の取得	2.75 bb,cc	4.83 aa	4.80 aa	4.62	**
(2)実践的知識	4.14	4.48	4.33	4.38	
(3)体系的修得	4.00	4.57	4.60	4.50	
(4)学力向上	4.33	4.39	3.86	4.26	
(5)広い教養	4.00	4.00	4.00	4.00	
(6)人間性を養う	3.63	4.12	3.60	3.88	

注:Kruskal-Wallis検定 :各質問項目における各学科間の値の差の検定;* P<0.05, ** P<0.01

学年ごとに、各質問項目の間の相関関係について順位相関分析を行った。各質問項目の回答が順序尺度であるため順位相関分析(Kendallの τ_b)を行った。(表7、表8)

表7 本学へ入学した目的について(1年生)(1年生)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ_b))

降順	(1)資格の取得		(2)実践的知識		(3)体系的修得		(4)学力向上	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.556(**)	(2)実践的知識	0.556(**)	(1)資格の取得	0.532(**)	(2)実践的知識	0.619(**)	(5)広い教養
2	0.492(**)	(9)資格取得予定	0.532(**)	(3)体系的修得	0.488(**)	(1)資格の取得	0.466(**)	(12)学力向上
3	0.488(**)	(3)体系的修得	0.371(**)	(4)学力向上	0.447(**)	(4)学力向上	0.447(**)	(3)体系的修得
4	0.296(**)	(14)人間性を養う	0.334(**)	(9)資格取得予定	0.319(*)	(45)短期大学発展	0.405(**)	(21)きちんと授業
5	0.294(*)	(47)短大四大併設	0.279(*)	(17)勉学に満足	0.303(*)	(27)科目単位満足	0.371(**)	(2)実践的知識
6	-0.235(*)	(22)授業内容満足			0.290(*)	(47)短大四大併設	0.368(**)	(29)豊かな人間性
7	-0.232(*)	(32)並列開講理解			0.255(*)	(9)資格取得予定	0.366(**)	(35)科目単位満足
8					0.252(*)	(17)勉学に満足	0.335(**)	(13)教養身につく
9					0.248(*)	(10)知識身につく	0.318(**)	(19)授業を理解
10							0.309(**)	(17)勉学に満足
11							0.288(*)	(34)課程の現代性
12							0.284(*)	(14)人間性を養う
13							0.274(*)	(30)総合的判断力
14							0.255(*)	(6)人間性を養う
15							0.245(*)	(27)科目単位満足
16							0.234(*)	(20)高校ギャップ

降順	(5)広い教養		(6)人間性を養う	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.619(**)	(4)学力向上	0.530(**)	(14)人間性を養う
2	0.460(**)	(12)学力向上	0.446(**)	(5)広い教養
3	0.451(**)	(13)教養身につく	0.390(**)	(31)専門理解役立
4	0.446(**)	(6)人間性を養う	0.333(**)	(13)教養身につく
5	0.424(**)	(21)きちんと授業	0.256(*)	(34)課程の現代性
6	0.382(**)	(29)豊かな人間性	0.255(*)	(4)学力向上
7	0.357(**)	(31)専門理解役立	0.246(*)	(35)科目単位満足
8	0.336(**)	(19)授業を理解		
9	0.314(**)	(30)総合的判断力		
10	0.288(*)	(34)課程の現代性		
11	0.270(*)	(18)専門授業満足		
12	0.264(*)	(20)高校ギャップ		
13	0.256(*)	(32)並列開講理解		
14	0.251(*)	(17)勉学に満足		

注:(*) P<0.05、(**) P<0.01 以下同様

表8 本学へ入学した目的について(2年生)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ_b))

降順	(1)資格の取得		(2)実践的知識		(3)体系的修得		(4)学力向上	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.710(**)	(9)資格取得予定	0.617(**)	(3)体系的修得	0.617(**)	(2)実践的知識	0.558(**)	(5)広い教養
2	0.339(*)	(2)実践的知識	0.421(**)	(4)学力向上	0.491(**)	(29)豊かな人間性	0.515(**)	(12)学力向上
3	0.275(*)	(48)四年制目指す	0.417(**)	(46)リカレント教育	0.473(**)	(4)学力向上	0.473(**)	(3)体系的修得
4			0.410(**)	(5)広い教養	0.439(**)	(12)学力向上	0.471(**)	(13)教養身につく
5			0.362(**)	(29)豊かな人間性	0.430(**)	(5)広い教養	0.428(**)	(28)将来に役立つ
6			0.339(*)	(1)資格の取得	0.418(**)	(11)専門修得	0.421(**)	(2)実践的知識
7			0.321(*)	(9)資格取得予定	0.391(**)	(23)教員ふれあい	0.385(**)	(26)課程の現代性
8					0.368(**)	(30)総合的判断力	0.383(**)	(6)人間性を養う
9					0.368(**)	(46)リカレント教育	0.377(**)	(11)専門修得
10					0.347(*)	(27)科目単位満足	0.377(**)	(30)総合的判断力
11					0.342(*)	(13)教養身につく	0.333(*)	(29)豊かな人間性
12					0.341(*)	(26)課程の現代性	-0.327(*)	(49)短大四大併設
13					0.321(*)	(32)並列開講理解	0.316(*)	(17)勉学に満足
14					0.313(*)	(9)資格取得予定	0.283(*)	(18)専門授業満足
15					0.307(*)	(21)きちんと授業	0.275(*)	(46)リカレント教育
16					0.302(*)	(10)知識身につく		
17					-0.295(*)	(49)短大四大併設		

降順	(5)広い教養		(6)人間性を養う	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.558(**)	(4)学力向上	0.406(**)	(50)会大編入改善
2	0.477(**)	(13)教養身につく	0.391(**)	(24)さらに勉強
3	0.455(**)	(46)リカレント教育	0.383(**)	(4)学力向上
4	0.451(**)	(29)豊かな人間性	0.356(**)	(12)学力向上
5	0.433(**)	(30)総合的判断力	0.354(*)	(51)単位互換制度
6	0.430(**)	(3)体系的修得	0.318(*)	(14)人間性を養う
7	0.429(**)	(12)学力向上	0.303(*)	(46)リカレント教育
8	0.410(**)	(2)実践的知識	0.295(*)	(5)広い教養
9	0.386(**)	(35)科目単位満足		
10	0.379(**)	(11)専門修得		
11	0.376(**)	(17)勉学に満足		
12	0.372(**)	(31)専門理解役立		
13	0.328(*)	(32)並列開講理解		
14	0.327(*)	(28)将来に役立つ		
15	0.308(*)	(26)課程の現代性		
16	0.295(*)	(6)人間性を養う		
17	0.274(*)	(22)授業内容満足		
18	0.256(*)	(18)専門授業満足		

1 年生において、質問項目(1)資格の取得(将来の職業に役立つ資格を取得するため)は、質問項目(2)実践的知識(すぐに役立つ実践的知識・技術・技能を身につけるため)、質問項目(9)資格取得予定(将来の職業に役立つ資格を取得できる予定である)、および質問項目(3)体系的修得(専門分野の学問を体系的に修得するため)と中程度の有意な相関関係を示した。つまり、質問項目(1)資格の取得を目的とする学生は、質問項目(2)実践的知識および質問項目(3)体系的修得をめざし、質問項目(9)資格取得予定であることがわかった。(順位相関分析の結果、統計的に有意でKendallの τ_b が0.4以上の場合は、前述のように表現する。また、Kendallの τ_b が0.7以上の場合は強い相関関係または高い相関関係と表現する。)質問項目(2)実践的知識をめざす学生は、質問項目(1)資格の取得および質問項目(3)体系的修得(専門分野の学問を体系的に修得するため)をめざしていることがわかった。質問項目(4)学力向上をめざす学生は、質問項目(5)広い教養、質問項目(12)学力向上しており、質問項目(3)体系的修得などをめざしていることがわかった。質問項目(5)広い教養と総合的能力の向上をめざす学生は、質問項目(4)学力向上、質問項目(12)学力向上し質問項目(13)広い教養が身につけており、質問項目(6)人間性を養うことをめざしていることがわかった。

2 年生においては、質問項目(1)資格の取得と質問項目(9)資格取得予定に強い相関関係があり、資格の取得を目指して入学した学生は資格を取得できる予定であることがわかった。質問項目(2)実践的知識をめざす学生は、質問項目(3)体系的修得、質問項目(4)学力向上、質問項目(46)リカレント教育および質問項目(5)広い教養などをめざしていることがわかった。質問項目(3)体系的修得をめざす学生は、質問項目(2)実践的知識、質問項目(29)豊かな人間性、質問項目(4)学力向上、質問項目(12)学力向上、質問項目(5)広い教養および質問項目(11)専門修得などをめざしていることがわかった。質問項目(5)広い教養をめざす学生は、現に質問項目(12)学力向上しており、教養基礎科目が質問項目(30)総合的判断力および質問項目(29)豊かな人間性に役立ち質問項目(13)広い教養と総合的判断力が向上し、さらに質問項目(4)学力向上、質問項目(2)実践的知識をめざし(46)リカレント教育を希望していることがわかった。(表7、表8)

(2) 入学した目的に対する現時点での達成度について

質問項目(9)資格取得予定において、1、2年生ともに、食物栄養学科と社会福祉学科のグループ中央値がそれぞれ4.17、4.58および4.33、4.60と高い値を示した。産業情報学科の2.62、2.25に対していずれも有意に高い値であった。

1 年生については、質問項目(8)目的を達成、質問項目(10)知識身につく、質問項目(11)専門修得、質問項目(12)学力向上、質問項目(13)広い教養、質問項目(13)教養身につくおよび質問項目(14)人間性を

養うにおいて各学科ともグループ中央値が 3.5 内外と低く、達成度はあまりよくない。

2 年生において、産業情報学科は、質問項目(11)専門修得、(13)教養身につくの値がそれぞれ 4.25、4.17 と高かった。しかし、質問項目(12)学力向上しているが 3.50 であった。食物栄養学科においては、質問項目(10)知識身につく、質問項目 (9)資格取得予定および質問項目(11)専門修得において、それぞれ 4.23、4.58、4.11 と高かった。しかし、質問項目(13)教養身につくでは、3.47 と低かった。社会福祉学科についてはいずれも高い値を示していた。(表 9、表 10)

表 9 入学した目的に対する現時点での達成度について(1 年生)
(学科別グループ中央値 検定結果)

質問項目	産業情報学科 グループ中央値	食物栄養学科 グループ中央値	社会福祉学科 グループ中央値	全学科 グループ中央値	Kruskal-Wallis 検定	尤度比 検定
(8)目的を達成	3.14	3.30	3.36	3.27		
(9)資格取得予定	2.62 bb,cc	4.17 aa	4.33 aa	3.82	**	**
(10)知識身につく	3.54	3.67	3.67	3.63		
(11)専門修得	3.69	3.58	3.50	3.60		
(12)学力向上	3.43	3.35	3.55	3.42		
(13)教養身につく	3.62	3.55	3.73	3.61		
(14)人間性を養う	2.38 b,c	3.39 a	3.60 a	3.23	*	*

注:Kruskal-Wallis検定 :各質問項目における各学科間の値の差の検定;* P<0.05, ** P<0.01
注:尤度比検定 :各質問項目と学科間の適合度検定;* P<0.05, ** P<0.01

表 10 入学した目的に対する現時点での達成度について(2 年生)
(学科別グループ中央値 検定結果)

質問項目	産業情報学科 グループ中央値	食物栄養学科 グループ中央値	社会福祉学科 グループ中央値	全学科 グループ中央値	Kruskal-Wallis 検定
(8)目的を達成	3.71 c	3.80 c	4.50 a,b	3.97	*
(9)資格取得予定	2.25 bb,cc	4.58 aa	4.60 aa	4.36	**
(10)知識身につく	3.67	4.23	4.27	4.16	
(11)専門修得	4.25	4.11	4.36	4.21	
(12)学力向上	3.50	3.63	4.00	3.70	
(13)教養身につく	4.17	3.47	3.89	3.69	
(14)人間性を養う	3.60	3.63	4.13	3.75	

注:Kruskal-Wallis検定 :各質問項目における各学科間の値の差の検定;* P<0.05, ** P<0.01

順位相関分析では、1 年生において、質問項目(10)知識身につくと思っている学生は、質問項目(11)専門修得および質問項目(12)学力向上しており、質問項目(13)教養身につく総合的能力が向上していると感じていることがわかった。質問項目(12)学力向上している質問項目(13)教養身につくの間には強い正の相関関係があった。

質問項目(6)人間性を養うことをめざしている学生は、質問項目(14)人間性を養うことができていることがわかった。(表 11)

表 11 入学した目的に対する現時点での達成度について(1年生)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ_b))

降順	(8)目的を達成		(9)資格取得予定		(10)知識身につく		(11)専門修得	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.377(**)	(27)科目単位満足	0.492(**)	(1)資格の取得	0.683(**)	(11)専門修得	0.683(**)	(10)知識身につく
2	0.338(**)	(13)教養身につく	0.334(**)	(2)実践的知識	0.549(**)	(12)学力向上	0.547(**)	(12)学力向上
3	0.306(*)	(17)勉学に満足	0.319(**)	(47)短大四大併設	0.467(**)	(13)教養身につく	0.502(**)	(13)教養身につく
4	0.299(*)	(19)授業を理解	0.259(*)	(16)本学に満足	0.355(**)	(24)さらに勉強	0.432(**)	(18)専門授業満足
5	0.278(*)	(18)専門授業満足	0.255(*)	(3)体系的修得	0.312(*)	(35)科目単位満足	0.409(**)	(19)授業を理解
6	0.269(*)	(44)カント教育	0.246(*)	(14)人間性を養う	0.301(*)	(27)科目単位満足	0.355(**)	(21)きちんと授業
7	0.268(*)	(24)さらに勉強			0.276(*)	(22)授業内容満足	0.349(**)	(22)授業内容満足
8	0.267(*)	(12)学力向上			0.270(*)	(17)勉学に満足	0.329(**)	(27)科目単位満足
9	0.237(*)	(14)人間性を養う			0.256(*)	(19)授業を理解	0.324(**)	(24)さらに勉強
10					0.254(*)	(47)短大四大併設	0.306(**)	(17)勉学に満足
11					0.252(*)	(21)きちんと授業	0.292(*)	(16)本学に満足
12					0.248(*)	(3)体系的修得	0.269(*)	(28)将来に役立つ
13							0.260(*)	(26)課程の現代性
14							0.257(*)	(25)コンピュータ満足
15							0.256(*)	(35)科目単位満足
16							0.242(*)	(31)専門理解役立

降順	(12)学力向上		(13)教養身につく		(14)人間性を養う	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.720(**)	(13)教養身につく	0.720(**)	(12)学力向上	0.530(**)	(6)人間性を養う
2	0.549(**)	(10)知識身につく	0.542(**)	(19)授業を理解	0.317(**)	(16)本学に満足
3	0.547(**)	(11)専門修得	0.502(**)	(11)専門修得	0.296(**)	(1)資格の取得
4	0.466(**)	(4)学力向上	0.478(**)	(29)豊かな人間性	0.284(*)	(4)学力向上
5	0.460(**)	(5)広い教養	0.467(**)	(10)知識身につく	0.280(*)	(13)教養身につく
6	0.430(**)	(19)授業を理解	0.451(**)	(5)広い教養	0.279(*)	(29)豊かな人間性
7	0.391(**)	(29)豊かな人間性	0.443(**)	(30)総合的判断力	0.277(*)	(18)専門授業満足
8	0.382(**)	(30)総合的判断力	0.437(**)	(35)科目単位満足	0.266(*)	(35)科目単位満足
9	0.374(**)	(17)勉学に満足	0.405(**)	(24)さらに勉強	0.258(*)	(27)科目単位満足
10	0.339(**)	(21)きちんと授業	0.362(**)	(27)科目単位満足	0.246(*)	(9)資格取得予定
11	0.336(**)	(18)専門授業満足	0.348(**)	(21)きちんと授業	0.237(*)	(8)目的を達成
12	0.326(**)	(24)さらに勉強	0.338(**)	(8)目的を達成		
13	0.299(*)	(23)教員ふれあい	0.335(**)	(4)学力向上		
14	0.292(*)	(35)科目単位満足	0.333(**)	(6)人間性を養う		
15	0.288(*)	(31)専門理解役立	0.330(**)	(17)勉学に満足		
16	0.275(*)	(27)科目単位満足	0.322(**)	(31)専門理解役立		
17	0.267(*)	(8)目的を達成	0.304(**)	(18)専門授業満足		
18	0.251(*)	(48)会大編入改善	0.302(*)	(28)将来に役立つ		
19	0.250(*)	(49)単位互換制度	0.291(*)	(26)課程の現代性		
20			0.280(*)	(14)人間性を養う		
21			0.279(*)	(49)単位互換制度		
22			0.259(*)	(22)授業内容満足		
23			0.257(*)	(48)会大編入改善		
24			0.250(*)	(32)並列開講理解		

2年生において、質問項目(8)目的を達成できている学生には、質問項目(26)課程の現代性(学科課程、カリキュラムは現代社会の必要性に込えている)を認めており、質問項目(17)(自分自身の)勉学に満足しており、質問項目(21)きちんと授業が行われており、質問項目(31)(教養基礎科目が)専門理解(に)役立ち、質問項目(16)本学に満足、質問項目(27)(専門)科目単位満足し、質問項目(35)(教養基礎)科目単位満足していることがわかった。

質問項目(9)資格取得予定の学生と質問項目(1)資格の取得を目指している学生の間には強い相関関係がみられた。質問項目(11)専門修得することができている学生は、質問項目(32)並列開講(を)理解しており、質問項目(31)(教養基礎科目が)専門理解(に)役立っていることを認識し、質問項目(10)知識身につく、質問項目(13)教養身につく、質問項目(18)専門授業満足、質問項目(27)科目単位満足、質問項目(34)(教養基礎科目の)カリキュラム課程の現代性、質問項目(26)(専門学科)課程の現代性を認識、質問項目(29)(教養基礎科目が)豊かな人間性の形成、質問項目(30)総合的判断力に役立っていると思っ

表 12 入学した目的に対する現時点での達成度について(2年生)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ_b))

降順	(8)目的を達成		(9)資格取得予定		(10)知識身につく		(11)専門修得	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.537(**)	(26)課程の現代性	0.710(**)	(1)資格の取得	0.561(**)	(11)専門修得	0.588(**)	(32)並列開講理解
2	0.493(**)	(17)勉学に満足	0.489(**)	(10)知識身につく	0.489(**)	(9)資格取得予定	0.562(**)	(31)専門理解役立
3	0.487(**)	(21)きちんと授業	0.321(*)	(2)実践的知識	0.409(**)	(33)科目現行よい	0.561(**)	(10)知識身につく
4	0.458(**)	(31)専門理解役立	0.313(*)	(3)体系的修得	0.385(**)	(13)教養身につく	0.560(**)	(13)教養身につく
5	0.434(**)	(16)本学に満足	0.292(*)	(23)教員ふれあい	0.360(**)	(18)専門授業満足	0.554(**)	(18)専門授業満足
6	0.430(**)	(27)科目単位満足	0.278(*)	(46)リカレント教育	0.322(*)	(32)並列開講理解	0.498(**)	(27)科目単位満足
7	0.417(**)	(35)科目単位満足	0.276(*)	(35)科目単位満足	0.319(*)	(14)人間性を養う	0.498(**)	(34)課程の現代性
8	0.394(**)	(11)専門修得	0.270(*)	(19)授業を理解	0.318(*)	(31)専門理解役立	0.495(**)	(26)課程の現代性
9	0.365(**)	(28)将来に役立つ			0.302(*)	(3)体系的修得	0.491(**)	(29)豊かな人間性
10	0.351(**)	(34)課程の現代性			0.301(*)	(12)学力向上	0.484(**)	(30)総合的判断力
11	0.317(*)	(23)教員ふれあい			0.285(*)	(30)総合的判断力	0.460(**)	(33)科目現行よい
12	0.316(*)	(12)学力向上			0.282(*)	(29)豊かな人間性	0.455(**)	(35)科目単位満足
13	-0.295(*)	(49)短大四大併設			0.265(*)	(24)さらに勉強	0.439(**)	(12)学力向上
14	0.283(*)	(32)並列開講理解					0.418(**)	(3)体系的修得
15	0.267(*)	(18)専門授業満足					0.398(**)	(21)きちんと授業
16	0.266(*)	(30)総合的判断力					0.394(**)	(8)目的を達成
17							0.387(**)	(17)勉学に満足
18							0.379(**)	(5)広い教養
19							0.377(**)	(4)学力向上
20							0.358(**)	(22)授業内容満足
21							0.353(**)	(28)将来に役立つ
22							0.336(*)	(14)人間性を養う
23							0.333(*)	(23)教員ふれあい
24							0.308(*)	(19)授業を理解
25							0.295(*)	(16)本学に満足

降順	(12)学力向上		(13)教養身につく		(14)人間性を養う	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.684(**)	(13)教養身につく	0.684(**)	(12)学力向上	0.349(**)	(24)さらに勉強
2	0.588(**)	(26)課程の現代性	0.631(**)	(31)専門理解役立	0.336(*)	(11)専門修得
3	0.578(**)	(28)将来に役立つ	0.630(**)	(29)豊かな人間性	0.319(*)	(10)知識身につく
4	0.578(**)	(31)専門理解役立	0.575(**)	(30)総合的判断力	0.318(*)	(6)人間性を養う
5	0.557(**)	(17)勉学に満足	0.560(**)	(11)専門修得	0.286(*)	(45)専攻科受講
6	0.554(**)	(30)総合的判断力	0.532(**)	(17)勉学に満足	0.264(*)	(23)教員ふれあい
7	0.515(**)	(4)学力向上	0.483(**)	(18)専門授業満足	0.258(*)	(13)教養身につく
8	0.511(**)	(27)科目単位満足	0.477(**)	(5)広い教養		
9	0.486(**)	(29)豊かな人間性	0.471(**)	(4)学力向上		
10	0.470(**)	(34)課程の現代性	0.471(**)	(28)将来に役立つ		
11	0.461(**)	(35)科目単位満足	0.423(**)	(27)科目単位満足		
12	0.452(**)	(18)専門授業満足	0.411(**)	(26)課程の現代性		
13	0.439(**)	(3)体系的修得	0.395(**)	(19)授業を理解		
14	0.439(**)	(11)専門修得	0.385(**)	(10)知識身につく		
15	0.439(**)	(19)授業を理解	0.379(**)	(35)科目単位満足		
16	0.429(**)	(5)広い教養	0.377(**)	(32)並列開講理解		
17	0.392(**)	(32)並列開講理解	0.350(**)	(34)課程の現代性		
18	0.382(**)	(21)きちんと授業	0.349(**)	(21)きちんと授業		
19	0.356(**)	(6)人間性を養う	0.348(**)	(16)本学に満足		
20	0.354(**)	(23)教員ふれあい	0.342(*)	(3)体系的修得		
21	0.351(**)	(16)本学に満足	0.338(**)	(22)授業内容満足		
22	0.316(*)	(8)目的を達成	0.275(*)	(33)科目現行よい		
23	0.308(*)	(22)授業内容満足	0.258(*)	(14)人間性を養う		
24	0.301(*)	(10)知識身につく				
25	0.292(*)	(33)科目現行よい				
26	0.287(*)	(25)コンピュータ満足				
27	0.261(*)	(24)さらに勉強				

質問項目(12)学力向上していると思っている学生は、質問項目(13)教養身につく、質問項目(26)課程の現代性、質問項目(28)(教養基礎科目が自分の)将来に役立つ、質問項目(17)(自分自身の)勉学に満足、質問項目(30)総合的判断力が身についた、質問項目(4)学力向上を目指している、質問項目(27)(専門)科目単位満足、質問項目(29)(教養基礎科目は)豊かな人間性の形成に役立っているなどと思っていることがわかった。質問項目(13)教養身につくについていると思っている学生は、質問項目(12)学力向上している、

質問項目(31)(教養基礎科目が)専門理解に役立っている、質問項目(29)(教養基礎科目が)豊かな人間性の形成に役立っている、質問項目(30)(教養基礎科目が)総合的判断力を養うのに役立っている、質問項目(11)専門修得ができているなどと思っていることがわかった。言い換えると、広く教養が身につく総合的な能力が向上している学生は、教養基礎科目が豊かな人間形成に役立っていること、幅広く深い教養と総合的な判断力を養うのに役立っていること、専門を学び理解する上で役立っていること、さらに専門分野の学問を修得することができること、自分の学力は向上していることなどがわかった。(表 12)

(3) 本学で学んでいる現時点での全体的な印象について

1 年生において、学科間での差の検定をしたところ、質問項目(19)授業を理解および質問項目(22)授業内容満足ของกลุ่ม中央値が食物栄養学科において他科より有意に低い値(3.00,3.06)を示した。質問項目(25)コンピュータ満足ของกลุ่ม中央値においては、社会福祉学科が他科より有意に低い値(2.64)を示した。

全体的にみると、質問項目(17)(自分自身の)勉学に満足しているにおいては、いずれの学科も 3.0 未満と低かった。

各学科別にみると、産業情報学科においては、質問項目(16)本学に満足(3.27)、質問項目(17)勉学に満足(2.83)、質問項目(18)専門授業満足(3.38)、質問項目(27)科目単位満足(3.46)などに 3.5 未満の低い値がみられた。

食物栄養学科においては、質問項目(17)勉学に満足(2.63)、質問項目(18)専門授業満足(3.29)、質問項目(19)授業を理解(3.00)、質問項目(22)授業内容満足(3.06)、質問項目(23)教員ふれあい(3.05)、質問項目(24)さらに勉強(3.30)、質問項目(25)コンピュータ満足(3.33)、質問項目(26)課程の現代性(3.39)、質問項目(27)科目単位満足(3.27)などに 3.5 未満の低い値がみられた。

社会福祉学科においては、質問項目(17)勉学に満足(2.73)、質問項目(18)専門授業満足(3.43)、質問項目(23)教員ふれあい(3.44)、質問項目(25)コンピュータ満足(2.64)、質問項目(26)課程の現代性(3.40)などに 3.0 未満の低い値がみられた。

2 年生においては、学科間での差の検定をしたところ、質問項目(16)本学に満足、質問項目(17)勉学に満足、質問項目(21)きちんと授業、質問項目(24)さらに勉強および質問項目(27)科目単位満足において、グループ中央値が社会福祉学科において他科より有意に高い値(それぞれ 4.64,4.00,4.70,4.60,4.44)を示した。

各学科別にみると、産業情報学科においては、質問項目(17)勉学に満足(3.38)、質問項目(20)高校ギャップ(3.00)および質問項目(26)課程の現代性(3.43)などに 3.5 未満の低い値がみられた。

食物栄養学科においては、質問項目(17)勉学に満足(3.13)、質問項目(20)高校ギャップ(2.93)、質問項目(24)さらに勉強(3.40)、質問項目(25)コンピュータ満足(3.07)、質問項目(27)科目単位満足(3.40)などに 3.5 未満の低い値がみられた。社会福祉学科においては、質問項目(20)高校ギャップ(3.25)において 3.5 未満と低い値を示したが、その他の質問項目については、非常に高い値を示した。基礎調査の回答率の違いもあり一般論としては判断できないが、今後の検討資料として活用したい。

1 年生と 2 年生において、質問項目(20)高校(との)ギャップの値が全学年でそれぞれ 4.10、3.00 であった。2 年生で低い値となるのは、各学科における教育内容が高校とのギャップを改善させているものと考えられる。

表 13 本学で学んでいる現時点での全体的な印象について(1年生)
(学科別グループ中央値 検定結果)

質問項目	産業情報学科 グループ中央値	食物栄養学科 グループ中央値	社会福祉学科 グループ中央値	全学科 グループ中央値	Kruskal-Wallis 検定	尤度比 検定
(16)本学に満足	3.27	3.58	3.67	3.51		
(17)勉学に満足	2.83	2.63	2.73	2.71		
(18)専門授業満足	3.38	3.29	3.43	3.34		
(19)授業を理解	3.67 b	3.00 a,c	3.64 b	3.38	*	*
(20)高校ギャップ	4.00	4.15	4.11	4.10		
(21)きちんと授業	4.43	4.05	4.45	4.27		
(22)授業内容満足	3.90 b	3.06 a,c	3.80 b	3.47	*	*
(23)教員ふれあい	3.89	3.05	3.44	3.34		
(24)さらに勉強	3.75	3.30	3.88	3.51		
(25)コンピュータ満足	3.67 cc	3.33 c	2.64 aa,b	3.28	*	*
(26)課程の現代性	3.53	3.39	3.40	3.44		
(27)科目単位満足	3.46	3.27	3.60	3.40		

注:Kruskal-Wallis検定 :各質問項目における各学科間の値の差の検定;* P<0.05, ** P<0.01
注:尤度比検定 :各質問項目と学科間の適合度検定;* P<0.05, ** P<0.01

表 14 本学で学んでいる現時点での全体的な印象について(2年生)
(学科別グループ中央値 検定結果)

質問項目	産業情報学科 グループ中央値	食物栄養学科 グループ中央値	社会福祉学科 グループ中央値	全学科 グループ中央値	Kruskal-Wallis 検定
(16)本学に満足	3.86 c	3.53 c	4.64 a,b	3.96	**
(17)勉学に満足	3.38	3.13 c	4.00 b	3.42	*
(18)専門授業満足	4.00	3.64	3.75	3.74	
(19)授業を理解	3.56	3.69	4.33	3.80	
(20)高校ギャップ	3.00	2.93	3.25	3.00	
(21)きちんと授業	4.11 c	3.72 cc	4.70 a,bb	4.09	**
(22)授業内容満足	3.88	3.53	4.11	3.76	
(23)教員ふれあい	3.60	3.71	4.36	3.90	
(24)さらに勉強	4.14	3.40 c	4.60 b	4.04	*
(25)コンピュータ満足	3.57	3.07	3.57	3.31	
(26)課程の現代性	3.43	3.60	4.11	3.69	
(27)科目単位満足	3.67	3.40 c	4.44 b	3.73	*

注:Kruskal-Wallis検定 :各質問項目における各学科間の値の差の検定;* P<0.05, ** P<0.01

1年生において順位相関分析をしたところ、質問項目(16)本学(の学生生活)に満足している学生は、質問項目(18)専門授業満足(している)、質問項目(17)(自分自身の)勉学に満足(している)、質問項目(29)(教養基礎科目は)豊かな人間性(の形成に役立っている)、質問項目(23)教員(との)ふれあいに満足していることがわかった。質問項目(17)(自分自身の)勉学に満足している学生は、質問項目(18)専門授業満足(している)、質問項目(23)教員(との)ふれあい(に満足している)、質問項目(16)本学(での学生生活)に満足(している)、質問項目(22)授業内容満足(している)、質問項目(19)授業を理解していることがわかった。

表 15 本学で学んでいる現時点での全体的な印象について(1年生)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ_b))

降順	(16)本学に満足		(17)勉学に満足		(18)専門授業満足		(19)授業を理解	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.480(**)	(18)専門授業満足	0.496(**)	(18)専門授業満足	0.496(**)	(17)勉学に満足	0.565(**)	(24)さらに勉強
2	0.442(**)	(17)勉学に満足	0.481(**)	(23)教員ふれあい	0.488(**)	(19)授業を理解	0.547(**)	(27)科目単位満足
3	0.398(**)	(29)豊かな人間性	0.442(**)	(16)本学に満足	0.485(**)	(22)授業内容満足	0.542(**)	(13)教養身につく
4	0.382(**)	(23)教員ふれあい	0.427(**)	(22)授業内容満足	0.480(**)	(16)本学に満足	0.488(**)	(18)専門授業満足
5	0.357(**)	(27)科目単位満足	0.426(**)	(19)授業を理解	0.432(**)	(11)専門修得	0.488(**)	(29)豊かな人間性
6	0.354(**)	(19)授業を理解	0.374(**)	(12)学力向上	0.382(**)	(23)教員ふれあい	0.460(**)	(22)授業内容満足
7	0.343(**)	(24)さらに勉強	0.369(**)	(24)さらに勉強	0.369(**)	(21)きちんと授業	0.445(**)	(30)総合的判断力
8	0.317(**)	(14)人間性を養う	0.350(**)	(21)きちんと授業	0.361(**)	(24)さらに勉強	0.436(**)	(21)きちんと授業
9	0.316(**)	(26)課程の現代性	0.343(**)	(27)科目単位満足	0.336(**)	(12)学力向上	0.435(**)	(23)教員ふれあい
10	0.292(*)	(11)専門修得	0.337(**)	(26)課程の現代性	0.316(**)	(27)科目単位満足	0.430(**)	(12)学力向上
11	0.283(*)	(30)総合的判断力	0.330(**)	(13)教養身につく	0.313(**)	(31)専門理解役立	0.426(**)	(17)勉学に満足
12	0.269(*)	(22)授業内容満足	0.310(**)	(35)科目単位満足	0.304(**)	(13)教養身につく	0.409(**)	(11)専門修得
13	0.259(*)	(9)資格取得予定	0.309(**)	(4)学力向上	0.291(*)	(28)将来に役立つ	0.371(**)	(35)科目単位満足
14	0.258(*)	(21)きちんと授業	0.306(**)	(11)専門修得	0.289(*)	(35)科目単位満足	0.367(**)	(26)課程の現代性
15	0.257(*)	(35)科目単位満足	0.306(*)	(8)目的を達成	0.278(*)	(8)目的を達成	0.357(**)	(49)単位互換制度
16	0.256(*)	(28)将来に役立つ	0.302(*)	(29)豊かな人間性	0.277(*)	(14)人間性を養う	0.354(**)	(16)本学に満足
17	0.248(*)	(23)科目現行よい	0.279(*)	(2)実践的知識	0.270(*)	(5)広い教養	0.336(**)	(5)広い教養
18	0.236(*)	(25)コンピュータ満足	0.270(*)	(10)知識身につく	0.265(*)	(29)豊かな人間性	0.318(**)	(4)学力向上
19			0.258(*)	(30)総合的判断力	0.255(*)	(33)科目現行よい	0.299(*)	(8)目的を達成
20			0.252(*)	(3)体系的修得			0.277(*)	(31)専門理解役立
21			0.251(*)	(5)広い教養			0.266(*)	(34)課程の現代性
22							0.256(*)	(10)知識身につく
23							0.251(*)	(32)並列開講理解
24							0.242(*)	(28)将来に役立つ

降順	(20)高校ギャップ		(21)きちんと授業		(22)授業内容満足		(23)教員ふれあい	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.293(*)	(21)きちんと授業	0.587(**)	(22)授業内容満足	0.587(**)	(21)きちんと授業	0.564(**)	(22)授業内容満足
2	0.264(*)	(5)広い教養	0.496(**)	(26)課程の現代性	0.564(**)	(23)教員ふれあい	0.508(**)	(24)さらに勉強
3	0.234(*)	(4)学力向上	0.436(**)	(19)授業を理解	0.487(**)	(24)さらに勉強	0.481(**)	(17)勉学に満足
4			0.424(**)	(5)広い教養	0.485(**)	(18)専門授業満足	0.435(**)	(19)授業を理解
5			0.412(**)	(29)豊かな人間性	0.460(**)	(19)授業を理解	0.394(**)	(21)きちんと授業
6			0.405(**)	(4)学力向上	0.427(**)	(17)勉学に満足	0.382(**)	(16)本学に満足
7			0.394(**)	(23)教員ふれあい	0.380(**)	(27)科目単位満足	0.382(**)	(18)専門授業満足
8			0.369(**)	(18)専門授業満足	0.349(**)	(11)専門修得	0.317(**)	(27)科目単位満足
9			0.369(**)	(27)科目単位満足	0.311(**)	(26)課程の現代性	0.299(*)	(12)学力向上
10			0.368(**)	(24)さらに勉強	0.276(*)	(10)知識身につく	0.283(*)	(29)豊かな人間性
11			0.355(**)	(11)専門修得	0.269(*)	(16)本学に満足	0.283(*)	(30)総合的判断力
12			0.350(**)	(17)勉学に満足	0.259(*)	(13)教養身につく		
13			0.348(**)	(13)教養身につく	-0.235(*)	(1)資格の取得		
14			0.339(**)	(12)学力向上				
15			0.307(*)	(32)並列開講理解				
16			0.293(*)	(20)高校ギャップ				
17			0.280(*)	(35)科目単位満足				
18			0.276(*)	(34)課程の現代性				
19			0.274(*)	(28)将来に役立つ				
20			0.271(*)	(31)専門理解役立				
21			0.260(*)	(30)総合的判断力				
22			0.258(*)	(16)本学に満足				
23			0.252(*)	(10)知識身につく				

降順	(24)さらに勉強		(25)コンピュータ満足		(26)課程の現代性		(27)科目単位満足	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.565(**)	(19)授業を理解	0.350(**)	(26)課程の現代性	0.496(**)	(21)きちんと授業	0.547(**)	(19)授業を理解
2	0.508(**)	(23)教員ふれあい	0.338(**)	(34)課程の現代性	0.475(**)	(29)豊かな人間性	0.514(**)	(35)科目単位満足
3	0.487(**)	(22)授業内容満足	0.265(*)	(48)会大編入改善	0.431(**)	(28)将来に役立つ	0.497(**)	(29)豊かな人間性
4	0.429(**)	(29)豊かな人間性	0.257(*)	(11)専門修得	0.391(**)	(34)課程の現代性	0.413(**)	(24)さらに勉強
5	0.413(**)	(27)科目単位満足	-0.247(*)	(45)短期大学発展	0.367(**)	(19)授業を理解	0.410(**)	(32)並列開講理解
6	0.405(**)	(13)教養身につく	0.236(*)	(16)本学に満足	0.363(**)	(31)専門理解役立	0.409(**)	(34)課程の現代性
7	0.396(**)	(30)総合的判断力			0.356(**)	(32)並列開講理解	0.392(**)	(30)総合的判断力
8	0.395(**)	(49)単位互換制度			0.352(**)	(27)科目単位満足	0.380(**)	(22)授業内容満足
9	0.369(**)	(17)勉学に満足			0.350(**)	(25)コンピュータ満足	0.377(**)	(8)目的を達成
10	0.368(**)	(21)きちんと授業			0.345(**)	(30)総合的判断力	0.369(**)	(21)きちんと授業
11	0.364(**)	(28)将来に役立つ			0.337(**)	(17)勉学に満足	0.362(**)	(13)教養身につく
12	0.361(**)	(18)専門授業満足			0.316(**)	(16)本学に満足	0.361(**)	(33)科目現行よい
13	0.357(**)	(31)専門理解役立			0.311(**)	(22)授業内容満足	0.357(**)	(16)本学に満足
14	0.355(**)	(10)知識身につく			0.296(*)	(24)さらに勉強	0.352(**)	(26)課程の現代性
15	0.343(**)	(16)本学に満足			0.291(*)	(13)教養身につく	0.343(**)	(17)勉学に満足
16	0.326(**)	(12)学力向上			0.280(*)	(33)科目現行よい	0.329(**)	(11)専門修得
17	0.324(**)	(11)専門修得			0.270(*)	(49)単位互換制度	0.317(**)	(23)教員ふれあい
18	0.296(*)	(26)課程の現代性			-0.260(*)	(45)短期大学発展	0.316(**)	(18)専門授業満足
19	0.295(*)	(44)リカレント教育			0.260(*)	(11)専門修得	0.303(*)	(3)体系的修得
20	0.268(*)	(8)目的を達成					0.301(*)	(10)知識身につく
21	0.255(*)	(35)科目単位満足					0.275(*)	(12)学力向上
22							0.258(*)	(14)人間性を養う
23							0.245(*)	(4)学力向上

質問項目(18)専門授業満足している学生は、質問項目(17)(自分自身の)勉学に満足(している)、質問項目(19)授業を理解(している)、質問項目(22)授業内容満足(している)、質問項目(16)本学に満足(している)、質問項目(11)専門(分野の学問を)修得していることがわかった。

質問項目(19)授業を理解(できている)学生は、質問項目(24)さらに勉強したくなった、質問項目(27)科目単位満足(している)、質問項目(13)教養身につく、質問項目(18)専門授業満足(している)、質問項目(29)(教養基礎科目は)豊かな人間性(の形成に役立っている)、質問項目(22)授業内容満足(している)、質問項目(30)(教養基礎科目は幅広く深い教養と)総合的判断力(を養うのに役立っている)、質問項目(21)きちんと授業は行われている、質問項目(23)教員(との)ふれあい(にまんぞくしている)、質問項目(12)学力向上(している)ことがわかった。

質問項目(21)きちんと授業が行われていると思っている学生は、質問項目(22)授業内容満足(している)、質問項目(26)課程の(内容は)現代(社会の必要)性に応えている、質問項目(19)授業を理解(している)、質問項目(5)広い教養(を身につけ総合的能力を向上させるために入学した)、質問項目(29)(教養基礎科目は)豊かな人間性(の形成に役立っている)、質問項目(4)学力(が)向上していることがわかった。

質問項目(22)授業内容満足している学生は、質問項目(21)きちんと授業(行われている)、質問項目(23)教員ふれあい(に満足している)、質問項目(24)さらに勉強(したくなった)、質問項目(18)専門授業満足(している)、質問項目(19)授業を理解(できている)、質問項目(17)勉学に満足していることがわかった。

質問項目(23)教員(との)ふれあいに満足している学生は、質問項目(22)授業内容満足、質問項目(24)さらに勉強、質問項目(17)勉学に満足、質問項目(19)授業を理解していることがわかった。

表 16 本学で学んでいる現時点での全体的な印象について(2年生)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(16)本学に満足		(17)勉学に満足		(18)専門授業満足		(19)授業を理解	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.720(**)	(17)勉学に満足	0.720(**)	(16)本学に満足	0.668(**)	(22)授業内容満足	0.647(**)	(35)科目単位満足
2	0.559(**)	(27)科目単位満足	0.557(**)	(12)学力向上	0.612(**)	(27)科目単位満足	0.542(**)	(27)科目単位満足
3	0.544(**)	(22)授業内容満足	0.539(**)	(31)専門理解役立	0.572(**)	(34)課程の現代性	0.502(**)	(23)教員ふれあい
4	0.520(**)	(21)きちんと授業	0.535(**)	(26)課程の現代性	0.554(**)	(11)専門修得	0.498(**)	(18)専門授業満足
5	0.507(**)	(18)専門授業満足	0.532(**)	(13)教養身につく	0.550(**)	(30)総合的判断力	0.481(**)	(30)総合的判断力
6	0.495(**)	(31)専門理解役立	0.530(**)	(27)科目単位満足	0.547(**)	(32)並列開講理解	0.453(**)	(29)豊かな人間性
7	0.479(**)	(24)さらに勉強	0.521(**)	(21)きちんと授業	0.536(**)	(26)課程の現代性	0.439(**)	(12)学力向上
8	0.458(**)	(29)豊かな人間性	0.520(**)	(29)豊かな人間性	0.531(**)	(31)専門理解役立	0.438(**)	(22)授業内容満足
9	0.434(**)	(8)目的を達成	0.493(**)	(8)目的を達成	0.525(**)	(29)豊かな人間性	0.438(**)	(34)課程の現代性
10	0.426(**)	(35)科目単位満足	0.491(**)	(18)専門授業満足	0.510(**)	(35)科目単位満足	0.429(**)	(21)きちんと授業
11	0.420(**)	(30)総合的判断力	0.481(**)	(30)総合的判断力	0.507(**)	(16)本学に満足	0.404(**)	(17)勉学に満足
12	0.409(**)	(23)教員ふれあい	0.469(**)	(35)科目単位満足	0.506(**)	(23)教員ふれあい	0.395(**)	(13)教養身につく
13	0.404(**)	(26)課程の現代性	0.440(**)	(22)授業内容満足	0.498(**)	(19)授業を理解	0.395(**)	(31)専門理解役立
14	0.391(**)	(19)授業を理解	0.426(**)	(28)将来に役立つ	0.491(**)	(17)勉学に満足	0.392(**)	(32)並列開講理解
15	0.351(**)	(12)学力向上	0.404(**)	(19)授業を理解	0.483(**)	(13)教養身につく	0.391(**)	(16)本学に満足
16	0.348(**)	(13)教養身につく	0.387(**)	(11)専門修得	0.480(**)	(33)科目現行よい	0.378(**)	(26)課程の現代性
17	0.334(*)	(46)リカレント教育	0.387(**)	(32)並列開講理解	0.461(**)	(21)きちんと授業	0.308(*)	(11)専門修得
18	0.332(*)	(34)課程の現代性	0.376(**)	(5)広い教養	0.452(**)	(12)学力向上	0.286(*)	(33)科目現行よい
19	0.295(*)	(11)専門修得	0.352(**)	(24)さらに勉強	0.360(**)	(10)知識身につく	0.270(*)	(9)資格取得予定
20	0.270(*)	(28)将来に役立つ	0.324(*)	(34)課程の現代性	0.328(*)	(28)将来に役立つ		
21			0.321(*)	(23)教員ふれあい	0.283(*)	(4)学力向上		
22			0.316(*)	(4)学力向上	0.269(*)	(24)さらに勉強		
23			0.271(*)	(46)リカレント教育	0.267(*)	(8)目的を達成		
24					0.256(*)	(5)広い教養		

降順	(20)高校ギャップ		(21)きちんと授業		(22)授業内容満足		(23)教員ふれあい	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1			0.578(**)	(22)授業内容満足	0.668(**)	(18)専門授業満足	0.624(**)	(27)科目単位満足
2			0.573(**)	(26)課程の現代性	0.660(**)	(27)科目単位満足	0.506(**)	(18)専門授業満足
3			0.551(**)	(27)科目単位満足	0.593(**)	(26)課程の現代性	0.505(**)	(22)授業内容満足
4			0.521(**)	(17)勉学に満足	0.578(**)	(21)きちんと授業	0.502(**)	(19)授業を理解
5			0.520(**)	(16)本学に満足	0.544(**)	(16)本学に満足	0.462(**)	(26)課程の現代性
6			0.487(**)	(8)目的を達成	0.505(**)	(23)教員ふれあい	0.438(**)	(29)豊かな人間性
7			0.486(**)	(32)並列開講理解	0.492(**)	(35)科目単位満足	0.431(**)	(21)きちんと授業
8			0.484(**)	(29)豊かな人間性	0.491(**)	(29)豊かな人間性	0.409(**)	(16)本学に満足
9			0.480(**)	(35)科目単位満足	0.447(**)	(31)専門理解役立	0.391(**)	(3)体系的修得
10			0.461(**)	(18)専門授業満足	0.440(**)	(17)勉学に満足	0.375(**)	(35)科目単位満足
11			0.431(**)	(23)教員ふれあい	0.438(**)	(19)授業を理解	0.354(**)	(12)学力向上
12			0.429(**)	(19)授業を理解	0.424(**)	(34)課程の現代性	0.352(**)	(31)専門理解役立
13			0.428(**)	(31)専門理解役立	0.407(**)	(30)総合的判断力	0.350(**)	(30)総合的判断力
14			0.407(**)	(28)将来に役立つ	0.374(**)	(24)さらに勉強	0.337(**)	(24)さらに勉強
15			0.398(**)	(11)専門修得	0.370(**)	(28)将来に役立つ	0.333(*)	(11)専門修得
16			0.382(**)	(12)学力向上	0.363(**)	(32)並列開講理解	0.324(*)	(34)課程の現代性
17			0.356(**)	(34)課程の現代性	0.358(**)	(11)専門修得	0.321(*)	(17)勉学に満足
18			-0.355(*)	(49)短大四大併設	0.338(**)	(13)教養身につく	0.317(*)	(8)目的を達成
19			0.349(**)	(13)教養身につく	0.308(*)	(12)学力向上	0.311(*)	(32)並列開講理解
20			0.345(**)	(30)総合的判断力	0.280(*)	(46)リカレント教育	0.292(*)	(9)資格取得予定
21			0.315(*)	(46)リカレント教育	0.274(*)	(5)広い教養	0.281(*)	(28)将来に役立つ
22			0.307(*)	(3)体系的修得			0.276(*)	(46)リカレント教育
23							0.264(*)	(14)人間性を養う

質問項目(24)さらに勉強したくなった学生は、質問項目(19)授業を理解、質問項目(23)教員ふれあい、質問項目(22)授業内容満足、質問項目(29)豊かな人間性、質問項目(27)科目単位満足、質問項目(13)教養身につくについていることがわかった。

質問項目(27)科目単位満足している学生は、質問項目(19)授業を理解、質問項目(35)科目単位満足、質問項目(29)豊かな人間性、質問項目(24)さらに勉強、質問項目(32)並列開講理解、質問項目(34)課程の現代性、質問項目(30)(教養基礎科目は)総合的判断力を養ったと思っていることがわかった。

表 16 続き 本学で学んでいる現時点での全体的な印象について(2年生)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ_b))

降順	(24)さらに勉強		(25)コンピュータ満足		(26)課程の現代性		(27)科目単位満足	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.479(**)	(16)本学に満足	0.369(**)	(27)科目単位満足	0.716(**)	(27)科目単位満足	0.716(**)	(26)課程の現代性
2	0.459(**)	(27)科目単位満足	0.333(*)	(26)課程の現代性	0.593(**)	(22)授業内容満足	0.660(**)	(22)授業内容満足
3	0.432(**)	(46)リカレント教育	0.287(*)	(12)学力向上	0.588(**)	(12)学力向上	0.624(**)	(23)教員ふれあい
4	0.391(**)	(6)人間性を養う	0.252(*)	(33)科目現行よい	0.573(**)	(21)きちんと授業	0.612(**)	(18)専門授業満足
5	0.374(**)	(22)授業内容満足			0.563(**)	(28)将来に役立つ	0.567(**)	(31)専門理解役立
6	0.357(**)	(45)専攻科受講			0.537(**)	(8)目的を達成	0.567(**)	(35)科目単位満足
7	0.352(**)	(17)勉学に満足			0.536(**)	(18)専門授業満足	0.559(**)	(16)本学に満足
8	0.349(**)	(14)人間性を養う			0.535(**)	(17)勉学に満足	0.551(**)	(21)きちんと授業
9	0.347(**)	(29)豊かな人間性			0.528(**)	(31)専門理解役立	0.542(**)	(19)授業を理解
10	0.337(**)	(23)教員ふれあい			0.516(**)	(35)科目単位満足	0.530(**)	(17)勉学に満足
11	0.269(*)	(18)専門授業満足			0.495(**)	(11)専門修得	0.511(**)	(12)学力向上
12	0.265(*)	(10)知識身につく			0.483(**)	(32)並列開講理解	0.498(**)	(11)専門修得
13	0.261(*)	(12)学力向上			0.482(**)	(30)総合的判断力	0.459(**)	(24)さらに勉強
14					0.473(**)	(34)課程の現代性	0.440(**)	(30)総合的判断力
15					0.462(**)	(23)教員ふれあい	0.435(**)	(32)並列開講理解
16					0.411(**)	(13)教養身につく	0.433(**)	(29)豊かな人間性
17					0.404(**)	(16)本学に満足	0.430(**)	(8)目的を達成
18					0.395(**)	(29)豊かな人間性	0.423(**)	(13)教養身につく
19					0.385(**)	(4)学力向上	0.423(**)	(28)将来に役立つ
20					0.378(**)	(19)授業を理解	0.423(**)	(34)課程の現代性
21					0.341(*)	(3)体系的修得	0.369(**)	(25)コンピュータ満足
22					0.333(*)	(25)コンピュータ満足	0.347(*)	(3)体系的修得
23					0.328(*)	(33)科目現行よい	0.344(**)	(33)科目現行よい
24					0.308(*)	(5)広い教養	0.283(*)	(46)リカレント教育

2年生においては、質問項目(16)本学に満足と質問項目(17)勉学に満足の間に強い正の相関関係があった。本学に満足している学生は、質問項目(17)勉学に満足しており、質問項目(27)科目単位満足、質問項目(22)授業内容満足、質問項目(21)きちんと授業、質問項目(18)専門授業満足、質問項目(31)専門理解役立、質問項目(24)さらに勉強、質問項目(29)豊かな人間性、質問項目(8)目的を達成、質問項目(35)科目単位満足、質問項目(30)総合的判断力、質問項目(23)教員ふれあいに満足していることがわかった。

質問項目(17)勉学に満足している学生は、質問項目(16)本学(での学生生活)に満足しているがわかった。また、質問項目(12)学力向上、質問項目(31)専門理解役立、質問項目(26)課程の現代性、質問項目(13)教養身につく、質問項目(27)科目単位満足、質問項目(21)きちんと授業、質問項目(29)豊かな人間性、質問項目(8)目的を達成、質問項目(18)専門授業満足していることがわかった。

質問項目(18)専門授業満足している学生は、質問項目(22)授業内容満足、質問項目(27)科目単位満足、質問項目(27)科目単位満足、質問項目(34)課程の現代性、質問項目(11)専門修得、質問項目(30)総合的判断力、質問項目(30)総合的判断力、質問項目(32)並列開講理解、質問項目(26)課程の現代性、質問項目(31)専門理解役立、質問項目(29)豊かな人間性、質問項目(35)科目単位満足、質問項目(16)本学に満足していることがわかった。

質問項目(19)授業を理解している学生は、質問項目(35)科目単位満足、質問項目(27)科目単位満足、質問項目(23)教員ふれあい、質問項目(18)専門授業満足、質問項目(30)総合的判断力、質問項目(29)豊かな人間性、質問項目(12)学力向上、質問項目(22)授業内容満足していることがわかった。

質問項目(24)さらに勉強したくなった学生は、質問項目(16)本学に満足、質問項目(27)科目単位満足、質問項目(46)リカレント教育を受講したいと考えていることがわかった。

質問項目(26)課程の現代性と質問項目(27)科目単位満足の間には強い正の相関関係がみられた。

質問項目(27)科目単位満足している学生は、質問項目(26)課程の現代性、質問項目(22)授業内容満足、質問項目(23)教員ふれあい、質問項目(18)専門授業満足、質問項目(31)専門理解役立、質問項目

(35)科目単位満足、質問項目(16)本学に満足、質問項目(21)きちんと授業、質問項目(19)授業を理解、質問項目(17)勉学に満足、質問項目(12)学力向上、質問項目(11)専門修得、質問項目(24)さらに勉強したくなったと考えていることがわかった。(表 15、表 16)

(4) 教養基礎科目の授業、カリキュラムについて

教養基礎科目の授業、カリキュラムの集計結果については、学科間に有意な差はみられなかった。産業情報学科 1 年生においては、質問項目(33)科目は現行でよい(3.38)、質問項目(35)科目単位満足(3.42)がグループ中央値において、3.50 未満の低い値を示した。

表 17 教養基礎科目の授業、カリキュラムについて(1 年生)
(学科別グループ中央値 検定結果)

質問項目	産業情報学科	食物栄養学科	社会福祉学科	全学科	Kruskal-Wallis 検定	尤度比 検定
	グループ中央値	グループ中央値	グループ中央値	グループ中央値		
(28)将来に役立つ	3.92	4.00	4.20	4.02		
(29)豊かな人間性	3.79	3.55	3.82	3.68		
(30)総合的判断力	3.77	3.48	3.73	3.62		
(31)専門理解役立	3.85	3.72	3.89	3.79		
(32)並列開講理解	3.69	3.72	3.60	3.68		
(33)科目現行よい	3.38	3.29	3.11	3.26		
(34)課程の現代性	3.54	3.36	3.30	3.40		
(35)科目単位満足	3.42	3.63	3.50	3.54		

注:Kruskal-Wallis検定 :各質問項目における各学科間の値の差の検定;* P<0.05, ** P<0.01
注:尤度比検定 :各質問項目と学科間の適合度検定;* P<0.05, ** P<0.01

表 18 教養基礎科目の授業、カリキュラムについて(2 年生)
(学科別グループ中央値 検定結果)

質問項目	産業情報学科	食物栄養学科	社会福祉学科	全学科	Kruskal-Wallis 検定
	グループ中央値	グループ中央値	グループ中央値	グループ中央値	
(28)将来に役立つ	3.71	4.00	4.00	3.93	
(29)豊かな人間性	4.13	3.73	4.13	3.93	
(30)総合的判断力	3.38	3.53	3.86	3.56	
(31)専門理解役立	3.80	3.53	4.33	3.81	
(32)並列開講理解	4.00	3.71	3.63	3.75	
(33)科目現行よい	3.50	3.67	2.80	3.50	
(34)課程の現代性	3.57	3.65	3.50	3.59	
(35)科目単位満足	3.67	3.67	4.22	3.81	

注:Kruskal-Wallis検定 :各質問項目における各学科間の値の差の検定;* P<0.05, ** P<0.01

食物栄養学科 1 年生においては、質問項目(30)総合的判断力(3.48)、質問項目(33)科目は現行でよい(3.29)、質問項目(34)課程の現代性(3.36)がグループ中央値において、3.50 未満の低い値がみられた。

社会福祉学科 1 年生においては、質問項目(33)(教養基礎)科目は現行でよい(3.11)、質問項目(34)(教養基礎科目)課程の現代性(3.30)がグループ中央値において、3.50 未満の低い値がみられた。質問項目(33)科目は現行でよい、質問項目(34)課程の現代性において、全学科 1 年生のグループ中央値がいずれも 3.50 未満と低い値である。全学科 2 年生では、質問項目(33)科目は現行でよい(3.50)、質問項目(34)課程の現代性(3.59)および質問項目(30)総合的判断力(3.56)において低いグループ中央値がみられた。今後評価が低い原因について検討する必要がある。(表 17、表 18)

順位相関分析により、教養基礎科目の授業、カリキュラムについて、各質問項目との相関関係について調べた。1 年生において、質問項目(28)(教養基礎科目が)将来に役立つと思っている学生は、質問項目(31)専門理解役立つ、質問項目(29)豊かな人間性、質問項目(26)課程の現代性、質問項目(30)(教養基礎科目は)総合的判断力を養うと思っていることがわかった。

表 19 教養基礎科目の授業、カリキュラムについて(1 年生)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(28)将来に役立つ		(29)豊かな人間性		(30)総合的判断力		(31)専門理解役立つ	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	.677(**)	(31)専門理解役立つ	.791(**)	(30)総合的判断力	.791(**)	(29)豊かな人間性	.677(**)	(28)将来に役立つ
2	.475(**)	(29)豊かな人間性	.547(**)	(34)課程の現代性	.499(**)	(34)課程の現代性	.465(**)	(30)総合的判断力
3	.431(**)	(26)課程の現代性	.500(**)	(35)科目単位満足	.472(**)	(32)並列開講理解	.416(**)	(29)豊かな人間性
4	.408(**)	(30)総合的判断力	.497(**)	(27)科目単位満足	.465(**)	(31)専門理解役立つ	.390(**)	(6)人間性を養う
5	.364(**)	(24)さらに勉強	.488(**)	(19)授業を理解	.445(**)	(19)授業を理解	.363(**)	(26)課程の現代性
6	.302(*)	(13)教養身につく	.478(**)	(13)教養身につく	.443(**)	(13)教養身につく	.357(**)	(5)広い教養
7	.298(*)	(32)並列開講理解	.475(**)	(26)課程の現代性	.421(**)	(35)科目単位満足	.357(**)	(24)さらに勉強
8	.291(*)	(18)専門授業満足	.475(**)	(28)将来に役立つ	.408(**)	(28)将来に役立つ	.342(**)	(32)並列開講理解
9	.274(*)	(21)きちんと授業	.456(**)	(32)並列開講理解	.396(**)	(24)さらに勉強	.322(**)	(13)教養身につく
10	.269(*)	(11)専門修得	.429(**)	(24)さらに勉強	.392(**)	(27)科目単位満足	.313(**)	(18)専門授業満足
11	.256(*)	(16)本学に満足	.416(**)	(31)専門理解役立つ	.382(**)	(12)学力向上	.313(*)	(34)課程の現代性
12	.253(*)	(34)課程の現代性	.412(**)	(21)きちんと授業	.379(**)	(48)会大編入改善	.288(*)	(12)学力向上
13	.242(*)	(19)授業を理解	.398(**)	(16)本学に満足	.345(**)	(26)課程の現代性	.277(*)	(19)授業を理解
14			.391(**)	(12)学力向上	.336(**)	(49)単位互換制度	.271(*)	(21)きちんと授業
15			.382(**)	(5)広い教養	.314(**)	(5)広い教養	.242(*)	(11)専門修得
16			.368(**)	(4)学力向上	-.286(*)	(45)短期大学発展		
17			.302(*)	(17)勉学に満足	.283(*)	(16)本学に満足		
18			.283(*)	(23)教員ふれあい	.283(*)	(23)教員ふれあい		
19			.279(*)	(14)人間性を養う	.274(*)	(4)学力向上		
20			.268(*)	(33)科目現行よい	.260(*)	(21)きちんと授業		
21			.265(*)	(18)専門授業満足	.258(*)	(17)勉学に満足		
22			.265(*)	(49)単位互換制度	.244(*)	(33)科目現行よい		

降順	(32)並列開講理解		(33)科目現行よい		(34)課程の現代性		(35)科目単位満足	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	.618(**)	(34)課程の現代性	.588(**)	(34)課程の現代性	.618(**)	(32)並列開講理解	.608(**)	(34)課程の現代性
2	.576(**)	(33)科目現行よい	.576(**)	(32)並列開講理解	.608(**)	(35)科目単位満足	.556(**)	(32)並列開講理解
3	.556(**)	(35)科目単位満足	.393(**)	(35)科目単位満足	.588(**)	(33)科目現行よい	.514(**)	(27)科目単位満足
4	.472(**)	(30)総合的判断力	.361(**)	(27)科目単位満足	.547(**)	(29)豊かな人間性	.500(**)	(29)豊かな人間性
5	.456(**)	(29)豊かな人間性	.280(*)	(26)課程の現代性	.499(**)	(30)総合的判断力	.437(**)	(13)教養身につく
6	.410(**)	(27)科目単位満足	.268(*)	(29)豊かな人間性	.409(**)	(27)科目単位満足	.421(**)	(30)総合的判断力
7	.356(**)	(26)課程の現代性	.255(*)	(18)専門授業満足	.391(**)	(26)課程の現代性	.393(**)	(33)科目現行よい
8	.342(**)	(31)専門理解役立つ	.248(*)	(16)本学に満足	.338(**)	(25)コンピュータ満足	.371(**)	(19)授業を理解
9	.307(*)	(21)きちんと授業	.244(*)	(30)総合的判断力	.317(*)	(48)会大編入改善	.366(**)	(4)学力向上
10	.298(*)	(28)将来に役立つ			.313(*)	(31)専門理解役立つ	.312(*)	(10)知識身につく
11	.256(*)	(5)広い教養			.288(*)	(4)学力向上	.310(**)	(17)勉学に満足
12	.253(*)	(48)会大編入改善			.288(*)	(5)広い教養	.292(*)	(12)学力向上
13	.251(*)	(19)授業を理解			.276(*)	(21)きちんと授業	.289(*)	(18)専門授業満足
14	.250(*)	(13)教養身につく			.266(*)	(19)授業を理解	.280(*)	(21)きちんと授業
15	-.232(*)	(1)資格の取得			.257(*)	(49)単位互換制度	.266(*)	(14)人間性を養う
16					.256(*)	(6)人間性を養う	.257(*)	(16)本学に満足
17					.253(*)	(28)将来に役立つ	.256(*)	(11)専門修得
18							.255(*)	(24)さらに勉強
19							.246(*)	(6)人間性を養う

質問項目(29)(教育目的の一つである)豊かな人間性の形成に(教養基礎科目が)役立ったと思っている学生は、質問項目(30)総合的判断力が向上していることがわかった。

質問項目(31)(教養基礎科目は)専門理解に役立つと思っている学生は、質問項目(28)将来に役立つ、質問項目(30)総合的判断力、質問項目(29)豊かな人間性の形成に役立ったことがわかった。

質問項目(33)科目は現行でよいと思っている学生は、質問項目(34)課程の現代性、質問項目(32)並列開講(を)理解していることがわかった。

質問項目(34)課程の現代性を肯定している学生は、質問項目(32)並列開講理解、質問項目(35)科目単位満足、質問項目(33)科目は現行でよい、質問項目(29)豊かな人間性、質問項目(30)総合的判断力、質問項目(27)科目単位満足していることがわかった。

質問項目(35)科目単位満足している学生は、質問項目(34)課程の現代性、質問項目(32)並列開講理解、質問項目(27)科目単位満足、質問項目(29)豊かな人間性、質問項目(13)教養身につく、質問項目(30)総合的判断力を養うのに役立っていることがわかった。

2年生においては、質問項目(28)(教養基礎科目が)将来に役立つと思っている学生は、質問項目(12)学力向上しており、質問項目(26)課程の現代性、質問項目(31)専門理解役立、質問項目(30)総合的判断力、質問項目(34)課程の現代性、質問項目(29)豊かな人間性、質問項目(13)教養身につく、質問項目(4)学力向上、質問項目(17)勉学に満足していることがわかった。

質問項目(29)(教養基礎科目が)豊かな人間性の形成に役立っていると思っている学生は、質問項目(30)総合的判断力が向上しており、質問項目(13)教養身につく、質問項目(18)専門授業満足、質問項目(17)勉学に満足、質問項目(32)並列開講理解、質問項目(3)体系的修得、質問項目(1)資格の取得、質問項目(22)授業内容満足、質問項目(12)学力向上、質問項目(21)きちんと授業、質問項目(28)将来に役立つ、質問項目(16)本学に満足していることがわかった。質問項目(29)豊かな人間性と質問項目(30)総合的判断力の間には強い正の相関関係があった。

質問項目(30)(教養基礎科目が、幅広く深い教養と)総合的判断力(の形成に役立っている)学生は、質問項目(29)(教養基礎科目が)豊かな人間性(の形成に役立っている)、質問項目(13)教養身につく、質問項目(12)学力向上している、質問項目(18)専門授業満足、質問項目(34)課程の現代性、質問項目(31)専門理解役立、質問項目(35)科目単位満足、質問項目(28)将来に役立つ質問項目(11)専門修得、質問項目(26)課程の現代性、質問項目(17)勉学に満足していることがわかった。

質問項目(31)(教養基礎科目は)専門理解(に)役立つ(つ)と思っている学生は、質問項目(13)教養身につく、質問項目(35)科目単位満足、質問項目(12)学力向上、質問項目(27)科目単位満足、質問項目(11)専門修得、質問項目(17)勉学に満足、質問項目(18)専門授業満足、質問項目(26)課程の現代性、質問項目(30)総合的判断力が向上していることがわかった。

質問項目(33)科目は現行でよいと思っている学生は、質問項目(32)並列開講理解、質問項目(34)課程の現代性、質問項目(18)専門授業満足、質問項目(11)専門修得、質問項目(35)科目単位満足、質問項目(10)知識身につくと思っていることがわかった。

質問項目(34)課程の現代性を認めている学生は、質問項目(35)科目単位満足、質問項目(18)専門授業満足、質問項目(33)科目は現行でよい、質問項目(32)並列開講理解、質問項目(30)総合的判断力、質問項目(31)専門理解役立、質問項目(11)専門修得、質問項目(28)将来役立つ、質問項目(26)課程の現代性、質問項目(12)学力向上、質問項目(19)授業を理解していることがわかった。

質問項目(35)(教養基礎科目の)科目単位(に)満足している学生は、質問項目(19)授業を理解、質問項目(34)課程の現代性、質問項目(31)専門理解役立、質問項目(27)科目単位満足、質問項目(32)並列開講理解、質問項目(26)課程の現代性、質問項目(18)専門授業満足、質問項目(22)授業内容満足、質問項目(30)総合的判断力、質問項目(21)きちんと授業、質問項目(17)勉学に満足、質問項目(12)学力向

上、質問項目(11)専門修得、質問項目(16)本学に満足していることがわかった。以上の結果から、教養基礎科目が、学生たちの人間形成、総合的判断力および専門の理解に役立っていることがわかった。(表 19、表 20)

表 20 教養基礎科目の授業、カリキュラムについて(2年生)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ_b))

降順	(28)将来に役立つ		(29)豊かな人間性		(30)総合的判断力		(31)専門理解役立	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.578(**)	(12)学力向上	0.755(**)	(30)総合的判断力	0.755(**)	(29)豊かな人間性	0.631(**)	(13)教養身につく
2	0.563(**)	(26)課程の現代性	0.630(**)	(13)教養身につく	0.575(**)	(13)教養身につく	0.593(**)	(35)科目単位満足
3	0.492(**)	(31)専門理解役立	0.525(**)	(18)専門授業満足	0.554(**)	(12)学力向上	0.578(**)	(12)学力向上
4	0.491(**)	(30)総合的判断力	0.520(**)	(17)勉学に満足	0.550(**)	(18)専門授業満足	0.567(**)	(27)科目単位満足
5	0.478(**)	(34)課程の現代性	0.504(**)	(32)並列開講理解	0.531(**)	(34)課程の現代性	0.562(**)	(11)専門修得
6	0.477(**)	(29)豊かな人間性	0.491(**)	(3)体系的修得	0.518(**)	(31)専門理解役立	0.539(**)	(17)勉学に満足
7	0.471(**)	(13)教養身につく	0.491(**)	(1)資格の取得	0.492(**)	(35)科目単位満足	0.531(**)	(18)専門授業満足
8	0.428(**)	(4)学力向上	0.491(**)	(22)授業内容満足	0.491(**)	(28)将来に役立つ	0.528(**)	(26)課程の現代性
9	0.426(**)	(17)勉学に満足	0.486(**)	(12)学力向上	0.484(**)	(11)専門修得	0.518(**)	(30)総合的判断力
10	0.423(**)	(27)科目単位満足	0.484(**)	(21)きちんと授業	0.482(**)	(26)課程の現代性	0.503(**)	(34)課程の現代性
11	0.407(**)	(21)きちんと授業	0.477(**)	(28)将来に役立つ	0.481(**)	(17)勉学に満足	0.495(**)	(16)本学に満足
12	0.370(**)	(22)授業内容満足	0.458(**)	(16)本学に満足	0.481(**)	(19)授業を理解	0.492(**)	(28)将来に役立つ
13	0.365(**)	(8)目的を達成	0.453(**)	(19)授業を理解	0.450(**)	(32)並列開講理解	0.458(**)	(8)目的を達成
14	0.357(**)	(35)科目単位満足	0.451(**)	(5)広い教養	0.440(**)	(27)科目単位満足	0.447(**)	(22)授業内容満足
15	0.353(**)	(11)専門修得	0.438(**)	(23)教員ふれあい	0.433(**)	(5)広い教養	0.436(**)	(32)並列開講理解
16	-0.346(*)	(49)短大四大併設	0.433(**)	(27)科目単位満足	0.420(**)	(16)本学に満足	0.428(**)	(21)きちんと授業
17	0.335(*)	(32)並列開講理解	0.416(**)	(31)専門理解役立	0.407(**)	(22)授業内容満足	0.416(**)	(29)豊かな人間性
18	0.328(*)	(18)専門授業満足	0.403(**)	(34)課程の現代性	0.377(**)	(4)学力向上	0.395(**)	(19)授業を理解
19	0.327(*)	(5)広い教養	0.395(**)	(26)課程の現代性	0.368(**)	(3)体系的修得	0.392(**)	(33)科目現行よい
20	0.281(*)	(23)教員ふれあい	0.362(**)	(2)実践的知識	0.350(**)	(23)教員ふれあい	0.372(**)	(5)広い教養
21	0.270(*)	(16)本学に満足	0.347(**)	(24)さらに勉強	0.345(**)	(21)きちんと授業	0.352(**)	(23)教員ふれあい
22			0.333(*)	(4)学力向上	0.327(*)	(33)科目現行よい	0.318(*)	(10)知識身につく
23			0.331(*)	(35)科目単位満足	0.285(*)	(10)知識身につく		
24			0.325(*)	(46)リカレント教育	0.266(*)	(8)目的を達成		
25			0.282(*)	(10)知識身につく				

降順	(32)並列開講理解		(33)科目現行よい		(34)課程の現代性		(35)科目単位満足	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.603(**)	(33)科目現行よい	0.603(**)	(32)並列開講理解	0.632(**)	(35)科目単位満足	0.647(**)	(19)授業を理解
2	0.588(**)	(11)専門修得	0.567(**)	(34)課程の現代性	0.572(**)	(18)専門授業満足	0.632(**)	(34)課程の現代性
3	0.547(**)	(18)専門授業満足	0.480(**)	(18)専門授業満足	0.567(**)	(33)科目現行よい	0.593(**)	(31)専門理解役立
4	0.537(**)	(34)課程の現代性	0.460(**)	(11)専門修得	0.537(**)	(32)並列開講理解	0.567(**)	(27)科目単位満足
5	0.531(**)	(35)科目単位満足	0.426(**)	(35)科目単位満足	0.531(**)	(30)総合的判断力	0.531(**)	(32)並列開講理解
6	0.504(**)	(29)豊かな人間性	0.409(**)	(10)知識身につく	0.503(**)	(31)専門理解役立	0.516(**)	(26)課程の現代性
7	0.486(**)	(21)きちんと授業	0.392(**)	(31)専門理解役立	0.498(**)	(11)専門修得	0.510(**)	(18)専門授業満足
8	0.483(**)	(26)課程の現代性	0.344(**)	(27)科目単位満足	0.478(**)	(28)将来に役立つ	0.492(**)	(22)授業内容満足
9	0.450(**)	(30)総合的判断力	0.328(*)	(26)課程の現代性	0.473(**)	(26)課程の現代性	0.492(**)	(30)総合的判断力
10	0.436(**)	(31)専門理解役立	0.327(*)	(30)総合的判断力	0.470(**)	(12)学力向上	0.480(**)	(21)きちんと授業
11	0.435(**)	(27)科目単位満足	0.292(*)	(12)学力向上	0.438(**)	(19)授業を理解	0.469(**)	(17)勉学に満足
12	0.392(**)	(12)学力向上	0.286(*)	(19)授業を理解	0.424(**)	(22)授業内容満足	0.461(**)	(12)学力向上
13	0.392(**)	(19)授業を理解	0.275(*)	(13)教養身につく	0.423(**)	(27)科目単位満足	0.455(**)	(11)専門修得
14	0.387(**)	(17)勉学に満足	0.252(*)	(25)コンピュータ満足	0.403(**)	(29)豊かな人間性	0.426(**)	(16)本学に満足
15	0.377(**)	(13)教養身につく			0.356(**)	(21)きちんと授業	0.426(**)	(33)科目現行よい
16	0.363(**)	(22)授業内容満足			0.351(**)	(8)目的を達成	0.417(**)	(8)目的を達成
17	0.335(*)	(28)将来に役立つ			0.350(**)	(13)教養身につく	0.386(**)	(5)広い教養
18	0.328(*)	(5)広い教養			0.332(*)	(16)本学に満足	0.379(**)	(13)教養身につく
19	0.322(*)	(10)知識身につく			0.324(*)	(17)勉学に満足	0.375(**)	(23)教員ふれあい
20	0.321(*)	(3)体系的修得			0.324(*)	(23)教員ふれあい	0.357(**)	(28)将来に役立つ
21	0.311(*)	(23)教員ふれあい					0.331(*)	(29)豊かな人間性
22	0.283(*)	(8)目的を達成					0.276(*)	(9)資格取得予定

(5) 専門学科の授業、カリキュラムについて

質問グループVにおいては、専門学科の授業やカリキュラムについて、各学科、各学年で質問項目を作成し基礎調査を行った。

質問項目は、下記の通りである。

・1年生を対象にした質問項目

産業情報学科

経営情報コース

- (38)専門科目に関連した資格が取れた方がよい
- (39)コンピューター関連科目に満足している
- (40)欠番(他学科の質問項目との関係で欠番にした。)

デザイン情報コース

- (38)デザイン情報基礎実習は専門分野修得上で役に立っている
- (39)デザイン情報実習 I の内容に満足している
- (40)コンピューター関連科目に満足している

食物栄養学科

- (38)専門教育科目の内容はよく理解できている
- (39)実験・実習科目に満足している
- (40)欠番(他学科の質問項目との関係で欠番にした。)

社会福祉学科

- (38)社会福祉実習 I の実習全体に満足している
- (39)保育実習 I の実習全体に満足している 1
- (40)欠番(他学科の質問項目との関係で欠番にした。)

・2年生を対象にした質問項目

産業情報学科

経営情報コース

- (38)専門科目に関連した資格が取れた方がよい
- (39)卒業研究と発表会は今の通りでよい
- (40)コンピューター関連科目に満足できた
- (41)欠番(他学科の質問項目との関係で欠番にした。)
- (42)欠番(他学科の質問項目との関係で欠番にした。)

デザイン情報コース

- (38)デザイン情報基礎実習は専門分野修得上で役に立った
- (39)デザイン情報実習 I・II の内容に満足できた
- (40)コンピューター関連科目に満足できた
- (41)卒業研究と発表会は今の通りでよい
- (42)欠番(他学科の質問項目との関係で欠番にした。)

食物栄養学科

- (38)専門基礎科目(基礎化学、有機化学)は専門修得上で役に立った
- (39)資格を取る上で現在のカリキュラムは適切である
- (40)現在のカリキュラムは就職する上で役に立った
- (41)実験・実習科目に満足できた
- (42)特別演習に満足できた

社会福祉学科

- (38)資格を取る上で現在のカリキュラムは適切である
- (39)現在のカリキュラムは就職する上で役に立った
- (40)社会福祉実習Ⅱ・Ⅲの実習全体に満足できた
- (41)保育実習Ⅰの実習全体に満足できた
- (42)特別演習(ゼミ)に満足できた

以上の質問項目の回答をグループ中央値でみると、食物栄養学科 1 年生の質問項目 Q38「専門教育科目の内容はよく理解できている」が 3.24 と低い値であった。

産業情報学科については、回答者の数が少なかったため全体を反映しているとは思えないが、経営情報コース 1 年生では質問項目「(38)専門科目に関連した資格が取れた方がよい」のグループ中央値が 4.0 と高く、資格を希望していることがわかった。同コース 2 年生では質問項目「(39)卒業研究と発表会は今の通りでよい」のグループ中央値が 2.50 と低く学生への対応が必要である。

表 21 専門学科の授業、カリキュラムについて(1 年生)
(学科別グループ中央値)

質問項目	産業情報学科		食物栄養学科	社会福祉学科	合計
	経営情報	デザイン情報			
	グループ中央値	グループ中央値			
Q38(各学科設問)	4.00	4.00	3.24	4.33	3.68
Q39(各学科設問)	3.60	4.00	3.55	3.80	3.66
Q40(各学科設問)	欠番	4.00	欠番	欠番	4.00

表 22 専門学科の授業、カリキュラムについて(2 年生)
(学科別グループ中央値)

質問項目	産業情報学科		食物栄養学科	社会福祉学科	合計
	経営情報	デザイン情報			
	グループ中央値	グループ中央値			
Q38(各学科設問)	4.67	4.67	3.93	4.33	4.23
Q39(各学科設問)	2.50	4.33	4.18	4.29	4.10
Q40(各学科設問)	3.00	4.00	4.06	4.40	4.03
Q41(各学科設問)	欠番	4.00	3.92	4.50	4.12
Q42(各学科設問)	欠番	欠番	4.00	4.50	4.17

(6) 本学の将来のあり方などについて

本学に 1～2 年の専攻科があれば、受講を希望する学生が 2 年生に多いようである。また、リカレント教育についても、卒業後に受講を希望する学生が 2 年生に多いようである。

将来展望については、四年制を目指すよりも時代にあった整備・充実を図りつつ短期大学として発展した方がよいと考えている学生が多いようである。

表 23 本学の将来のあり方などについて(1年生)
(学科別グループ中央値)

質問項目	産業情報学科 グループ中央値	食物栄養学科 グループ中央値	社会福祉学科 グループ中央値	全学科 グループ中央値	Kruskal-Wallis 検定	尤度比 検定
(43)専攻科受講	3.67	3.67	3.71	3.68		
(44)リカレント教育	3.90	3.77	3.75	3.81		
(45)短期大学発展	4.18	4.40	4.55	4.38		
(46)四年制目指す	3.50	3.44	2.90	3.31		
(47)短大四大併設	3.50	4.25	4.11	4.03		
(48)会大編入改善	3.30	3.24	3.00	3.19		
(49)単位互換制度	3.50	3.54	3.83	3.57		

注:Kruskal-Wallis検定 :各質問項目における各学科間の値の差の検定;* P<0.05, ** P<0.01
注:尤度比検定 :各質問項目と学科間の適合度検定;* P<0.05, ** P<0.01

表 24 本学の将来のあり方などについて(2年生)
(学科別グループ中央値 検定結果)

質問項目	産業情報学科 グループ中央値	食物栄養学科 グループ中央値	社会福祉学科 グループ中央値	全学科 グループ中央値	Kruskal-Wallis 検定
(45)専攻科受講	4.00	3.70	4.11	4.00	
(46)リカレント教育	4.33	4.25	4.70	4.40	
(47)短期大学発展	4.80 b	4.28 a	4.70	4.54	*
(48)四年制目指す	3.00	3.73	4.14	3.70	
(49)短大四大併設	3.75	4.33	4.33	4.29	
(50)会大編入改善	3.33	3.69	2.75	3.42	
(51)単位互換制度	3.17	3.92	4.00	3.74	

注:Kruskal-Wallis検定 :各質問項目における各学科間の値の差の検定;* P<0.05, ** P<0.01

1年生における順位相関分析においては、質問項目(43)専攻科受講を希望する学生は、質問項目(44)リカレント教育を希望していることがわかった。質問項目(48)会大編入改善を望む学生には、質問項目(49)単位互換制度を希望し、質問項目(30)(教養基礎科目が)総合的判断力を養うのに役立つと思っていることがわかった。

2年生においては、質問項目(45)専攻科受講希望の学生は、質問項目(46)リカレント教育を希望していることがわかった。質問項目(46)リカレント教育を希望する学生は、質問項目(45)専攻科受講を希望し、質問項目(5)広い教養、質問項目(24)さらに勉強したくなったことがわかった。

質問項目(50)会(津)大編入改善を希望する学生は、質問項目(51)単位互換制度を希望していることがわかった。(表 25、表 26)

表 25 本学の将来のあり方などについて(1年生)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(43)専攻科受講		(44)リカレント教育		(45)短期大学発展		(46)四年制目指す	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.779(**)	(44)リカレント教育	0.779(**)	(43)専攻科受講	0.379(**)	(47)短大四大併設	0.345(**)	(48)会大編入改善
2	0.324(**)	(49)単位互換制度	0.305(*)	(49)単位互換制度	0.319(*)	(3)体系的修得	0.293(*)	(49)単位互換制度
3	0.286(*)	(46)四年制目指す	0.295(*)	(24)さらに勉強	-0.286(*)	(30)総合的判断力	0.286(*)	(43)専攻科受講
4	0.258(*)	(48)会大編入改善	0.269(*)	(8)目的を達成	-0.260(*)	(26)課程の現代性	0.257(*)	(44)リカレント教育
5			0.257(*)	(46)四年制目指す	-0.247(*)	(25)コンピュータ満足	0.240(*)	(47)短大四大併設
6			0.256(*)	(48)会大編入改善				

降順	(47)短大四大併設		(48)会大編入改善		(49)単位互換制度	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.379(**)	(45)短期大学発展	0.670(**)	(49)単位互換制度	0.670(**)	(48)会大編入改善
2	0.370(**)	(49)単位互換制度	0.379(**)	(30)総合的判断力	0.395(**)	(24)さらに勉強
3	0.319(**)	(9)資格取得予定	0.345(**)	(46)四年制目指す	0.370(**)	(47)短大四大併設
4	0.307(*)	(48)会大編入改善	0.317(*)	(34)課程の現代性	0.357(**)	(19)授業を理解
5	0.294(*)	(1)資格の取得	0.307(*)	(47)短大四大併設	0.336(**)	(30)総合的判断力
6	0.290(*)	(3)体系的修得	0.265(*)	(25)コンピュータ満足	0.324(**)	(43)専攻科受講
7	0.254(*)	(10)知識身につく	0.258(*)	(43)専攻科受講	0.305(*)	(44)リカレント教育
8	0.240(*)	(46)四年制目指す	0.257(*)	(13)教養身につく	0.293(*)	(46)四年制目指す
9			0.256(*)	(44)リカレント教育	0.279(*)	(13)教養身につく
10			0.253(*)	(32)並列開講理解	0.270(*)	(26)課程の現代性
11			0.251(*)	(12)学力向上	0.265(*)	(29)豊かな人間性
12					0.257(*)	(34)課程の現代性
13					0.250(*)	(12)学力向上

表 26 本学の将来のあり方などについて(2年生)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(45)専攻科受講		(46)リカレント教育		(47)短期大学発展		(48)四年制目指す	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.575(**)	(46)リカレント教育	0.575(**)	(45)専攻科受講			0.299(*)	(45)専攻科受講
2	0.363(**)	(51)単位互換制度	0.455(**)	(5)広い教養			0.275(*)	(1)資格の取得
3	0.357(**)	(24)さらに勉強	0.432(**)	(24)さらに勉強				
4	0.299(*)	(48)四年制目指す	0.417(**)	(2)実践的知識				
5	0.286(*)	(14)人間性を養う	0.368(**)	(3)体系的修得				
6			0.334(*)	(16)本学に満足				
7			0.325(*)	(29)豊かな人間性				
8			0.315(*)	(21)きちんと授業				
9			0.303(*)	(6)人間性を養う				
10			0.285(*)	(51)単位互換制度				
11			0.283(*)	(27)科目単位満足				
12			0.280(*)	(22)授業内容満足				
13			0.278(*)	(9)資格取得予定				
14			0.276(*)	(23)教員ふれあい				
15			0.275(*)	(4)学力向上				
16			0.271(*)	(17)勉学に満足				

降順	(49)短大四大併設		(50)会大編入改善		(51)単位互換制度	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.490(**)	(51)単位互換制度	0.630(**)	(51)単位互換制度	0.630(**)	(50)会大編入改善
2	0.371(**)	(50)会大編入改善	0.406(**)	(6)人間性を養う	0.490(**)	(49)短大四大併設
3	-0.355(*)	(21)きちんと授業	0.371(**)	(49)短大四大併設	0.363(**)	(45)専攻科受講
4	-0.346(*)	(28)将来に役立つ			0.354(*)	(6)人間性を養う
5	-0.327(*)	(4)学力向上			0.285(*)	(46)リカレント教育
6	-0.295(*)	(3)体系的修得				
	-0.295(*)	(8)目的を達成				

(7) アンケートの内容以外に気づいた点、本学への要望など自由記述について

自由記述欄に下記の意見を書いていただいた。貴重なご意見として、教育および教育環境整備などに活かして行く予定である。(意見は、原文のまま掲載した。)

1) 質問項目(7): 本学に入学した目的について(その他)

- ・公立で二年の短大だったから。
- ・広い人間関係を持ちたかった。
- ・人間性をたかめるため。
- ・地元で通いやすかったのも、本学へ入学しました。
- ・家から近かったため。資格が仕事だけでなく、一生やくにたつものだったため。
- ・受験科目が簡単だったから。

2) 質問項目(15): 入学した目的に対する現時点での達成度について(その他)

- ・包丁もろくにもてなかったのに、今では料理が趣味になった。

3) 質問項目(36): 教養基礎科目について、開設して欲しい科目、不要と思う科目があったら書いて下さい。

- ・コミュニケーション学系を開設してほしい。
- ・デザイン関係の教養基礎を開設してほしいです。
- ・パソコンを実践的に学びたい。
- ・韓国語。
- ・社会福祉だけではなく音楽授業。
- ・全体的に偏っている感じがします。語学や人文系に幅を持たせてください。
- ・他の学科がおこなっている授業の一部でもやってみたかった。(PCでのデザイン、食物の調理実習など)
- ・哲学や倫理も開講してほしい。
- ・難しすぎる内容などではなく、もっと身近な内容を学習したい。

4) 質問項目(37): その他教養基礎科目のカリキュラムに関する希望を書いて下さい。

- ・とりたい科目が同じ時間に開講していることが多く、受けたくても受けられないのが少し残念でした。
- ・英語・フランス語の他にドイツ語など開設してほしいです。
- ・もっと、デザイン・美術の授業を増やして欲しい。
- ・教養基礎科目をもっと増やしていいと思う。
- ・現代社会と福祉を社会福祉学科の学生も履修できるようにして欲しいです。
- ・自分がとりたいとおもう学科が、同じ日、同じ時間に3つあると、すべてとる事ができないので、2日でわけず、1週間で分けて午前中にやるなどして欲しかった。せめて、空きコマの時間でも月、木にある授業を集中的な講義で受けられるといいと思う。あるいは、同じ時間にかさなるならば、並行してできるように対処していただきたい。

5) 質問項目(1年生 質問項目 41、2年生 質問項目 43): 専門教育科目について、開設して欲しい科目、不要と思う科目があったら書いて下さい。

- ・グラフィック面の授業をもう少しやってみたいので、その系統の科目がもうひとつくらい欲しいかもしれ

ません。

・財政学・企業倫理・商法・原価会計・会計監査論、管理会計論、財務諸表論などを充実させて欲しいです。また、情報処理についても科目が少なすぎると思います。ご検討よろしくお願いします。

・商業論の科目を開設してほしいです。

・サプリメントなどの健康食品についての学習。

・デッサン以外にも、絵を描く授業を開設して欲しいです。

・ボランティア論、老年心理学を開設して欲しいです。

・経済と会計の科目を増やしてほしい。

・先生によってはかなりわかりにくい。他の大学のように、同じ教科でも、2人の先生で教えるなどして、選択させて欲しい。ただ、テキストを読んだり、昔の知識で、現代のテキストに合わせない言葉を教えられるのは、就職などの面接で困る。(実際こまった)他の授業で、これは他の授業でならったとよく言われたが、習っていない事もあるので、先生方である程度教えるところを絞っていただきたい。内容によっては同じ事を何度も聞く事があったり、面接や、自分で勉強するまで知らない事があったりする。宜しくお願いします。

6) 質問項目(1年生 質問項目 42、2年生 質問項目 44):その他専門教育科目のカリキュラムに関する希望を書いて下さい。

・ゼミが1単位なのが納得いかない。

・もっと深く専門知識を身につけたい。

・音楽、ピアノはバイエルや音楽史、リズムなど確かに必要だけど、保育園で扱うような童謡などを学ぶ機会があまりない。図画工作なども同じことがいえます。

・人数調整でやりたいゼミができないのはきついです。しょうがないのかもしれないけど。

・「平成 16 年度入学対象」と言うのを、出来れば止めて欲しいです。学年は 2 年でも、実際 1 年の授業を受けている人にとって、選択範囲が狭くなってしまし、授業だけ受けても、単位がもらえないのなら意味がない気がします。

・もっと、多く時間が欲しい。

・基礎的な講義は大切だが、実習をもっと増やしたらよいと思う。単位は分かれていても、講義と実習を並行すると知識が定着しやすい。

・社会にでてから必要な実践的な授業を(実習など)1年次や2年次に固めず、できる限り、2年間毎週あるといいと思う。

・非常勤講師の先生と常勤の先生とが連携されていないため、科目間のつながりが上手に行われていないと感じます。2年生になるとほとんどの科目が非常勤講師の先生なので、もっと連携するべきなのではないでしょうか。

7) 質問項目(1年生 質問項目 50、2年生 質問項目 52):アンケートの内容以外にも気づかれた点があると思います。本学への様々な思いを、自由に書いて下さい。

・1限目の開始時間が早い・学生係が不親切(開閉時間など)・学食が高いし具が少ない。

・2年間でたくさんのことを身に付けなければいけないので、授業について行くのが大変だと感じます。

・会津大学との予算の差が気になる。会津大は 24 時間開校してるのに、なぜ短大は時間制限があるのか。売店、学食の営業時間をもっと長くしてほしい。トイレをもう少しきれいにしてほしい。

・会津大学短期大学部であるのに、どうして短期大学部は会津大学の設備を多く使用できないのでしょうか。できたとしても、時間などの制約が多く非常に不公平だと考えます。確かに、OSの問題もありま

すが、UNIX を扱える短大生もいます。会津短期大学が独立した機関で会津大学と切り離して考えなくてはならないのであるなら、まぎらわしい名称はやめたほうが良いと思います。

・私は保育園で働きたいと考えていますが、正直言うと、社会福祉学科は社会福祉士や養護施設、障害児・者施設で働きたい人にとっては充実していると思いますが、保育所で実践に生かせるものがあまりに少ないのではないかと思います。リズムや言葉のような教科は実習でも役立ちます。なのでもっとそのような教科を増やしてほしいです。もしくは社福もコースを作ったらどうかとも思いました。社会福祉実習1では様々な施設へ行きいろんな方と接する上で、やりたいことが変わったり、興味を持てるのはいいと思います。特別講義は大切ですが、話を聞くだけなので、もっと自分たちが活動してもいいと思います。

・正直授業がつまらない。学びたいものだが、興味が湧かない授業とゆうか楽しくないです。

・設備などが不十分なところがあり、不憫を感じることもある。学食や購買の開いている時間が短すぎて、利用したいときに開いてないのはある意味がないと思う。せめて購買は10時前に開けてほしい。

・短大2年ということなので仕方がないと思うのですが、毎日忙しいなあと感じてしまいます。

・短大なのにゼミがあるところがよいと思う。

・売店が閉まるのが早いです。

・学内の設備をもっと充実させてほしいです。

・勉強したいと思っても閉校時間の関係で学校で勉強することができません。特にコンピューターセンターの利用について強く感じる場所です。

・図書館をもっと充実させてほしいと思いましたが。書籍だけに限らず、各校の紀要をもっと増やしてほしいなと思いました。

・社会福祉学科なのに保育士課程の方がメインになっているように感じ、残念に思います。社会福祉士、保育士資格が取得できるために仕方ないことではありますが、社会福祉の科目を増設したり、もっと社会福祉の科目に力を入れるべきなのではないでしょうか。

・今後、有資格者でなければ就職も難しくなると思います。本学で卒業時に取得できるのは保育士資格、社会福祉主事任用資格です。少子化、高齢化がますます進めばこの2つの資格では社会のニーズとは合わなくなりかねません。ホームヘルパーの養成等、社会福祉学科そのものを検討しなければならないとも考えます。

・学内は老朽化していますが、掃除が行き届いていないところが多いです。きちんと掃除して欲しいと思います。

・コンピュータ関連の設備は、他大学に比べ、とても整っていると思います。この短大の売店は品物が少なすぎると思います。クロッキー帳の様な最低限の画材など、各学科に応じたものをもう少し揃えてもいいと思います。また、売店・食堂共に営業時間も短すぎると思います。これはデザ科に多い話ですが、みんな10時過ぎまで残って課題をやっています。ご飯を学校で済ませたいと思っても、夜はコンビニしか開いていません。さすがに毎日パンというのはキツイです。飽きます。ですので、売店にゼリーなどのような、デザート類をおいてみるのもいいと思います。冬のゼミ室は寒いです。各部屋ごとにスイッチの切り替えが出来るようになればとても嬉しいです。

・ひとつの学科の人数が多すぎる。ぜんぜん少人数教育とはいえないと思う。特に食物栄養学科の教室が狭い。机と机の間が狭くて立ち上がれないほどです。夏は冷房があっても暑苦しい。また、掲示板はもっと見やすい場所に置いてほしい。食物栄養学科や社会福祉学科はあの場所はあまり通らないので見逃すことが多い。

・会津短大で学べ多くの方との出会いはこれからの人生忘れることはないでしょう。

・基礎教養の文学や心理学の科目は自分にとって意義深かった。専門科目はもちろん、知識や技術

を身につけ、人間性を養うのに役に立った。さらに、教員・他学科の学生・会津大学生との交流やサークル活動への参加があったからこそ充実した学生生活を送ってこれた満足感があると思う。もっとたくさんの人達と話してみたかった。短大だからこそ自分の成長を感じることができ、これから実社会で学んでいきたいとも思うし、まだ学生として学んでいきたい気もする。本当に自発的に、自分の将来を考えて学ぶことが大切だと思う。そのような環境に巡り逢えてよかった。

- ・校内の設備を、もっと新しくしたほうが良い。
- ・実習の施設が、人数に対して小さく、動きづらかった。施設がもう少し充実するとよりよくなるとおもう。
- ・社会福祉を学ぶのに二年では足りません。早急に改善して頂きたいです。もし四年制になったら、可能なら編入したいです。会津大との交流もいまいちだったので、サークル以外でももう少し交流をもつ機会を設けて頂きたいです。研究生制度等もう少し分かりやすくアピールして欲しいです。とにかくこの大学で社会福祉についてもっと学びたいです。そう遠くない将来に改善されることを望みます。
- ・進路に関して。今までのガイダンスは、いまいち意味がない。それならば、塾などにいらっしゃる講師の方をお呼びして、就職課の場所をおき、就職関係に力をいれていただきたい。会津短大は就職率が高いと言うので入学したら、ただ個人がハローワークでみつけた求人に電話をしたり、かたっぱしからタウンページの電話番号にかけたりしているのを知って、哀しくなったとともに、嘘をつかれたような気分になった。就職が早くきまった人はそれでもいいが、なかなか決まらない人は見ていてかわいそうでならない。就職する気がない人もいるが、そういう人が短大に受かっている時点でしんどい。もっと厳しくしていくべき。
- ・短大の内容はとても充実しているので、これからも短大として発展して行ってほしいです。

2003 年度自己評価総括委員会アンケート調査報告書

「学生による授業評価」

1. 目的

この基礎調査は、2003 年度に本学で実施された授業科目の全科目に対する評価を、在学生全員を対象にして無記名でアンケート調査したものである。この調査の目的は、学生の授業評価を教員が真摯に受け止め授業改善に役立て、教育力の向上に努めることにある。そのために、調査結果については、各科目の調査の個人別データおよび集計結果を調査対象科目の担当教員にのみ電子ファイルとして渡した。各教員は、調査結果を各々の責任において分析し、各教員の意見や授業改善などの方向性を明文化して本委員会に提出した。これをまとめて結果報告書とし、学生に対する調査の回答とした。結果報告書を各 3 冊ずつ図書館及び非常勤講師室に置き、学生及び教員の閲覧に供するとともに、学内の Web 上でも学生及び教員に公表した(学外には公表をしていない)。

この報告書は、基礎調査「学生による授業評価」を 1 年生および 2 年生について、講義科目および実験・実習・演習科目に分け、さらに学科など授業科目群について集計した結果をまとめ分析したものである。

2. 調査対象

本学の全学生を基礎調査の対象とした。1 年生と 2 年生について、講義科目および実験・実習・演習科目に分けて各々質問項目を作成し実施した。

3. 調査期間

2003 年 7 月および 2004 年 1 月の学期末に Web 上で入力してもらった。

4. 調査方法

本学教員 時野谷 茂教授(会津大学短期大学部研究年報 第 61 号)が開発した Web 上で入力するシステムによりアンケート調査を行った。このシステムは、学生が Web 上のアンケート入力システムに各々入力するものである。(前章の「学生による本学の評価」を参照のこと)

質問項目は、「授業計画について」など下記の 6 群に分類して、1 年生および 2 年生に分けて計 27 から 28 項目を五件法により調査した。

- (1) 授業計画について
- (2) 授業方法について
- (3) あなた自身の学習方法・態度について
- (4) 総合評価について
- (5) 自由記述(各授業担当教員への要望などについて)
- (5) 実験・実習・演習科目について(各学科などにおいて独自の質問項目を作成した)

回答は、授業担当教員が学期末に各授業中に基礎調査用紙(控え)(講義科目(全学共通)(表 1)、産業情報学科 実習・演習科目(表 2)、食物栄養学科 実験・実習・演習科目(表 3)、社会福祉学科 実習・演習科目(表 4))を学生に配付して、コンピュータセンタにおいて学生に Web 上で入力してもらった。

5. 基礎調査の回収結果

本基礎調査において、回答率(表 5、図 1)を学年別および学科など区分別にみると 18.3%から 60.4%と開きがあった。学科など区分別に全学年でみると、24.0%から 47.5%と違いがみられた。全学の合計では、回答率が 42.4%であった。一番高い回答率(60.4%)を示したのは、食物栄養学科 1 年生であった。その理由として、コンピュータセンタで行われた授業の後に入力をお願いしたことが上げられる。回答率が低かった理由としては、コンピュータセンタ以外の教室における授業の後に基礎調査用紙(控え)を配付したために、センタに行って入力するという煩わしさがその原因として考えられる。

今後は、回答率を上げるために基礎調査の入力方法などについて検討する必要がある。例えば、コンピュータセンタで基礎調査の回答を一斉入力してもらうなどの方法が効果的であると考えられる。

表1(講義科目)「学生による授業評価」アンケート控え
授業に関する調査のお願い

「科目名」(教員名)

〔目的〕 この調査は、学生のみなさんとともに授業を改善することをめざして実施するものです。みなさんには科目毎に同じ調査にご協力をお願いすることになります。本学の授業をよりよくしていくためにみなさんの率直なご意見が必要です。ご協力をよろしくお願いいたします。

〔調査結果の処理と公表〕 この調査の結果は、統計的な処理をした後、担当教員にデータを渡すとともに、報告書にまとめて公表する予定です。調査は無記名でおこないますので、成績に影響することはありません。あなたの思ったままを記入してください。

〔記入方法〕 用紙の配布は授業の中でおこないます。それぞれの項目について、あてはまる数字を○でかこんでください。授業によって回答しにくい項目には回答しなくても結構です。できるだけ速やかに記入し、このアンケート用紙を控えにして、コンピュータセンターでWeb上のアンケート回答フォームに入力をお願いいたします。

会津大学短期大学部 自己評価総括委員会

そ いそ どい あ思 そな
う くう ちえ まわ うい
思 ら思 らな りな 思
う かう とい そい わ
も う

3. あなた自身の学習方法・態度について

(14)出席率は良好であった	5	4	3	2	1
(15)受講態度は良好であった	5	4	3	2	1
(16)「教授要綱」(シラバス)はこの授業を受けるのに役立った	5	4	3	2	1
(17)意欲的に学ぼうとした	5	4	3	2	1
(18)予習や復習をおこなって授業に出席した	5	4	3	2	1

4. 総合評価について

(19)この授業は自分にとって意義深いものであった	5	4	3	2	1
(20)授業の内容は、ほぼ理解できた	5	4	3	2	1
(21)この分野に関して、専門的な関心や興味をもてるようになった	5	4	3	2	1
(22)この授業はよい授業であった	5	4	3	2	1

5. 自由記述欄(23)

(教員に対する要望や施設設備に対する要望など、どんなことでも自由に書いてください)

1. 授業計画について

(1)授業の目的・内容(概要)について十分な説明があった	5	4	3	2	1
(2)評価方法について十分な説明があった	5	4	3	2	1

2. 授業方法について

(3)ポイントをおさえて、要領よく説明している	5	4	3	2	1
(4)話し方や説明が適切で、内容を理解しやすい	5	4	3	2	1
(5)教員の声は聞きとりやすい	5	4	3	2	1
(6)ノートはとりやすい	5	4	3	2	1
(7)いろいろな見解なども紹介し、多角的に考える機会をあたえている	5	4	3	2	1
(8)学生の質問や意見が出しやすい授業であった	5	4	3	2	1
(9)学生の知識・理解の進み具合を考慮して授業を進めている	5	4	3	2	1
(10)授業への情熱が感じられる	5	4	3	2	1
(11)状況に応じて資料を配布したり、映像を利用したり、工夫している	5	4	3	2	1
(12)教科書や参考書・資料などを活用している	5	4	3	2	1
(13)板書やOHP、プロジェクタなどの字は見やすい	5	4	3	2	1

<注意>この用紙はアンケート控えです。コンピュータセンターで入力してください。

表2(産業情報学科 実習演習科目)「学生による授業評価」アンケート控え
授業に関する調査のお願い

「科目名」(教員名)

〔目的〕 この調査は、学生のみなさんとともに授業を改善することをめざして実施するものです。みなさんには科目毎に同じ調査にご協力をお願いすることになります。本学の授業をよりよくしていくためにみなさんの率直なご意見が必要です。ご協力をよろしくお願いいたします。

〔調査結果の処理と公表〕 この調査の結果は、統計的な処理をした後、担当教員にデータを渡すとともに、報告書にまとめて公表する予定です。調査は無記名でおこないますので、成績に影響することはありません。あなたの思ったままを記入してください。

〔記入方法〕 用紙の配布は授業の中でおこないます。それぞれの項目について、あてはまる数字を○でかこんでください。授業によって回答しにくい項目には回答しなくても結構です。できるだけ速やかに記入し、このアンケート用紙を控えにして、コンピュータセンターでWeb上のアンケート回答フォームに入力をお願いいたします。

会津大学短期大学部 自己評価総括委員会

そ いそ どい あ思 そな
う くう ちえ まわ うい
思 ら思 らな りな 思
う かう とい そい わ
も う

1. 授業計画について

- (1)授業の目的・内容(概要)について十分な説明があった 5 4 3 2 1
- (2)評価方法について十分な説明があった 5 4 3 2 1

2. 授業方法について

- (3)ポイントをおさえて、要領よく説明している 5 4 3 2 1
- (4)話し方や説明が適切で、内容を理解しやすい 5 4 3 2 1
- (5)教員の声は聞きとりやすい 5 4 3 2 1
- (6)ノートはとりやすい 5 4 3 2 1
- (7)いろいろな見解なども紹介し、多角的に考える機会をあたえている 5 4 3 2 1
- (8)学生の質問や意見が出しやすい授業であった 5 4 3 2 1
- (9)学生の知識・理解の進み具合を考慮して授業を進めている 5 4 3 2 1
- (10)授業への情熱が感じられる 5 4 3 2 1
- (11)状況に応じて資料を配布したり、映像を利用したり、工夫している 5 4 3 2 1
- (12)教科書や参考書・資料などを活用している 5 4 3 2 1
- (13)板書やOHP、プロジェクタなどの字は見やすい 5 4 3 2 1

3. あなた自身の学習方法・態度について

- (14)出席率は良好であった 5 4 3 2 1
- (15)受講態度は良好であった 5 4 3 2 1
- (16)「教授要綱」(シラバス)はこの授業を受けるのに役立つ 5 4 3 2 1
- (17)意欲的に学ぼうとした 5 4 3 2 1
- (18)予習や復習をおこなって授業に出席した 5 4 3 2 1

4. 総合評価について

- (19)この授業は自分にとって意義深いものであった 5 4 3 2 1
- (20)授業の内容は、ほぼ理解できた 5 4 3 2 1
- (21)この分野に関して、専門的な関心や興味をもてるようになった 5 4 3 2 1
- (22)この授業はよい授業であった 5 4 3 2 1

5. 自由記述欄(23)

(教員に対する要望や施設設備に対する要望など、どんなことでも自由に書いてください)

6. 実験・実習・演習科目について

- (24)テーマ(または課題)に興味をもて 5 4 3 2 1
- (25)課題の趣旨、意図、展開方法を十分理解できた 5 4 3 2 1
- (26)課題に対する時間配分は適切であった 5 4 3 2 1
- (27)教員のコメントや評価は理解できた 5 4 3 2 1
- (28)課題に対して積極的に取り組んだ 5 4 3 2 1

<注意>この用紙はアンケート控えです。コンピュータセンターで入力してください。

表3 (食物栄養学科 実験実習科目)「学生による授業評価」アンケート控え
授業に関する調査のお願い

「科目名」(教員名)

〔目的〕 この調査は、学生のみなさんとともに授業を改善することをめざして実施するものです。みなさんには科目毎に同じ調査にご協力をお願いすることになります。本学の授業をよりよくしていくためにみなさんの率直なご意見が必要です。ご協力をよろしくお願いいたします。

〔調査結果の処理と公表〕 この調査の結果は、統計的な処理をした後、担当教員にデータを渡すとともに、報告書にまとめて公表する予定です。調査は無記名でおこないますので、成績に影響することはありません。あなたの思ったままを記入してください。

〔記入方法〕 用紙の配布は授業の中でおこないます。それぞれの項目について、あてはまる数字を○でかこんでください。授業によって回答しにくい項目には回答しなくても結構です。できるだけ速やかに記入し、このアンケート用紙を控えにして、コンピュータセンターでWeb上のアンケート回答フォームに入力をお願いいたします。

会津大学短期大学部 自己評価総括委員会

	そ う 思 う	い そ ら 思 か う	ど い ち え ら な と い も	あ 思 ま わ り な そ い う	そ な う い 思 わ
1. 授業計画について					
(1)授業の目的・内容(概要)について十分な説明があった	5	4	3	2	1
(2)評価方法について十分な説明があった	5	4	3	2	1
2. 授業方法について					
(3)ポイントをおさえて、要領よく説明している	5	4	3	2	1
(4)話し方や説明が適切で、内容を理解しやすい	5	4	3	2	1
(5)教員の声は聞きとりやすい	5	4	3	2	1
(6)ノートはとりやすい	5	4	3	2	1
(7)いろいろな見解なども紹介し、多角的に考える機会をあたえている	5	4	3	2	1
(8)学生の質問や意見が出しやすい授業であった	5	4	3	2	1
(9)学生の知識・理解の進み具合を考慮して授業を進めている	5	4	3	2	1
(10)授業への情熱が感じられる	5	4	3	2	1
(11)状況に応じて資料を配布したり、映像を利用したり、工夫している	5	4	3	2	1
(12)教科書や参考書・資料などを活用している	5	4	3	2	1
(13)板書やOHP、プロジェクタなどの字は見やすい	5	4	3	2	1

そ
う
思
う

い
そ
ら
思
か
う

ど
い
ち
え
ら
な
と
い
も

あ
思
ま
わ
り
な
そ
い
う

そ
な
う
い
思
わ

3. あなた自身の学習方法・態度について					
(14)出席率は良好であった	5	4	3	2	1
(15)受講態度は良好であった	5	4	3	2	1
(16)「教授要綱」(シラバス)はこの授業を受けるのに役立つ	5	4	3	2	1
(17)意欲的に学ぼうとした	5	4	3	2	1
(18)予習や復習をおこなって授業に出席した	5	4	3	2	1
4. 総合評価について					
(19)この授業は自分にとって意義深いものであった	5	4	3	2	1
(20)授業の内容は、ほぼ理解できた	5	4	3	2	1
(21)この分野に関して、専門的な関心や興味をもてるようになった	5	4	3	2	1
(22)この授業はよい授業であった	5	4	3	2	1

5. 自由記述欄(23)
(教員に対する要望や施設設備に対する要望など、どんなことでも自由に書いてください)

6.実験・実習・演習科目について					
(24)事故・けがを予防するように配慮している	5	4	3	2	1
(25)課題を実施・解決するための授業時間は十分であった	5	4	3	2	1
(26)専門的な知識に対して理解が深まった	5	4	3	2	1
(27)課題を実施・解決するための専門的な応用力がついた	5	4	3	2	1

<注意>この用紙はアンケート控えです。コンピュータセンターで入力してください。

表4 (社会福祉学科 実習演習科目) 「学生による授業評価」アンケート控え
授業に関する調査のお願い

「科目名」(教員名)

〔目的〕 この調査は、学生のみなさんとともに授業を改善することをめざして実施するものです。みなさんには科目毎に同じ調査にご協力をお願いすることになります。本学の授業をよりよくしていくためにみなさんの率直なご意見が必要です。ご協力をよろしくお願いいたします。

〔調査結果の処理と公表〕 この調査の結果は、統計的な処理をした後、担当教員にデータを渡すとともに、報告書にまとめて公表する予定です。調査は無記名でおこないますので、成績に影響することはありません。あなたの思ったままを記入してください。

〔記入方法〕 用紙の配布は授業の中でおこないます。それぞれの項目について、あてはまる数字を○でかこんでください。授業によって回答しにくい項目には回答しなくても結構です。できるだけ速やかに記入し、このアンケート用紙を控えにして、コンピュータセンターでWeb上のアンケート回答フォームに入力をお願いいたします。

会津大学短期大学部 自己評価総括委員会

そ いそ どい あ思 そな
う くう ちえ まわ うい
思 ら思 らな りな 思
う かう とい そい わ
も う

1. 授業計画について

(1)授業の目的・内容(概要)について十分な説明があった	5	4	3	2	1
(2)評価方法について十分な説明があった	5	4	3	2	1

2. 授業方法について

(3)ポイントをおさえて、要領よく説明している	5	4	3	2	1
(4)話し方や説明が適切で、内容を理解しやすい	5	4	3	2	1
(5)教員の声は聞きとりやすい	5	4	3	2	1
(6)ノートはとりやすい	5	4	3	2	1
(7)いろいろな見解なども紹介し、多角的に考える機会をあたえている	5	4	3	2	1
(8)学生の質問や意見が出しやすい授業であった	5	4	3	2	1
(9)学生の知識・理解の進み具合を考慮して授業を進めている	5	4	3	2	1
(10)授業への情熱が感じられる	5	4	3	2	1
(11)状況に応じて資料を配布したり、映像を利用したり、工夫している	5	4	3	2	1
(12)教科書や参考書・資料などを活用している	5	4	3	2	1
(13)板書やOHP、プロジェクタなどの字は見やすい	5	4	3	2	1

3. あなた自身の学習方法・態度について

(14)出席率は良好であった	5	4	3	2	1
(15)受講態度は良好であった	5	4	3	2	1
(16)「教授要綱」(シラバス)はこの授業を受けるのに役立つ	5	4	3	2	1
(17)意欲的に学ぼうとした	5	4	3	2	1
(18)予習や復習をおこなって授業に出席した	5	4	3	2	1

4. 総合評価について

(19)この授業は自分にとって意義深いものであった	5	4	3	2	1
(20)授業の内容は、ほぼ理解できた	5	4	3	2	1
(21)この分野に関して、専門的な関心や興味をもてるようになった	5	4	3	2	1
(22)この授業はよい授業であった	5	4	3	2	1

5. 自由記述欄(23)

(教員に対する要望や施設設備に対する要望など、どんなことでも自由に書いてください)

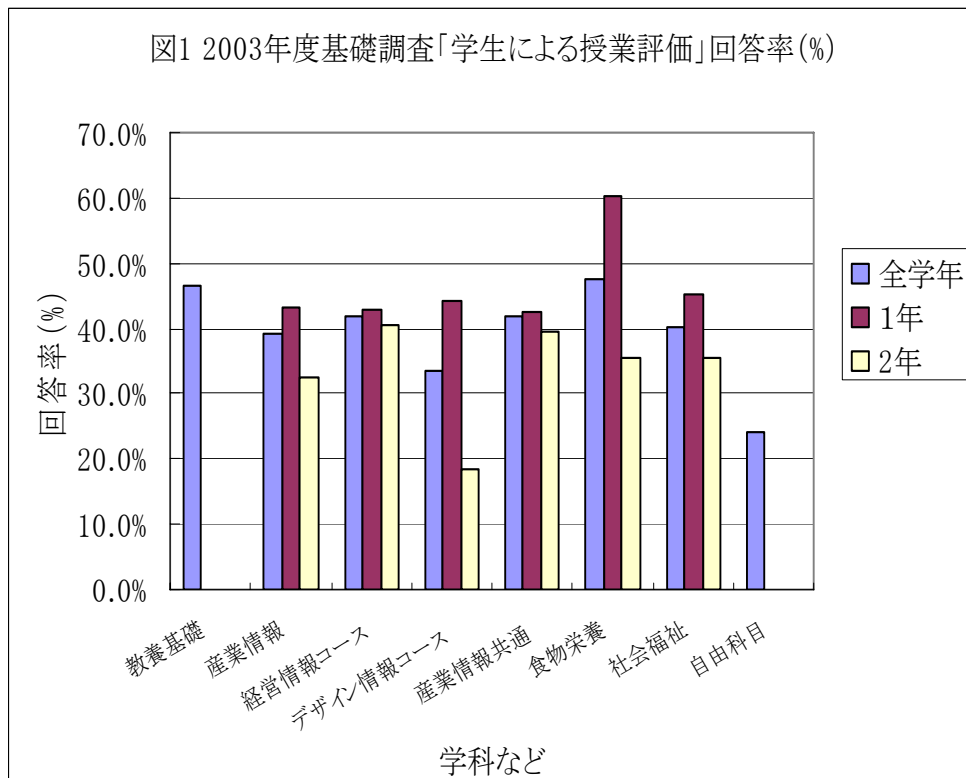
6. 実験・実習・演習科目について

(24)グループで授業を進める場合の1グループの人数は適切である	5	4	3	2	1
(25)課題の意図は理解しやすい	5	4	3	2	1
(26)時間配分は適切である	5	4	3	2	1
(27)事例の選択は適切である	5	4	3	2	1
(28)教員のコメントは理解しやすい	5	4	3	2	1

<注意>この用紙はアンケート控えです。コンピュータセンターで入力してください。

表 5 2003 年度基礎調査「学生による授業評価」回答率
(学科コース別集計結果)

学科等	履修者・配布数			回答者数(人)			回答率(%)		
	全学年	1年	2年	全学年	1年	2年	全学年	1年	2年
教養基礎	1,632	1,632		758	758		46.4%	46.4%	
産業情報	2,884	1,796	1,088	1,128	776	352	39.1%	43.2%	32.4%
経営情報コース	1,152	633	519	483	272	211	41.9%	43.0%	40.7%
デザイン情報コース	951	557	394	319	247	72	33.5%	44.3%	18.3%
産業情報共通	781	606	175	326	257	69	41.7%	42.4%	39.4%
食物栄養	2,270	1,096	1,174	1,078	662	416	47.5%	60.4%	35.4%
社会福祉	3,242	1,618	1,624	1,306	730	576	40.3%	45.1%	35.5%
自由科目	121	121		29	29		24.0%	24.0%	
合計	10,149	6,263	3,886	4,299	2,955	1,344	42.4%	47.2%	34.6%



6. 集計方法および分析方法

1年生と2年生に分けて集計した。学科間における各質問項目の差の検定は Kruskal-Wallis 検定により行った。Kruskal-Wallis 検定が有意な質問項目については、さらに Peritz の検定により学科間の差の検定を行った。

学科以外の各質問項目の回答は、五件法で行ったので回答のカテゴリは順序尺度である。拠って、各質問項目間の相関関係については Kendall の τ_b により順位相関分析を行った。

また、総合評価については、坂元慶行等の方法により、総合評価の質問項目から目的変数を 1 個選択し、残りの質問項目 (22 項目) から説明変数を 1 から 3 個を選択して、2 元から 4 元までの全ての組み合わせによるクロス表を作成した。それぞれのクロス表について「赤池情報量基準」(AIC) を計算しその値が一番小さくなる組み合わせを検索して、どの説明変数の組み合わせが重要か判定した。

7. 結果および考察

(1) 授業計画について

1 年生講義科目について、質問項目(1)授業目的説明のグループ中央値は、経営情報、産情共通において、

それぞれ 4.40、4.31 と有意に高い値であった。1 年生全体では、4.05 と高い値を示した。質問項目(2)評価方法説明でも、経営情報、産情共通における 4.42、4.20 が有意に高い値であった。1 年生全体では 3.94 と高い値を示した。

表 6 授業計画について(1年生 講義科目)(グループ中央値)

質問項目	教養基礎 (a)	産業情報			食物栄養 (e)	社会福祉 (f)	全体 4.05	Kruskal-Wallis 検定 **	連関順位 (AIC)
		経営情報 (b)	デザイン情報 (c)	産情共通 (d)					
(1)授業目的説明	3.88	4.40	3.96	4.31	3.97	3.94		16	
	b,d	a,c,e,f	b	a,e,f	b,d	b,d		-41.6	
(2)評価方法説明	3.78	4.42	3.90	4.20	3.83	3.78	**	8	
	b,d	a,c,d,e,f	b	a,b,e,f	b,d	b,d		-62.0	

注:Kruskal-Wallis 検定 :各質問項目における各区分間の差の検定;*P<0.05, **P<0.01
 注:連関順位(AIC) :各質問項目と区分のクロス表について AIC を計算して、順位を昇順でつけた。
 順位は、質問項目(1)から(22)について昇順につけた。
 注:数字の下の a~f :各区分(a~f)間の比較(Peritz の検定)において有意(P<0.05)な差がみられた。

1 年生実習・演習科目においては、質問項目(1)授業目的説明のグループ中央値は、教養基礎における 4.47 が有意に高い値であった。質問項目(2)評価方法説明も同様に教養基礎における 4.31 が有意に高い値であった。各授業区分においていずれもかなり高い値であった。

表 7 授業計画について(1年生 実習・演習科目)(グループ中央値)

質問項目	教養基礎 (a)	産業情報			食物栄養 (e)	社会福祉 (f)	全体 4.25	Kruskal-Wallis 検定 **	連関順位 (AIC)
		経営情報 (b)	デザイン情報 (c)	産情共通 (d)					
(1)授業目的説明	4.47	4.45	4.13	4.05	4.06	4.25	**	10	
	c,e,f		a	a	a			-11.9	
(2)評価方法説明	4.31	4.03	4.11	3.97	3.91	4.11	**	13	
	e,f			a	a			-9.8	

表 8 授業計画について(2年生 講義科目)(グループ中央値)

質問項目	産業情報			食物栄養 (e)	社会福祉 (f)	全体 4.03	Kruskal-Wallis 検定 **	連関順位 (AIC)
	経営情報 (b)	デザイン情報 (c)	産情共通 (d)					
(1)授業目的説明	3.76	3.78	3.88	4.26	4.12	4.03	**	5
	e,f			b	b			-12.5
(2)評価方法説明	3.76	3.84	3.88	4.29	4.06	4.03	**	4
	e			b				-14.6

表 9 授業計画について(2年生 実習・演習科目)(グループ中央値)

質問項目	デザイン情報 (c)	食物栄養 (e)	社会福祉 (f)	全体 4.23	Kruskal-Wallis 検定 *	連関順位 (AIC)
	(1)授業目的説明	4.18	4.24			
				8.8		
(2)評価方法説明	4.00	4.22	3.98	4.09	*	10
				2.3		

2 年生講義科目では、食物栄養学科、社会福祉学科が質問項目(1)授業目的説明のグループ中央値において、有意に高い値、4.26、4.12 を示した。質問項目(2)評価方法説明のグループ中央値は、食物栄養学科の 4.29 が経営情報に対して有意に高い値を示した。

経営情報、産情共通においては、質問項目(1)授業目的説明および質問項目(2)評価方法説明のグループ中央値が、1 年生と 2 年生でかなり値が違っていた。

2 年生実習・実験科目では、質問項目(1)授業目的説明および質問項目(2)評価方法説明のグループ中央値がいずれも高い値を示していた。

1 年生講義科目の順位相関分析においては、質問項目(1)授業目的説明と質問項目(2)評価方法説明の間に強い相関関係がみられた。

表 10 授業計画について(1年生 講義科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τb))

降順	(1)授業目的説明		(2)評価方法説明	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.717(**)	(2)評価方法説明	0.717(**)	(1)授業目的説明
2	0.496(**)	(3)ポイント説明	0.461(**)	(3)ポイント説明
3	0.453(**)	(4)説明が適切	0.403(**)	(4)説明が適切
4	0.430(**)	(5)教員の声	0.397(**)	(22)よい授業だ
5	0.417(**)	(19)授業意義深い	0.392(**)	(6)ノート
6	0.417(**)	(22)よい授業だ	0.376(**)	(5)教員の声
7	0.399(**)	(21)専門的関心等	0.370(**)	(21)専門的関心等
8	0.391(**)	(11)資料映像利用	0.369(**)	(9)進み具合考慮
9	0.383(**)	(7)考える機会	0.365(**)	(19)授業意義深い
10	0.382(**)	(6)ノート	0.355(**)	(7)考える機会
11	0.381(**)	(10)授業への情熱	0.354(**)	(13)字は見やすい
12	0.378(**)	(12)教科書等活用	0.353(**)	(12)教科書等活用
13	0.362(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.353(**)	(20)授業内容理解
14	0.361(**)	(9)進み具合考慮	0.351(**)	(10)授業への情熱
15	0.355(**)	(13)字は見やすい	0.335(**)	(17)意欲的に学ぶ
16	0.349(**)	(20)授業内容理解	0.334(**)	(11)資料映像利用
17	0.328(**)	(8)質問出やすい	0.331(**)	(8)質問出やすい
18	0.305(**)	(16)教授要綱役立	0.283(**)	(16)教授要綱役立
19	0.271(**)	(15)受講態度良好	0.279(**)	(15)受講態度良好
20	0.201(**)	(18)予習復習行う	0.198(**)	(18)予習復習行う
21	0.126(**)	(14)出席率良好	0.095(**)	(14)出席率良好

表 11 授業計画について(1年生 実習・演習科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τb))

降順	(1)授業目的説明		(2)評価方法説明	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.701(**)	(2)評価方法説明	0.701(**)	(1)授業目的説明
2	0.473(**)	(3)ポイント説明	0.424(**)	(3)ポイント説明
3	0.454(**)	(4)説明が適切	0.395(**)	(4)説明が適切
4	0.423(**)	(5)教員の声	0.368(**)	(6)ノート
5	0.416(**)	(19)授業意義深い	0.363(**)	(22)よい授業だ
6	0.404(**)	(22)よい授業だ	0.361(**)	(5)教員の声
7	0.398(**)	(6)ノート	0.346(**)	(7)考える機会
8	0.395(**)	(10)授業への情熱	0.342(**)	(10)授業への情熱
9	0.381(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.341(**)	(19)授業意義深い
10	0.364(**)	(21)専門的関心等	0.322(**)	(9)進み具合考慮
11	0.354(**)	(7)考える機会	0.313(**)	(11)資料映像利用
12	0.348(**)	(9)進み具合考慮	0.307(**)	(17)意欲的に学ぶ
13	0.346(**)	(20)授業内容理解	0.298(**)	(21)専門的関心等
14	0.333(**)	(12)教科書等活用	0.291(**)	(12)教科書等活用
15	0.321(**)	(13)字は見やすい	0.286(**)	(20)授業内容理解
16	0.320(**)	(11)資料映像利用	0.283(**)	(13)字は見やすい
17	0.315(**)	(16)教授要綱役立	0.275(**)	(16)教授要綱役立
18	0.297(**)	(8)質問出やすい	0.247(**)	(18)予習復習行う
19	0.224(**)	(15)受講態度良好	0.236(**)	(8)質問出やすい
20	0.212(**)	(18)予習復習行う	0.173(**)	(15)受講態度良好
21	0.091(**)	(14)出席率良好	0.064(*)	(14)出席率良好

また、質問項目(1)授業目的説明は、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(4)説明が適切、質問項目(5)教員の声、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(22)よい授業だと中程度の正の相関関係を示した。(順位相関分析の結果、統計的に有意で Kendall の τb が 0.4 以上 0.7 未満の時は中程度の相関関係、0.7 以上の時は強い相関関係または高い相関関係と表現する。また、Kendall の τb が 0.2 以上 0.4 未満で統計的に有意な場合は弱い相関関係があると表現する。)

同様に、質問項目(2)評価方法説明が充分あったと理解している学生の中には、質問項目(1)授業目的説明、質問項目(1)授業目的説明、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(4)説明が適切、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(6)ノートがとりやすいなどと思っている学生がいることが考えられる。(表 10)

表 12 授業計画について(2年生 講義科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ_b))

降順	(1)授業目的説明		(2)評価方法説明	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.677(**)	(2)評価方法説明	0.677(**)	(1)授業目的説明
2	0.549(**)	(3)ポイント説明	0.490(**)	(3)ポイント説明
3	0.526(**)	(4)説明が適切	0.488(**)	(4)説明が適切
4	0.511(**)	(19)授業意義深い	0.438(**)	(7)考える機会
5	0.488(**)	(7)考える機会	0.432(**)	(19)授業意義深い
6	0.473(**)	(22)よい授業だ	0.416(**)	(5)教員の声
7	0.469(**)	(21)専門的関心等	0.411(**)	(22)よい授業だ
8	0.449(**)	(9)進み具合考慮	0.410(**)	(21)専門的関心等
9	0.447(**)	(5)教員の声	0.396(**)	(6)ノート
10	0.446(**)	(20)授業内容理解	0.395(**)	(8)質問出やすい
11	0.436(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.394(**)	(17)意欲的に学ぶ
12	0.423(**)	(6)ノート	0.390(**)	(9)進み具合考慮
13	0.419(**)	(8)質問出やすい	0.390(**)	(20)授業内容理解
14	0.418(**)	(11)資料映像利用	0.388(**)	(13)字は見やすい
15	0.415(**)	(10)授業への情熱	0.351(**)	(11)資料映像利用
16	0.409(**)	(13)字は見やすい	0.347(**)	(10)授業への情熱
17	0.347(**)	(12)教科書等活用	0.324(**)	(12)教科書等活用
18	0.340(**)	(16)教授要綱役立	0.317(**)	(16)教授要綱役立
19	0.308(**)	(15)受講態度良好	0.292(**)	(15)受講態度良好
20	0.240(**)	(18)予習復習行う	0.224(**)	(18)予習復習行う
21	0.126(**)	(14)出席率良好	0.124(**)	(14)出席率良好

表 13 授業計画について(2年生 実習・演習科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ_b))

降順	(1)授業目的説明		(2)評価方法説明	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.656(**)	(2)評価方法説明	0.656(**)	(1)授業目的説明
2	0.511(**)	(4)説明が適切	0.404(**)	(7)考える機会
3	0.497(**)	(3)ポイント説明	0.398(**)	(8)質問出やすい
4	0.484(**)	(8)質問出やすい	0.397(**)	(12)教科書等活用
5	0.482(**)	(7)考える機会	0.397(**)	(13)字は見やすい
6	0.468(**)	(9)進み具合考慮	0.393(**)	(4)説明が適切
7	0.465(**)	(5)教員の声	0.392(**)	(6)ノート
8	0.421(**)	(22)よい授業だ	0.392(**)	(9)進み具合考慮
9	0.415(**)	(6)ノート	0.383(**)	(3)ポイント説明
10	0.415(**)	(19)授業意義深い	0.381(**)	(11)資料映像利用
11	0.410(**)	(13)字は見やすい	0.339(**)	(10)授業への情熱
12	0.406(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.337(**)	(16)教授要綱役立
13	0.403(**)	(21)専門的関心等	0.334(**)	(22)よい授業だ
14	0.396(**)	(20)授業内容理解	0.321(**)	(21)専門的関心等
15	0.375(**)	(11)資料映像利用	0.316(**)	(20)授業内容理解
16	0.369(**)	(10)授業への情熱	0.312(**)	(5)教員の声
17	0.366(**)	(12)教科書等活用	0.295(**)	(19)授業意義深い
18	0.339(**)	(15)受講態度良好	0.294(**)	(17)意欲的に学ぶ
19	0.330(**)	(16)教授要綱役立	0.264(**)	(18)予習復習行う
20	0.279(**)	(18)予習復習行う	0.261(**)	(15)受講態度良好
21	0.177(**)	(14)出席率良好	0.105(**)	(14)出席率良好

この傾向は、1年生実習・演習科目においてもほぼ同様にみられた。(表 11)

2年生講義科目において、質問項目(1)授業目的説明は、質問項目(2)評価方法説明と強い正の相関関係を示した。また、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(4)説明が適切、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(7)考える機会、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(21)専門的関心等と中程度の相関関係を示した。

質問項目(2)評価方法説明は、質問項目(1)授業目的説明と強い正の相関関係を示した。また、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(4)説明が適切、質問項目(7)考える機会、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(5)教員の声、質問項目(22)よい授業だと中程度の相関関係を示した。

2年生実習・演習科目においては、下記の表13に示したがほぼ同様の相関関係が見られた。

(2) 授業方法について

1年生講義科目の質問項目(6)ノートがとりやすいのグループ中央値は、経営情報が他の授業区分より有意に高い値(4.13)を示した。教養基礎(3.15)、食物栄養学科(3.38)は、逆に有意に低い値を示した。

表14 授業方法について(1年生 講義科目)(グループ中央値)

質問項目	教養基礎 (a)	産業情報			食物栄養 (e)	社会福祉 (f)	全体	Kruskal-Wallis 検定	連関順位 (AIC)
		経営情報 (b)	デザイン情報 (c)	産情共通 (d)					
(3)ポイント説明	3.78	4.44	4.04	4.15	4.04	4.09	4.07	**	15
	b,d,f	a,c,d,e,f	b	a,b	b	a,b			-41.7
(4)説明が適切	3.65	4.39	3.92	4.14	3.93	4.09	4.01	**	11
	b,d	a,e,f		a,e	b,d,f	a,b,e			-45.8
(5)教員の声	4.10	4.53	4.08	4.39	3.91	4.40	4.25	**	2
	b,d,f	a,c,e	b	a,e	b,d,f	a,e			-77.0
(6)ノート	3.15	4.13	3.63	3.60	3.38	3.80	3.56	**	1
	b,c,d,f	a,d,e,f	a	a,b	b,f	a,b,e			-107.3
(7)考える機会	3.85	4.13	4.10	4.01	3.79	4.14	3.99	**	21
	f	e			b,f	a,e			-31.8
(8)質問出やすい	3.06	3.60	3.47	3.53	3.37	3.61	3.42	**	4
	b,c,d,e,f	a	a	a	a,f	a,e			-71.4
(9)進み具合考慮	3.27	4.02	3.63	3.73	3.58	3.67	3.60	**	7
	b,c,d,e,f	a,e,f	a	a	a,b	a,b			-63.0
(10)授業への情熱	4.26	4.49	4.38	4.30	4.21	4.43	4.33	**	22
	b,f	a,e			b,f	a,e			-21.6
(11)資料映像利用	4.19	4.13	4.58	4.45	4.13	4.38	4.28	**	9
	c,d,f	c,d,f	a,b,e	a,b,e	c,d,f	a,b,e			-58.0
(12)教科書等活用	3.98	4.41	4.44	4.31	4.22	4.19	4.21	**	17
	b,c,d,f	a	a	a		a			-37.3
(13)字はみやすい	3.42	3.83	3.79	4.18	3.67	3.93	3.78	**	10
	b,d,f	a		a,e	d,f	a,e			-51.7

質問項目(5)教員の声はききとりやすいのグループ中央値は、経営情報(4.53)、産情共通(4.39)、社会福祉学科(4.40)が有意に高い値を示した。質問項目(8)質問出やすいのグループ中央値は、教養基礎が有意に低い値(3.06)を示した。この項目は、1年生講義科目全体で3.42と低い値である。質問項目(9)進み具合考慮して授業を進めているのグループ中央値は、経営情報(4.02)が有意に高く、教養基礎(3.27)が有意に低い値を示した。

質問項目(11)資料映像利用しているのグループ中央値は、デザイン情報(4.58)および産情共通(4.45)において有意に高い値を示した。(表14)

1年生実習・演習科目においては、質問項目(5)教員の声はききとりやすいのグループ中央値は、経営情報(4.48)、教養基礎(4.43)が有意に高い値を示した。質問項目(3)ポイント説明のグループ中央値においても、経営情報(4.51)、教養基礎(4.23)が有意に高い値を示した。

質問項目(12)教科書等活用のグループ中央値では、経営情報(4.62)、教養基礎(4.47)、デザイン情報(4.38)が有意に高い値を示した。質問項目(4)説明が適切なグループ中央値は、経営情報(4.31)、教養基礎(4.21)が有意に高い値を示した。(表15)

2年生の講義科目において、質問項目(8)質問出やすいのグループ中央値は、食物栄養学科(3.84)が有意に高い値を示した。食物栄養学科を除いていずれも3.5未満の値であった。

質問項目(13)字は見やすいのグループ中央値は、食物栄養学科(4.07)、デザイン情報(3.96)が有意に高い値を示した。質問項目(11)資料映像利用のグループ中央値は、産情共通(4.41)が有意に高い値を示した。質問項目(6)ノートがとりやすいのグループ中央値は、食物栄養学科(3.85)が有意に高い値を示した。(表16)

表 15 授業方法について(1年生 実習・演習科目)(グループ中央値)

質問項目	教養基礎 (a)	産業情報		食物栄養 (e)	社会福祉 (f)	全体	Kruskal-Wallis 検定	連関順位 (AIC)
		経営情報 (b)	デザイン情報 (c)					
(3)ポイント説明	4.23 e	4.51 c,e,f	3.90 b	3.72 a,b,f	4.00 b,e	4.08	**	3 -23.7
(4)説明が適切	4.21 c,e,f	4.31 c,e,f	3.67 a,b	3.45 a,b,f	3.85 a,b,e	3.94	**	5 -18.5
(5)教員の声	4.43 e,f	4.48 e,f	4.18 e,f	3.55 a,b,c	4.06 a,b,c	4.18	**	1 -50.5
(6)ノート	3.59	3.57	3.31	3.49	3.35	3.48		22 6.3
(7)考える機会	3.85	4.23 e	3.60	3.67 b	3.88	3.81	**	21 6.2
(8)質問出やすい	3.69	4.10 f	3.48	3.78 f	3.45 b,e	3.65	**	19 -1.5
(9)進み具合考慮	3.98 e	4.38 e	3.64	3.65 a,b	3.71	3.82	**	12 -9.9
(10)授業への情熱	4.51 c,e,f	4.38	4.03 a	4.15 a	4.30 a	4.33	**	9 -12.1
(11)資料映像利用	4.11 c	4.48 e	4.46 a,e	3.94 b,c,f	4.18 e	4.16	**	11 -10.7
(12)教科書等活用	4.47 e,f	4.62 e,f	4.38 e,f	3.93 a,b,c	4.04 a,b,c	4.26	**	4 -18.8
(13)字はみやすい	3.76 b	4.39 a,e,f	3.98 e,f	3.54 b,c	3.59 b,c	3.74	**	14 -8.6

表 16 授業方法について(2年生 講義科目)(グループ中央値)

質問項目	産業情報			食物栄養 (e)	社会福祉 (f)	全体	Kruskal-Wallis 検定	連関順位 (AIC)
	経営情報 (b)	デザイン情報 (c)	産情共通 (d)					
(3)ポイント説明	3.86	3.86	4.09	4.13	4.01	4.01		20 5.2
(4)説明が適切	3.86	3.61	4.07	4.04	3.91	3.93		22 5.9
(5)教員の声	4.44 e,f	3.83	4.30	4.16 b	4.04 b	4.20	**	15 0.4
(6)ノート	3.36 e	3.32	3.76	3.85 b	3.57	3.58	**	12 -1.2
(7)考える機会	3.99	3.46	4.07	4.02	3.98	3.97		21 5.3
(8)質問出やすい	3.37 e	3.13 e	3.31	3.84 b,c,f	3.43 e	3.47	**	8 -4.7
(9)進み具合考慮	3.60	3.23	3.71	3.94 f	3.55 e	3.65	**	16 2.2
(10)授業への情熱	4.29	4.13	4.42	4.27	4.46	4.35		14 -0.8
(11)資料映像利用	4.00 d	4.08	4.41 b,e	4.12 d	4.32	4.19	**	11 -1.7
(12)教科書等活用	4.23	3.87	4.25	4.24	4.19	4.21		18 4.6
(13)字はみやすい	3.48 c,e	3.96 b,f	3.86	4.07 b,f	3.47 c,e	3.68	**	7 -6.4

2年生実習・演習科目においては、授業区分全体的に高い評価がみられ、3.5未満の低い値はみられなかった。中でも質問項目(10)授業への情熱はいずれも4.4以上と高い値を示した。また、質問項目(3)ポイント説明、(7)考える機会、(8)質問出やすい、(9)進み具合考慮、(11)資料映像利用においてもいずれも4.0以上の高い値を示した。(表 17)

授業方法について、各質問項目間の相関関係について順位相関分析を行った。質問項目(3)ポイント説明は、質問項目(4)説明が適切と強い相関関係を示した。さらに、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(21)専門的関心等とも中程度の相関関係を示していた。

表 17 授業方法について(2年生 実習・演習科目)(グループ中央値)

質問項目	デザイン情報	食物栄養	社会福祉	全体	Kruskal-Wallis 検定	連関順位 (AIC)
	(c)	(e)	(f)			
(3)ポイント説明	4.21	4.00	4.31	4.19	**	9
		f	e			0.6
(4)説明が適切	4.21	3.96	4.31	4.18	**	6
		f	e			-3.3
(5)教員の声	4.33	3.99	4.49	4.31	**	3
	e	c,f	e			-13.0
(6)ノート	3.83	3.77	3.66	3.71		16
						6.6
(7)考える機会	4.36	4.21	4.15	4.19		19
						8.4
(8)質問出やすい	4.55	4.07	4.02	4.08	**	17
	e,f	c	c			7.0
(9)進み具合考慮	4.48	4.07	4.02	4.08	*	15
	e,f	c	c			6.6
(10)授業への情熱	4.55	4.44	4.53	4.49		12
						3.5
(11)資料映像利用	4.14	4.30	4.24	4.26		20
						8.5
(12)教科書等活用	4.00	4.16	3.91	4.03	*	18
		f	e			7.8
(13)字はみやすい	3.92	3.91	3.85	3.87		22
						9.6

表 18 授業方法について(1年生 講義科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τb))

降順	(3)ポイント説明		(4)説明が適切		(5)教員の声		(6)ノート	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.773(**)	(4)説明が適切	0.773(**)	(3)ポイント説明	0.666(**)	(4)説明が適切	0.568(**)	(4)説明が適切
2	0.608(**)	(22)よい授業だ	0.666(**)	(5)教員の声	0.586(**)	(3)ポイント説明	0.543(**)	(3)ポイント説明
3	0.586(**)	(5)教員の声	0.623(**)	(22)よい授業だ	0.506(**)	(6)ノート	0.511(**)	(13)字は見やすい
4	0.543(**)	(6)ノート	0.568(**)	(6)ノート	0.497(**)	(22)よい授業だ	0.506(**)	(5)教員の声
5	0.539(**)	(19)授業意義深い	0.551(**)	(19)授業意義深い	0.485(**)	(10)授業への情熱	0.477(**)	(9)進み具合考慮
6	0.507(**)	(9)進み具合考慮	0.534(**)	(9)進み具合考慮	0.450(**)	(13)字は見やすい	0.473(**)	(22)よい授業だ
7	0.503(**)	(21)専門的関心等	0.519(**)	(21)専門的関心等	0.437(**)	(7)考える機会	0.457(**)	(7)考える機会
8	0.496(**)	(1)授業目的説明	0.505(**)	(10)授業への情熱	0.434(**)	(19)授業意義深い	0.443(**)	(8)質問出やすい
9	0.484(**)	(10)授業への情熱	0.499(**)	(7)考える機会	0.430(**)	(1)授業目的説明	0.409(**)	(19)授業意義深い
10	0.480(**)	(7)考える機会	0.495(**)	(20)授業内容理解	0.422(**)	(9)進み具合考慮	0.405(**)	(21)専門的関心等
11	0.469(**)	(20)授業内容理解	0.473(**)	(13)字は見やすい	0.409(**)	(21)専門的関心等	0.403(**)	(20)授業内容理解
12	0.461(**)	(2)評価方法説明	0.453(**)	(1)授業目的説明	0.402(**)	(11)資料映像利用	0.392(**)	(2)評価方法説明
13	0.447(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.448(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.378(**)	(12)教科書等活用	0.388(**)	(10)授業への情熱
14	0.442(**)	(12)教科書等活用	0.445(**)	(8)質問出やすい	0.376(**)	(2)評価方法説明	0.382(**)	(1)授業目的説明
15	0.441(**)	(13)字は見やすい	0.443(**)	(11)資料映像利用	0.373(**)	(20)授業内容理解	0.375(**)	(17)意欲的に学ぶ
16	0.428(**)	(11)資料映像利用	0.436(**)	(12)教科書等活用	0.371(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.365(**)	(12)教科書等活用
17	0.415(**)	(8)質問出やすい	0.403(**)	(2)評価方法説明	0.357(**)	(8)質問出やすい	0.322(**)	(11)資料映像利用
18	0.349(**)	(15)受講態度良好	0.345(**)	(15)受講態度良好	0.319(**)	(15)受講態度良好	0.313(**)	(15)受講態度良好
19	0.251(**)	(16)教授要綱役立	0.251(**)	(16)教授要綱役立	0.247(**)	(16)教授要綱役立	0.271(**)	(18)予習復習行う
20	0.222(**)	(18)予習復習行う	0.225(**)	(18)予習復習行う	0.151(**)	(14)出席率良好	0.244(**)	(16)教授要綱役立
21	0.154(**)	(14)出席率良好	0.140(**)	(14)出席率良好	0.149(**)	(18)予習復習行う	0.091(**)	(14)出席率良好

質問項目(4)説明が適切は、上述の通り質問項目(3)ポイント説明と強い相関関係を示していた。この項目も質問項目(22)よい授業だ、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(21)専門的関心等とも中程度の相関関係を示していた。質問項目(5)教員の声のききりとやすいは、質問項目(4)説明が適切、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(6)ノート、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(10)授業への情熱質問項目(13)字は見やすいと中程度の相関関係を示した。質問項目(6)ノートがとりやすいは、質問項目(4)説明が適切、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(13)字は見やすい、質問項目(5)教員の声、質問項目(9)進み具合考慮、質問項目(22)よい授業だなどと中程度の相関関係を示した。

表 18 続き 授業方法について(1年生 講義科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(7)考える機会		(8)質問出やすい		(9)進み具合考慮		(10)授業への情熱	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.517(**)	(22)よい授業だ	0.619(**)	(9)進み具合考慮	0.619(**)	(8)質問出やすい	0.527(**)	(22)よい授業だ
2	0.514(**)	(8)質問出やすい	0.514(**)	(7)考える機会	0.534(**)	(4)説明が適切	0.505(**)	(4)説明が適切
3	0.501(**)	(10)授業への情熱	0.445(**)	(4)説明が適切	0.507(**)	(3)ポイント説明	0.501(**)	(7)考える機会
4	0.499(**)	(4)説明が適切	0.443(**)	(6)ノート	0.498(**)	(22)よい授業だ	0.485(**)	(5)教員の声
5	0.485(**)	(9)進み具合考慮	0.432(**)	(22)よい授業だ	0.485(**)	(7)考える機会	0.484(**)	(3)ポイント説明
6	0.480(**)	(3)ポイント説明	0.415(**)	(3)ポイント説明	0.477(**)	(6)ノート	0.474(**)	(19)授業意義深い
7	0.477(**)	(19)授業意義深い	0.396(**)	(20)授業内容理解	0.471(**)	(20)授業内容理解	0.467(**)	(9)進み具合考慮
8	0.457(**)	(6)ノート	0.383(**)	(10)授業への情熱	0.467(**)	(10)授業への情熱	0.452(**)	(11)資料映像利用
9	0.455(**)	(21)専門的関心等	0.383(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.433(**)	(19)授業意義深い	0.432(**)	(21)専門的関心等
10	0.448(**)	(11)資料映像利用	0.379(**)	(21)専門的関心等	0.432(**)	(21)専門的関心等	0.430(**)	(12)教科書等活用
11	0.437(**)	(5)教員の声	0.378(**)	(19)授業意義深い	0.422(**)	(5)教員の声	0.409(**)	(17)意欲的に学ぶ
12	0.422(**)	(13)字は見やすい	0.361(**)	(13)字は見やすい	0.406(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.408(**)	(6)ノート
13	0.419(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.357(**)	(5)教員の声	0.381(**)	(13)字は見やすい	0.383(**)	(8)質問出やすい
14	0.415(**)	(12)教科書等活用	0.344(**)	(11)資料映像利用	0.369(**)	(2)評価方法説明	0.381(**)	(1)授業目的説明
15	0.391(**)	(20)授業内容理解	0.331(**)	(2)評価方法説明	0.367(**)	(12)教科書等活用	0.360(**)	(13)字は見やすい
16	0.383(**)	(1)授業目的説明	0.328(**)	(1)授業目的説明	0.363(**)	(11)資料映像利用	0.351(**)	(2)評価方法説明
17	0.355(**)	(2)評価方法説明	0.321(**)	(12)教科書等活用	0.361(**)	(1)授業目的説明	0.351(**)	(20)授業内容理解
18	0.281(**)	(15)受講態度良好	0.301(**)	(18)予習復習行う	0.286(**)	(18)予習復習行う	0.273(**)	(15)受講態度良好
19	0.229(**)	(16)教授要綱役立	0.251(**)	(15)受講態度良好	0.273(**)	(15)受講態度良好	0.189(**)	(16)教授要綱役立
20	0.215(**)	(18)予習復習行う	0.244(**)	(16)教授要綱役立	0.260(**)	(16)教授要綱役立	0.135(**)	(18)予習復習行う
21	0.133(**)	(14)出席率良好	0.076(**)	(14)出席率良好	0.105(**)	(14)出席率良好	0.114(**)	(14)出席率良好

表 18 続き 授業方法について(1年生 講義科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(11)資料映像利用		(12)教科書等活用		(13)字は見やすい	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.561(**)	(12)教科書等活用	0.561(**)	(11)資料映像利用	0.511(**)	(6)ノート
2	0.452(**)	(10)授業への情熱	0.458(**)	(13)字は見やすい	0.473(**)	(4)説明が適切
3	0.448(**)	(7)考える機会	0.442(**)	(3)ポイント説明	0.458(**)	(12)教科書等活用
4	0.443(**)	(4)説明が適切	0.441(**)	(22)よい授業だ	0.450(**)	(5)教員の声
5	0.443(**)	(13)字は見やすい	0.436(**)	(4)説明が適切	0.443(**)	(11)資料映像利用
6	0.433(**)	(22)よい授業だ	0.430(**)	(10)授業への情熱	0.441(**)	(3)ポイント説明
7	0.428(**)	(3)ポイント説明	0.415(**)	(7)考える機会	0.422(**)	(7)考える機会
8	0.402(**)	(5)教員の声	0.405(**)	(19)授業意義深い	0.411(**)	(22)よい授業だ
9	0.394(**)	(19)授業意義深い	0.394(**)	(21)専門的関心等	0.381(**)	(9)進み具合考慮
10	0.391(**)	(1)授業目的説明	0.383(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.375(**)	(17)意欲的に学ぶ
11	0.378(**)	(21)専門的関心等	0.378(**)	(1)授業目的説明	0.364(**)	(21)専門的関心等
12	0.375(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.378(**)	(5)教員の声	0.362(**)	(19)授業意義深い
13	0.363(**)	(9)進み具合考慮	0.367(**)	(9)進み具合考慮	0.361(**)	(8)質問出やすい
14	0.344(**)	(8)質問出やすい	0.365(**)	(6)ノート	0.360(**)	(10)授業への情熱
15	0.338(**)	(20)授業内容理解	0.353(**)	(2)評価方法説明	0.355(**)	(1)授業目的説明
16	0.334(**)	(2)評価方法説明	0.321(**)	(8)質問出やすい	0.354(**)	(2)評価方法説明
17	0.322(**)	(6)ノート	0.304(**)	(20)授業内容理解	0.331(**)	(20)授業内容理解
18	0.259(**)	(15)受講態度良好	0.240(**)	(15)受講態度良好	0.277(**)	(15)受講態度良好
19	0.194(**)	(16)教授要綱役立	0.228(**)	(16)教授要綱役立	0.220(**)	(18)予習復習行う
20	0.152(**)	(14)出席率良好	0.160(**)	(14)出席率良好	0.216(**)	(16)教授要綱役立
21	0.131(**)	(18)予習復習行う	0.151(**)	(18)予習復習行う	0.122(**)	(14)出席率良好

質問項目(7)考える機会は、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(8)質問出やすい、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(4)説明が適切などと中程度の相関関係を示した

質問項目(8)質問出やすいは、質問項目(9)進み具合考慮、質問項目(7)考える機会、質問項目(4)説明が適切、質問項目(6)ノートなどと中程度の相関関係を示した。

質問項目(9)進み具合考慮は、質問項目(8)質問出やすい、質問項目(4)説明が適切、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(7)考える機会などと中程度の相関関係を示した。

質問項目(10)授業への情熱は、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(4)説明が適切、質問項目(7)考える機会、質問項目(5)教員の声、質問項目(3)ポイント説明などと中程度の相関関係を示した。

表 19 授業方法について(1年生 実習・演習科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(3)ポイント説明		(4)説明が適切		(5)教員の声		(6)ノート	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.747(**)	(4)説明が適切	0.747(**)	(3)ポイント説明	0.686(**)	(4)説明が適切	0.585(**)	(4)説明が適切
2	0.594(**)	(5)教員の声	0.686(**)	(5)教員の声	0.594(**)	(3)ポイント説明	0.564(**)	(3)ポイント説明
3	0.564(**)	(6)ノート	0.585(**)	(6)ノート	0.522(**)	(6)ノート	0.541(**)	(13)字は見やすい
4	0.561(**)	(22)よい授業だ	0.567(**)	(22)よい授業だ	0.507(**)	(22)よい授業だ	0.522(**)	(5)教員の声
5	0.545(**)	(19)授業意義深い	0.523(**)	(9)進み具合考慮	0.472(**)	(10)授業への情熱	0.507(**)	(22)よい授業だ
6	0.498(**)	(21)専門的関心等	0.506(**)	(19)授業意義深い	0.470(**)	(13)字は見やすい	0.498(**)	(9)進み具合考慮
7	0.487(**)	(7)考える機会	0.495(**)	(7)考える機会	0.467(**)	(9)進み具合考慮	0.490(**)	(7)考える機会
8	0.484(**)	(9)進み具合考慮	0.488(**)	(20)授業内容理解	0.437(**)	(19)授業意義深い	0.448(**)	(19)授業意義深い
9	0.473(**)	(1)授業目的説明	0.478(**)	(21)専門的関心等	0.423(**)	(1)授業目的説明	0.427(**)	(8)質問出やすい
10	0.462(**)	(20)授業内容理解	0.469(**)	(10)授業への情熱	0.414(**)	(7)考える機会	0.413(**)	(11)資料映像利用
11	0.447(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.458(**)	(13)字は見やすい	0.406(**)	(12)教科書等活用	0.411(**)	(21)専門的関心等
12	0.442(**)	(13)字は見やすい	0.454(**)	(1)授業目的説明	0.386(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.400(**)	(12)教科書等活用
13	0.429(**)	(10)授業への情熱	0.447(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.385(**)	(11)資料映像利用	0.399(**)	(10)授業への情熱
14	0.428(**)	(12)教科書等活用	0.406(**)	(8)質問出やすい	0.385(**)	(21)専門的関心等	0.398(**)	(1)授業目的説明
15	0.424(**)	(2)評価方法説明	0.405(**)	(11)資料映像利用	0.373(**)	(20)授業内容理解	0.368(**)	(2)評価方法説明
16	0.404(**)	(11)資料映像利用	0.401(**)	(12)教科書等活用	0.361(**)	(2)評価方法説明	0.362(**)	(17)意欲的に学ぶ
17	0.383(**)	(8)質問出やすい	0.395(**)	(2)評価方法説明	0.341(**)	(8)質問出やすい	0.354(**)	(20)授業内容理解
18	0.295(**)	(16)教授要綱役立	0.284(**)	(15)受講態度良好	0.280(**)	(15)受講態度良好	0.281(**)	(18)予習復習行う
19	0.282(**)	(15)受講態度良好	0.275(**)	(16)教授要綱役立	0.253(**)	(16)教授要綱役立	0.280(**)	(16)教授要綱役立
20	0.257(**)	(18)予習復習行う	0.268(**)	(18)予習復習行う	0.223(**)	(18)予習復習行う	0.209(**)	(15)受講態度良好
21	0.081(**)	(14)出席率良好	0.085(**)	(14)出席率良好	0.124(**)	(14)出席率良好	0.059	(14)出席率良好

表 19 続き 授業方法について(1年生 実習・演習科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(7)考える機会		(8)質問出やすい		(9)進み具合考慮		(10)授業への情熱	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.495(**)	(4)説明が適切	0.587(**)	(9)進み具合考慮	0.587(**)	(8)質問出やすい	0.488(**)	(9)進み具合考慮
2	0.491(**)	(9)進み具合考慮	0.474(**)	(7)考える機会	0.523(**)	(4)説明が適切	0.485(**)	(22)よい授業だ
3	0.490(**)	(6)ノート	0.450(**)	(22)よい授業だ	0.498(**)	(6)ノート	0.472(**)	(5)教員の声
4	0.487(**)	(3)ポイント説明	0.427(**)	(6)ノート	0.491(**)	(7)考える機会	0.469(**)	(4)説明が適切
5	0.486(**)	(11)資料映像利用	0.413(**)	(10)授業への情熱	0.488(**)	(10)授業への情熱	0.435(**)	(11)資料映像利用
6	0.474(**)	(8)質問出やすい	0.406(**)	(4)説明が適切	0.484(**)	(3)ポイント説明	0.429(**)	(3)ポイント説明
7	0.469(**)	(22)よい授業だ	0.387(**)	(21)専門的関心等	0.484(**)	(22)よい授業だ	0.424(**)	(7)考える機会
8	0.457(**)	(13)字は見やすい	0.383(**)	(3)ポイント説明	0.470(**)	(13)字は見やすい	0.413(**)	(8)質問出やすい
9	0.424(**)	(10)授業への情熱	0.380(**)	(13)字は見やすい	0.467(**)	(5)教員の声	0.411(**)	(12)教科書等活用
10	0.424(**)	(21)専門的関心等	0.379(**)	(19)授業意義深い	0.441(**)	(21)専門的関心等	0.408(**)	(19)授業意義深い
11	0.422(**)	(19)授業意義深い	0.348(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.434(**)	(19)授業意義深い	0.403(**)	(13)字は見やすい
12	0.414(**)	(5)教員の声	0.341(**)	(5)教員の声	0.414(**)	(11)資料映像利用	0.399(**)	(6)ノート
13	0.391(**)	(12)教科書等活用	0.339(**)	(12)教科書等活用	0.405(**)	(12)教科書等活用	0.395(**)	(1)授業目的説明
14	0.377(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.331(**)	(20)授業内容理解	0.405(**)	(20)授業内容理解	0.389(**)	(21)専門的関心等
15	0.356(**)	(20)授業内容理解	0.323(**)	(11)資料映像利用	0.398(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.386(**)	(17)意欲的に学ぶ
16	0.354(**)	(1)授業目的説明	0.297(**)	(1)授業目的説明	0.348(**)	(1)授業目的説明	0.342(**)	(2)評価方法説明
17	0.346(**)	(2)評価方法説明	0.236(**)	(2)評価方法説明	0.322(**)	(2)評価方法説明	0.337(**)	(20)授業内容理解
18	0.275(**)	(18)予習復習行う	0.235(**)	(16)教授要綱役立	0.244(**)	(18)予習復習行う	0.224(**)	(15)受講態度良好
19	0.252(**)	(16)教授要綱役立	0.223(**)	(18)予習復習行う	0.231(**)	(16)教授要綱役立	0.203(**)	(16)教授要綱役立
20	0.188(**)	(15)受講態度良好	0.216(**)	(15)受講態度良好	0.221(**)	(15)受講態度良好	0.193(**)	(18)予習復習行う
21	0.080(*)	(14)出席率良好	0.026	(14)出席率良好	0.045	(14)出席率良好	0.053	(14)出席率良好

質問項目(11)資料映像利用は、質問項目(12)教科書等活用、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(7)考える機会、質問項目(4)説明が適切などと中程度の相関関係を示した。

質問項目(12)教科書等活用は、質問項目(11)資料映像利用、質問項目(13)字は見やすい、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(22)よい授業だなどと中程度の相関関係を示した。

質問項目(13)字は見やすいは、質問項目(6)ノート、質問項目(4)説明が適切、質問項目(12)教科書等活用、質問項目(5)教員の声、質問項目(11)資料映像利用などと中程度の相関関係を示した。(表 18)

表 19 続き 授業方法について(1年生 実習・演習科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(11)資料映像利用		(12)教科書等活用		(13)字は見やすい	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.558(**)	(12)教科書等活用	0.558(**)	(11)資料映像利用	0.543(**)	(11)資料映像利用
2	0.543(**)	(13)字は見やすい	0.517(**)	(13)字は見やすい	0.541(**)	(6)ノート
3	0.486(**)	(7)考える機会	0.431(**)	(22)よい授業だ	0.517(**)	(12)教科書等活用
4	0.435(**)	(10)授業への情熱	0.428(**)	(3)ポイント説明	0.470(**)	(5)教員の声
5	0.415(**)	(22)よい授業だ	0.411(**)	(10)授業への情熱	0.470(**)	(9)進み具合考慮
6	0.414(**)	(9)進み具合考慮	0.406(**)	(5)教員の声	0.458(**)	(4)説明が適切
7	0.413(**)	(6)ノート	0.405(**)	(9)進み具合考慮	0.457(**)	(7)考える機会
8	0.405(**)	(4)説明が適切	0.401(**)	(4)説明が適切	0.442(**)	(3)ポイント説明
9	0.404(**)	(3)ポイント説明	0.400(**)	(6)ノート	0.440(**)	(22)よい授業だ
10	0.385(**)	(5)教員の声	0.391(**)	(7)考える機会	0.403(**)	(10)授業への情熱
11	0.347(**)	(21)専門的関心等	0.358(**)	(19)授業意義深い	0.383(**)	(19)授業意義深い
12	0.345(**)	(19)授業意義深い	0.339(**)	(8)質問出やすい	0.380(**)	(8)質問出やすい
13	0.323(**)	(8)質問出やすい	0.339(**)	(21)専門的関心等	0.367(**)	(21)専門的関心等
14	0.320(**)	(1)授業目的説明	0.333(**)	(1)授業目的説明	0.348(**)	(17)意欲的に学ぶ
15	0.313(**)	(2)評価方法説明	0.329(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.344(**)	(20)授業内容理解
16	0.313(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.304(**)	(20)授業内容理解	0.321(**)	(1)授業目的説明
17	0.266(**)	(20)授業内容理解	0.291(**)	(2)評価方法説明	0.283(**)	(2)評価方法説明
18	0.204(**)	(18)予習復習行う	0.240(**)	(16)教授要綱役立	0.279(**)	(16)教授要綱役立
19	0.190(**)	(16)教授要綱役立	0.228(**)	(18)予習復習行う	0.261(**)	(18)予習復習行う
20	0.154(**)	(15)受講態度良好	0.185(**)	(15)受講態度良好	0.203(**)	(15)受講態度良好
21	0.091(**)	(14)出席率良好	0.080(*)	(14)出席率良好	0.076(*)	(14)出席率良好

表 20 授業方法について(2年生 講義科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(3)ポイント説明		(4)説明が適切		(5)教員の声		(6)ノート	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.796(**)	(4)説明が適切	0.796(**)	(3)ポイント説明	0.677(**)	(4)説明が適切	0.627(**)	(4)説明が適切
2	0.631(**)	(5)教員の声	0.677(**)	(5)教員の声	0.631(**)	(3)ポイント説明	0.596(**)	(3)ポイント説明
3	0.596(**)	(6)ノート	0.627(**)	(6)ノート	0.549(**)	(7)考える機会	0.578(**)	(13)字は見やすい
4	0.594(**)	(22)よい授業だ	0.602(**)	(7)考える機会	0.541(**)	(6)ノート	0.541(**)	(5)教員の声
5	0.584(**)	(7)考える機会	0.595(**)	(22)よい授業だ	0.502(**)	(22)よい授業だ	0.522(**)	(7)考える機会
6	0.562(**)	(19)授業意義深い	0.582(**)	(19)授業意義深い	0.465(**)	(19)授業意義深い	0.481(**)	(9)進み具合考慮
7	0.549(**)	(1)授業目的説明	0.545(**)	(20)授業内容理解	0.453(**)	(13)字は見やすい	0.479(**)	(8)質問出やすい
8	0.524(**)	(13)字は見やすい	0.539(**)	(13)字は見やすい	0.447(**)	(1)授業目的説明	0.463(**)	(22)よい授業だ
9	0.516(**)	(9)進み具合考慮	0.529(**)	(9)進み具合考慮	0.443(**)	(9)進み具合考慮	0.453(**)	(20)授業内容理解
10	0.504(**)	(20)授業内容理解	0.526(**)	(1)授業目的説明	0.428(**)	(10)授業への情熱	0.446(**)	(19)授業意義深い
11	0.502(**)	(21)専門的関心等	0.511(**)	(21)専門的関心等	0.416(**)	(2)評価方法説明	0.424(**)	(21)専門的関心等
12	0.490(**)	(2)評価方法説明	0.488(**)	(2)評価方法説明	0.413(**)	(21)専門的関心等	0.423(**)	(1)授業目的説明
13	0.449(**)	(11)資料映像利用	0.470(**)	(8)質問出やすい	0.411(**)	(11)資料映像利用	0.396(**)	(2)評価方法説明
14	0.445(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.455(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.390(**)	(8)質問出やすい	0.388(**)	(17)意欲的に学ぶ
15	0.441(**)	(8)質問出やすい	0.420(**)	(10)授業への情熱	0.388(**)	(20)授業内容理解	0.372(**)	(11)資料映像利用
16	0.426(**)	(10)授業への情熱	0.418(**)	(11)資料映像利用	0.379(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.371(**)	(12)教科書等活用
17	0.370(**)	(12)教科書等活用	0.381(**)	(12)教科書等活用	0.378(**)	(12)教科書等活用	0.315(**)	(10)授業への情熱
18	0.344(**)	(15)受講態度良好	0.364(**)	(15)受講態度良好	0.346(**)	(15)受講態度良好	0.315(**)	(15)受講態度良好
19	0.324(**)	(16)教授要綱役立	0.292(**)	(16)教授要綱役立	0.267(**)	(16)教授要綱役立	0.296(**)	(16)教授要綱役立
20	0.215(**)	(18)予習復習行う	0.232(**)	(18)予習復習行う	0.198(**)	(14)出席率良好	0.243(**)	(18)予習復習行う
21	0.153(**)	(14)出席率良好	0.173(**)	(14)出席率良好	0.192(**)	(18)予習復習行う	0.103(**)	(14)出席率良好

表 20 続き 授業方法について(2年生 講義科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(7)考える機会		(8)質問出やすい		(9)進み具合考慮		(10)授業への情熱	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.602(**)	(4)説明が適切	0.642(**)	(9)進み具合考慮	0.642(**)	(8)質問出やすい	0.514(**)	(22)よい授業だ
2	0.584(**)	(3)ポイント説明	0.582(**)	(7)考える機会	0.576(**)	(7)考える機会	0.501(**)	(11)資料映像利用
3	0.582(**)	(8)質問出やすい	0.487(**)	(20)授業内容理解	0.529(**)	(4)説明が適切	0.485(**)	(7)考える機会
4	0.576(**)	(9)進み具合考慮	0.479(**)	(6)ノート	0.516(**)	(3)ポイント説明	0.476(**)	(19)授業意義深い
5	0.567(**)	(22)よい授業だ	0.474(**)	(13)字は見やすい	0.512(**)	(22)よい授業だ	0.452(**)	(17)専門的関心等
6	0.549(**)	(5)教員の声	0.470(**)	(4)説明が適切	0.505(**)	(20)授業内容理解	0.440(**)	(12)教科書等活用
7	0.540(**)	(19)授業意義深い	0.456(**)	(22)よい授業だ	0.486(**)	(19)授業意義深い	0.432(**)	(9)進み具合考慮
8	0.528(**)	(11)資料映像利用	0.454(**)	(21)専門的関心等	0.481(**)	(6)ノート	0.428(**)	(5)教員の声
9	0.522(**)	(6)ノート	0.448(**)	(19)授業意義深い	0.480(**)	(21)専門的関心等	0.426(**)	(3)ポイント説明
10	0.513(**)	(21)専門的関心等	0.441(**)	(3)ポイント説明	0.475(**)	(13)字は見やすい	0.420(**)	(4)説明が適切
11	0.488(**)	(1)授業目的説明	0.424(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.449(**)	(1)授業目的説明	0.415(**)	(1)授業目的説明
12	0.488(**)	(13)字は見やすい	0.419(**)	(1)授業目的説明	0.443(**)	(5)教員の声	0.391(**)	(17)意欲的に学ぶ
13	0.485(**)	(10)授業への情熱	0.395(**)	(2)評価方法説明	0.432(**)	(10)授業への情熱	0.377(**)	(8)質問出やすい
14	0.475(**)	(20)授業内容理解	0.390(**)	(5)教員の声	0.428(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.368(**)	(20)授業内容理解
15	0.452(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.388(**)	(11)資料映像利用	0.408(**)	(11)資料映像利用	0.347(**)	(2)評価方法説明
16	0.438(**)	(2)評価方法説明	0.377(**)	(10)授業への情熱	0.390(**)	(2)評価方法説明	0.315(**)	(6)ノート
17	0.423(**)	(12)教科書等活用	0.339(**)	(12)教科書等活用	0.376(**)	(12)教科書等活用	0.305(**)	(13)字は見やすい
18	0.387(**)	(15)受講態度良好	0.339(**)	(18)予習復習行う	0.351(**)	(18)予習復習行う	0.290(**)	(15)受講態度良好
19	0.300(**)	(16)教授要綱役立	0.322(**)	(16)教授要綱役立	0.342(**)	(16)教授要綱役立	0.256(**)	(16)教授要綱役立
20	0.237(**)	(18)予習復習行う	0.304(**)	(15)受講態度良好	0.283(**)	(15)受講態度良好	0.183(**)	(14)出席率良好
21	0.180(**)	(14)出席率良好	0.088(**)	(14)出席率良好	0.109(**)	(14)出席率良好	0.159(**)	(18)予習復習行う

表 20 続き 授業方法について(2年生 講義科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(11)資料映像利用		(12)教科書等活用		(13)字は見やすい	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.528(**)	(7)考える機会	0.503(**)	(11)資料映像利用	0.578(**)	(6)ノート
2	0.503(**)	(12)教科書等活用	0.440(**)	(10)授業への情熱	0.539(**)	(4)説明が適切
3	0.501(**)	(10)授業への情熱	0.423(**)	(7)考える機会	0.524(**)	(3)ポイント説明
4	0.449(**)	(3)ポイント説明	0.421(**)	(13)字は見やすい	0.488(**)	(7)考える機会
5	0.430(**)	(13)字は見やすい	0.396(**)	(19)授業意義深い	0.475(**)	(9)進み具合考慮
6	0.430(**)	(22)よい授業だ	0.388(**)	(22)よい授業だ	0.474(**)	(8)質問出やすい
7	0.418(**)	(1)授業目的説明	0.381(**)	(4)説明が適切	0.453(**)	(5)教員の声
8	0.418(**)	(4)説明が適切	0.378(**)	(5)教員の声	0.433(**)	(22)よい授業だ
9	0.411(**)	(5)教員の声	0.376(**)	(9)進み具合考慮	0.430(**)	(11)資料映像利用
10	0.409(**)	(19)授業意義深い	0.371(**)	(6)ノート	0.421(**)	(12)教科書等活用
11	0.408(**)	(9)進み具合考慮	0.370(**)	(3)ポイント説明	0.415(**)	(19)授業意義深い
12	0.388(**)	(8)質問出やすい	0.369(**)	(21)専門的関心等	0.409(**)	(1)授業目的説明
13	0.388(**)	(21)専門的関心等	0.347(**)	(1)授業目的説明	0.409(**)	(20)授業内容理解
14	0.372(**)	(6)ノート	0.341(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.401(**)	(21)専門的関心等
15	0.351(**)	(2)評価方法説明	0.339(**)	(8)質問出やすい	0.388(**)	(2)評価方法説明
16	0.346(**)	(20)授業内容理解	0.324(**)	(2)評価方法説明	0.373(**)	(17)意欲的に学ぶ
17	0.344(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.295(**)	(20)授業内容理解	0.326(**)	(15)受講態度良好
18	0.307(**)	(15)受講態度良好	0.288(**)	(15)受講態度良好	0.311(**)	(16)教授要綱役立
19	0.191(**)	(16)教授要綱役立	0.202(**)	(16)教授要綱役立	0.305(**)	(10)授業への情熱
20	0.178(**)	(14)出席率良好	0.188(**)	(14)出席率良好	0.266(**)	(18)予習復習行う
21	0.140(**)	(18)予習復習行う	0.138(**)	(18)予習復習行う	0.125(**)	(14)出席率良好

1 年生実習・演習科目においてもほぼ同様の相関関係がみられた。(表 19)

2 年生講義科目においても、1 年生講義科目の相関関係と少しの違いはみられるがほぼ同じような相関関係を示した。(表 20)

2 年生実習・演習科目においても 1 年生講義科目と比較してほぼ同じような相関関係を示した。(表 21)

詳細な比較は、表 18 から表 21 を精査いただきたい。

表 21 授業方法について(2年生 実習・演習科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(3)ポイント説明		(4)説明が適切		(5)教員の声		(6)ノート	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.795(**)	(4)説明が適切	0.795(**)	(3)ポイント説明	0.709(**)	(4)説明が適切	0.566(**)	(7)考える機会
2	0.617(**)	(5)教員の声	0.709(**)	(5)教員の声	0.617(**)	(3)ポイント説明	0.565(**)	(13)字は見やすい
3	0.570(**)	(7)考える機会	0.573(**)	(7)考える機会	0.504(**)	(7)考える機会	0.544(**)	(9)進み具合考慮
4	0.560(**)	(22)よい授業だ	0.543(**)	(9)進み具合考慮	0.493(**)	(9)進み具合考慮	0.525(**)	(4)説明が適切
5	0.533(**)	(9)進み具合考慮	0.527(**)	(22)よい授業だ	0.476(**)	(6)ノート	0.510(**)	(3)ポイント説明
6	0.512(**)	(19)授業意義深い	0.525(**)	(6)ノート	0.472(**)	(22)よい授業だ	0.476(**)	(5)教員の声
7	0.510(**)	(6)ノート	0.511(**)	(1)授業目的説明	0.465(**)	(1)授業目的説明	0.447(**)	(8)質問出やすい
8	0.504(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.486(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.456(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.442(**)	(20)授業内容理解
9	0.497(**)	(1)授業目的説明	0.482(**)	(19)授業意義深い	0.437(**)	(19)授業意義深い	0.437(**)	(12)教科書等活用
10	0.492(**)	(20)授業内容理解	0.468(**)	(20)授業内容理解	0.429(**)	(21)専門的関心等	0.431(**)	(21)専門的関心等
11	0.480(**)	(21)専門的関心等	0.462(**)	(10)授業への情熱	0.421(**)	(10)授業への情熱	0.415(**)	(1)授業目的説明
12	0.474(**)	(10)授業への情熱	0.456(**)	(21)専門的関心等	0.418(**)	(13)字は見やすい	0.411(**)	(17)意欲的に学ぶ
13	0.449(**)	(8)質問出やすい	0.448(**)	(8)質問出やすい	0.412(**)	(20)授業内容理解	0.404(**)	(22)よい授業だ
14	0.429(**)	(13)字は見やすい	0.448(**)	(13)字は見やすい	0.403(**)	(8)質問出やすい	0.401(**)	(11)資料映像利用
15	0.412(**)	(11)資料映像利用	0.420(**)	(11)資料映像利用	0.368(**)	(15)受講態度良好	0.396(**)	(16)教授要綱役立
16	0.383(**)	(2)評価方法説明	0.411(**)	(15)受講態度良好	0.345(**)	(11)資料映像利用	0.396(**)	(18)予習復習行う
17	0.375(**)	(12)教科書等活用	0.393(**)	(2)評価方法説明	0.326(**)	(12)教科書等活用	0.392(**)	(2)評価方法説明
18	0.375(**)	(15)受講態度良好	0.393(**)	(12)教科書等活用	0.312(**)	(2)評価方法説明	0.389(**)	(19)授業意義深い
19	0.328(**)	(16)教授要綱役立	0.333(**)	(16)教授要綱役立	0.270(**)	(18)予習復習行う	0.374(**)	(10)授業への情熱
20	0.259(**)	(18)予習復習行う	0.225(**)	(18)予習復習行う	0.240(**)	(16)教授要綱役立	0.323(**)	(15)受講態度良好
21	0.195(**)	(14)出席率良好	0.206(**)	(14)出席率良好	0.222(**)	(14)出席率良好	0.162(**)	(14)出席率良好

表 21 続き 授業方法について(2年生 実習・演習科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(7)考える機会		(8)質問出やすい		(9)進み具合考慮		(10)授業への情熱	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.608(**)	(8)質問出やすい	0.658(**)	(9)進み具合考慮	0.658(**)	(8)質問出やすい	0.528(**)	(22)よい授業だ
2	0.595(**)	(9)進み具合考慮	0.608(**)	(7)考える機会	0.595(**)	(7)考える機会	0.497(**)	(11)資料映像利用
3	0.573(**)	(4)説明が適切	0.505(**)	(22)よい授業だ	0.552(**)	(22)よい授業だ	0.492(**)	(7)考える機会
4	0.570(**)	(3)ポイント説明	0.484(**)	(1)授業目的説明	0.544(**)	(6)ノート	0.476(**)	(9)進み具合考慮
5	0.566(**)	(6)ノート	0.484(**)	(21)専門的関心等	0.543(**)	(4)説明が適切	0.476(**)	(19)授業意義深い
6	0.537(**)	(22)よい授業だ	0.481(**)	(13)字は見やすい	0.533(**)	(3)ポイント説明	0.474(**)	(3)ポイント説明
7	0.519(**)	(11)資料映像利用	0.472(**)	(19)授業意義深い	0.532(**)	(21)専門的関心等	0.462(**)	(4)説明が適切
8	0.519(**)	(21)専門的関心等	0.472(**)	(20)授業内容理解	0.529(**)	(13)字は見やすい	0.459(**)	(21)専門的関心等
9	0.504(**)	(5)教員の声	0.468(**)	(12)教科書等活用	0.498(**)	(19)授業意義深い	0.424(**)	(20)授業内容理解
10	0.494(**)	(20)授業内容理解	0.449(**)	(3)ポイント説明	0.493(**)	(5)教員の声	0.421(**)	(5)教員の声
11	0.493(**)	(19)授業意義深い	0.448(**)	(4)説明が適切	0.485(**)	(12)教科書等活用	0.402(**)	(12)教科書等活用
12	0.492(**)	(10)授業への情熱	0.447(**)	(6)ノート	0.484(**)	(20)授業内容理解	0.395(**)	(8)質問出やすい
13	0.487(**)	(13)字は見やすい	0.444(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.482(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.374(**)	(6)ノート
14	0.483(**)	(12)教科書等活用	0.403(**)	(5)教員の声	0.476(**)	(10)授業への情熱	0.371(**)	(13)字は見やすい
15	0.482(**)	(1)授業目的説明	0.398(**)	(2)評価方法説明	0.468(**)	(1)授業目的説明	0.369(**)	(1)授業目的説明
16	0.479(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.395(**)	(10)授業への情熱	0.465(**)	(11)資料映像利用	0.364(**)	(17)意欲的に学ぶ
17	0.404(**)	(2)評価方法説明	0.392(**)	(11)資料映像利用	0.392(**)	(2)評価方法説明	0.339(**)	(2)評価方法説明
18	0.350(**)	(15)受講態度良好	0.347(**)	(15)受講態度良好	0.379(**)	(15)受講態度良好	0.327(**)	(15)受講態度良好
19	0.322(**)	(16)教授要綱役立	0.328(**)	(16)教授要綱役立	0.358(**)	(18)予習復習行う	0.324(**)	(14)出席率良好
20	0.301(**)	(18)予習復習行う	0.318(**)	(18)予習復習行う	0.343(**)	(16)教授要綱役立	0.202(**)	(16)教授要綱役立
21	0.179(**)	(14)出席率良好	0.161(**)	(14)出席率良好	0.192(**)	(14)出席率良好	0.164(**)	(18)予習復習行う

表 21 続き 授業方法について(2年生 実習・演習科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ_b))

降順	(11)資料映像利用		(12)教科書等活用		(13)字は見やすい	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.675(**)	(12)教科書等活用	0.675(**)	(11)資料映像利用	0.582(**)	(12)教科書等活用
2	0.530(**)	(13)字は見やすい	0.582(**)	(13)字は見やすい	0.565(**)	(6)ノート
3	0.519(**)	(7)考える機会	0.485(**)	(9)進み具合考慮	0.530(**)	(11)資料映像利用
4	0.497(**)	(10)授業への情熱	0.483(**)	(7)考える機会	0.529(**)	(9)進み具合考慮
5	0.465(**)	(9)進み具合考慮	0.468(**)	(8)質問出やすい	0.487(**)	(7)考える機会
6	0.432(**)	(22)よい授業だ	0.447(**)	(21)専門的関心等	0.481(**)	(8)質問出やすい
7	0.422(**)	(19)授業意義深い	0.437(**)	(6)ノート	0.448(**)	(4)説明が適切
8	0.420(**)	(4)説明が適切	0.403(**)	(19)授業意義深い	0.429(**)	(3)ポイント説明
9	0.414(**)	(21)専門的関心等	0.402(**)	(10)授業への情熱	0.418(**)	(5)教員の声
10	0.412(**)	(3)ポイント説明	0.397(**)	(2)評価方法説明	0.410(**)	(1)授業目的説明
11	0.401(**)	(6)ノート	0.393(**)	(4)説明が適切	0.400(**)	(17)意欲的に学ぶ
12	0.392(**)	(8)質問出やすい	0.393(**)	(20)授業内容理解	0.397(**)	(2)評価方法説明
13	0.381(**)	(2)評価方法説明	0.386(**)	(22)よい授業だ	0.382(**)	(21)専門的関心等
14	0.375(**)	(1)授業目的説明	0.382(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.371(**)	(10)授業への情熱
15	0.358(**)	(20)授業内容理解	0.375(**)	(3)ポイント説明	0.371(**)	(22)よい授業だ
16	0.353(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.366(**)	(1)授業目的説明	0.366(**)	(20)授業内容理解
17	0.345(**)	(5)教員の声	0.326(**)	(5)教員の声	0.365(**)	(19)授業意義深い
18	0.281(**)	(15)受講態度良好	0.308(**)	(18)予習復習行う	0.325(**)	(16)教授要綱役立
19	0.238(**)	(16)教授要綱役立	0.297(**)	(16)教授要綱役立	0.299(**)	(15)受講態度良好
20	0.213(**)	(14)出席率良好	0.273(**)	(15)受講態度良好	0.289(**)	(18)予習復習行う
21	0.181(**)	(18)予習復習行う	0.161(**)	(14)出席率良好	0.199(**)	(14)出席率良好

(3) あなた自身の学習方法・態度について

1 年生講義科目において、質問項目(15)受講態度良好のグループ中央値は、産業情報(4.52)が有意に高い値を示した。1 年生講義科目全体でも 4.19 と高い値を示した。質問項目(14)出席率良好のグループ中央値は、いずれも高い値で 4.61 から 4.88 の範囲にあった。また、質問項目(17)意欲的に学ぶ(全体で 3.90)とよい結果であった。しかし、質問項目(16)教授要綱役立(全体で 3.38)および質問項目(18)予習復習行うはいずれも低い値(全体で 2.71)であった。(表 22)

1 年生実習・演習科目においてもほぼ同様な結果が得られた。質問項目(14)出席率良好(全体で 4.77)、質問項目(15)受講態度良好(全体で 4.36)および意欲的に学ぶ(全体で 4.20)は高い値を示したが、質問項目(16)教授要綱役立(全体で 3.43)および質問項目(18)予習復習行う(全体で 3.28)は低い値を示した。(表 23)

2 年生講義科目および実験実習科目においてもほぼ同様な結果が得られた。(表 24、表 25)

あなた自身の学習方法・態度について、1 年生講義科目を対象に順位相関分析を行った。

質問項目(15)受講態度良好は、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(20)授業内容理解、質問項目(19)授業意義深いなどと中程度の相関関係を示した。

質問項目(17)意欲的に学ぶは、質問項目(21)専門的関心等、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(15)受講態度良好、質問項目(20)授業内容理解、質問項目(4)説明が適切、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(7)考える機会、質問項目(10)授業への情熱などと中程度の相関関係を示した。

質問項目(18)予習復習行うは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(20)授業内容理解、質問項目(8)質問出やすい、質問項目(15)受講態度良好などと弱い相関関係を示した。(表 26)

1 年生実習・演習科目においてもほぼ同様の相関関係がみられた。(表 27)

2 年生講義および実習演習科目においても、1 年生の結果と同様な相関関係がみられた。(表 28、表 29)

詳細については、表 26 から表 29 をご覧いただきたい。

表 22 あなた自身の学習方法・態度について(1年生 講義科目)(グループ中央値)

質問項目	教養基礎 (a)	産業情報			食物栄養 (e)	社会福祉 (f)	全体	Kruskal-Wallis 検定	連関順位 (AIC)
		経営情報 (b)	デザイン情報 (c)	産情共通 (d)					
(14)出席率良好	4.61 b,c,d,f	4.85 a,e	4.89 a,e	4.88 a,e	4.75 b,c,d,f	4.82 a,e	4.77 **	20 -35.5	
(15)受講態度良好	3.95 b,d,f	4.52 a,c,d,e,f	4.15 b	4.33 a,b,e	4.11 b,d	4.20 a,b	4.19 **	3 -75.1	
(16)教授要綱役立	3.41 b,f	3.83 a,c,e,f	3.30 b	3.55 e,f	3.25 b,d	3.21 a,b,d	3.38 **	5 -67.7	
(17)意欲的に学ぶ	3.68 b,d,f	4.19 a,e	4.06	4.05 a	3.77 b,f	3.99 a,e	3.90 **	14 -43.2	
(18)予習復習行う	2.42 b,c,d	3.20 a,e,f	3.14 a,e,f	3.19 a,e,f	2.60 b,c,d	2.64 b,c,d	2.71 **	6 -65.3	

表 23 あなた自身の学習方法・態度について(1年生 実習・演習科目)(グループ中央値)

質問項目	教養基礎 (a)	産業情報			食物栄養 (e)	社会福祉 (f)	全体	Kruskal-Wallis 検定	連関順位 (AIC)
		経営情報 (b)	デザイン情報 (c)	産情共通 (d)					
(14)出席率良好	4.65 b,c,f	4.90 a,e	4.94 a,e	4.75 b,c	4.85 a	4.77	**	15 -8.2	
(15)受講態度良好	4.39 b	4.73 a,e,f	4.47	4.25 b	4.26 b	4.36	**	16 -4.9	
(16)教授要綱役立	3.68 e,f	4.11 e,f	3.42	3.37 a,b	3.12 a,b	3.43	**	2 -28.0	
(17)意欲的に学ぶ	4.28 b,e	4.68 a,c,e,f	4.19 b	3.90 a,b	4.17 b	4.20	**	7 -14.8	
(18)予習復習行う	3.37	3.60	3.33	3.09	3.25	3.28	*	6 -15.2	

表 24 あなた自身の学習方法・態度について(2年生 講義科目)(グループ中央値)

質問項目	産業情報			食物栄養 (e)	社会福祉 (f)	全体	Kruskal-Wallis 検定	連関順位 (AIC)
	経営情報 (b)	デザイン情報 (c)	産情共通 (d)					
(14)出席率良好	4.79 e	4.50	4.72	4.50 b,f	4.69 e	4.67	**	1 -23.8
(15)受講態度良好	4.23	3.83	4.18	4.25	4.11	4.18		10 -2.3
(16)教授要綱役立	3.46 e	3.75	3.33 e	3.74 b,d,f	3.30 e	3.47	**	3 -15.2
(17)意欲的に学ぶ	3.79	3.87	3.93	4.05	4.02	3.94		19 5.1
(18)予習復習行う	2.72 e	2.79	3.05	3.36 b,f	2.72 e	2.90	**	2 -16.1

表 25 あなた自身の学習方法・態度について(2年生 実習・演習科目)(グループ中央値)

質問項目	デザイン情報 (c)	食物栄養 (e)	社会福祉 (f)	全体	Kruskal-Wallis 検定	連関順位 (AIC)
	(14)出席率良好	4.79 e	4.61 c,f			
(15)受講態度良好	4.58	4.34 f	4.49 e	4.43	*	7 -1.7
(16)教授要綱役立	4.09	3.80 f	3.31 e	3.53	**	1 -24.2
(17)意欲的に学ぶ	4.62 e,f	4.29 c	4.37 c	4.36	*	5 -9.7
(18)予習復習行う	4.00 f	3.57 f	3.08 c,e	3.34	**	4 -11.3

表 26 あなた自身の学習方法・態度について(1年生 講義科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(14)出席率良好		(15)受講態度良好		(16)教授要綱役立		(17)意欲的に学ぶ	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.316(**)	(15)受講態度良好	0.530(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.375(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.577(**)	(21)専門的関心等
2	0.229(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.454(**)	(20)授業内容理解	0.368(**)	(15)受講態度良好	0.569(**)	(19)授業意義深い
3	0.195(**)	(19)授業意義深い	0.410(**)	(19)授業意義深い	0.306(**)	(22)よい授業だ	0.563(**)	(22)よい授業だ
4	0.184(**)	(20)授業内容理解	0.385(**)	(22)よい授業だ	0.305(**)	(1)授業目的説明	0.530(**)	(15)受講態度良好
5	0.173(**)	(21)専門的関心等	0.368(**)	(16)教授要綱役立	0.304(**)	(20)授業内容理解	0.517(**)	(20)授業内容理解
6	0.173(**)	(22)よい授業だ	0.359(**)	(21)専門的関心等	0.288(**)	(19)授業意義深い	0.448(**)	(4)説明が適切
7	0.160(**)	(12)教科書等活用	0.349(**)	(3)ポイント説明	0.283(**)	(2)評価方法説明	0.447(**)	(3)ポイント説明
8	0.154(**)	(3)ポイント説明	0.345(**)	(4)説明が適切	0.280(**)	(21)専門的関心等	0.419(**)	(7)考える機会
9	0.152(**)	(11)資料映像利用	0.319(**)	(5)教員の声	0.277(**)	(18)予習復習行う	0.409(**)	(10)授業への情熱
10	0.151(**)	(5)教員の声	0.316(**)	(14)出席率良好	0.260(**)	(9)進み具合考慮	0.406(**)	(9)進み具合考慮
11	0.140(**)	(4)説明が適切	0.313(**)	(6)ノート	0.251(**)	(3)ポイント説明	0.384(**)	(18)予習復習行う
12	0.133(**)	(7)考える機会	0.299(**)	(18)予習復習行う	0.251(**)	(4)説明が適切	0.383(**)	(8)質問しやすい
13	0.126(**)	(1)授業目的説明	0.281(**)	(7)考える機会	0.247(**)	(5)教員の声	0.383(**)	(12)教科書等活用
14	0.122(**)	(13)字は見やすい	0.279(**)	(2)評価方法説明	0.244(**)	(6)ノート	0.375(**)	(6)ノート
15	0.114(**)	(10)授業への情熱	0.277(**)	(13)字は見やすい	0.244(**)	(8)質問しやすい	0.375(**)	(11)資料映像利用
16	0.105(**)	(9)進み具合考慮	0.273(**)	(9)進み具合考慮	0.229(**)	(7)考える機会	0.375(**)	(13)字は見やすい
17	0.102(**)	(16)教授要綱役立	0.273(**)	(10)授業への情熱	0.228(**)	(12)教科書等活用	0.375(**)	(16)教授要綱役立
18	0.095(**)	(2)評価方法説明	0.271(**)	(1)授業目的説明	0.216(**)	(13)字は見やすい	0.371(**)	(5)教員の声
19	0.091(**)	(6)ノート	0.259(**)	(11)資料映像利用	0.194(**)	(11)資料映像利用	0.362(**)	(1)授業目的説明
20	0.076(**)	(8)質問しやすい	0.251(**)	(8)質問しやすい	0.189(**)	(10)授業への情熱	0.335(**)	(2)評価方法説明
21	0.043(*)	(18)予習復習行う	0.240(**)	(12)教科書等活用	0.102(**)	(14)出席率良好	0.229(**)	(14)出席率良好

表 26 続き あなた自身の学習方法・態度について
(1年生 講義科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(18)予習復習行う	
	相関係数	質問項目
1	0.384(**)	(17)意欲的に学ぶ
2	0.342(**)	(20)授業内容理解
3	0.301(**)	(8)質問しやすい
4	0.299(**)	(15)受講態度良好
5	0.294(**)	(19)授業意義深い
6	0.291(**)	(21)専門的関心等
7	0.286(**)	(9)進み具合考慮
8	0.277(**)	(16)教授要綱役立
9	0.275(**)	(22)よい授業だ
10	0.271(**)	(6)ノート
11	0.225(**)	(4)説明が適切
12	0.222(**)	(3)ポイント説明
13	0.220(**)	(13)字は見やすい
14	0.215(**)	(7)考える機会
15	0.201(**)	(1)授業目的説明
16	0.198(**)	(2)評価方法説明
17	0.151(**)	(12)教科書等活用
18	0.149(**)	(5)教員の声
19	0.135(**)	(10)授業への情熱
20	0.131(**)	(11)資料映像利用
21	0.043(*)	(14)出席率良好

表 27 あなた自身の学習方法・態度について(1年生 実習・演習科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(14)出席率良好		(15)受講態度良好		(16)教授要綱役立		(17)意欲的に学ぶ	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.330(**)	(15)受講態度良好	0.549(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.387(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.596(**)	(19)授業意義深い
2	0.210(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.380(**)	(20)授業内容理解	0.324(**)	(22)よい授業だ	0.590(**)	(21)専門的関心等
3	0.155(**)	(21)専門的関心等	0.355(**)	(22)よい授業だ	0.320(**)	(15)受講態度良好	0.583(**)	(22)よい授業だ
4	0.153(**)	(19)授業意義深い	0.351(**)	(19)授業意義深い	0.315(**)	(1)授業目的説明	0.549(**)	(15)受講態度良好
5	0.124(**)	(5)教員の声	0.330(**)	(14)出席率良好	0.312(**)	(21)専門的関心等	0.545(**)	(20)授業内容理解
6	0.124(**)	(20)授業内容理解	0.327(**)	(21)専門的関心等	0.301(**)	(19)授業意義深い	0.447(**)	(3)ポイント説明
7	0.108(**)	(22)よい授業だ	0.320(**)	(16)教授要綱役立	0.295(**)	(3)ポイント説明	0.447(**)	(4)説明が適切
8	0.091(**)	(1)授業目的説明	0.284(**)	(4)説明が適切	0.295(**)	(20)授業内容理解	0.398(**)	(9)進み具合考慮
9	0.091(**)	(11)資料映像利用	0.282(**)	(3)ポイント説明	0.280(**)	(6)ノート	0.387(**)	(16)教授要綱役立
10	0.091(**)	(16)教授要綱役立	0.280(**)	(5)教員の声	0.279(**)	(13)字は見やすい	0.386(**)	(5)教員の声
11	0.085(**)	(4)説明が適切	0.270(**)	(18)予習復習行う	0.275(**)	(2)評価方法説明	0.386(**)	(10)授業への情熱
12	0.084(**)	(18)予習復習行う	0.224(**)	(1)授業目的説明	0.275(**)	(4)説明が適切	0.382(**)	(18)予習復習行う
13	0.081(**)	(3)ポイント説明	0.224(**)	(10)授業への情熱	0.273(**)	(18)予習復習行う	0.381(**)	(1)授業目的説明
14	0.080(*)	(7)考える機会	0.221(**)	(9)進み具合考慮	0.253(**)	(5)教員の声	0.377(**)	(7)考える機会
15	0.080(*)	(12)教科書等活用	0.216(**)	(8)質問出やすい	0.252(**)	(7)考える機会	0.362(**)	(6)ノート
16	0.076(*)	(13)字は見やすい	0.209(**)	(6)ノート	0.240(**)	(12)教科書等活用	0.348(**)	(8)質問出やすい
17	0.064(*)	(2)評価方法説明	0.203(**)	(13)字は見やすい	0.235(**)	(8)質問出やすい	0.348(**)	(13)字は見やすい
18	0.059	(6)ノート	0.188(**)	(7)考える機会	0.231(**)	(9)進み具合考慮	0.329(**)	(12)教科書等活用
19	0.053	(10)授業への情熱	0.185(**)	(12)教科書等活用	0.203(**)	(10)授業への情熱	0.313(**)	(11)資料映像利用
20	0.045	(9)進み具合考慮	0.173(**)	(2)評価方法説明	0.190(**)	(11)資料映像利用	0.307(**)	(2)評価方法説明
21	0.026	(8)質問出やすい	0.154(**)	(11)資料映像利用	0.091(**)	(14)出席率良好	0.210(**)	(14)出席率良好

表 27 続き あなた自身の学習方法・態度について
(1年生 実習・演習科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(18)予習復習行う	
	相関係数	質問項目
1	0.382(**)	(17)意欲的に学ぶ
2	0.304(**)	(20)授業内容理解
3	0.290(**)	(22)よい授業だ
4	0.281(**)	(6)ノート
5	0.280(**)	(21)専門的関心等
6	0.278(**)	(19)授業意義深い
7	0.275(**)	(7)考える機会
8	0.273(**)	(16)教授要綱役立
9	0.270(**)	(15)受講態度良好
10	0.268(**)	(4)説明が適切
11	0.261(**)	(13)字は見やすい
12	0.257(**)	(3)ポイント説明
13	0.247(**)	(2)評価方法説明
14	0.244(**)	(9)進み具合考慮
15	0.228(**)	(12)教科書等活用
16	0.223(**)	(5)教員の声
17	0.223(**)	(8)質問出やすい
18	0.212(**)	(1)授業目的説明
19	0.204(**)	(11)資料映像利用
20	0.193(**)	(10)授業への情熱
21	0.084(**)	(14)出席率良好

表 28 あなた自身の学習方法・態度について(2年生 講義科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(14)出席率良好		(15)受講態度良好		(16)教授要綱役立		(17)意欲的に学ぶ	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.391(**)	(15)受講態度良好	0.590(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.551(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.629(**)	(19)授業意義深い
2	0.243(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.464(**)	(19)授業意義深い	0.411(**)	(18)予習復習行う	0.590(**)	(15)受講態度良好
3	0.236(**)	(19)授業意義深い	0.450(**)	(22)よい授業だ	0.393(**)	(20)授業内容理解	0.581(**)	(21)専門的関心等
4	0.224(**)	(22)よい授業だ	0.422(**)	(20)授業内容理解	0.377(**)	(15)受講態度良好	0.568(**)	(22)よい授業だ
5	0.198(**)	(5)教員の声	0.415(**)	(21)専門的関心等	0.365(**)	(19)授業意義深い	0.566(**)	(20)授業内容理解
6	0.188(**)	(12)教科書等活用	0.391(**)	(14)出席率良好	0.357(**)	(21)専門的関心等	0.551(**)	(16)教授要綱役立
7	0.183(**)	(10)授業への情熱	0.387(**)	(7)考える機会	0.346(**)	(22)よい授業だ	0.455(**)	(4)説明が適切
8	0.180(**)	(7)考える機会	0.377(**)	(16)教授要綱役立	0.342(**)	(9)進み具合考慮	0.452(**)	(7)考える機会
9	0.178(**)	(11)資料映像利用	0.364(**)	(4)説明が適切	0.340(**)	(1)授業目的説明	0.445(**)	(3)ポイント説明
10	0.173(**)	(4)説明が適切	0.346(**)	(5)教員の声	0.324(**)	(3)ポイント説明	0.436(**)	(1)授業目的説明
11	0.168(**)	(21)専門的関心等	0.344(**)	(3)ポイント説明	0.322(**)	(8)質問しやすい	0.428(**)	(9)進み具合考慮
12	0.153(**)	(3)ポイント説明	0.326(**)	(13)字は見やすい	0.317(**)	(2)評価方法説明	0.424(**)	(8)質問しやすい
13	0.143(**)	(20)授業内容理解	0.315(**)	(6)ノート	0.311(**)	(13)字は見やすい	0.423(**)	(18)予習復習行う
14	0.126(**)	(1)授業目的説明	0.308(**)	(1)授業目的説明	0.300(**)	(7)考える機会	0.394(**)	(2)評価方法説明
15	0.125(**)	(13)字は見やすい	0.308(**)	(18)予習復習行う	0.296(**)	(6)ノート	0.391(**)	(10)授業への情熱
16	0.124(**)	(2)評価方法説明	0.307(**)	(11)資料映像利用	0.292(**)	(4)説明が適切	0.388(**)	(6)ノート
17	0.121(**)	(16)教授要綱役立	0.304(**)	(8)質問しやすい	0.267(**)	(5)教員の声	0.379(**)	(5)教員の声
18	0.109(**)	(9)進み具合考慮	0.292(**)	(2)評価方法説明	0.256(**)	(10)授業への情熱	0.373(**)	(13)字は見やすい
19	0.103(**)	(6)ノート	0.290(**)	(10)授業への情熱	0.202(**)	(12)教科書等活用	0.344(**)	(11)資料映像利用
20	0.088(**)	(8)質問しやすい	0.288(**)	(12)教科書等活用	0.191(**)	(11)資料映像利用	0.341(**)	(12)教科書等活用
21	0.007	(18)予習復習行う	0.283(**)	(9)進み具合考慮	0.121(**)	(14)出席率良好	0.243(**)	(14)出席率良好

表 28 続き あなた自身の学習方法・態度について
(2年生 講義科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(18)予習復習行う	
	相関係数	質問項目
1	0.423(**)	(17)意欲的に学ぶ
2	0.411(**)	(16)教授要綱役立
3	0.366(**)	(20)授業内容理解
4	0.351(**)	(9)進み具合考慮
5	0.340(**)	(19)授業意義深い
6	0.339(**)	(8)質問しやすい
7	0.328(**)	(21)専門的関心等
8	0.308(**)	(15)受講態度良好
9	0.285(**)	(22)よい授業だ
10	0.266(**)	(13)字は見やすい
11	0.243(**)	(6)ノート
12	0.240(**)	(1)授業目的説明
13	0.237(**)	(7)考える機会
14	0.232(**)	(4)説明が適切
15	0.224(**)	(2)評価方法説明
16	0.215(**)	(3)ポイント説明
17	0.192(**)	(5)教員の声
18	0.159(**)	(10)授業への情熱
19	0.140(**)	(11)資料映像利用
20	0.138(**)	(12)教科書等活用
21	0.007	(14)出席率良好

表 29 あなた自身の学習方法・態度について(2年生 実習・演習科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(14)出席率良好		(15)受講態度良好		(16)教授要綱役立		(17)意欲的に学ぶ	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.406(**)	(15)受講態度良好	0.624(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.459(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.624(**)	(15)受講態度良好
2	0.324(**)	(10)授業への情熱	0.454(**)	(20)授業内容理解	0.449(**)	(18)予習復習行う	0.622(**)	(20)授業内容理解
3	0.310(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.444(**)	(19)授業意義深い	0.396(**)	(6)ノート	0.602(**)	(19)授業意義深い
4	0.280(**)	(19)授業意義深い	0.439(**)	(21)専門的関心等	0.379(**)	(20)授業内容理解	0.584(**)	(21)専門的関心等
5	0.271(**)	(22)よい授業だ	0.411(**)	(4)説明が適切	0.343(**)	(9)進み具合考慮	0.569(**)	(22)よい授業だ
6	0.248(**)	(20)授業内容理解	0.406(**)	(14)出席率良好	0.343(**)	(21)専門的関心等	0.504(**)	(3)ポイント説明
7	0.233(**)	(21)専門的関心等	0.396(**)	(22)よい授業だ	0.337(**)	(2)評価方法説明	0.486(**)	(4)説明が適切
8	0.222(**)	(5)教員の声	0.379(**)	(9)進み具合考慮	0.333(**)	(4)説明が適切	0.482(**)	(9)進み具合考慮
9	0.213(**)	(11)資料映像利用	0.375(**)	(3)ポイント説明	0.330(**)	(1)授業目的説明	0.479(**)	(7)考える機会
10	0.206(**)	(4)説明が適切	0.368(**)	(5)教員の声	0.328(**)	(3)ポイント説明	0.459(**)	(16)教授要綱役立
11	0.199(**)	(13)字は見やすい	0.350(**)	(7)考える機会	0.328(**)	(8)質問しやすい	0.456(**)	(5)教員の声
12	0.195(**)	(3)ポイント説明	0.347(**)	(8)質問しやすい	0.328(**)	(15)受講態度良好	0.447(**)	(18)予習復習行う
13	0.192(**)	(9)進み具合考慮	0.339(**)	(1)授業目的説明	0.325(**)	(13)字は見やすい	0.444(**)	(8)質問しやすい
14	0.179(**)	(7)考える機会	0.328(**)	(16)教授要綱役立	0.322(**)	(7)考える機会	0.411(**)	(6)ノート
15	0.177(**)	(1)授業目的説明	0.327(**)	(10)授業への情熱	0.297(**)	(12)教科書等活用	0.406(**)	(1)授業目的説明
16	0.162(**)	(6)ノート	0.323(**)	(6)ノート	0.288(**)	(19)授業意義深い	0.400(**)	(13)字は見やすい
17	0.161(**)	(8)質問しやすい	0.299(**)	(13)字は見やすい	0.270(**)	(22)よい授業だ	0.382(**)	(12)教科書等活用
18	0.161(**)	(12)教科書等活用	0.291(**)	(18)予習復習行う	0.240(**)	(5)教員の声	0.364(**)	(10)授業への情熱
19	0.128(**)	(16)教授要綱役立	0.281(**)	(11)資料映像利用	0.238(**)	(11)資料映像利用	0.353(**)	(11)資料映像利用
20	0.126(**)	(18)予習復習行う	0.273(**)	(12)教科書等活用	0.202(**)	(10)授業への情熱	0.310(**)	(14)出席率良好
21	0.105(**)	(2)評価方法説明	0.261(**)	(2)評価方法説明	0.128(**)	(14)出席率良好	0.294(**)	(2)評価方法説明

表 29 続き あなた自身の学習方法・態度について
(2年生 実習・演習科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(18)予習復習行う	
	相関係数	質問項目
1	0.449(**)	(16)教授要綱役立
2	0.447(**)	(17)意欲的に学ぶ
3	0.396(**)	(6)ノート
4	0.375(**)	(20)授業内容理解
5	0.369(**)	(21)専門的関心等
6	0.358(**)	(9)進み具合考慮
7	0.318(**)	(8)質問しやすい
8	0.308(**)	(12)教科書等活用
9	0.301(**)	(7)考える機会
10	0.295(**)	(19)授業意義深い
11	0.291(**)	(15)受講態度良好
12	0.289(**)	(13)字は見やすい
13	0.279(**)	(1)授業目的説明
14	0.274(**)	(22)よい授業だ
15	0.270(**)	(5)教員の声
16	0.264(**)	(2)評価方法説明
17	0.259(**)	(3)ポイント説明
18	0.225(**)	(4)説明が適切
19	0.181(**)	(11)資料映像利用
20	0.164(**)	(10)授業への情熱
21	0.126(**)	(14)出席率良好

(4) 総合評価について

1 年生講義科目において、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(21)専門的関心等のグループ中央値は、いずれの授業区分も高い値を示した。しかし、質問項目(20)授業内容理解については、グループ中央値が 3.5 以上ではあるが 4.0 未満(1 年生講義科目全体で 3.71)であった。(表 30)

1 年生実習・演習科目においては、ほぼ同じ傾向を示すが、特に、経営情報、教養基礎、社会福祉学科で高い値を示した。(表 31)

2 年生講義科目においては、1 年生講義科目とほぼ同じ傾向を示した。(表 32)

2 年生実習・演習科目においては、グループ中央値がいずれの授業区分も 4.17 以上という高い値を示した。(表 33)

表 30 総合評価について(1年生 講義科目)(グループ中央値)

質問項目	教養基礎 (a)	産業情報			食物栄養 (e)	社会福祉 (f)	全体	Kruskal-Wallis 検定	連関順位 (AIC)
		経営情報 (b)	デザイン情報 (c)	産情共通 (d)					
(19)授業意義深い	4.00 b,f	4.48 a,e	4.31	4.32	4.21 b,f	4.33 a,e	4.25 **	18 -37.2	
(20)授業内容理解	3.53 b,c,f	3.98 a,e	3.93 a,e	3.80	3.61 b,c	3.74 a	3.71 **	19 -35.7	
(21)専門的関心等	3.77 b,c,f	4.29 a	4.14 a	3.94 f	4.02 f	4.18 a,d,e	4.05 **	13 -43.6	
(22)よい授業だ	3.91 b,c,f	4.48 a,e	4.31 a	4.25	4.11 b,f	4.32 a,e	4.20 **	12 -44.2	

表 31 総合評価について(1年生 実習・演習科目)(グループ中央値)

質問項目	教養基礎 (a)	産業情報		食物栄養 (e)	社会福祉 (f)	全体	Kruskal-Wallis 検定	連関順位 (AIC)
		経営情報 (b)	デザイン情報 (c)					
(19)授業意義深い	4.43	4.71 c,e	4.21 b	4.27 b	4.37	4.38 **	20 3.2	
(20)授業内容理解	4.09 b,c,e	4.50 a,c,e,f	3.61 a,b,f	3.62 a,b,f	3.94 b,c,e	3.92 **	8 -12.5	
(21)専門的関心等	4.12 b	4.69 a,c,e,f	3.94 b	3.92 b,f	4.26 b,e	4.15 **	17 -4.7	
(22)よい授業だ	4.40 e	4.69 e	4.10	4.00 a,b,f	4.29 e	4.28 **	18 -3.3	

表 32 総合評価について(2年生 講義科目)(グループ中央値)

質問項目	産業情報			食物栄養 (e)	社会福祉 (f)	全体	Kruskal-Wallis 検定	連関順位 (AIC)
	経営情報 (b)	デザイン情報 (c)	産情共通 (d)					
(19)授業意義深い	3.99	3.76	4.14	4.17	4.29	4.15 *	9 -2.7	
(20)授業内容理解	3.50 e	3.44	3.50	3.90 b	3.80	3.70 **	13 -1.1	
(21)専門的関心等	3.61 e,f	3.75	3.89	4.00 b	4.09 b	3.90 **	6 -8.1	
(22)よい授業だ	4.08	3.95	4.22	4.06	4.27	4.15	17 3.5	

表 33 総合評価について(2年生 実習・演習科目(グループ中央値))

質問項目	デザイン情報	食物栄養	社会福祉	全体	Kruskal-Wallis 検定	連関順位 (AIC)
	(c)	(e)	(f)			
(19)授業意義深い	4.69	4.39	4.59	4.52	**	11
	e	c,f	e			3.4
(20)授業内容理解	4.53	4.17	4.29	4.26	*	14
	e	c,f	e			6.5
(21)専門的関心等	4.54	4.22	4.37	4.33	*	13
	e	c,f	e			5.8
(22)よい授業だ	4.73	4.31	4.58	4.49	**	8
	e	c,f	e			0.6

総合評価について、各質問項目間の順位相関分析を行った。

1年生講義科目において、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(22)よい授業だと強い相関関係を示した。また、質問項目(21)専門的関心等、質問項目(20)授業内容理解、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(4)説明が適切、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(7)考える機会、質問項目(10)授業への情熱などと中程度の相関関係を示した。

質問項目(20)授業内容理解は、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(21)専門的関心等、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(4)説明が適切、質問項目(9)進み具合考慮、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(15)受講態度良好、質問項目(6)ノートなどと中程度の相関関係を示した。

質問項目(21)専門的関心等は、質問項目(22)授業内容満足と強い相関関係を示した。また、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(20)授業内容理解、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(4)説明が適切、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(7)考える機会、質問項目(9)進み具合考慮などと中程度の相関関係を示した。

表 34 総合評価について(1年生 講義科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(19)授業意義深い		(20)授業内容理解		(21)専門的関心等		(22)よい授業だ	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.720(**)	(22)よい授業だ	0.596(**)	(19)授業意義深い	0.704(**)	(22)よい授業だ	0.720(**)	(19)授業意義深い
2	0.689(**)	(21)専門的関心等	0.588(**)	(21)専門的関心等	0.689(**)	(19)授業意義深い	0.704(**)	(21)専門的関心等
3	0.596(**)	(20)授業内容理解	0.574(**)	(22)よい授業だ	0.588(**)	(20)授業内容理解	0.623(**)	(4)説明が適切
4	0.569(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.517(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.577(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.608(**)	(3)ポイント説明
5	0.551(**)	(4)説明が適切	0.495(**)	(4)説明が適切	0.519(**)	(4)説明が適切	0.574(**)	(20)授業内容理解
6	0.539(**)	(3)ポイント説明	0.471(**)	(9)進み具合考慮	0.503(**)	(3)ポイント説明	0.563(**)	(17)意欲的に学ぶ
7	0.477(**)	(7)考える機会	0.469(**)	(3)ポイント説明	0.455(**)	(7)考える機会	0.527(**)	(10)授業への情熱
8	0.474(**)	(10)授業への情熱	0.454(**)	(15)受講態度良好	0.432(**)	(9)進み具合考慮	0.517(**)	(7)考える機会
9	0.434(**)	(5)教員の声	0.403(**)	(6)ノート	0.432(**)	(10)授業への情熱	0.498(**)	(9)進み具合考慮
10	0.433(**)	(9)進み具合考慮	0.396(**)	(8)質問出やすい	0.409(**)	(5)教員の声	0.497(**)	(5)教員の声
11	0.417(**)	(1)授業目的説明	0.391(**)	(7)考える機会	0.405(**)	(6)ノート	0.473(**)	(6)ノート
12	0.410(**)	(15)受講態度良好	0.373(**)	(5)教員の声	0.399(**)	(1)授業目的説明	0.441(**)	(12)教科書等活用
13	0.409(**)	(6)ノート	0.353(**)	(2)評価方法説明	0.394(**)	(12)教科書等活用	0.433(**)	(11)資料映像利用
14	0.405(**)	(12)教科書等活用	0.351(**)	(10)授業への情熱	0.379(**)	(8)質問出やすい	0.432(**)	(8)質問出やすい
15	0.394(**)	(11)資料映像利用	0.349(**)	(1)授業目的説明	0.378(**)	(11)資料映像利用	0.417(**)	(1)授業目的説明
16	0.378(**)	(8)質問出やすい	0.342(**)	(18)予習復習行う	0.370(**)	(2)評価方法説明	0.411(**)	(13)字は見やすい
17	0.365(**)	(2)評価方法説明	0.338(**)	(11)資料映像利用	0.364(**)	(13)字は見やすい	0.397(**)	(2)評価方法説明
18	0.362(**)	(13)字は見やすい	0.331(**)	(13)字は見やすい	0.359(**)	(15)受講態度良好	0.385(**)	(15)受講態度良好
19	0.294(**)	(18)予習復習行う	0.304(**)	(12)教科書等活用	0.291(**)	(18)予習復習行う	0.306(**)	(16)教授要綱役立
20	0.288(**)	(16)教授要綱役立	0.304(**)	(16)教授要綱役立	0.280(**)	(16)教授要綱役立	0.275(**)	(18)予習復習行う
21	0.195(**)	(14)出席率良好	0.184(**)	(14)出席率良好	0.173(**)	(14)出席率良好	0.173(**)	(14)出席率良好

表 35 総合評価について(1年生 実習・演習科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(19)授業意義深い		(20)授業内容理解		(21)専門的関心等		(22)よい授業だ	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.712(**)	(22)よい授業だ	0.595(**)	(21)専門的関心等	0.712(**)	(22)よい授業だ	0.712(**)	(19)授業意義深い
2	0.698(**)	(21)専門的関心等	0.571(**)	(22)よい授業だ	0.698(**)	(19)授業意義深い	0.712(**)	(21)専門的関心等
3	0.596(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.560(**)	(19)授業意義深い	0.595(**)	(20)授業内容理解	0.583(**)	(17)意欲的に学ぶ
4	0.560(**)	(20)授業内容理解	0.545(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.590(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.571(**)	(20)授業内容理解
5	0.545(**)	(3)ポイント説明	0.488(**)	(4)説明が適切	0.498(**)	(3)ポイント説明	0.567(**)	(4)説明が適切
6	0.506(**)	(4)説明が適切	0.462(**)	(3)ポイント説明	0.478(**)	(4)説明が適切	0.561(**)	(3)ポイント説明
7	0.448(**)	(6)ノート	0.405(**)	(9)進み具合考慮	0.441(**)	(9)進み具合考慮	0.507(**)	(5)教員の声
8	0.437(**)	(5)教員の声	0.380(**)	(15)受講態度良好	0.424(**)	(7)考える機会	0.507(**)	(6)ノート
9	0.434(**)	(9)進み具合考慮	0.373(**)	(5)教員の声	0.411(**)	(6)ノート	0.485(**)	(10)授業への情熱
10	0.422(**)	(7)考える機会	0.356(**)	(7)考える機会	0.389(**)	(10)授業への情熱	0.484(**)	(9)進み具合考慮
11	0.416(**)	(1)授業目的説明	0.354(**)	(6)ノート	0.387(**)	(8)質問出やすい	0.469(**)	(7)考える機会
12	0.408(**)	(10)授業への情熱	0.346(**)	(1)授業目的説明	0.385(**)	(5)教員の声	0.450(**)	(8)質問出やすい
13	0.383(**)	(13)字は見やすい	0.344(**)	(13)字は見やすい	0.367(**)	(13)字は見やすい	0.440(**)	(13)字は見やすい
14	0.379(**)	(8)質問出やすい	0.337(**)	(10)授業への情熱	0.364(**)	(1)授業目的説明	0.431(**)	(12)教科書等活用
15	0.358(**)	(12)教科書等活用	0.331(**)	(8)質問出やすい	0.347(**)	(11)資料映像利用	0.415(**)	(11)資料映像利用
16	0.351(**)	(15)受講態度良好	0.304(**)	(12)教科書等活用	0.339(**)	(12)教科書等活用	0.404(**)	(1)授業目的説明
17	0.345(**)	(11)資料映像利用	0.304(**)	(18)予習復習行う	0.327(**)	(15)受講態度良好	0.363(**)	(2)評価方法説明
18	0.341(**)	(2)評価方法説明	0.295(**)	(16)教授要綱役立	0.312(**)	(16)教授要綱役立	0.355(**)	(15)受講態度良好
19	0.301(**)	(16)教授要綱役立	0.286(**)	(2)評価方法説明	0.298(**)	(2)評価方法説明	0.324(**)	(16)教授要綱役立
20	0.278(**)	(18)予習復習行う	0.266(**)	(11)資料映像利用	0.280(**)	(18)予習復習行う	0.290(**)	(18)予習復習行う
21	0.153(**)	(14)出席率良好	0.124(**)	(14)出席率良好	0.155(**)	(14)出席率良好	0.108(**)	(14)出席率良好

表 36 総合評価について(2年生 講義科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ b))

降順	(19)授業意義深い		(20)授業内容理解		(21)専門的関心等		(22)よい授業だ	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.761(**)	(22)よい授業だ	0.720(**)	(21)専門的関心等	0.737(**)	(22)よい授業だ	0.761(**)	(19)授業意義深い
2	0.721(**)	(21)専門的関心等	0.673(**)	(19)授業意義深い	0.721(**)	(19)授業意義深い	0.737(**)	(21)専門的関心等
3	0.673(**)	(20)授業内容理解	0.647(**)	(22)よい授業だ	0.720(**)	(20)授業内容理解	0.647(**)	(20)授業内容理解
4	0.629(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.566(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.581(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.595(**)	(4)説明が適切
5	0.582(**)	(4)説明が適切	0.545(**)	(4)説明が適切	0.513(**)	(7)考える機会	0.594(**)	(3)ポイント説明
6	0.562(**)	(3)ポイント説明	0.505(**)	(9)進み具合考慮	0.511(**)	(4)説明が適切	0.568(**)	(17)意欲的に学ぶ
7	0.540(**)	(7)考える機会	0.504(**)	(3)ポイント説明	0.502(**)	(3)ポイント説明	0.567(**)	(7)考える機会
8	0.511(**)	(1)授業目的説明	0.487(**)	(8)質問出やすい	0.480(**)	(9)進み具合考慮	0.514(**)	(10)授業への情熱
9	0.486(**)	(9)進み具合考慮	0.475(**)	(7)考える機会	0.469(**)	(1)授業目的説明	0.512(**)	(9)進み具合考慮
10	0.476(**)	(10)授業への情熱	0.453(**)	(6)ノート	0.454(**)	(8)質問出やすい	0.502(**)	(5)教員の声
11	0.465(**)	(5)教員の声	0.446(**)	(1)授業目的説明	0.452(**)	(10)授業への情熱	0.473(**)	(1)授業目的説明
12	0.464(**)	(15)受講態度良好	0.422(**)	(15)受講態度良好	0.424(**)	(6)ノート	0.463(**)	(6)ノート
13	0.448(**)	(8)質問出やすい	0.409(**)	(13)字は見やすい	0.415(**)	(15)受講態度良好	0.456(**)	(8)質問出やすい
14	0.446(**)	(6)ノート	0.393(**)	(16)教授要綱役立	0.413(**)	(5)教員の声	0.450(**)	(15)受講態度良好
15	0.432(**)	(2)評価方法説明	0.390(**)	(2)評価方法説明	0.410(**)	(2)評価方法説明	0.433(**)	(13)字は見やすい
16	0.415(**)	(13)字は見やすい	0.388(**)	(5)教員の声	0.401(**)	(13)字は見やすい	0.430(**)	(11)資料映像利用
17	0.409(**)	(11)資料映像利用	0.368(**)	(10)授業への情熱	0.388(**)	(11)資料映像利用	0.411(**)	(2)評価方法説明
18	0.396(**)	(12)教科書等活用	0.366(**)	(18)予習復習行う	0.369(**)	(12)教科書等活用	0.388(**)	(12)教科書等活用
19	0.365(**)	(16)教授要綱役立	0.346(**)	(11)資料映像利用	0.357(**)	(16)教授要綱役立	0.346(**)	(16)教授要綱役立
20	0.340(**)	(18)予習復習行う	0.295(**)	(12)教科書等活用	0.328(**)	(18)予習復習行う	0.285(**)	(18)予習復習行う
21	0.236(**)	(14)出席率良好	0.143(**)	(14)出席率良好	0.168(**)	(14)出席率良好	0.224(**)	(14)出席率良好

質問項目(22)よい授業だは、質問項目(19)授業意義深いおよび質問項目(21)専門的関心等と強い相関関係を示した。また、質問項目(4)説明が適切、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(20)授業内容理解、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(7)考える機会、質問項目(9)進み具合考慮、質問項目(5)教員の声、質問項目(6)ノートなどと中程度の相関関係を示した。(表 34)

1年生実習・演習科目においては、質問項目(19)授業意義深いと質問項目(22)よい授業だの間に強い相関関係がみられた。また、質問項目(21)専門的関心等、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(20)授業内容理解、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(4)説明が適切などが中程度の相関関係を示した。

質問項目(20)授業内容理解は、質問項目(21)専門的関心等、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(22)よい

授業だ、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(4)説明が適切、質問項目(3)ポイント説明などと中程度の相関関係を示した。

質問項目(21)専門的関心等は、質問項目(22)よい授業だと強い相関関係を示した。また、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(20)授業内容理解、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(4)説明が適切などと中程度の相関関係を示した。

質問項目(22)よい授業だけは、質問項目(19)授業意義深いおよび質問項目(21)専門的関心等と強い相関関係を示した。また、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(20)授業内容理解、質問項目(4)説明が適切、質問項目(3)ポイント説明などと中程度の相関関係を示した。

1年生の実習演習習科目において、四種類の総合評価の質問項目およびそれと有意な中程度から強い相関関係を示す上位の質問項目6種類のセットは、いずれも同じ下記の7種類の質問項目であった。

- 1) 質問項目(22)よい授業だ
- 2) 質問項目(21)専門的関心等
- 3) 質問項目(20)授業内容理解
- 4) 質問項目(19)授業意義深い
- 5) 質問項目(17)意欲的に学ぶ
- 6) 質問項目(4)説明が適切
- 7) 質問項目(3)ポイント説明

1年生講義科目では、上記の質問項目の代わりに、質問項目(9)進み具合考慮が入っている程度でいずれもほぼ同じ質問項目が上位に位置している。(表34)

2年生講義科目において、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(22)よい授業だおよび質問項目(21)専門的関心等と強い相関関係を示した。また、質問項目(20)授業内容理解、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(4)説明が適切、質問項目(3)ポイント説明などと中程度の相関関係を示した。

質問項目(20)授業内容理解は、質問項目(21)専門的関心等と強い相関関係を示した。また、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(4)説明が適切、質問項目(9)進み具合考慮、質問項目(3)ポイント説明などと中程度の相関関係を示した。

質問項目(21)専門的関心等は、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(19)授業意義深いおよび質問項目(20)授業内容理解と強い相関関係を示した。また、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(7)考える機会、質問項目(4)説明が適切、質問項目(3)ポイント説明などと中程度の相関関係を示した。質問項目(22)よい授業だけは、質問項目(19)授業意義深いおよび質問項目(21)専門的関心等と強い相関関係を示した。また、質問項目(20)授業内容理解、質問項目(4)説明が適切、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(7)考える機会などと中程度の相関関係を示した。

2年生実習・演習科目において、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(22)授業内容満足および質問項目(21)専門的関心等と強い相関関係を示した。また、質問項目(20)授業内容理解、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(9)進み具合考慮などと中程度の相関関係を示した。

質問項目(20)授業内容理解は、質問項目(21)専門的関心等と強い相関関係を示した。また、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(7)考える機会、質問項目(3)ポイント説明などと中程度の相関関係を示した。

質問項目(21)専門的関心等は、質問項目(22)よい授業、質問項目(19)授業意義深いおよび質問項目(20)授業内容理解と強い相関関係を示した。また、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(9)進み具合考慮、質問項目(7)考える機会などと中程度の相関関係を示した。

質問項目(22)よい授業だけは、質問項目(19)授業意義深いおよび質問項目(21)専門的関心等と強い相関関係を示した。また、質問項目(20)授業内容理解、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(9)進み具合考慮などと中程度の相関関係を示した。

1年生講義科目と比較してみると、総合評価質問項目と強いおよび中程度の相関関係を示す7種類のセットは、下記のメンバーの他に質問項目(3)ポイント説明の代わりに、質問項目(9)進み具合考慮または質問項目

(7)考える機会を入れ替えれば充当することになる。

- 1) 質問項目(22)よい授業だ
- 2) 質問項目(21)専門的関心等
- 3) 質問項目(20)授業内容理解
- 4) 質問項目(19)授業意義深い
- 5) 質問項目(17)意欲的に学ぶ
- 6) 質問項目(4)説明が適切
- 7) 質問項目(3)ポイント説明

2年生実習・演習科目においては、質問項目(4)説明が適切な代わりに質問項目(9)進み具合考慮が入れ替わっている。また、質問項目(3)ポイント説明および質問項目(4)説明が適切な代わりに質問項目(9)進み具合考慮および質問項目(7)考える機会が入れ替わっている。

つまり、総合評価の質問項目と相関関係を示した質問項目で、相関関係の強い順に並べると上記の7種類に質問項目(9)進み具合考慮、質問項目(7)考える機会を加えると全てそろふことになる。(表 36、表 37)

総合評価の質問項目を「よい授業」の判断基準とするならば、上記の9種類の項目が「よい授業」の要因として大きく関与していることがわかった。

表 37 総合評価について(2年生 実習・演習科目)
(質問項目間の順位相関係数(Kendall τ_b))

降順	(19)授業意義深い		(20)授業内容理解		(21)専門的関心等		(22)よい授業だ	
	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目	相関係数	質問項目
1	0.791(**)	(22)よい授業だ	0.703(**)	(21)専門的関心等	0.734(**)	(22)よい授業だ	0.791(**)	(19)授業意義深い
2	0.725(**)	(21)専門的関心等	0.673(**)	(19)授業意義深い	0.725(**)	(19)授業意義深い	0.734(**)	(21)専門的関心等
3	0.673(**)	(20)授業内容理解	0.652(**)	(22)よい授業だ	0.703(**)	(20)授業内容理解	0.652(**)	(20)授業内容理解
4	0.602(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.622(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.584(**)	(17)意欲的に学ぶ	0.569(**)	(17)意欲的に学ぶ
5	0.512(**)	(3)ポイント説明	0.494(**)	(7)考える機会	0.532(**)	(9)進み具合考慮	0.560(**)	(3)ポイント説明
6	0.498(**)	(9)進み具合考慮	0.492(**)	(3)ポイント説明	0.519(**)	(7)考える機会	0.552(**)	(9)進み具合考慮
7	0.493(**)	(7)考える機会	0.484(**)	(9)進み具合考慮	0.484(**)	(8)質問出やすい	0.537(**)	(7)考える機会
8	0.482(**)	(4)説明が適切	0.472(**)	(8)質問出やすい	0.480(**)	(3)ポイント説明	0.528(**)	(10)授業への情熱
9	0.476(**)	(10)授業への情熱	0.468(**)	(4)説明が適切	0.459(**)	(10)授業への情熱	0.527(**)	(4)説明が適切
10	0.472(**)	(8)質問出やすい	0.454(**)	(15)受講態度良好	0.456(**)	(4)説明が適切	0.505(**)	(8)質問出やすい
11	0.444(**)	(15)受講態度良好	0.442(**)	(6)ノート	0.447(**)	(12)教科書等活用	0.472(**)	(5)教員の声
12	0.437(**)	(5)教員の声	0.424(**)	(10)授業への情熱	0.439(**)	(15)受講態度良好	0.432(**)	(11)資料映像利用
13	0.422(**)	(11)資料映像利用	0.412(**)	(5)教員の声	0.431(**)	(6)ノート	0.421(**)	(1)授業目的説明
14	0.415(**)	(1)授業目的説明	0.396(**)	(1)授業目的説明	0.429(**)	(5)教員の声	0.404(**)	(6)ノート
15	0.403(**)	(12)教科書等活用	0.393(**)	(12)教科書等活用	0.414(**)	(11)資料映像利用	0.396(**)	(15)受講態度良好
16	0.389(**)	(6)ノート	0.379(**)	(16)教授要綱役立	0.403(**)	(1)授業目的説明	0.386(**)	(12)教科書等活用
17	0.365(**)	(13)字は見やすい	0.375(**)	(18)予習復習行う	0.382(**)	(13)字は見やすい	0.371(**)	(13)字は見やすい
18	0.295(**)	(2)評価方法説明	0.366(**)	(13)字は見やすい	0.369(**)	(18)予習復習行う	0.334(**)	(2)評価方法説明
19	0.295(**)	(18)予習復習行う	0.358(**)	(11)資料映像利用	0.343(**)	(16)教授要綱役立	0.274(**)	(18)予習復習行う
20	0.288(**)	(16)教授要綱役立	0.316(**)	(2)評価方法説明	0.321(**)	(2)評価方法説明	0.271(**)	(14)出席率良好
21	0.280(**)	(14)出席率良好	0.248(**)	(14)出席率良好	0.233(**)	(14)出席率良好	0.270(**)	(16)教授要綱役立

今後の授業改善対策として、総合評価と高い相関関係を示した上位9種類の内容を特に意識して取り上げる必要がある。この中で、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(4)説明が適切、質問項目(7)考える機会、質問項目(9)進み具合考慮などは、授業方法であるから改善をしやすい。また、質問項目(17)意欲的に学ぶ(意欲的に学ぼうとした)の改善策について考えてみる。この項目と授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度に設定された質問項目の間の相関関係について順位相関分析を行った。分析結果(表 26,27,28,29 参照)から、有意な高い相関関係を示した項目について改善対策を考えればよいことになる。例えば、授業態度で示すと質問項目(4)説明が適切、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(7)考える機会、質問項目(9)進み具合考慮などが上げられる。

項目の組み合わせにより総合評価との関連性をもとめることができれば、教育改善に活用することができる。この点については、次節で考察した。

(5) 総合評価の質問項目と最も強い関連性を示す質問項目の組み合わせについて

1) 分析の方法について

前節で示したように、総合評価の質問項目と最も強い相関関係を示す質問項目は順位相関分析によって分かった。本節では、どのような質問項目の組み合わせが総合評価の質問項目と最も強い関連性を示すか検索する。今回用いた変数は、学科名などが名義尺度、質問項目の回答が順序尺度である。変数が間隔尺度や比率尺度のような量的変数でないので、重回帰分析や数量化 I 類などは適用できない。そこで、坂元慶行等(情報量統計学、共立出版(1983))の方法により、総合評価の質問項目から目的変数を 1 個選択し、残りの質問項目(22 項目)から説明変数を 1 から 3 個を選択して、2 元から 4 元までの全ての組み合わせによるクロス表を作成した。それぞれのクロス表について「赤池情報量基準」(AIC)を計算して、その値が一番小さくなる組み合わせを検索して、総合評価の目的変数にたいして、最も高い関連性を示す説明変数の組み合わせを判定した。

2) 具体的な方法について

- ・今回の計算処理では 4 元までのクロス表を作成した。表頭に目的変数の総合評価の質問項目をおき表側に 3 種類の説明変数をおいた。22 種類の質問項目について全ての組み合わせを作成した。基本調査は五件法により回答を得たが、4 元までクロスするためにはカテゴリを少なくしたほうが AIC の値が拡散しない。そのために「そう思う(5)」、「いくらかそう思う(4)」、「どちらともいえない(3)」、「あまりそう思わない(2)」、「そう思わない(1)」の回答について、「そう思う(5)」と「いくらかそう思う(4)」を併合して「肯定的的(2)」として、「どちらともいえない(3)」、「あまりそう思わない(2)」、「そう思わない(1)」を併合して「非肯定(1)」とした。
- ・上記と同様であるが、総合評価の質問項目(4 種類)を説明変数から除いて、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度に含まれる質問項目 18 種類について、同様に 4 元までのクロス表を作成して検索した。
- ・上記と同様であるが、さらに、あなた自身の学習方法・態度の質問項目(5 種類)を説明変数から除いて、授業計画、授業方法に含まれる 13 種類について、同様にクロス表を作成して検索した。
- ・質問項目(17)意欲的に学ぶが総合評価と高い相関関係を示した。この項目を目的変数として、上記と同様にクロス表を作成して検索を行った。

3) 計算結果について

1 年生および 2 年生、講義科目および実習・演習科目に分けて計算処理を行った。

3)-1 1 年生 講義科目について

●総合評価の質問項目「(19)授業意義深い」と他の質問項目との関連性の比較

質問項目「(19)授業意義深い」と他の質問項目の関連性は、AICの数値の比較で行った。基本的に、AICの値が負であれば、有意な関連性があると判定する。AICの値に2以上の差があれば関連性に有意な差があるとみなす。AICの値が小さいほど関連性が高くなる。AICが負で、その絶対値が大きいほど関連性が高いことを意味する。表38は、質問項目(19)授業意義深いと質問項目(1)授業目的説明から質問項目「(22)よい授業だ」までを2元クロス表にしてAICを計算した。表より、質問項目(19)授業意義深いと最も関連性の強い質問項目は、質問項目(22)よい授業だであることがわかる。

表38 質問項目Q19と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(22)よい授業だ	2	-713.06
(21)専門的関心等	2	-610.18
(20)授業内容理解	2	-447.98
(4)説明が適切	2	-389.21
(3)ポイント説明	2	-378.70
(17)意欲的に学ぶ	2	-366.79
(10)授業への情熱	2	-255.60
(5)教員の声	2	-238.05

(7)考える機会	2	-228.86
(9)進み具合考慮	2	-226.41
(1)授業目的説明	2	-218.78
(15)受講態度良好	2	-208.77
(6)ノート	2	-198.40
(12)教科書等活用	2	-182.95
(13)字は見やすい	2	-167.34
(11)資料映像利用	2	-159.72
(2)評価方法説明	2	-142.36
(8)質問出やすい	2	-139.26
(18)予習復習行う	2	-84.92
(16)教授要綱役立	2	-78.00
(14)出席率良好	2	-62.03
学科など授業区分	6	-35.56

○表39は、質問項目「(19)授業意義深い」を目的変数に、質問項目「(1)授業目的説明」から質問項目「(22)よい授業だ」までを説明変数として、4元までのクロス表について全ての組み合わせを作成してAICを計算した。その計算結果をAICの小さい順(最も関連性の高い順)に打ち出したものである。表39の下の方の4元クロス表は、表39の上から2つ(一番関連性の高いものとその次のもの)のクロス表を示した。

この結果から、質問項目(19)授業意義深いと最も関連性の高い、説明変数の組み合わせは質問項目(22)よい授業だ、質問項目(21)専門的関心等、質問項目(20)授業内容理解の3種であった。

表39 質問項目Q19と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q22	Q21	Q20	8	-862.81
Q15	Q22	Q21	8	-854.18
Q17	Q22	Q21	8	-841.25
Q17	Q22	Q20	8	-832.40
Q3	Q22	Q21	8	-831.92
Q1	Q22	Q21	8	-829.81
Q10	Q22	Q21	8	-826.76
Q14	Q22	Q21	8	-822.95
Q4	Q22	Q21	8	-821.14
Q1	Q22	Q20	8	-816.82
Q7	Q22	Q21	8	-815.94
Q22	Q21		4	-813.23
Q12	Q22	Q21	8	-812.99
Q9	Q22	Q21	8	-812.28
Q3	Q22	Q20	8	-812.17
Q7	Q22	Q20	8	-811.69
Q22	Q20		4	-809.88
Q6	Q22	Q21	8	-808.91

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q22	1	Q21	1	Q20	1	302	81.8%	67	18.2%
					2	26	43.3%	34	56.7%
			2	Q20	1	29	46.8%	33	53.2%
					2	8	25.8%	23	74.2%
	2	Q21	1	Q20	1	34	31.5%	74	68.5%
					2	6	10.5%	51	89.5%
			2	Q20	1	19	8.4%	208	91.6%
					2	12	1.3%	933	98.7%

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q15	1	Q22	1	Q21	1	195	83.7%	38	16.3%
					2	24	54.5%	20	45.5%
			2	Q21	1	18	34.0%	35	66.0%
					2	17	10.6%	143	89.4%
	2	Q22	1	Q21	1	135	68.2%	63	31.8%
					2	12	25.0%	36	75.0%
			2	Q21	1	22	19.8%	89	80.2%
					2	14	1.4%	997	98.6%

○次に、質問項目(19)授業意義深いを目的変数として、総合評価の質問項目である質問項目(20)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(4)説明が適切な3種であった。

表40 質問項目Q19と他の質問項目(Q1～Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q17	Q10	Q4	8	-611.66
Q17	Q10	Q3	8	-608.11
Q17	Q4	Q3	8	-607.04
Q17	Q4	Q1	8	-601.35
Q17	Q7	Q3	8	-595.93
Q17	Q7	Q4	8	-593.13
Q17	Q15	Q3	8	-590.88
Q17	Q15	Q4	8	-589.94
Q17	Q3	Q1	8	-585.19
Q17	Q9	Q3	8	-583.77
Q17	Q14	Q4	8	-581.79
Q17	Q5	Q3	8	-580.73
Q17	Q9	Q4	8	-579.22
Q17	Q4		4	-578.52
Q18	Q17	Q4	8	-577.42
Q17	Q3		4	-573.81
Q18	Q17	Q3	8	-572.23
Q17	Q14	Q3	8	-571.07
Q17	Q6	Q3	8	-570.31

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q10	1	Q4	1	174	77.3%	51	22.7%
					2	17	37.0%	29	63.0%
			2	Q4	1	99	57.2%	74	42.8%
					2	52	24.0%	165	76.0%
	2	Q10	1	Q4	1	35	44.9%	43	55.1%
					2	9	14.1%	55	85.9%
			2	Q4	1	29	17.5%	137	82.5%
					2	21	2.4%	858	97.6%

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q10	1	Q3	1	164	76.6%	50	23.4%
					2	27	47.4%	30	52.6%
			2	Q3	1	83	57.2%	62	42.8%
					2	69	28.3%	175	71.7%
	2	Q10	1	Q3	1	34	50.7%	33	49.3%
					2	9	12.3%	64	87.7%
			2	Q3	1	28	21.9%	100	78.1%
					2	22	2.4%	890	97.6%

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法、の13種類の質問項目で同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(4)説明が適切、質問項目(3)ポイント説明の3種の組み合わせであった。

表41 問項目Q19と他の質問項目(Q1～Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q10	Q4	Q3	8	-519.94
Q7	Q4	Q3	8	-512.73
Q9	Q4	Q3	8	-510.72
Q10	Q9	Q4	8	-504.07
Q12	Q10	Q4	8	-503.78
Q10	Q7	Q4	8	-501.97
Q10	Q9	Q3	8	-500.30
Q9	Q7	Q3	8	-498.19
Q10	Q7	Q3	8	-496.06
Q11	Q10	Q4	8	-495.63
Q13	Q10	Q4	8	-492.33
Q9	Q7	Q4	8	-491.42
Q10	Q4		4	-490.22
Q12	Q10	Q3	8	-489.34
Q12	Q4	Q3	8	-487.69

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q10	1	Q4	1	Q3	1	195	73.6%	70	26.4%
				2	17	42.5%	23	57.5%	
		2	Q3	1	2	6	31.6%	13	68.4%
					2	19	21.1%	71	78.9%
	2	Q4	1	Q3	1	101	45.7%	120	54.3%
				2	28	23.5%	91	76.5%	
		2	Q3	1	2	10	18.2%	45	81.8%
					2	64	6.1%	979	93.9%

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q7	1	Q4	1	Q3	1	235	69.5%	103	30.5%
				2	26	36.1%	46	63.9%	
		2	Q3	1	2	8	27.6%	21	72.4%
					2	30	14.9%	172	85.1%
	2	Q4	1	Q3	1	61	41.5%	86	58.5%
				2	19	22.1%	67	77.9%	
		2	Q3	1	2	6	14.6%	35	85.4%
					2	52	5.6%	875	94.4%

●総合評価の質問項目「(20)授業内容理解」と他の質問項目との関連性の比較

表42 質問項目Q20と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(21)専門的関心等	2	-493.24
(22)よい授業だ	2	-451.48
(19)授業意義深い	2	-447.98
(4)説明が適切	2	-403.57
(17)意欲的に学ぶ	2	-358.77
(3)ポイント説明	2	-312.48
(9)進み具合考慮	2	-293.22
(15)受講態度良好	2	-279.86
(6)ノート	2	-255.80
(5)教員の声	2	-219.18
(8)質問出やすい	2	-211.45
(7)考える機会	2	-180.41
(10)授業への情熱	2	-154.28
(13)字は見やすい	2	-150.83
(11)資料映像利用	2	-147.03
(1)授業目的説明	2	-146.85
(18)予習復習行う	2	-131.94
(2)評価方法説明	2	-131.45
(12)教科書等活用	2	-128.39
(16)教授要綱役立	2	-125.79
(14)出席率良好	2	-56.58
学科など授業区分	6	-26.08

○目的変数を質問項目(20)授業内容理解にして、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。
 その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(15)受講態度良好、質問項目(4)説明が適切、質問項目(21)専門的関心等の3種の組み合わせであった。

表43 質問項目Q20と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
 (2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q15	Q4	Q21	8	-715.88
Q15	Q9	Q21	8	-700.34
Q19	Q15	Q21	8	-695.54
Q15	Q22	Q21	8	-690.96
Q17	Q4	Q21	8	-682.77
Q19	Q15	Q4	8	-678.36
Q15	Q3	Q21	8	-673.81
Q19	Q17	Q4	8	-673.62
Q19	Q4	Q21	8	-672.60
Q19	Q15	Q9	8	-669.72
Q17	Q15	Q21	8	-669.31
Q15	Q6	Q21	8	-666.41
Q19	Q9	Q21	8	-665.73
Q15	Q8	Q21	8	-663.60
Q9	Q4	Q21	8	-659.20
Q19	Q17	Q21	8	-657.62

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q15	1	Q4	1	Q21	1	220	93.2%	16	6.8%
					2	53	73.6%	19	26.4%
			2	Q21	1	41	78.8%	11	21.2%
					2	63	48.1%	68	51.9%
	2	Q4	1	Q21	1	153	83.2%	31	16.8%
				2	59	38.3%	95	61.7%	
			2	Q21	1	70	54.7%	58	45.3%
					2	113	12.4%	795	87.6%

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q15	1	Q9	1	Q21	1	210	92.1%	18	7.9%
					2	73	69.5%	32	30.5%
			2	Q21	1	46	83.6%	9	16.4%
					2	44	44.9%	54	55.1%
	2	Q9	1	Q21	1	173	77.9%	49	22.1%
				2	104	31.0%	231	69.0%	
			2	Q21	1	49	55.1%	40	44.9%
					2	69	9.5%	657	90.5%

○次に、質問項目(20)授業内容理解を目的変数として、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(15)受講態度良好、質問項目(4)説明が適切な3種の組み合わせであった。

表44 質問項目Q20と他の質問項目(Q1～Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q17	Q15	Q4	8	-639.30
Q15	Q9	Q4	8	-619.25
Q17	Q9	Q4	8	-612.91
Q17	Q6	Q4	8	-608.78
Q18	Q17	Q4	8	-604.61
Q18	Q15	Q4	8	-598.23
Q17	Q15	Q9	8	-591.99
Q17	Q8	Q4	8	-586.20
Q15	Q8	Q4	8	-585.24
Q17	Q4		4	-582.99
Q17	Q15	Q3	8	-580.86
Q17	Q4	Q3	8	-580.30
Q15	Q6	Q4	8	-579.60
Q15	Q9	Q3	8	-577.83
Q17	Q14	Q4	8	-576.28
Q17	Q15	Q6	8	-570.72
Q17	Q9	Q3	8	-569.62

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q15	1	Q4	1	232	91.0%	23	9.0%
					2	71	68.3%	33	31.7%
			2	Q4	1	111	77.1%	33	22.9%
					2	71	43.8%	91	56.2%
	2	Q15	1	Q4	1	40	76.9%	12	23.1%
				2	33	41.8%	46	58.2%	
			2	Q4	1	100	51.8%	93	48.2%
					2	113	13.0%	757	87.0%

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q15	1	Q9	1	Q4	1	229	89.5%	27	10.5%
					2	54	70.1%	23	29.9%
			2	Q4	1	40	83.3%	8	16.7%
					2	50	47.6%	55	52.4%
	2	Q9	1	Q4	1	179	69.4%	79	30.6%
				2	98	32.9%	200	67.1%	
			2	Q4	1	33	41.8%	46	58.2%
					2	85	11.6%	650	88.4%

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(11)資料映像利用、質問項目(9)進み具合考慮、質問項目(4)説明が適切な3種のに組み合わせであった。

表45 質問項目Q20と他の質問項目(Q1～Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q11	Q9	Q4	8	-537.75
Q9	Q6	Q4	8	-532.13
Q9	Q4	Q3	8	-529.36
Q9	Q4		4	-522.38
Q13	Q9	Q4	8	-515.34
Q12	Q9	Q4	8	-514.90
Q8	Q6	Q4	8	-511.21
Q10	Q9	Q4	8	-510.65
Q8	Q4	Q3	8	-504.16
Q9	Q8	Q4	8	-504.13
Q9	Q7	Q4	8	-501.75
Q11	Q6	Q4	8	-500.04
Q9	Q4	Q2	8	-497.33
Q9	Q5	Q4	8	-495.49
Q9	Q6	Q3	8	-492.70

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q11	1	Q9	1	Q4	1	215	81.1%	50	18.9%
					2	41	52.6%	37	47.4%
			2	Q4	1	24	60.0%	16	40.0%
					2	28	43.8%	36	56.3%
	2	Q9	1	Q4	1	192	79.0%	51	21.0%
					2	110	38.3%	177	61.7%
			2	Q4	1	49	57.6%	36	42.4%
					2	105	13.9%	653	86.1%

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q9	1	Q6	1	Q4	1	360	82.6%	76	17.4%
					2	84	44.7%	104	55.3%
			2	Q4	1	35	59.3%	24	40.7%
					2	60	35.7%	108	64.3%
	2	Q6	1	Q4	1	49	61.3%	31	38.8%
					2	45	25.6%	131	74.4%
			2	Q4	1	22	50.0%	22	50.0%
					2	89	14.0%	547	86.0%

●総合評価の質問項目「(21)専門的関心等」と他の質問項目との関連性の比較

表46 質問項目Q21と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(22)よい授業だ	2	-742.39
(19)授業意義深い	2	-610.18
(20)授業内容理解	2	-493.24
(4)説明が適切	2	-425.46
(17)意欲的に学ぶ	2	-418.62
(3)ポイント説明	2	-358.22
(5)教員の声	2	-271.52
(9)進み具合考慮	2	-248.30
(7)考える機会	2	-243.52
(10)授業への情熱	2	-230.96
(6)ノート	2	-230.33
(1)授業目的説明	2	-206.60
(13)字は見やすい	2	-200.87
(12)教科書等活用	2	-197.32
(11)資料映像利用	2	-187.04
(8)質問しやすい	2	-168.71
(2)評価方法説明	2	-161.44
(15)受講態度良好	2	-140.62
(18)予習復習行う	2	-116.84
(16)教授要綱役立	2	-91.68
(14)出席率良好	2	-41.94
学科など授業区分	6	-31.05

○目的変数を質問項目(21)専門的関心等にして、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。
その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(20)授業内容理解、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(22)よい授業だの3種の組み合わせであった。

表47 質問項目Q21と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q20	Q19	Q22	8	-924.40
Q19	Q17	Q22	8	-898.76
Q20	Q17	Q22	8	-894.38
Q20	Q22		4	-875.51
Q17	Q22		4	-864.54
Q20	Q18	Q22	8	-856.70
Q17	Q4	Q22	8	-850.43
Q19	Q4	Q22	8	-849.36
Q19	Q18	Q22	8	-846.43
Q19	Q22		4	-842.56
Q20	Q4	Q22	8	-833.41
Q19	Q17	Q4	8	-823.09
Q19	Q6	Q22	8	-822.58
Q19	Q5	Q22	8	-822.56
Q20	Q1	Q22	8	-822.32
Q20	Q3	Q22	8	-820.42

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q20	1	Q19	1	Q22	1	302	91.2%	29	8.8%
					2	34	64.2%	19	35.8%
			2	Q22	1	67	67.0%	33	33.0%
					2	74	26.2%	208	73.8%
	2	Q19	1	Q22	1	26	76.5%	8	23.5%
					2	6	33.3%	12	66.7%
			2	Q22	1	34	59.6%	23	40.4%
					2	51	5.2%	933	94.8%

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q19	1	Q17	1	Q22	1	267	91.1%	26	8.9%
					2	32	68.1%	15	31.9%
			2	Q22	1	60	85.7%	10	14.3%
					2	8	33.3%	16	66.7%
	2	Q17	1	Q22	1	61	71.8%	24	28.2%
					2	65	27.3%	173	72.7%
			2	Q22	1	39	54.9%	32	45.1%
					2	59	5.8%	962	94.2%

○次に、質問項目(21)専門的関心等を目的変数として、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(7)考える機会、質問項目(4)説明が適切な3種の組み合わせであった。

表48 質問項目Q21と他の質問項目(Q1～Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q17	Q7	Q4	8	-667.58
Q17	Q10	Q4	8	-665.12
Q17	Q4	Q3	8	-662.94
Q18	Q17	Q4	8	-662.86
Q17	Q4	Q1	8	-654.03
Q17	Q4		4	-653.30
Q17	Q9	Q4	8	-652.62
Q17	Q6	Q4	8	-650.75
Q17	Q5	Q4	8	-650.30
Q17	Q11	Q4	8	-641.10
Q17	Q4	Q2	8	-638.05
Q17	Q12	Q4	8	-637.58
Q17	Q5	Q3	8	-633.89
Q17	Q8	Q4	8	-632.51
Q17	Q14	Q4	8	-630.36
Q17	Q7	Q3	8	-629.84

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q7	1	Q4	1	241	84.0%	46	16.0%
					2	41	51.3%	39	48.8%
			2	Q4	1	76	69.1%	34	30.9%
					2	63	35.6%	114	64.4%
	2	Q7	1	Q4	1	57	48.7%	60	51.3%
					2	23	15.3%	127	84.7%
			2	Q4	1	39	31.0%	87	69.0%
					2	47	5.9%	744	94.1%

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q10	1	Q4	1	186	83.0%	38	17.0%
					2	25	54.3%	21	45.7%
			2	Q4	1	131	75.7%	42	24.3%
					2	84	38.7%	133	61.3%
	2	Q10	1	Q4	1	43	55.1%	35	44.9%
					2	16	25.4%	47	74.6%
			2	Q4	1	54	32.3%	113	67.7%
					2	54	6.1%	827	93.9%

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(11)資料映像利用、質問項目(9)進み具合考慮、質問項目(4)説明が適切な3種の組み合わせであった。

表49 質問項目Q21と他の質問項目(Q1~Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q11	Q9	Q4	8	-537.75
Q9	Q6	Q4	8	-532.13
Q9	Q4	Q3	8	-529.36
Q9	Q4		4	-522.38
Q13	Q9	Q4	8	-515.34
Q12	Q9	Q4	8	-514.90
Q8	Q6	Q4	8	-511.21
Q10	Q9	Q4	8	-510.65
Q8	Q4	Q3	8	-504.16
Q9	Q8	Q4	8	-504.13
Q9	Q7	Q4	8	-501.75
Q11	Q6	Q4	8	-500.04
Q9	Q4	Q2	8	-497.33
Q9	Q5	Q4	8	-495.49

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q11	1	Q9	1	Q4	1	201	74.7%	68	25.3%
					2	37	47.4%	41	52.6%
			2	Q4	1	22	56.4%	17	43.6%
					2	13	20.6%	50	79.4%
	2	Q9	1	Q4	1	154	63.4%	89	36.6%
					2	60	20.9%	227	79.1%
			2	Q4	1	37	43.0%	49	57.0%
					2	67	8.8%	692	91.2%

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q9	1	Q6	1	Q4	1	308	70.2%	131	29.8%
					2	61	32.4%	127	67.6%
			2	Q4	1	32	53.3%	28	46.7%
					2	31	18.5%	137	81.5%
	2	Q6	1	Q4	1	39	48.1%	42	51.9%
					2	25	14.3%	150	85.7%
			2	Q4	1	21	48.8%	22	51.2%
					2	54	8.5%	583	91.5%

●総合評価の質問項目「(22)よい授業だ」と他の質問項目との関連性の比較

表50 質問項目Q22と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(21)専門的関心等	2	-742.39
(19)授業意義深い	2	-713.06
(4)説明が適切	2	-547.44
(3)ポイント説明	2	-502.89
(20)授業内容理解	2	-451.48
(5)教員の声	2	-366.21
(10)授業への情熱	2	-357.95
(17)意欲的に学ぶ	2	-355.62
(9)進み具合考慮	2	-343.20
(7)考える機会	2	-289.38
(6)ノート	2	-288.81
(13)字は見やすい	2	-256.79
(12)教科書等活用	2	-245.49
(11)資料映像利用	2	-232.81
(8)質問出やすい	2	-212.91
(1)授業目的説明	2	-208.12
(15)受講態度良好	2	-191.53
(2)評価方法説明	2	-181.21
(16)教授要綱役立	2	-95.18
(18)予習復習行う	2	-91.61
(14)出席率良好	2	-57.97
学科など授業区分	6	-41.25

○目的変数を質問項目(22)より授業だにして、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。
 その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(21)専門的関心等、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(4)説明が適切な3種の組み合わせであった。

表51 質問項目Q22と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
 (2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q21	Q19	Q4	8	-1042.35
Q21	Q19	Q3	8	-1034.69
Q21	Q19	Q9	8	-1010.98
Q21	Q19	Q10	8	-1010.46
Q21	Q19	Q5	8	-1006.02
Q21	Q19	Q13	8	-978.59
Q21	Q19	Q6	8	-977.77
Q21	Q10	Q4	8	-972.40
Q21	Q9	Q3	8	-970.06
Q21	Q10	Q3	8	-969.15
Q21	Q19	Q8	8	-966.22
Q21	Q20	Q19	8	-964.04
Q21	Q9	Q4	8	-960.63
Q21	Q19	Q11	8	-955.66
Q21	Q19	Q7	8	-954.37
Q19	Q10	Q4	8	-950.51

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q21	1	Q19	1	Q4	1	281	92.7%	22	7.3%
					2	50	73.5%	18	26.5%
			2	Q4	1	69	60.5%	45	39.5%
					2	32	28.6%	80	71.4%
	2	Q19	1	Q4	1	29	78.4%	8	21.6%
				2	7	23.3%	23	76.7%	
			2	Q4	1	38	20.0%	152	80.0%
					2	18	1.8%	988	98.2%

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q21	1	Q19	1	Q3	1	264	96.0%	11	4.0%
					2	67	70.5%	28	29.5%
			2	Q3	1	56	62.9%	33	37.1%
					2	45	33.6%	89	66.4%
	2	Q19	1	Q3	1	27	71.1%	11	28.9%
				2	10	33.3%	20	66.7%	
			2	Q3	1	31	19.7%	126	80.3%
					2	24	2.3%	1011	97.7%

○次に、質問項目(22)より授業だを目的変数として、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(4)説明が適切な3種の組み合わせであった。

表52 質問項目Q22と他の質問項目(Q1～Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q17	Q10	Q4	8	-764.63
Q17	Q4	Q3	8	-739.89
Q17	Q9	Q4	8	-736.69
Q17	Q10	Q3	8	-732.32
Q17	Q9	Q3	8	-723.93
Q17	Q5	Q4	8	-714.65
Q17	Q5	Q3	8	-713.14
Q17	Q7	Q4	8	-712.89
Q17	Q4		4	-701.73
Q17	Q6	Q4	8	-696.00
Q15	Q10	Q4	8	-693.73
Q17	Q12	Q4	8	-692.76
Q17	Q7	Q3	8	-690.45
Q10	Q4	Q3	8	-689.76
Q18	Q17	Q4	8	-688.11
Q17	Q11	Q4	8	-684.31

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q10	1	Q4	1	192	88.1%	26	11.9%
					2	21	46.7%	24	53.3%
			2	Q4	1	110	63.6%	63	36.4%
					2	51	23.5%	166	76.5%
	2	Q10	1	Q4	1	53	67.9%	25	32.1%
				2	10	15.9%	53	84.1%	
			2	Q4	1	54	32.7%	111	67.3%
					2	24	2.7%	852	97.3%

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q4	1	Q3	1	267	81.4%	61	18.6%
					2	38	56.7%	29	43.3%
			2	Q3	1	15	50.0%	15	50.0%
					2	57	24.5%	176	75.5%
	2	Q4	1	Q3	1	84	55.3%	68	44.7%
				2	23	25.6%	67	74.4%	
			2	Q3	1	7	16.3%	36	83.7%
					2	27	3.0%	867	97.0%

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(4)説明が適切、質問項目(3)ポイント説明の3種の組み合わせであった。

表53 質問項目Q22と他の質問項目(Q1～Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q10	Q4	Q3	8	-729.30
Q9	Q4	Q3	8	-726.72
Q10	Q9	Q4	8	-719.56
Q7	Q4	Q3	8	-710.16
Q12	Q10	Q4	8	-707.87
Q10	Q9	Q3	8	-704.85
Q12	Q9	Q4	8	-699.48
Q11	Q10	Q4	8	-698.57
Q13	Q10	Q4	8	-697.59
Q11	Q9	Q4	8	-694.68
Q11	Q4	Q3	8	-693.87
Q12	Q4	Q3	8	-692.15
Q8	Q4	Q3	8	-692.12
Q9	Q5	Q3	8	-691.24
Q13	Q9	Q4	8	-690.11

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q10	1	Q4	1	Q3	1	224	86.2%	36	13.8%
					2	23	60.5%	15	39.5%
			2	Q3	1	9	47.4%	10	52.6%
					2	22	25.0%	66	75.0%
	2	Q4	1	Q3	1	129	58.6%	91	41.4%
					2	38	31.9%	81	68.1%
			2	Q3	1	13	23.6%	42	76.4%
					2	63	6.1%	978	93.9%

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q9	1	Q4	1	Q3	1	318	78.7%	86	21.3%
					2	49	47.1%	55	52.9%
			2	Q3	1	17	34.7%	32	65.3%
					2	50	15.5%	273	84.5%
	2	Q4	1	Q3	1	36	46.2%	42	53.8%
					2	11	21.6%	40	78.4%
			2	Q3	1	5	20.0%	20	80.0%
					2	34	4.2%	775	95.8%

3)-2 2003年度基礎調査「学生による授業評価」(2年生 講義科目)
 総合評価の質問項目と他の質問項目の関連性の比較について
 (AICの値によって比較した)

●総合評価の質問項目「(19)授業意義深い」と他の質問項目との関連性の比較

表54 質問項目Q19と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
 (2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(22)よい授業だ	2	-373.20
(20)授業内容理解	2	-305.60
(21)専門的関心等	2	-290.46
(17)意欲的に学ぶ	2	-224.00
(3)ポイント説明	2	-207.29
(4)説明が適切	2	-196.63
(10)授業への情熱	2	-158.11
(7)考える機会	2	-155.51
(1)授業目的説明	2	-138.71
(9)進み具合考慮	2	-130.61
(15)受講態度良好	2	-119.64
(5)教員の声	2	-115.64
(13)字は見やすい	2	-114.69
(6)ノート	2	-102.64
(2)評価方法説明	2	-92.28
(8)質問出やすい	2	-85.05
(11)資料映像利用	2	-76.00
(16)教授要綱役立	2	-74.63
(18)予習復習行う	2	-60.70
(12)教科書等活用	2	-59.78
(14)出席率良好	2	-39.96
学科など授業区分	6	-2.67

○目的変数を質問項目(19)授業意義深いにし、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。
 その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(20)授業内容理解の3種の組み合わせであった。

表55 質問項目Q19と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
 (2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q17	Q22	Q20	8	-448.14
Q2	Q22	Q20	8	-438.60
Q17	Q22	Q21	8	-438.04
Q3	Q22	Q20	8	-437.88
Q1	Q22	Q20	8	-436.37
Q22	Q21	Q20	8	-435.14
Q10	Q22	Q20	8	-434.57
Q3	Q22	Q21	8	-432.99
Q4	Q22	Q20	8	-432.41
Q7	Q22	Q20	8	-430.97
Q14	Q22	Q20	8	-430.38
Q4	Q22	Q21	8	-429.31

Q15	Q22	Q20	8	-429.22
Q1	Q22	Q21	8	-424.78
Q22	Q20		4	-424.73

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q22	1	Q20	1	140	91.5%	13	8.5%
					2	5	62.5%	3	37.5%
			2	Q20	1	13	29.5%	31	70.5%
					2	4	9.3%	39	90.7%
	2	Q22	1	Q20	1	30	63.8%	17	36.2%
					2	3	30.0%	7	70.0%
			2	Q20	1	9	14.1%	55	85.9%
					2	2	.5%	379	99.5%

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q2	1	Q22	1	Q20	1	111	93.3%	8	6.7%
					2	4	57.1%	3	42.9%
			2	Q20	1	10	28.6%	25	71.4%
					2	1	1.5%	64	98.5%
	2	Q22	1	Q20	1	62	72.1%	24	27.9%
					2	4	36.4%	7	63.6%
			2	Q20	1	12	16.4%	61	83.6%
					2	6	1.7%	353	98.3%

○次に、目的変数を質問項目(19)授業意義深いとして、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(3)ポイント説明の3種の組み合わせであった。

表56 質問項目Q19と他の質問項目(Q1～Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q17	Q10	Q3	8	-330.74
Q17	Q10	Q4	8	-330.72
Q17	Q13	Q3	8	-318.15
Q17	Q4	Q3	8	-317.88
Q17	Q6	Q3	8	-317.15
Q17	Q9	Q4	8	-316.36
Q17	Q9	Q3	8	-315.60
Q17	Q7	Q4	8	-315.27
Q17	Q7	Q3	8	-314.98
Q17	Q4	Q1	8	-314.58
Q17	Q15	Q3	8	-313.41
Q17	Q13	Q4	8	-312.22
Q17	Q3		4	-311.17
Q17	Q3	Q1	8	-310.89
Q17	Q6	Q4	8	-310.07

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q10	1	Q3	1	89	88.1%	12	11.9%
					2	13	81.3%	3	18.8%
			2	Q3	1	43	67.2%	21	32.8%
					2	15	24.2%	47	75.8%
	2	Q10	1	Q3	1	15	53.6%	13	46.4%
					2	2	11.1%	16	88.9%
			2	Q3	1	14	21.5%	51	78.5%
					2	12	3.1%	379	96.9%

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q10	1	Q4	1	88	88.9%	11	11.1%
					2	14	73.7%	5	26.3%
			2	Q4	1	45	60.8%	29	39.2%
					2	14	26.4%	39	73.6%
	2	Q10	1	Q4	1	16	47.1%	18	52.9%
					2	1	8.3%	11	91.7%
			2	Q4	1	18	26.1%	51	73.9%
					2	8	2.1%	377	97.9%

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(4)説明が適切、(3)ポイント説明の3種の組み合わせであった。

表56 質問項目Q19と他の質問項目(Q1～Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q10	Q4	Q3	8	-287.21
Q13	Q10	Q3	8	-283.62
Q10	Q9	Q3	8	-283.60
Q13	Q10	Q4	8	-282.19
Q10	Q9	Q4	8	-279.75
Q10	Q8	Q3	8	-278.24
Q10	Q7	Q3	8	-277.56
Q10	Q6	Q3	8	-276.32
Q10	Q3		4	-276.02
Q10	Q4		4	-275.59
Q10	Q7	Q4	8	-275.30
Q12	Q10	Q3	8	-273.53
Q12	Q10	Q4	8	-271.57
Q10	Q8	Q4	8	-270.84
Q11	Q10	Q3	8	-270.72

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q10	1	Q4	1	Q3	1	100	80.6%	24	19.4%
			2		2	8	57.1%	6	42.9%
		2	Q3	1	8	80.0%	2	20.0%	
		2		2	7	35.0%	13	65.0%	
	2	Q4	1	Q3	1	54	50.5%	53	49.5%
			2		2	8	22.9%	27	77.1%
		2	Q3	1	3	13.6%	19	86.4%	
		2		2	21	5.0%	401	95.0%	

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q13	1	Q10	1	Q3	1	94	84.7%	17	15.3%
			2		2	10	52.6%	9	47.4%
		2	Q3	1	47	51.6%	44	48.4%	
		2		2	9	8.3%	100	91.7%	
	2	Q10	1	Q3	1	10	58.8%	7	41.2%
			2		2	4	28.6%	10	71.4%
		2	Q3	1	8	23.5%	26	76.5%	
		2		2	19	5.8%	307	94.2%	

●総合評価の質問項目「(20)授業内容理解」と他の質問項目との関連性の比較

表57 質問項目Q20と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(21)専門的関心等	2	-335.44
(22)よい授業だ	2	-313.93
(19)授業意義深い	2	-305.60
(17)意欲的に学ぶ	2	-202.19
(4)説明が適切	2	-190.03
(9)進み具合考慮	2	-169.15
(3)ポイント説明	2	-164.63
(7)考える機会	2	-126.47
(6)ノート	2	-124.87
(1)授業目的説明	2	-112.75
(8)質問が出やすい	2	-111.82
(10)授業への情熱	2	-110.76
(5)教員の声	2	-101.37
(15)受講態度良好	2	-93.62
(13)字はみやすい	2	-91.85
(18)予習復習行う	2	-91.66
(16)教授要綱役立	2	-81.05
(2)評価方法説明	2	-75.63
(11)資料映像利用	2	-57.28
(12)教科書等活用	2	-50.92
(14)出席率良好	2	-27.79
学科など授業区分	6	-1.05

○目的変数を質問項目(20)授業内容理解にして、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。
 その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(21)専門的関心等、質問項目(18)予習復習行うの3種の組み合わせであった。

表58 質問項目Q20と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
 (2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q22	Q21	Q18	8	-439.20
Q22	Q21	Q19	8	-435.21
Q21	Q19	Q18	8	-432.96
Q21	Q19	Q9	8	-427.91
Q22	Q21	Q17	8	-424.70
Q21	Q19	Q4	8	-423.23
Q21	Q18	Q4	8	-423.03
Q21	Q19	Q6	8	-422.04
Q21	Q19	Q17	8	-420.79
Q22	Q21	Q9	8	-419.93
Q22	Q21	Q8	8	-415.85
Q22	Q21	Q4	8	-415.43
Q21	Q17	Q4	8	-414.20
Q21	Q17	Q9	8	-414.05
Q21	Q19	Q3	8	-412.91

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q22	1	Q21	1	Q18	1	160	95.8%	7	4.2%
					2	14	66.7%	7	33.3%
			2	Q18	1	22	91.7%	2	8.3%
					2	1	33.3%	2	66.7%
	2	Q21	1	Q18	1	46	79.3%	12	20.7%
					2	4	44.4%	5	55.6%
			2	Q18	1	45	16.6%	226	83.4%
					2	10	5.5%	172	94.5%

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q22	1	Q21	1	Q19	1	162	96.4%	6	3.6%
					2	21	75.0%	7	25.0%
			2	Q19	1	12	85.7%	2	14.3%
					2	11	78.6%	3	21.4%
	2	Q21	1	Q19	1	14	87.5%	2	12.5%
					2	36	70.6%	15	29.4%
			2	Q19	1	8	61.5%	5	38.5%
					2	49	10.8%	405	89.2%

○次に、目的変数を質問項目(20)授業内容理解にして、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(9)進み具合考慮、質問項目(4)説明が適切な3種の組み合わせであった。

表59 質問項目Q20と他の質問項目(Q1～Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q17	Q9	Q4	8	-312.46
Q18	Q9	Q4	8	-294.38
Q18	Q17	Q4	8	-292.35
Q17	Q8	Q4	8	-291.59
Q17	Q9	Q3	8	-291.37
Q17	Q10	Q4	8	-289.62
Q17	Q9	Q6	8	-284.83
Q17	Q9	Q5	8	-283.87
Q16	Q9	Q4	8	-282.70
Q17	Q6	Q4	8	-280.36
Q17	Q4		4	-279.25
Q15	Q9	Q4	8	-277.58
Q17	Q8	Q3	8	-276.39
Q17	Q4	Q3	8	-276.21
Q18	Q17	Q9	8	-275.70

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q9	1	Q4	1	138	93.2%	10	6.8%
			2		2	27	73.0%	10	27.0%
			2	Q4	1	15	57.7%	11	42.3%
					2	16	45.7%	19	54.3%
	2	Q9	1	Q4	1	40	61.5%	25	38.5%
			2		2	24	28.9%	59	71.1%
			2	Q4	1	18	48.6%	19	51.4%
					2	26	8.5%	281	91.5%

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q18	1	Q9	1	Q4	1	164	90.6%	17	9.4%
			2		2	47	49.0%	49	51.0%
			2	Q4	1	24	58.5%	17	41.5%
					2	34	17.8%	157	82.2%
	2	Q9	1	Q4	1	9	34.6%	17	65.4%
			2		2	4	17.4%	19	82.6%
			2	Q4	1	8	40.0%	12	60.0%
					2	8	5.5%	137	94.5%

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(9)進み具合考慮、質問項目(4)説明が適切な3種の組み合わせであった。

表60 質問項目Q20と他の質問項目(Q1～Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q10	Q9	Q4	8	-265.21
Q9	Q4		4	-263.89
Q11	Q9	Q4	8	-263.39
Q9	Q4	Q3	8	-263.20
Q9	Q4	Q1	8	-261.07
Q9	Q8	Q4	8	-257.97
Q13	Q9	Q4	8	-256.48
Q12	Q9	Q4	8	-255.84
Q9	Q6	Q4	8	-255.64
Q9	Q7	Q4	8	-252.19
Q9	Q6	Q3	8	-249.85
Q9	Q5	Q4	8	-249.77
Q10	Q8	Q4	8	-249.68
Q9	Q4	Q2	8	-249.24
Q9	Q8	Q3	8	-247.84

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q10	1	Q9	1	Q4	1	107	85.6%	18	14.4%
			2			17	68.0%	8	32.0%
			2	Q4	1	8	66.7%	4	33.3%
			2		2	1	20.0%	4	80.0%
	2	Q9	1	Q4	1	74	80.4%	18	19.6%
			2			35	36.5%	61	63.5%
			2	Q4	1	25	49.0%	26	51.0%
			2		2	42	12.3%	299	87.7%

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q9	1	Q4	1			182	83.5%	36	16.5%
			2			52	43.0%	69	57.0%
	2	Q4	1			33	52.4%	30	47.6%
			2			44	12.7%	303	87.3%

●総合評価の質問項目「(21)専門的関心等」と他の質問項目との関連性の比較

表61 質問項目Q21と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(20)授業内容理解	2	-335.44
(22)よい授業だ	2	-319.35
(19)授業意義深い	2	-290.46
(17)意欲的に学ぶ	2	-168.13
(3)ポイント説明	2	-157.63
(4)説明が適切	2	-151.45

(7)考える機会	2	-142.46
(9)進み具合考慮	2	-129.82
(10)授業への情熱	2	-124.80
(1)授業目的説明	2	-122.31
(13)字はみやすい	2	-95.04
(2)評価方法説明	2	-92.29
(5)教員の声	2	-87.92
(15)受講態度良好	2	-87.44
(8)質問が出やすい	2	-87.33
(6)ノート	2	-86.42
(11)資料映像利用	2	-76.04
(12)教科書等活用	2	-63.78
(16)教授要綱役立	2	-63.68
(18)予習復習行う	2	-45.52
(14)出席率良好	2	-29.08
学科など授業区分	6	-8.12

○目的変数を質問項目(21)専門的関心等にして、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(20)授業内容理解、質問項目(19)授業意義深いの3種の組み合わせであった。

表62 質問項目Q21と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q22	Q20	Q19	8	-428.52
Q22	Q20		4	-418.26
Q22	Q20	Q2	8	-414.34
Q22	Q20	Q1	8	-413.20
Q22	Q20	Q3	8	-412.71
Q22	Q20	Q17	8	-408.33
Q22	Q20	Q11	8	-407.82
Q22	Q20	Q7	8	-406.45
Q22	Q20	Q18	8	-403.20
Q22	Q20	Q10	8	-403.13
Q22	Q20	Q9	8	-397.33
Q22	Q20	Q4	8	-397.18
Q22	Q20	Q16	8	-396.86
Q20	Q19	Q7	8	-396.29
Q22	Q20	Q12	8	-395.90

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q22	1	Q20	1	Q19	1	162	93.1%	12	6.9%
					2	21	65.6%	11	34.4%
			2	Q19	1	6	75.0%	2	25.0%
					2	7	70.0%	3	30.0%
	2	Q20	1	Q19	1	14	63.6%	8	36.4%
				2	36	42.4%	49	57.6%	
			2	Q19	1	2	28.6%	5	71.4%
					2	15	3.6%	405	96.4%

				Q21			
				1		2	
				度数	行の N %	度数	行の N %
Q22	1	Q20	1	183	88.8%	23	11.2%
			2	14	73.7%	5	26.3%
	2	Q20	1	50	46.7%	57	53.3%
			2	17	4.0%	410	96.0%

○次に、目的変数を質問項目(21)専門的関心等にして、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(3)ポイント説明の3種の組み合わせであった。

表63 質問項目Q21と他の質問項目(Q1~Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q17	Q10	Q3	8	-248.08
Q17	Q7	Q3	8	-247.27
Q17	Q9	Q3	8	-246.47
Q17	Q9	Q4	8	-245.91
Q17	Q10	Q4	8	-244.68
Q17	Q7	Q4	8	-243.51
Q17	Q10	Q7	8	-243.34
Q17	Q9	Q1	8	-243.09
Q17	Q10	Q1	8	-240.84
Q17	Q7	Q1	8	-240.25
Q17	Q4	Q2	8	-239.77
Q17	Q10	Q9	8	-239.58
Q17	Q7	Q2	8	-239.27
Q17	Q3	Q1	8	-239.16
Q17	Q9	Q7	8	-239.15

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q10	1	Q3	1	90	89.1%	11	10.9%
			2		2	15	88.2%	2	11.8%
			2	Q3	1	43	67.2%	21	32.8%
			2		2	22	35.5%	40	64.5%
	2	Q10	1	Q3	1	15	53.6%	13	46.4%
			2		2	6	33.3%	12	66.7%
			2	Q3	1	25	38.5%	40	61.5%
			2		2	35	9.0%	355	91.0%

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q7	1	Q3	1	116	87.2%	17	12.8%
					2	15	53.6%	13	46.4%
			2	Q3	1	17	53.1%	15	46.9%
					2	24	45.3%	29	54.7%
	2	Q7	1	Q3	1	29	51.8%	27	48.2%
					2	12	28.6%	30	71.4%
			2	Q3	1	11	29.7%	26	70.3%
					2	29	8.0%	335	92.0%

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(7)考える機会、質問項目(1)授業目的説明の3種の組み合わせであった。

表64 質問項目Q21と他の質問項目(Q1～Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q10	Q7	Q1	8	-226.63
Q10	Q7	Q2	8	-224.09
Q10	Q9	Q4	8	-223.95
Q10	Q3	Q1	8	-223.80
Q10	Q4	Q2	8	-223.05
Q9	Q7	Q1	8	-222.60
Q10	Q9	Q1	8	-222.51
Q10	Q7	Q4	8	-221.72
Q9	Q7	Q3	8	-221.53
Q10	Q3	Q2	8	-221.47
Q9	Q3	Q1	8	-221.37
Q10	Q4	Q1	8	-220.87
Q10	Q7	Q3	8	-220.85
Q9	Q4	Q1	8	-220.63
Q10	Q9	Q3	8	-220.55

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q10	1	Q7	1	Q1	1	82	84.5%	15	15.5%
					2	27	71.1%	11	28.9%
			2	Q1	1	12	85.7%	2	14.3%
					2	7	38.9%	11	61.1%
	2	Q7	1	Q1	1	41	68.3%	19	31.7%
					2	26	37.7%	43	62.3%
			2	Q1	1	18	34.0%	35	66.0%
					2	45	11.1%	359	88.9%

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q10	1	Q7	1	Q2	1	74	86.0%	12	14.0%
					2	35	71.4%	14	28.6%
			2	Q2	1	8	72.7%	3	27.3%
					2	11	52.4%	10	47.6%
	2	Q7	1	Q2	1	36	60.0%	24	40.0%
					2	31	44.9%	38	55.1%
			2	Q2	1	23	35.4%	42	64.6%
					2	40	10.3%	350	89.7%

●総合評価の質問項目「(22)よい授業だ」と他の質問項目との関連性の比較

表65 質問項目Q22と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(19)授業意義深い	2	-373.20
(21)専門的関心等	2	-319.35
(20)授業内容理解	2	-313.93
(3)ポイント説明	2	-197.48
(4)説明が適切	2	-191.11
(17)意欲的に学ぶ	2	-182.15
(7)考える機会	2	-161.62
(10)授業への情熱	2	-156.90
(9)進み具合考慮	2	-141.25
(5)教員の声	2	-136.73
(13)字はみやすい	2	-125.14
(15)受講態度良好	2	-117.67
(1)授業目的説明	2	-116.56
(6)ノート	2	-115.29
(8)質問が出やすい	2	-80.91
(11)資料映像利用	2	-80.16
(2)評価方法説明	2	-68.72
(12)教科書等活用	2	-61.81
(16)教授要綱役立	2	-58.14
(18)予習復習行う	2	-37.42
(14)出席率良好	2	-36.11
----	0	.00
区分記号	6	3.48

○目的変数を質問項目(22)よい授業だにして、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。
その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(21)専門的関心等、質問項目(20)授業内容理解、質問項目(19)授業意義深いの3種の組み合わせであった。

表66 質問項目Q22と他の質問項目(Q1～Q21)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q21	Q20	Q19	8	-465.77
Q21	Q19	Q3	8	-445.72

Q21	Q19	Q4	8	-445.28
Q21	Q19	Q5	8	-443.21
Q21	Q19		4	-440.02
Q21	Q19	Q6	8	-438.59
Q20	Q19	Q10	8	-437.25
Q20	Q19		4	-433.06
Q20	Q19	Q5	8	-432.81
Q21	Q19	Q7	8	-432.61
Q20	Q19	Q7	8	-432.19
Q21	Q19	Q10	8	-431.67
Q21	Q19	Q9	8	-430.44
Q21	Q19	Q13	8	-429.62
Q21	Q20	Q3	8	-429.23

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q21	1	Q20	1	Q19	1	162	92.0%	14	8.0%
					2	21	36.8%	36	63.2%
			2	Q19	1	6	75.0%	2	25.0%
					2	7	31.8%	15	68.2%
	2	Q20	1	Q19	1	12	60.0%	8	40.0%
					2	11	18.3%	49	81.7%
			2	Q19	1	2	28.6%	5	71.4%
					2	3	.7%	405	99.3%

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q21	1	Q19	1	Q3	1	140	94.6%	8	5.4%
					2	26	76.5%	8	23.5%
			2	Q3	1	11	37.9%	18	62.1%
					2	16	32.7%	33	67.3%
	2	Q19	1	Q3	1	10	58.8%	7	41.2%
					2	4	40.0%	6	60.0%
			2	Q3	1	10	14.5%	59	85.5%
					2	4	1.0%	395	99.0%

○次に、目的変数を質問項目(22)より授業だにして、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(3)ポイント説明の3種の組み合わせであった。

表67 質問項目Q22と他の質問項目(Q1~Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q17	Q10	Q3	8	-304.78
Q15	Q10	Q3	8	-300.78
Q17	Q10	Q4	8	-299.82
Q15	Q10	Q4	8	-287.86
Q17	Q7	Q3	8	-284.51

Q17	Q10	Q5	8	-283.37
Q17	Q13	Q10	8	-283.30
Q17	Q9	Q4	8	-282.89
Q17	Q9	Q3	8	-282.61
Q17	Q13	Q3	8	-282.61
Q17	Q13	Q4	8	-282.21
Q17	Q10	Q7	8	-281.30
Q17	Q10	Q6	8	-280.40
Q17	Q6	Q3	8	-278.69
Q17	Q7	Q4	8	-277.91

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q10	1	Q3	1	88	88.0%	12	12.0%
					2	15	88.2%	2	11.8%
			2	Q3	1	43	67.2%	21	32.8%
					2	12	19.4%	50	80.6%
	2	Q10	1	Q3	1	14	50.0%	14	50.0%
					2	6	33.3%	12	66.7%
			2	Q3	1	21	32.3%	44	67.7%
					2	15	3.8%	375	96.2%

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q15	1	Q10	1	Q3	1	65	92.9%	5	7.1%
					2	9	90.0%	1	10.0%
			2	Q3	1	34	77.3%	10	22.7%
					2	11	18.3%	49	81.7%
	2	Q10	1	Q3	1	36	63.2%	21	36.8%
					2	10	43.5%	13	56.5%
			2	Q3	1	30	35.3%	55	64.7%
					2	17	4.3%	377	95.7%

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(9)進み具合考慮、質問項目(3)ポイント説明の3種の組み合わせであった。

表68 質問項目Q22と他の質問項目(Q1～Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q10	Q9	Q3	8	-283.99
Q13	Q10	Q3	8	-279.10
Q10	Q9	Q4	8	-279.03
Q10	Q4	Q3	8	-277.63
Q10	Q7	Q3	8	-275.93
Q10	Q7	Q4	8	-273.46
Q10	Q6	Q3	8	-272.87
Q13	Q10	Q4	8	-271.58
Q10	Q5	Q3	8	-270.20

Q10	Q3		4	-269.97
Q11	Q10	Q3	8	-269.91
Q12	Q10	Q3	8	-268.40
Q10	Q3	Q1	8	-266.97
Q10	Q8	Q3	8	-266.83
Q10	Q6	Q4	8	-264.20

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q10	1	Q9	1	Q3	1	96	80.7%	23	19.3%
					2	18	62.1%	11	37.9%
			2	Q3	1	7	63.6%	4	36.4%
					2	3	50.0%	3	50.0%
	2	Q9	1	Q3	1	55	64.7%	30	35.3%
					2	12	11.7%	91	88.3%
			2	Q3	1	9	20.5%	35	79.5%
					2	18	5.2%	330	94.8%

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q13	1	Q10	1	Q3	1	91	83.5%	18	16.5%
					2	12	63.2%	7	36.8%
			2	Q3	1	53	58.2%	38	41.8%
					2	12	11.0%	97	89.0%
	2	Q10	1	Q3	1	9	52.9%	8	47.1%
					2	8	53.3%	7	46.7%
			2	Q3	1	9	26.5%	25	73.5%
					2	18	5.6%	306	94.4%

3)-3 2003年度基礎調査「学生による授業評価」(1年生 実習・演習科目)
総合評価の質問項目と他の質問項目の関連性の比較について
(AICの値によって比較した)

●総合評価の質問項目「(19)授業意義深い」と他の質問項目との関連性の比較

表69 質問項目Q19と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(22)よい授業だ	2	-284.65
(21)専門的関心等	2	-254.83
(20)授業内容理解	2	-173.88
(4)説明が適切	2	-150.37
(17)意欲的に学ぶ	2	-150.26
(3)ポイント説明	2	-129.49
(5)教員の声	2	-121.47
(6)ノート	2	-98.99
(1)授業目的説明	2	-88.77
(7)考える機会	2	-83.09
(9)進み具合考慮	2	-78.13

(10)授業への情熱	2	-71.06
(8)質問出やすい	2	-69.99
(13)字は見やすい	2	-69.89
(12)教科書等活用	2	-61.37
(16)教授要綱役立	2	-53.75
(2)評価方法説明	2	-53.48
(15)受講態度良好	2	-52.14
(11)資料映像利用	2	-46.22
(18)予習復習行う	2	-35.54
(14)出席率良好	2	-12.62
----	0	.00
学科など授業区分	6	3.16

○目的変数を質問項目(19)授業意義深いにして、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(21)専門的関心等、質問項目(20)授業内容理解の3種の組み合わせであった。

表70 質問項目Q19と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q22	Q21	Q20	8	-335.93
Q4	Q22	Q21	8	-333.34
Q6	Q22	Q21	8	-330.89
Q3	Q22	Q21	8	-327.55
Q1	Q22	Q21	8	-327.40
Q17	Q22	Q21	8	-327.21
Q22	Q20		4	-323.12
Q15	Q22	Q21	8	-321.14
Q5	Q22	Q21	8	-320.72
Q22	Q21		4	-320.26
Q7	Q22	Q21	8	-320.11
Q2	Q22	Q21	8	-319.69
Q4	Q22	Q20	8	-319.54
Q16	Q22	Q21	8	-318.92
Q5	Q22	Q20	8	-318.78

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q22	1	Q21	1	Q20	1	122	78.2%	34	21.8%
					2	19	52.8%	17	47.2%
			2	Q20	1	5	27.8%	13	72.2%
					2	3	14.3%	18	85.7%
	2	Q21	1	Q20	1	15	31.3%	33	68.8%
				2	3	7.9%	35	92.1%	
			2	Q20	1	7	7.8%	83	92.2%
					2	7	1.3%	513	98.7%

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q4	1	Q22	1	Q21	1	122	76.3%	38	23.8%
					2	5	22.7%	17	77.3%
			2	Q21	1	9	25.7%	26	74.3%
					2	10	8.0%	115	92.0%
	2	Q22	1	Q21	1	17	56.7%	13	43.3%
					2	3	17.6%	14	82.4%
			2	Q21	1	10	19.6%	41	80.4%
					2	4	.8%	479	99.2%

○次に、目的変数を質問項目(19)授業意義深いにして、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(6)ノート、質問項目(4)説明が適切な3種の組み合わせであった。

表71 質問項目Q19と他の質問項目(Q1～Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q17	Q6	Q4	8	-228.22
Q17	Q5	Q4	8	-226.71
Q17	Q4	Q1	8	-225.21
Q17	Q5	Q3	8	-224.91
Q17	Q6	Q5	8	-224.11
Q17	Q10	Q4	8	-223.32
Q17	Q5	Q1	8	-222.66
Q17	Q4	Q3	8	-222.63
Q17	Q6	Q3	8	-222.09
Q17	Q4		4	-220.03
Q17	Q11	Q4	8	-219.64
Q17	Q8	Q4	8	-215.10
Q17	Q13	Q4	8	-214.96
Q17	Q3	Q1	8	-214.87
Q18	Q17	Q4	8	-214.58

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q6	1	Q4	1	91	67.9%	43	32.1%
					2	7	28.0%	18	72.0%
			2	Q4	1	8	42.1%	11	57.9%
					2	4	15.4%	22	84.6%
	2	Q6	1	Q4	1	33	29.5%	79	70.5%
					2	9	7.8%	106	92.2%
			2	Q4	1	1	3.1%	31	96.9%
					2	4	1.5%	267	98.5%

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q5	1	Q4	1	88	65.2%	47	34.8%
					2	4	40.0%	6	60.0%
			2	Q4	1	20	54.1%	17	45.9%
					2	12	21.1%	45	78.9%
	2	Q5	1	Q4	1	31	27.0%	84	73.0%
					2	4	9.5%	38	90.5%
			2	Q4	1	7	12.7%	48	87.3%
					2	14	3.0%	457	97.0%

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(7)考える機会、質問項目(4)説明が適切な3種の組み合わせであった。

表72 質問項目Q19と他の質問項目(Q1~Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q10	Q7	Q4	8	-195.69
Q10	Q6	Q4	8	-190.35
Q6	Q5	Q4	8	-188.02
Q8	Q6	Q4	8	-186.79
Q10	Q7	Q5	8	-183.29
Q10	Q5	Q4	8	-182.94
Q10	Q7	Q3	8	-182.30
Q13	Q6	Q4	8	-181.76
Q6	Q4	Q3	8	-181.43
Q7	Q6	Q4	8	-181.34
Q8	Q4	Q3	8	-181.04
Q8	Q5	Q4	8	-180.78
Q10	Q4	Q3	8	-180.45
Q8	Q4		4	-180.35
Q6	Q4		4	-179.75

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q10	1	Q7	1	Q4	1	60	53.1%	53	46.9%
					2	6	23.1%	20	76.9%
			2	Q4	1	20	50.0%	20	50.0%
					2	4	23.5%	13	76.5%
	2	Q7	1	Q4	1	53	50.0%	53	50.0%
					2	9	9.6%	85	90.4%
			2	Q4	1	9	13.4%	58	86.6%
					2	7	1.9%	369	98.1%

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q10	1	Q6	1	Q4	1	72	58.1%	52	41.9%
					2	6	27.3%	16	72.7%
			2	Q4	1	4	26.7%	11	73.3%
					2	3	21.4%	11	78.6%
	2	Q6	1	Q4	1	52	42.3%	71	57.7%
				2	8	6.8%	109	93.2%	
			2	Q4	1	5	13.9%	31	86.1%
					2	5	1.8%	278	98.2%

●総合評価の質問項目「(20)授業内容理解」と他の質問項目との関連性の比較

表73 質問項目Q20と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(21)専門的関心等	2	-195.39
(17)意欲的に学ぶ	2	-190.02
(19)授業意義深い	2	-173.88
(22)よい授業だ	2	-167.08
(4)説明が適切	2	-142.13
(3)ポイント説明	2	-131.45
(9)進み具合考慮	2	-115.54
(7)考える機会	2	-100.45
(5)教員の声	2	-88.42
(15)受講態度良好	2	-86.64
(6)ノート	2	-80.65
(12)教科書等活用	2	-68.97
(13)字は見やすい	2	-65.63
(8)質問出やすい	2	-63.10
(10)授業への情熱	2	-62.80
(18)予習復習行う	2	-61.80
(1)授業目的説明	2	-56.24
(16)教授要綱役立	2	-45.78
(2)評価方法説明	2	-45.11
(11)資料映像利用	2	-40.84
(14)出席率良好	2	-14.63
学科など授業区分	6	-12.47

○目的変数を質問項目(20)授業内容理解にして、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。
その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(3)ポイント説明、質問項目(21)専門的関心等の3種の組み合わせであった。

表74 質問項目Q20と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q17	Q3	Q21	8	-282.92
Q17	Q4	Q21	8	-279.17
Q19	Q17	Q4	8	-270.70

Q19	Q17	Q3	8	-270.61
Q19	Q17	Q9	8	-268.65
Q17	Q15	Q21	8	-268.32
Q15	Q3	Q21	8	-267.92
Q17	Q4	Q22	8	-267.51
Q19	Q17	Q21	8	-267.06
Q15	Q4	Q21	8	-264.78
Q17	Q3	Q22	8	-264.44
Q17	Q9	Q21	8	-263.90
Q17	Q7	Q21	8	-263.04
Q17	Q22	Q21	8	-262.92
Q19	Q17	Q7	8	-260.57
Q19	Q15	Q21	8	-260.04
Q17	Q9	Q22	8	-259.48

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q3	1	Q21	1	104	89.7%	12	10.3%
					2	18	64.3%	10	35.7%
			2	Q21	1	41	75.9%	13	24.1%
					2	18	42.9%	24	57.1%
	2	Q3	1	Q21	1	31	59.6%	21	40.4%
					2	29	35.4%	53	64.6%
			2	Q21	1	24	46.2%	28	53.8%
					2	44	9.1%	442	90.9%

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q4	1	Q21	1	120	90.2%	13	9.8%
					2	20	51.3%	19	48.7%
			2	Q21	1	24	66.7%	12	33.3%
					2	16	51.6%	15	48.4%
	2	Q4	1	Q21	1	38	61.3%	24	38.7%
					2	34	31.2%	75	68.8%
			2	Q21	1	19	43.2%	25	56.8%
					2	38	8.2%	425	91.8%

○次に、目的変数を質問項目(20)授業内容理解にして、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(7)考える機会、質問項目(4)説明が適切な3種の組み合わせであった。

表75 質問項目Q20と他の質問項目(Q1~Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q17	Q7	Q4	8	-259.70
Q17	Q15	Q4	8	-258.85

Q17	Q15	Q3	8	-255.65
Q17	Q9	Q3	8	-255.34
Q17	Q7	Q3	8	-254.69
Q17	Q4	Q3	8	-253.86
Q17	Q9	Q4	8	-251.90
Q17	Q4		4	-249.67
Q17	Q15	Q9	8	-248.09
Q18	Q17	Q4	8	-246.04
Q17	Q3		4	-245.46
Q17	Q9	Q7	8	-245.41
Q17	Q11	Q4	8	-245.21
Q17	Q12	Q4	8	-245.15
Q17	Q15	Q7	8	-244.66

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q7	1	Q4	1	104	80.6%	25	19.4%
					2	17	63.0%	10	37.0%
			2	Q4	1	26	81.3%	6	18.8%
					2	18	54.5%	15	45.5%
	2	Q7	1	Q4	1	48	53.3%	42	46.7%
					2	19	20.0%	76	80.0%
			2	Q4	1	20	27.0%	54	73.0%
					2	30	8.3%	330	91.7%

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q15	1	Q4	1	75	86.2%	12	13.8%
					2	22	81.5%	5	18.5%
			2	Q4	1	65	76.5%	20	23.5%
					2	18	46.2%	21	53.8%
	2	Q15	1	Q4	1	15	65.2%	8	34.8%
					2	11	28.2%	28	71.8%
			2	Q4	1	57	38.5%	91	61.5%
					2	46	9.8%	425	90.2%

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(9)進み具合考慮、質問項目(7)考える機会、質問項目(4)説明が適切な3種の組み合わせであった。

表76 質問項目Q20と他の質問項目(Q1～Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q9	Q7	Q4	8	-194.55
Q9	Q7	Q3	8	-190.30
Q9	Q4	Q3	8	-188.61
Q9	Q3		4	-184.56
Q9	Q6	Q3	8	-183.08
Q10	Q9	Q3	8	-181.83

Q12	Q9	Q3	8	-181.61
Q12	Q9	Q4	8	-181.41
Q7	Q4	Q3	8	-180.91
Q8	Q4	Q3	8	-180.89
Q11	Q9	Q3	8	-180.76
Q9	Q4		4	-179.85
Q13	Q9	Q3	8	-179.69
Q8	Q7	Q4	8	-178.79

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q9	1	Q7	1	Q4	1	122	69.3%	54	30.7%
						24	42.1%	33	57.9%
			2	Q4	1	36	56.3%	28	43.8%
					2	13	25.0%	39	75.0%
	2	Q7	1	Q4	1	29	69.0%	13	31.0%
								2	12
					2	11	25.6%	32	74.4%
			2	Q4	1	11	25.6%	32	74.4%
					2	34	10.0%	305	90.0%

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q9	1	Q7	1	Q3	1	107	73.8%	38	26.2%
						38	43.7%	49	56.3%
			2	Q3	1	29	64.4%	16	35.6%
					2	21	29.2%	51	70.8%
	2	Q7	1	Q3	1	23	62.2%	14	37.8%
								2	18
					2	9	26.5%	25	73.5%
			2	Q3	1	9	26.5%	25	73.5%
					2	36	10.4%	311	89.6%

●総合評価の質問項目「(21)専門的関心等」と他の質問項目との関連性の比較

表77 質問項目Q21と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(22)よい授業だ	2	-328.48
(19)授業意義深い	2	-254.83
(20)授業内容理解	2	-195.39
(17)意欲的に学ぶ	2	-190.65
(4)説明が適切	2	-150.45
(5)教員の声	2	-138.31
(3)ポイント説明	2	-130.57
(9)進み具合考慮	2	-121.15
(8)質問出やすい	2	-103.87
(7)考える機会	2	-99.71
(10)授業への情熱	2	-90.37
(6)ノート	2	-89.04
(13)字は見やすい	2	-82.43
(12)教科書等活用	2	-70.52

(11)資料映像利用	2	-64.86
(1)授業目的説明	2	-64.03
(16)教授要綱役立	2	-60.64
(2)評価方法説明	2	-47.38
(18)予習復習行う	2	-47.32
(15)受講態度良好	2	-43.16
(14)出席率良好	2	-16.74
学科など授業区分	6	-4.74

○目的変数を質問項目(21)専門的関心等にして、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。
その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(22)よい授業だの3種の組み合わせであった。

表78 質問項目Q21と他の質問項目(Q1~Q22)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q19	Q17	Q22	8	-387.07
Q20	Q19	Q22	8	-384.92
Q17	Q22		4	-378.75
Q20	Q17	Q22	8	-376.59
Q20	Q22		4	-374.33
Q17	Q5	Q22	8	-366.86
Q19	Q9	Q22	8	-366.47
Q17	Q4	Q22	8	-364.32
Q19	Q22		4	-364.09
Q20	Q5	Q22	8	-361.83
Q20	Q4	Q22	8	-361.30
Q17	Q9	Q22	8	-360.98
Q19	Q8	Q22	8	-360.38
Q20	Q8	Q22	8	-359.36
Q18	Q17	Q22	8	-359.10

						Q21			
						1		2	
		度数	行の N %	度数	行の N %				
Q19	1	Q17	1	Q22	1	102	95.3%	5	4.7%
			2		11	64.7%	6	35.3%	
	2	Q17	1	Q22	1	39	92.9%	3	7.1%
			2		8	50.0%	8	50.0%	
2	Q17	1	Q22	1	28	73.7%	10	26.3%	
				2	28	36.8%	48	63.2%	
	2	Q22	1		23	52.3%	21	47.7%	
			2		39	6.7%	547	93.3%	

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q20	1	Q19	1	Q22	1	122	96.1%	5	3.9%
					2	15	68.2%	7	31.8%
			2	Q22	1	34	72.3%	13	27.7%
					2	33	28.4%	83	71.6%
	2	Q19	1	Q22	1	19	86.4%	3	13.6%
					2	3	30.0%	7	70.0%
			2	Q22	1	17	48.6%	18	51.4%
					2	35	6.4%	513	93.6%

○次に、目的変数を質問項目(21)専門的関心等にして、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(8)質問出やすい、質問項目(5)教員の声の3種の組み合わせであった。

表79 質問項目Q21と他の質問項目(Q1～Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q17	Q8	Q5	8	-274.89
Q17	Q8	Q4	8	-270.45
Q17	Q7	Q5	8	-269.42
Q17	Q9	Q5	8	-269.11
Q17	Q5	Q3	8	-268.54
Q17	Q8	Q3	8	-268.48
Q17	Q5	学科など授業区分	24	-267.22
Q17	Q5	Q4	8	-266.54
Q17	Q11	Q5	8	-265.93
Q17	Q11	Q4	8	-265.72
Q17	Q9	Q3	8	-263.55
Q17	Q13	Q5	8	-262.65
Q17	Q9	Q4	8	-261.83
Q17	Q10	Q5	8	-260.84
Q17	Q6	Q5	8	-260.46

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q8	1	Q5	1	94	81.7%	21	18.3%
					2	33	62.3%	20	37.7%
			2	Q5	1	16	61.5%	10	38.5%
					2	17	54.8%	14	45.2%
	2	Q8	1	Q5	1	42	45.7%	50	54.3%
					2	25	15.8%	133	84.2%
			2	Q5	1	15	24.6%	46	75.4%
					2	17	5.0%	321	95.0%

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q8	1	Q4	1	105	81.4%	24	18.6%
					2	22	56.4%	17	43.6%
			2	Q4	1	22	62.9%	13	37.1%
					2	11	50.0%	11	50.0%
	2	Q8	1	Q4	1	46	43.4%	60	56.6%
				2	22	15.3%	122	84.7%	
			2	Q4	1	14	23.0%	47	77.0%
					2	19	5.6%	320	94.4%

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(7)考える機会、質問項目(5)教員の声の3種の組み合わせであった。

表80 質問項目Q21と他の質問項目(Q1～Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q10	Q7	Q5	8	-206.65
Q8	Q5	Q4	8	-200.50
Q11	Q8	Q4	8	-198.42
Q10	Q8	Q4	8	-198.01
Q10	Q7	Q4	8	-197.99
Q8	Q5	Q3	8	-197.91
Q12	Q8	Q4	8	-196.60
Q13	Q8	Q4	8	-196.57
Q8	Q4	Q3	8	-195.92
Q10	Q7	Q3	8	-195.71
Q10	Q8	Q5	8	-194.44
Q10	Q8	Q3	8	-193.14
Q11	Q8	Q5	8	-192.19
Q8	Q4		4	-192.11
Q10	Q6	Q5	8	-191.98

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q10	1	Q7	1	Q5	1	76	73.8%	27	26.2%
					2	14	38.9%	22	61.1%
			2	Q5	1	19	61.3%	12	38.7%
					2	12	46.2%	14	53.8%
	2	Q7	1	Q5	1	56	66.7%	28	33.3%
				2	30	26.1%	85	73.9%	
			2	Q5	1	16	22.2%	56	77.8%
					2	30	8.2%	338	91.8%

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q8	1	Q5	1	Q4	1	125	69.8%	54	30.2%
					2	11	37.9%	18	62.1%
			2	Q4	1	26	46.4%	30	53.6%
					2	33	21.3%	122	78.7%
	2	Q5	1	Q4	1	28	43.1%	37	56.9%
					2	3	13.6%	19	86.4%
			2	Q4	1	8	25.8%	23	74.2%
					2	26	7.7%	312	92.3%

●総合評価の質問項目「(22)授業内容理解」と他の質問項目との関連性の比較

表81 質問項目Q22と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(21)専門的関心等	2	-328.48
(19)授業意義深い	2	-284.65
(20)授業内容理解	2	-167.08
(4)説明が適切	2	-164.69
(3)ポイント説明	2	-163.44
(17)意欲的に学ぶ	2	-156.85
(5)教員の声	2	-148.35
(6)ノート	2	-109.32
(7)考える機会	2	-106.22
(9)進み具合考慮	2	-105.84
(13)字は見やすい	2	-105.78
(10)授業への情熱	2	-99.85
(8)質問しやすい	2	-96.80
(1)授業目的説明	2	-95.58
(12)教科書等活用	2	-90.38
(11)資料映像利用	2	-78.61
(16)教授要綱役立	2	-63.87
(2)評価方法説明	2	-61.57
(18)予習復習行う	2	-53.44
(15)受講態度良好	2	-50.50
(14)出席率良好	2	-13.23
学科など授業区分	6	-3.34

○目的変数を質問項目(22)よい授業だにして、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。
その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(21)専門的関心等、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(3)ポイント説明の3種の組み合わせであった。

表82 質問項目Q22と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
Q21 Q19 Q3	8	-408.34
Q21 Q19 Q6	8	-405.58
Q21 Q19 Q5	8	-402.02

Q21	Q19	Q13	8	-401.86
Q21	Q19	Q4	8	-397.35
Q21	Q19	Q1	8	-396.03
Q21	Q19		4	-393.91
Q21	Q19	Q7	8	-392.65
Q21	Q19	Q12	8	-392.45
Q21	Q19	Q10	8	-390.27
Q21	Q19	Q11	8	-389.81
Q21	Q19	Q8	8	-389.40
Q21	Q19	Q18	8	-387.78
Q21	Q19	Q16	8	-385.66
Q21	Q19	Q2	8	-384.99
Q21	Q19	Q14	8	-382.55
Q21	Q6	Q3	8	-382.19

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q21	1	Q19	1	Q3	1	107	92.2%	9	7.8%
					2	32	78.0%	9	22.0%
			2	Q3	1	32	61.5%	20	38.5%
					2	19	28.8%	47	71.2%
	2	Q19	1	Q3	1	7	46.7%	8	53.3%
					2	1	14.3%	6	85.7%
			2	Q3	1	14	14.7%	81	85.3%
					2	17	3.2%	508	96.8%

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q21	1	Q19	1	Q6	1	116	93.5%	8	6.5%
					2	8	61.5%	5	38.5%
			2	Q6	1	30	52.6%	27	47.4%
					2	13	39.4%	20	60.6%
	2	Q19	1	Q6	1	7	43.8%	9	56.3%
					2	1	25.0%	3	75.0%
			2	Q6	1	20	10.5%	171	89.5%
					2	5	1.7%	293	98.3%

○次に、目的変数を質問項目(22)より授業だにして、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(5)教員の声、質問項目(3)ポイント説明の3種の組み合わせであった。

表83 質問項目Q22と他の質問項目(Q1~Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q17	Q5	Q3	8	-264.59
Q17	Q11	Q4	8	-260.98
Q17	Q13	Q5	8	-260.56
Q17	Q13	Q3	8	-259.55

Q17	Q11	Q3	8	-258.37
Q17	Q11	Q5	8	-257.67
Q17	Q10	Q5	8	-257.03
Q17	Q13	Q4	8	-254.13
Q17	Q8	Q3	8	-253.58
Q17	Q5	Q4	8	-253.50
Q17	Q10	Q3	8	-253.25
Q17	Q12	Q5	8	-251.81
Q17	Q6	Q3	8	-251.68
Q17	Q6	Q5	8	-251.54
Q17	Q5	Q1	8	-250.94

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q5	1	Q3	1	89	78.8%	24	21.2%
					2	14	45.2%	17	54.8%
			2	Q3	1	21	70.0%	9	30.0%
					2	22	33.3%	44	66.7%
	2	Q5	1	Q3	1	40	48.2%	43	51.8%
					2	16	22.2%	56	77.8%
			2	Q3	1	9	17.6%	42	82.4%
					2	18	3.9%	448	96.1%

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q11	1	Q4	1	67	74.4%	23	25.6%
					2	9	52.9%	8	47.1%
			2	Q4	1	48	72.7%	18	27.3%
					2	10	24.4%	31	75.6%
	2	Q11	1	Q4	1	35	55.6%	28	44.4%
					2	10	13.5%	64	86.5%
			2	Q4	1	21	22.6%	72	77.4%
					2	14	4.0%	336	96.0%

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連性を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(5)教員の声、質問項目(3)ポイント説明の3種の組み合わせであった。

表84 質問項目Q22と他の質問項目(Q1~Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q10	Q5	Q3	8	-248.99
Q8	Q5	Q3	8	-238.02
Q10	Q7	Q3	8	-236.89
Q10	Q6	Q3	8	-235.88
Q10	Q7	Q5	8	-235.54
Q10	Q8	Q3	8	-233.87
Q8	Q6	Q3	8	-233.02

Q8	Q4	Q3	8	-232.92
Q11	Q8	Q3	8	-232.53
Q10	Q5	Q4	8	-232.21
Q12	Q8	Q4	8	-232.18
Q8	Q5	Q4	8	-232.02
Q13	Q8	Q4	8	-231.75
Q11	Q8	Q4	8	-231.62
Q10	Q4	Q3	8	-230.98

						Q22				
						1		2		
						度数	行の N %	度数	行の N %	
Q10	1	Q5	1	Q3	1	78	73.6%	28	26.4%	
			2		2	11	36.7%	19	63.3%	
		2	Q5	1	Q3	1	11	52.4%	10	47.6%
				2		2	18	39.1%	28	60.9%
	2	Q5	1	Q3	1	51	57.3%	38	42.7%	
			2		2	19	26.0%	54	74.0%	
		2	Q3	1		1	19	31.7%	41	68.3%
				2		2	21	4.3%	462	95.7%

						Q22				
						1		2		
						度数	行の N %	度数	行の N %	
Q8	1	Q5	1	Q3	1	106	73.6%	38	26.4%	
			2		2	23	37.1%	39	62.9%	
		2	Q5	1	Q3	1	21	47.7%	23	52.3%
				2		2	27	16.1%	141	83.9%
	2	Q5	1	Q3	1	20	42.6%	27	57.4%	
			2		2	7	17.9%	32	82.1%	
		2	Q3	1		1	5	17.2%	24	82.8%
				2		2	13	3.8%	326	96.2%

3)-4 2003年度基礎調査「学生による授業評価」(2年生 実習・演習科目)
総合評価の質問項目と他の質問項目の関連性の比較について
(AICの値によって比較した)

●総合評価の質問項目「(19)授業意義深い」と他の質問項目との関連性の比較

表85 質問項目Q19と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(22)よい授業だ	2	-184.19
(21)専門的関心等	2	-156.87
(20)授業内容理解	2	-140.37
(17)意欲的に学ぶ	2	-103.16
(3)ポイント説明	2	-83.46
(4)説明が適切	2	-81.00
(5)教員の声	2	-80.20
(7)考える機会	2	-76.04

(9)進み具合考慮	2	-71.26
(10)授業への情熱	2	-58.65
(11)資料映像利用	2	-55.70
(1)授業目的説明	2	-50.34
(8)質問出やすい	2	-49.81
(6)ノート	2	-49.14
(15)受講態度良好	2	-48.35
(12)教科書等活用	2	-45.44
(16)教授要綱役立	2	-31.40
(13)字は見やすい	2	-31.04
(2)評価方法説明	2	-27.58
(18)予習復習行う	2	-26.87
(14)出席率良好	2	-24.23
----	0	.00
学科など授業区分	6	3.39

○目的変数を質問項目(19)授業意義深いにして、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(21)専門的関心等、質問項目(20)授業内容理解の3種の組み合わせであった。

表86 質問項目Q19と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q22	Q21	Q20	8	-215.46
Q5	Q22	Q21	8	-210.40
Q1	Q22	Q21	8	-207.65
Q4	Q22	Q21	8	-207.41
Q17	Q22	Q21	8	-207.02
Q22	Q21		4	-206.99
Q22	Q20		4	-206.40
Q3	Q22	Q21	8	-205.62
Q16	Q22	Q21	8	-204.69
Q9	Q22	Q20	8	-204.01
Q6	Q22	Q21	8	-203.76
Q15	Q22	Q21	8	-203.23
Q5	Q22	Q20	8	-203.21
Q11	Q22	Q21	8	-202.81
Q1	Q22	Q20	8	-202.31
Q3	Q22	Q20	8	-202.30

						Q19			
						1		2	
				度数	行の N %	度数	行の N %		
Q22	1	Q21	1	Q20	1	63	91.3%	6	8.7%
			2		5	41.7%	7	58.3%	
		2	Q20	1	5	41.7%	7	58.3%	
			2		2	25.0%	6	75.0%	
	2	Q21	1	Q20	1	5	27.8%	13	72.2%
			2		2	11.8%	15	88.2%	
		2	Q20	1	4	13.8%	25	86.2%	
			2		5	1.2%	419	98.8%	

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q5	1	Q22	1	Q21	1	51	85.0%	9	15.0%
					2	7	50.0%	7	50.0%
			2	Q21	1	4	36.4%	7	63.6%
					2	2	2.9%	68	97.1%
	2	Q22	1	Q21	1	16	80.0%	4	20.0%
					2	0	.0%	7	100.0%
			2	Q21	1	3	12.0%	22	88.0%
					2	7	1.9%	371	98.1%

○次に、目的変数を質問項目(19)授業意義深いにして、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(11)資料映像利用、質問項目(3)ポイント説明の3種の組み合わせであった。

表87 質問項目Q19と他の質問項目(Q1～Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q17	Q11	Q3	8	-130.16
Q17	Q11	Q4	8	-126.58
Q17	Q10	Q3	8	-124.70
Q17	Q11	Q9	8	-124.24
Q17	Q7	Q3	8	-124.00
Q17	Q9	Q3	8	-123.88
Q17	Q11	Q5	8	-123.04
Q17	Q3		4	-122.76
Q17	Q3	Q1	8	-122.13
Q17	Q7	Q4	8	-121.72
Q17	Q9	Q5	8	-121.48
Q17	Q16	Q3	8	-121.40
Q17	Q11	Q8	8	-121.19
Q17	Q8	Q1	8	-121.15
Q17	Q5	Q3	8	-121.00

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q11	1	Q3	1	38	84.4%	7	15.6%
					2	5	45.5%	6	54.5%
			2	Q3	1	12	46.2%	14	53.8%
					2	5	31.3%	11	68.8%
	2	Q11	1	Q3	1	8	32.0%	17	68.0%
					2	4	8.0%	46	92.0%
			2	Q3	1	7	16.7%	35	83.3%
					2	9	2.7%	321	97.3%

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q11	1	Q4	1	40	83.3%	8	16.7%
					2	3	37.5%	5	62.5%
			2	Q4	1	10	41.7%	14	58.3%
					2	6	35.3%	11	64.7%
	2	Q11	1	Q4	1	7	28.0%	18	72.0%
					2	5	10.0%	45	90.0%
			2	Q4	1	6	13.3%	39	86.7%
					2	10	3.0%	318	97.0%

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(11)資料映像利用、質問項目(9)進み具合考慮、質問項目(5)教員の声の3種の組み合わせであった。

表88 質問項目Q19と他の質問項目(Q1～Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q11	Q9	Q5	8	-121.20
Q11	Q10	Q3	8	-121.09
Q11	Q9	Q3	8	-121.03
Q5	Q3	Q1	8	-120.58
Q11	Q5	Q3	8	-117.95
Q11	Q7	Q3	8	-117.34
Q11	Q9	Q4	8	-117.21
Q11	Q8	Q3	8	-116.49
Q10	Q7	Q3	8	-115.26
Q12	Q10	Q3	8	-115.22
Q12	Q5	Q3	8	-114.98
Q11	Q10	Q4	8	-114.94
Q11	Q8	Q5	8	-114.86
Q11	Q9	Q7	8	-114.75
Q11	Q7	Q4	8	-114.57

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q11	1	Q9	1	Q5	1	43	70.5%	18	29.5%
					2	7	43.8%	9	56.3%
			2	Q5	1	4	36.4%	7	63.6%
					2	1	2.3%	42	97.7%
	2	Q9	1	Q5	1	11	26.2%	31	73.8%
					2	7	15.6%	38	84.4%
			2	Q5	1	5	15.6%	27	84.4%
					2	10	3.4%	286	96.6%

						Q19			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q11	1	Q10	1	Q3	1	35	74.5%	12	25.5%
					2	7	53.8%	6	46.2%
			2	Q3	1	12	50.0%	12	50.0%
					2	2	4.2%	46	95.8%
	2	Q10	1	Q3	1	4	26.7%	11	73.3%
					2	1	16	94.1%	
			2	Q3	1	15	26.8%	41	73.2%
					2	13	4.0%	316	96.0%

●総合評価の質問項目「(20)授業内容理解」と他の質問項目との関連性の比較

表89 質問項目Q20と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(21)専門的関心等	2	-144.89
(22)よい授業だ	2	-143.80
(19)授業意義深い	2	-140.37
(17)意欲的に学ぶ	2	-109.87
(8)質問出やすい	2	-100.33
(4)説明が適切	2	-83.07
(7)考える機会	2	-83.07
(3)ポイント説明	2	-79.19
(9)進み具合考慮	2	-77.19
(15)受講態度良好	2	-67.52
(5)教員の声	2	-62.90
(6)ノート	2	-62.08
(1)授業目的説明	2	-57.59
(12)教科書等活用	2	-54.97
(10)授業への情熱	2	-53.09
(11)資料映像利用	2	-50.43
(13)字は見やすい	2	-49.74
(18)予習復習行う	2	-45.02
(2)評価方法説明	2	-31.04
(16)教授要綱役立	2	-27.33
(14)出席率良好	2	-17.52
学科など授業区分	6	6.48

○目的変数を質問項目(20)授業内容理解にして、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(8)質問出やすい、質問項目(21)専門的関心等の3種の組み合わせであった。

表90 質問項目Q20と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q19	Q8	Q21	8	-204.58
Q19	Q17	Q8	8	-199.48
Q8	Q22	Q21	8	-198.85

Q8	Q4	Q21	8	-196.34
Q17	Q8	Q21	8	-195.18
Q19	Q8	Q22	8	-194.83
Q19	Q15	Q8	8	-193.74
Q19	Q18	Q8	8	-190.92
Q19	Q8		4	-188.97
Q8	Q3	Q21	8	-188.91
Q19	Q17	Q21	8	-188.84
Q19	Q9	Q8	8	-188.50
Q4	Q22	Q21	8	-187.88
Q19	Q8	Q4	8	-187.70
Q19	Q4	Q21	8	-187.58
Q19	Q15	Q21	8	-187.56

						Q20					
						1		2			
						度数	行の N %	度数	行の N %		
Q19	1	Q8	1	Q21	1	52	94.5%	3	5.5%		
					2	6	85.7%	1	14.3%		
			2	Q21	1	14	77.8%	4	22.2%		
					2	3	33.3%	6	66.7%		
	2	Q8	1	Q21	1	13	56.5%	10	43.5%		
					2	19	21.3%	70	78.7%		
			2	Q21	1	6	30.0%	14	70.0%		
					2	11	3.2%	338	96.8%		

						Q20					
						1		2			
						度数	行の N %	度数	行の N %		
Q19	1	Q17	1	Q8	1	46	97.9%	1	2.1%		
					2	10	76.9%	3	23.1%		
			2	Q8	1	11	78.6%	3	21.4%		
					2	7	50.0%	7	50.0%		
	2	Q17	1	Q8	1	15	71.4%	6	28.6%		
					2	3	16.7%	15	83.3%		
			2	Q8	1	17	18.5%	75	81.5%		
					2	14	4.0%	335	96.0%		

○次に、目的変数を質問項目(20)授業内容理解にして、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(15)受講態度良好、質問項目(8)質問出やすいの3種の組み合わせであった。

表91 質問項目Q20と他の質問項目(Q1~Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q17	Q15	Q8	8	-162.13
Q17	Q8	Q4	8	-161.60
Q17	Q8	Q3	8	-157.41
Q17	Q8		4	-157.25
Q17	Q8	Q7	8	-155.87

Q17	Q11	Q8	8	-154.37
Q17	Q8	Q6	8	-153.49
Q17	Q8	Q5	8	-152.90
Q18	Q17	Q8	8	-152.89
Q17	Q8	Q2	8	-152.40
Q17	Q10	Q8	8	-151.65
Q17	Q9	Q8	8	-151.39
Q17	Q8	Q1	8	-150.15
Q17	Q12	Q8	8	-148.04
Q15	Q8	Q3	8	-145.68

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q15	1	Q8	1	44	97.8%	1	2.2%
					2	5	35.7%	9	64.3%
			2	Q8	1	16	72.7%	6	27.3%
					2	8	47.1%	9	52.9%
	2	Q15	1	Q8	1	3	30.0%	7	70.0%
					2	5	38.5%	8	61.5%
			2	Q8	1	25	26.0%	71	74.0%
					2	16	4.6%	334	95.4%

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q8	1	Q4	1	52	92.9%	4	7.1%
					2	8	72.7%	3	27.3%
			2	Q4	1	8	47.1%	9	52.9%
					2	5	35.7%	9	64.3%
	2	Q8	1	Q4	1	11	28.2%	28	71.8%
					2	17	25.4%	50	74.6%
			2	Q4	1	6	16.2%	31	83.8%
					2	15	4.6%	311	95.4%

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(8)質問出やすい、質問項目(7)考える機会、質問項目(4)説明が適切な3種の組み合わせであった。

表92 質問項目Q20と他の質問項目(Q1~Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q8	Q7	Q4	8	-143.25
Q8	Q7	Q3	8	-142.58
Q11	Q8	Q3	8	-142.51
Q8	Q3		4	-140.89
Q11	Q8	Q4	8	-140.21
Q8	Q6	Q3	8	-139.21
Q8	Q4	Q3	8	-138.84
Q8	Q4		4	-138.58
Q12	Q8	Q3	8	-138.34

Q8	Q3	Q1	8	-138.19
Q10	Q8	Q3	8	-138.18
Q11	Q8	Q7	8	-137.83
Q8	Q4	Q1	8	-137.80
Q10	Q8	Q4	8	-137.23
Q8	Q6	Q4	8	-136.80

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q8	1	Q7	1	Q4	1	57	72.2%	22	27.8%
					2	12	37.5%	20	62.5%
			2	Q4	1	7	43.8%	9	56.3%
					2	13	28.3%	33	71.7%
	2	Q7	1	Q4	1	5	27.8%	13	72.2%
					2	8	28.6%	20	71.4%
			2	Q4	1	9	23.7%	29	76.3%
					2	11	3.6%	295	96.4%

						Q20			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q8	1	Q7	1	Q3	1	60	75.9%	19	24.1%
					2	10	30.3%	23	69.7%
			2	Q3	1	6	54.5%	5	45.5%
					2	14	27.5%	37	72.5%
	2	Q7	1	Q3	1	7	33.3%	14	66.7%
					2	6	24.0%	19	76.0%
			2	Q3	1	7	20.6%	27	79.4%
					2	13	4.2%	296	95.8%

●総合評価の質問項目「(21)専門的関心等」と他の質問項目との関連性の比較

表93 質問項目Q21と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(22)よい授業だ	2	-169.64
(19)授業意義深い	2	-156.87
(20)授業内容理解	2	-144.89
(9)進み具合考慮	2	-106.93
(7)考える機会	2	-96.16
(17)意欲的に学ぶ	2	-96.09
(8)質問出やすい	2	-77.53
(10)授業への情熱	2	-66.79
(5)教員の声	2	-64.77
(3)ポイント説明	2	-56.20
(11)資料映像利用	2	-54.37
(6)ノート	2	-51.94
(12)教科書等活用	2	-51.50
(15)受講態度良好	2	-49.67
(4)説明が適切	2	-49.26
(13)字は見やすい	2	-38.80

(18)予習復習行う	2	-35.80
(14)出席率良好	2	-28.21
(1)授業目的説明	2	-24.97
(16)教授要綱役立	2	-19.26
(2)評価方法説明	2	-16.78
学科など授業区分	6	5.81

○目的変数を質問項目(21)専門的関心等にして、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。
その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(20)授業内容理解、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(9)進み具合考慮の3種の組み合わせであった。

表94 質問項目Q21と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q20	Q19	Q9	8	-213.00
Q20	Q19	Q22	8	-209.79
Q20	Q9	Q22	8	-209.37
Q19	Q9	Q22	8	-207.86
Q20	Q22		4	-201.45
Q19	Q8	Q22	8	-201.37
Q19	Q9	Q7	8	-200.59
Q20	Q19	Q7	8	-200.00
Q20	Q7	Q22	8	-197.97
Q19	Q17	Q9	8	-197.75
Q19	Q9	Q8	8	-196.44
Q19	Q7	Q22	8	-196.32
Q19	Q9		4	-195.12
Q9	Q22		4	-192.58
Q20	Q19	Q8	8	-192.45
Q19	Q22		4	-192.43

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q20	1	Q19	1	Q9	1	57	93.4%	4	6.6%
					2	12	70.6%	5	29.4%
			2	Q9	1	15	55.6%	12	44.4%
					2	4	16.7%	20	83.3%
	2	Q19	1	Q9	1	7	70.0%	3	30.0%
				2	0	.0%	4	100.0%	
			2	Q9	1	11	15.5%	60	84.5%
					2	12	3.4%	346	96.6%

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q20	1	Q19	1	Q22	1	63	92.6%	5	7.4%
					2	5	55.6%	4	44.4%
			2	Q22	1	6	46.2%	7	53.8%
					2	13	34.2%	25	65.8%
	2	Q19	1	Q22	1	5	71.4%	2	28.6%
					2	2	28.6%	5	71.4%
			2	Q22	1	7	53.8%	6	46.2%
					2	15	3.5%	419	96.5%

○次に、目的変数を質問項目(21)専門的関心等にして、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(9)進み具合考慮、質問項目(7)考える機会の3種の組み合わせであった。

表95 質問項目Q21と他の質問項目(Q1~Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q17	Q9	Q7	8	-145.06
Q17	Q11	Q9	8	-140.89
Q17	Q10	Q9	8	-140.50
Q17	Q9		4	-140.05
Q17	Q9	Q8	8	-138.35
Q17	Q8	Q7	8	-135.27
Q14	Q9	Q7	8	-134.54
Q18	Q17	Q9	8	-134.05
Q17	Q10	Q7	8	-133.95
Q17	Q9	Q5	8	-133.78
Q11	Q9	Q7	8	-133.68
Q9	Q8	Q7	8	-133.57
Q10	Q9	Q7	8	-133.45
Q17	Q11	Q8	8	-132.42
Q15	Q9	Q7	8	-131.96

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q9	1	Q7	1	50	80.6%	12	19.4%
					2	9	64.3%	5	35.7%
			2	Q7	1	7	58.3%	5	41.7%
					2	2	18.2%	9	81.8%
	2	Q9	1	Q7	1	18	40.9%	26	59.1%
					2	9	20.5%	35	79.5%
			2	Q7	1	4	10.5%	34	89.5%
					2	13	3.9%	317	96.1%

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q11	1	Q9	1	43	87.8%	6	12.2%
					2	2	28.6%	5	71.4%
			2	Q9	1	16	59.3%	11	40.7%
					2	7	46.7%	8	53.3%
	2	Q11	1	Q9	1	14	50.0%	14	50.0%
					2	3	6.5%	43	93.5%
			2	Q9	1	13	22.8%	44	77.2%
					2	13	4.2%	296	95.8%

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(9)進み具合考慮、質問項目(8)質問出やすい、質問項目(7)考える機会の3種の組み合わせであった。

表96 質問項目Q21と他の質問項目(Q1～Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q9	Q8	Q7	8	-139.36
Q11	Q9	Q7	8	-138.50
Q10	Q9	Q7	8	-137.14
Q9	Q7		4	-133.60
Q11	Q9		4	-131.90
Q12	Q9	Q7	8	-131.78
Q9	Q7	Q5	8	-129.88
Q11	Q10	Q9	8	-129.29
Q11	Q9	Q5	8	-128.30
Q11	Q9	Q8	8	-128.12
Q10	Q9	Q8	8	-127.35
Q13	Q9	Q7	8	-126.59
Q10	Q9		4	-126.58
Q10	Q9	Q5	8	-125.03
Q12	Q11	Q9	8	-124.77

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q9	1	Q8	1	Q7	1	64	71.1%	26	28.9%
					2	8	27.6%	21	72.4%
			2	Q7	1	6	31.6%	13	68.4%
					2	10	34.5%	19	65.5%
	2	Q8	1	Q7	1	3	13.6%	19	86.4%
					2	3	9.1%	30	90.9%
			2	Q7	1	7	25.9%	20	74.1%
					2	13	4.2%	296	95.8%

						Q21			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q11	1	Q9	1	Q7	1	50	76.9%	15	23.1%
					2	8	61.5%	5	38.5%
			2	Q7	1	3	17.6%	14	82.4%
					2	2	5.6%	34	94.4%
	2	Q9	1	Q7	1	20	45.5%	24	54.5%
					2	10	23.8%	32	76.2%
			2	Q7	1	7	28.0%	18	72.0%
					2	13	4.3%	286	95.7%

●総合評価の質問項目「(22)よい授業だ」と他の質問項目との関連性の比較

表97 質問項目Q22と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(19)授業意義深い	2	-184.19
(21)専門的関心等	2	-169.64
(20)授業内容理解	2	-143.80
(17)意欲的に学ぶ	2	-136.94
(3)ポイント説明	2	-119.01
(4)説明が適切	2	-115.05
(7)考える機会	2	-115.05
(5)教員の声	2	-103.22
(9)進み具合考慮	2	-101.72
(10)授業への情熱	2	-93.18
(8)質問出やすい	2	-80.91
(6)ノート	2	-71.25
(12)教科書等活用	2	-70.29
(1)授業目的説明	2	-67.19
(11)資料映像利用	2	-63.87
(15)受講態度良好	2	-61.90
(13)字は見やすい	2	-54.40
(2)評価方法説明	2	-46.61
(18)予習復習行う	2	-34.53
(16)教授要綱役立	2	-33.09
(14)出席率良好	2	-27.15
学科など授業区分	6	.55

○目的変数を質問項目(22)よい授業だにして、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。
その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(21)専門的関心等、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(4)説明が適切な3種の組み合わせであった。

表98 質問項目Q22と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
Q21 Q19 Q4	8	-254.57
Q21 Q19 Q3	8	-250.22
Q21 Q19 Q17	8	-244.79

Q19	Q17	Q10	8	-243.13
Q21	Q17	Q4	8	-242.61
Q21	Q17	Q3	8	-240.97
Q19	Q17	Q7	8	-239.07
Q21	Q10	Q3	8	-238.82
Q21	Q19	Q5	8	-238.68
Q21	Q4	Q3	8	-237.99
Q19	Q17	Q8	8	-237.82
Q19	Q10	Q7	8	-237.00
Q21	Q10	Q4	8	-236.76
Q21	Q4		4	-235.58
Q21	Q4	Q1	8	-235.21

					Q22				
					1		2		
					度数	行の N %	度数	行の N %	
Q21	1	Q19	1	Q4	1	54	98.2%	1	1.8%
					2	13	68.4%	6	31.6%
			2	Q4	1	10	71.4%	4	28.6%
					2	3	10.7%	25	89.3%
	2	Q19	1	Q4	1	7	63.6%	4	36.4%
					2	0	.0%	5	100.0%
			2	Q4	1	7	9.0%	71	91.0%
					2	7	1.9%	368	98.1%

					Q22				
					1		2		
					度数	行の N %	度数	行の N %	
Q21	1	Q19	1	Q3	1	56	98.2%	1	1.8%
					2	12	66.7%	6	33.3%
			2	Q3	1	9	60.0%	6	40.0%
					2	4	14.8%	23	85.2%
	2	Q19	1	Q3	1	7	63.6%	4	36.4%
					2	0	.0%	5	100.0%
			2	Q3	1	9	13.2%	59	86.8%
					2	5	1.3%	378	98.7%

○次に、目的変数を質問項目(22)より授業だにして、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(17)意欲的に学ぶ、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(3)ポイント説明の3種の組み合わせであった。

表99 質問項目Q22と他の質問項目(Q1～Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q17	Q10	Q3	8	-194.04
Q17	Q10	Q7	8	-191.47
Q17	Q8	Q3	8	-186.60
Q17	Q7	Q3	8	-186.52
Q17	Q8	Q7	8	-185.85
Q17	Q10	Q4	8	-185.55

Q17	Q10	Q6	8	-185.53
Q17	Q10	Q8	8	-185.50
Q17	Q10	Q9	8	-183.79
Q17	Q9	Q3	8	-183.00
Q17	Q7	Q4	8	-182.83
Q17	Q9	Q7	8	-182.16
Q17	Q12	Q7	8	-181.40
Q17	Q12	Q3	8	-181.36
Q17	Q10	Q5	8	-180.99

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q10	1	Q3	1	36	90.0%	4	10.0%
					2	4	50.0%	4	50.0%
			2	Q3	1	23	69.7%	10	30.3%
					2	6	31.6%	13	68.4%
	2	Q10	1	Q3	1	11	52.4%	10	47.6%
					2	6	27.3%	16	72.7%
			2	Q3	1	7	14.3%	42	85.7%
					2	5	1.3%	378	98.7%

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q17	1	Q10	1	Q7	1	37	90.2%	4	9.8%
					2	3	42.9%	4	57.1%
			2	Q7	1	22	68.8%	10	31.3%
					2	6	33.3%	12	66.7%
	2	Q10	1	Q7	1	11	45.8%	13	54.2%
					2	5	27.8%	13	72.2%
			2	Q7	1	7	12.1%	51	87.9%
					2	5	1.4%	355	98.6%

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは質問項目(10)授業への情熱、質問項目(7)考える機会、質問項目(3)ポイント説明の3種の組み合わせであった。

表100 質問項目Q22と他の質問項目(Q1～Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q10	Q7	Q3	8	-182.82
Q10	Q8	Q3	8	-179.97
Q10	Q7	Q4	8	-179.31
Q12	Q10	Q3	8	-178.95
Q11	Q10	Q3	8	-178.68
Q7	Q5	Q3	8	-175.64
Q11	Q8	Q3	8	-173.50
Q10	Q5	Q3	8	-173.27
Q10	Q7	Q5	8	-172.93
Q8	Q7	Q3	8	-172.50

Q11	Q7	Q3	8	-172.17
Q8	Q7	Q4	8	-171.53
Q10	Q9	Q3	8	-170.85
Q12	Q7	Q3	8	-170.62
Q11	Q5	Q3	8	-169.79

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q10	1	Q7	1	Q3	1	42	79.2%	11	20.8%
			2		2	8	57.1%	6	42.9%
			2	Q3	1	6	66.7%	3	33.3%
					2	2	12.5%	14	87.5%
	2	Q7	1	Q3	1	25	53.2%	22	46.8%
					2	4	9.1%	40	90.9%
			2	Q3	1	5	13.5%	32	86.5%
					2	7	2.0%	336	98.0%

						Q22			
						1		2	
						度数	行の N %	度数	行の N %
Q10	1	Q8	1	Q3	1	41	80.4%	10	19.6%
			2		2	7	46.7%	8	53.3%
			2	Q3	1	7	63.6%	4	36.4%
					2	3	20.0%	12	80.0%
	2	Q8	1	Q3	1	24	61.5%	15	38.5%
					2	3	4.3%	67	95.7%
			2	Q3	1	6	13.6%	38	86.4%
					2	7	2.2%	316	97.8%

4)-1 2003年度基礎調査「学生による授業評価」(1年生 講義科目)
総合評価の質問項目と他の質問項目の関連性の比較について
(AICの値によって比較した)

●質問項目「(17)意欲的に学ぶ」と他の質問項目との関連性の比較

表101 質問項目Q17と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(21)専門的関心等	2	-418.62
(19)授業意義深い	2	-366.79
(20)授業内容理解	2	-358.77
(22)よい授業だ	2	-355.62
(15)受講態度良好	2	-321.62
(3)ポイント説明	2	-241.64
(4)説明が適切	2	-240.17
(9)進み具合考慮	2	-224.45
(13)字はみやすい	2	-203.62
(8)質問が出やすい	2	-195.30
(18)予習復習行う	2	-195.07

(11)資料映像利用	2	-179.32
(10)授業への情熱	2	-174.12
(12)教科書等活用	2	-173.02
(7)考える機会	2	-168.56
(6)ノート	2	-165.72
(5)教員の声	2	-164.62
(16)教授要綱役立	2	-145.40
(1)授業目的説明	2	-145.11
(2)評価方法説明	2	-98.32
(14)出席率良好	2	-90.58
学科など授業区分	6	-29.94

○目的変数を質問項目(17)意欲的に学ぶにして、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連性を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(21)専門的関心等、質問項目(18)予習復習行う、質問項目(15)受講態度良好の3種の組み合わせであった。

表102 質問項目Q17と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q21	Q18	Q15	8	-666.36
Q21	Q15	Q8	8	-642.09
Q21	Q15	Q9	8	-637.68
Q21	Q20	Q15	8	-633.21
Q21	Q15	Q11	8	-630.26
Q21	Q19	Q15	8	-628.61
Q22	Q21	Q15	8	-628.01
Q21	Q15	Q13	8	-621.63
Q21	Q15	Q12	8	-614.24
Q21	Q16	Q15	8	-610.80
Q21	Q15	Q3	8	-608.31
Q21	Q15	Q14	8	-606.91
Q21	Q15		4	-606.66
Q19	Q18	Q15	8	-604.09
Q21	Q15	Q10	8	-601.19

○次に、目的変数を質問項目(17)意欲的に学ぶにして、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(18)予習復習行う、質問項目(15)受講態度良好、質問項目(3)ポイント説明の3種の組み合わせであった。

表103 質問項目Q17と他の質問項目(Q1～Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q18	Q15	Q3	8	-549.06
Q18	Q15	Q4	8	-548.94
Q18	Q15	Q9	8	-546.24
Q18	Q15	Q10	8	-536.76
Q18	Q15	Q11	8	-534.10
Q15	Q11	Q9	8	-531.36
Q15	Q13	Q9	8	-527.61

Q15	Q9	Q3	8	-527.01
Q15	Q12	Q9	8	-524.10
Q18	Q15	Q8	8	-523.99
Q15	Q8	Q3	8	-523.67
Q18	Q15	Q12	8	-523.55
Q18	Q15	Q13	8	-522.86
Q15	Q9	Q4	8	-519.88
Q15	Q13	Q8	8	-515.43

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(11)資料映像利用、質問項目(8)質問出やすい、質問項目(3)ポイント説明の3種の組み合わせであった。

表104 質問項目Q17と他の質問項目(Q1～Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q11	Q8	Q3	8	-413.27
Q13	Q8	Q3	8	-412.15
Q13	Q9	Q3	8	-409.85
Q11	Q9	Q3	8	-409.50
Q11	Q8	Q4	8	-401.84
Q11	Q9	Q4	8	-401.08
Q13	Q9	Q4	8	-399.11
Q13	Q8	Q4	8	-398.94
Q8	Q4	Q3	8	-394.54
Q12	Q8	Q3	8	-394.08
Q9	Q8	Q3	8	-391.80
Q13	Q10	Q9	8	-389.79
Q10	Q8	Q3	8	-389.55
Q12	Q9	Q3	8	-389.08
Q9	Q4	Q3	8	-387.65

4)-2 003年度基礎調査「学生による授業評価」(2年生 講義科目)
総合評価の質問項目と他の質問項目の関連性の比較について
(AICの値によって比較した)

●質問項目「(17)意欲的に学ぶ」と他の質問項目との関連性の比較

表105 質問項目Q17と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(19)授業意義深い	2	-224.00
(20)授業内容理解	2	-202.19
(22)よい授業だ	2	-182.15
(21)専門的関心等	2	-168.13
(15)受講態度良好	2	-162.88
(18)予習復習行う	2	-154.72
(16)教授要綱役立	2	-150.65

(4)説明が適切	2	-141.19
(3)ポイント説明	2	-140.66
(7)考える機会	2	-131.16
(9)進み具合考慮	2	-118.22
(10)授業への情熱	2	-105.86
(1)授業目的説明	2	-104.04
(5)教員の声	2	-95.83
(8)質問が出やすい	2	-95.51
(6)ノート	2	-84.97
(13)字はみやすい	2	-80.97
(2)評価方法説明	2	-66.50
(14)出席率良好	2	-58.80
(11)資料映像利用	2	-46.47
(12)教科書等活用	2	-34.24
学科など授業区分	6	5.10

○目的変数を質問項目(17)意欲的に学ぶにして、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連性を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(19)授業意義深い、質問項目(18)予習復習行う、質問項目(15)受講態度良好の3種の組み合わせであった。

表106 質問項目Q17と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q19	Q18	Q15	8	-347.74
Q19	Q18	Q16	8	-339.16
Q19	Q16	Q15	8	-336.00
Q20	Q18	Q15	8	-329.81
Q18	Q15	Q4	8	-327.59
Q18	Q15	Q3	8	-327.13
Q20	Q16	Q15	8	-326.49
Q22	Q18	Q15	8	-323.91
Q20	Q19	Q18	8	-323.13
Q20	Q19	Q16	8	-321.81
Q21	Q18	Q15	8	-321.06
Q19	Q18	Q14	8	-319.52
Q21	Q19	Q18	8	-319.13
Q19	Q18	Q7	8	-317.80
Q22	Q18	Q16	8	-317.26

○次に、目的変数を質問項目(17)意欲的に学ぶにして、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(18)予習復習行う、質問項目(15)受講態度良好、質問項目(4)説明が適切な3種の組み合わせであった。

表107 質問項目Q17と他の質問項目(Q1～Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q18	Q15	Q4	8	-328.13
Q18	Q15	Q3	8	-327.68
Q18	Q15	Q7	8	-316.81

Q16	Q15	Q4	8	-315.54
Q18	Q15	Q10	8	-312.48
Q16	Q15	Q3	8	-302.73
Q18	Q16	Q4	8	-302.69
Q16	Q15	Q10	8	-301.86
Q18	Q15	Q9	8	-300.93
Q16	Q15	Q7	8	-299.16
Q18	Q10	Q4	8	-299.01
Q18	Q16	Q7	8	-296.07
Q18	Q16	Q15	8	-294.63
Q18	Q7	Q4	8	-293.23
Q18	Q15	Q1	8	-292.67

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(7)考える機会、質問項目(4)説明が適切な3種の組み合わせであった。

表108 質問項目Q17と他の質問項目(Q1～Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q10	Q7	Q4	8	-205.44
Q9	Q7	Q4	8	-204.49
Q10	Q8	Q4	8	-203.70
Q10	Q9	Q4	8	-203.24
Q9	Q7	Q3	8	-202.82
Q10	Q8	Q3	8	-200.89
Q9	Q4	Q1	8	-200.09
Q10	Q9	Q3	8	-198.82
Q8	Q7	Q4	8	-198.41
Q7	Q4	Q1	8	-197.63
Q9	Q7	Q1	8	-197.37
Q10	Q7	Q3	8	-197.33
Q9	Q3	Q1	8	-197.04
Q10	Q7	Q1	8	-196.50
Q8	Q7	Q3	8	-195.48

4)-3 2003年度基礎調査「学生による授業評価」(1年生 実習・演習科目)
総合評価の質問項目と他の質問項目の関連性の比較について
(AICの値によって比較した)

●質問項目「(17)意欲的に学ぶ」と他の質問項目との関連性の比較

表109 質問項目Q17と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(21)専門的関心等	2	-190.65
(20)授業内容理解	2	-190.02

(22)よい授業だ	2	-156.85
(19)授業意義深い	2	-150.26
(4)説明が適切	2	-108.52
(15)受講態度良好	2	-103.24
(9)進み具合考慮	2	-100.82
(3)ポイント説明	2	-90.84
(18)予習復習行う	2	-88.39
(7)考える機会	2	-85.99
(16)教授要綱役立	2	-82.10
(10)授業への情熱	2	-78.42
(5)教員の声	2	-77.64
(8)質問が出やすい	2	-74.91
(12)教科書等活用	2	-72.37
(6)ノート	2	-71.64
(1)授業目的説明	2	-65.84
(13)字はみやすい	2	-59.96
(2)評価方法説明	2	-58.39
(11)資料映像利用	2	-35.80
(14)出席率良好	2	-22.82
学科など授業区分	6	-14.76

○目的変数を質問項目(17)意欲的に学ぶにして、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連性を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(21)専門的関心等、質問項目(18)予習復習行う、質問項目(15)受講態度良好の3種の組み合わせであった。

表110 質問項目Q17と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q21	Q18	Q15	8	-280.09
Q21	Q20	Q15	8	-279.00
Q21	Q20	Q18	8	-276.03
Q21	Q20	Q16	8	-274.23
Q21	Q15	Q12	8	-264.56
Q21	Q15	Q2	8	-262.91
Q21	Q16	Q15	8	-262.49
Q21	Q20	Q10	8	-262.03
Q21	Q15	Q9	8	-261.88
Q21	Q15	Q1	8	-259.15
Q22	Q20	Q18	8	-258.18
Q21	Q19	Q15	8	-258.04
Q22	Q20	Q15	8	-256.96
Q21	Q15	Q7	8	-256.35
Q20	Q19	Q18	8	-255.96

○次に、目的変数を質問項目(17)意欲的に学ぶにして、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(18)予習復習行う、質問項目(15)受講態度良好、質問項目(4)説明が適切な3種の組み合わせであった。

表111 質問項目Q17と他の質問項目(Q1～Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q18	Q15	Q4	8	-228.52
Q18	Q15	Q9	8	-220.14
Q16	Q15	Q4	8	-211.48
Q16	Q15	Q9	8	-211.27
Q18	Q15	Q7	8	-211.10
Q15	Q12	Q4	8	-210.13
Q18	Q15	Q10	8	-209.89
Q15	Q8	Q4	8	-207.78
Q18	Q15	Q3	8	-205.32
Q15	Q9	Q2	8	-203.42
Q15	Q10	Q7	8	-202.27
Q15	Q9	Q7	8	-202.24
Q16	Q15	Q7	8	-202.05
Q15	Q9	Q4	8	-201.55
Q15	Q7	Q4	8	-201.18

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(10)授業への情熱、質問項目(7)考える機会、質問項目(4)説明が適切な3種の組み合わせであった。

表112 質問項目Q17と他の質問項目(Q1～Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q10	Q7	Q4	8	-162.28
Q12	Q8	Q4	8	-159.14
Q8	Q4	Q1	8	-158.97
Q12	Q10	Q4	8	-158.25
Q10	Q8	Q4	8	-158.11
Q9	Q7	Q4	8	-157.14
Q12	Q7	Q4	8	-156.95
Q10	Q9	Q4	8	-156.09
Q12	Q9	Q4	8	-155.81
Q10	Q4	Q1	8	-155.43
Q13	Q8	Q4	8	-155.13
Q10	Q7	Q5	8	-155.13
Q8	Q7	Q4	8	-155.11
Q10	Q7	Q1	8	-153.88

4)-4 2003年度基礎調査「学生による授業評価」(2年生 実習演習科目)
総合評価の質問項目と他の質問項目の関連性の比較について
(AICの値によって比較した)

●質問項目「(17)意欲的に学ぶ」と他の質問項目との関連性の比較

表113 質問項目Q17と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元クロス集計表を比較)

説明変数	カテゴリ数	AIC
(22)よい授業だ	2	-136.94
(15)受講態度良好	2	-116.47
(5)教員の声	2	-111.97
(20)授業内容理解	2	-109.87
(4)説明が適切	2	-106.51
(19)授業意義深い	2	-103.16
(3)ポイント説明	2	-99.29
(21)専門的関心等	2	-96.09
(7)考える機会	2	-90.41
(9)進み具合考慮	2	-83.37
(18)予習復習行う	2	-69.37
(10)授業への情熱	2	-65.92
(1)授業目的説明	2	-65.57
(13)字はみやすい	2	-64.57
(14)出席率良好	2	-63.58
(12)教科書等活用	2	-59.65
(8)質問が出やすい	2	-56.87
(6)ノート	2	-54.72
(16)教授要綱役立	2	-49.59
(11)資料映像利用	2	-46.56
(2)評価方法説明	2	-35.18
学科など授業区分	6	-9.71

○目的変数を質問項目(17)意欲的に学ぶにして、質問項目(1)から(22)まで同様に処理した。
その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(22)よい授業だ、質問項目(18)予習復習行う、質問項目(15)受講態度良好の3種の組み合わせであった。

表114 質問項目Q17と他の質問項目(Q1～Q22)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q22	Q18	Q15	8	-206.69
Q22	Q15	Q5	8	-201.98
Q22	Q16	Q15	8	-197.02
Q22	Q15	Q4	8	-196.10
Q22	Q15	Q3	8	-192.74
Q21	Q15	Q4	8	-192.13
Q20	Q15	Q5	8	-191.89
Q21	Q15	Q5	8	-191.04
Q22	Q15	Q7	8	-190.90
Q22	Q15	Q13	8	-190.89
Q22	Q20	Q15	8	-190.81
Q22	Q15	Q14	8	-190.11
Q22	Q15		4	-189.98
Q19	Q18	Q15	8	-188.47
Q22	Q19	Q15	8	-188.35

○次に、目的変数を質問項目(17)意欲的に学ぶにして、総合評価の質問項目である質問項目(19)から(22)を除いた説明変数18種類について同様に処理した。つまり、授業計画、授業方法、あなた自身の学習方法・態度の質問項目を説明変数とした。

その結果、目的変数と最も関連性の高い組み合わせは、質問項目(16)教授要綱役立、質問項目(15)受講態度良好、質問項目(5)教員の声の3種の組み合わせであった。

表115 質問項目Q17と他の質問項目(Q1～Q18)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q16	Q15	Q5	8	-191.02
Q15	Q7	Q5	8	-187.55
Q15	Q5	Q3	8	-184.76
Q15	Q7	Q4	8	-184.40
Q18	Q15	Q5	8	-183.29
Q18	Q15	Q4	8	-182.83
Q18	Q15	Q3	8	-181.96
Q15	Q12	Q5	8	-179.68
Q15	Q13	Q3	8	-179.47
Q15	Q7	Q3	8	-179.18
Q16	Q15	Q3	8	-178.70
Q15	Q12	Q3	8	-177.41
Q15	Q5	Q4	8	-177.35
Q18	Q15	Q7	8	-176.18
Q16	Q15	Q4	8	-175.66

○さらに、説明変数からあなた自身の学習方法・態度の質問項目(14)から(18)を除いて、授業計画、授業方法の質問項目13種類について同様に処理した。その結果、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせは、質問項目(7)考える機会、質問項目(5)教員の声、質問項目(3)ポイント説明の3種の組み合わせであった。

表116 質問項目Q17と他の質問項目(Q1～Q13)における関連性の強さ
(2元から4元クロス集計表の全ての組み合わせを比較)

説明変数			カテゴリ数	AIC
Q7	Q5	Q3	8	-155.61
Q12	Q5	Q3	8	-155.47
Q7	Q5	Q4	8	-151.20
Q12	Q5	Q4	8	-149.82
Q10	Q7	Q5	8	-149.40
Q8	Q5	Q3	8	-149.08
Q12	Q7	Q5	8	-148.67
Q9	Q5	Q3	8	-148.17
Q12	Q10	Q5	8	-147.99
Q13	Q5	Q3	8	-146.99
Q7	Q5		4	-146.91
Q7	Q5	Q1	8	-146.79
Q10	Q5	Q3	8	-146.70
Q8	Q5	Q4	8	-146.40
Q12	Q9	Q5	8	-146.32

4) AIC計算結果のまとめ

1年生および2年生、講義科目および実習演習科目に分けて計算処理を行った。その結果を下表(表117、表118)にまとめた。

表117 目的変数と最も高い関連性を示す説明変数の組み合わせ(講義科目)

学年	授業種別	目的変数	説明変数の数	説明変数			AIC
				最も高い関連性を示す説明変数の組み合わせ			
1	講義科目	(19)授業意義深い	22	(19)授業意義深い	(20)授業内容理解	(21)専門的関心等	-862.81
2	講義科目	(19)授業意義深い	22	(17)意欲的に学ぶ	(20)授業内容理解	(22)よい授業だ	-448.14
1	講義科目	(19)授業意義深い	18	(4)説明が適切	(10)授業への情熱	(17)意欲的に学ぶ	-611.66
2	講義科目	(19)授業意義深い	18	(3)ポイント説明	(10)授業への情熱	(17)意欲的に学ぶ	-330.74
1	講義科目	(19)授業意義深い	13	(3)ポイント説明	(4)説明が適切	(10)授業への情熱	-519.94
2	講義科目	(19)授業意義深い	13	(3)ポイント説明	(4)説明が適切	(10)授業への情熱	-287.21
1	講義科目	(20)授業内容理解	22	(4)説明が適切	(15)受講態度良好	(21)専門的関心等	-715.88
2	講義科目	(20)授業内容理解	22	(18)予習復習行う	(21)専門的関心等	(22)よい授業だ	-439.20
1	講義科目	(20)授業内容理解	18	(4)説明が適切	(15)受講態度良好	(17)意欲的に学ぶ	-639.30
2	講義科目	(20)授業内容理解	18	(4)説明が適切	(9)進み具合考慮	(17)意欲的に学ぶ	-312.46
1	講義科目	(20)授業内容理解	13	(4)説明が適切	(9)進み具合考慮	(11)資料映像利用	-537.75
2	講義科目	(20)授業内容理解	13	(4)説明が適切	(9)進み具合考慮	(10)授業への情熱	-265.21
1	講義科目	(21)専門的関心等	22	(19)授業意義深い	(20)授業内容理解	(22)よい授業だ	-924.40
2	講義科目	(21)専門的関心等	22	(19)授業意義深い	(20)授業内容理解	(22)よい授業だ	-428.52
1	講義科目	(21)専門的関心等	18	(4)説明が適切	(7)考える機会	(17)意欲的に学ぶ	-667.58
2	講義科目	(21)専門的関心等	18	(3)ポイント説明	(10)授業への情熱	(17)意欲的に学ぶ	-248.08
1	講義科目	(21)専門的関心等	13	(4)説明が適切	(9)進み具合考慮	(11)資料映像利用	-537.75
2	講義科目	(21)専門的関心等	13	(1)授業目的説明	(7)考える機会	(10)授業への情熱	-226.63
1	講義科目	(22)よい授業だ	22	(4)説明が適切	(19)授業意義深い	(21)専門的関心等	-1042.35
2	講義科目	(22)よい授業だ	22	(19)授業意義深い	(20)授業内容理解	(21)専門的関心等	-465.77
1	講義科目	(22)よい授業だ	18	(4)説明が適切	(10)授業への情熱	(17)意欲的に学ぶ	-764.63
2	講義科目	(22)よい授業だ	18	(3)ポイント説明	(10)授業への情熱	(17)意欲的に学ぶ	-304.78
1	講義科目	(22)よい授業だ	13	(3)ポイント説明	(4)説明が適切	(10)授業への情熱	-729.30
2	講義科目	(22)よい授業だ	13	(3)ポイント説明	(9)進み具合考慮	(10)授業への情熱	-283.99

注:ゴシック体は、1年生および2年生で一致する項目である。

表118 目的変数と最も高い関連性を示す説明変数の組み合わせ(実習・演習科目)

学年	授業種別	目的変数	説明変数の数	説明変数			AIC
				最も高い関連性を示す説明変数の組み合わせ			
1	実習演習科目	(19)授業意義深い	22	(20)授業内容理解	(21)専門的関心等	(22)よい授業だ	-335.93
2	実習演習科目	(19)授業意義深い	22	(20)授業内容理解	(21)専門的関心等	(22)よい授業だ	-215.46
1	実習演習科目	(19)授業意義深い	18	(4)説明が適切	(6)ノート	(17)意欲的に学ぶ	-228.22
2	実習演習科目	(19)授業意義深い	18	(3)ポイント説明	(11)資料映像利用	(17)意欲的に学ぶ	-130.16
1	実習演習科目	(19)授業意義深い	13	(4)説明が適切	(7)考える機会	(10)授業への情熱	-195.69
2	実習演習科目	(19)授業意義深い	13	(5)教員の声	(9)進み具合考慮	(11)資料映像利用	-121.20
1	実習演習科目	(20)授業内容理解	22	(3)ポイント説明	(17)意欲的に学ぶ	(21)専門的関心等	-282.92
2	実習演習科目	(20)授業内容理解	22	(8)質問出やすい	(19)授業意義深い	(21)専門的関心等	-204.58
1	実習演習科目	(20)授業内容理解	18	(4)説明が適切	(7)考える機会	(17)意欲的に学ぶ	-259.70
2	実習演習科目	(20)授業内容理解	18	(8)質問出やすい	(15)受講態度良好	(17)意欲的に学ぶ	-162.13
1	実習演習科目	(20)授業内容理解	13	(4)説明が適切	(7)考える機会	(9)進み具合考慮	-194.55
2	実習演習科目	(20)授業内容理解	13	(4)説明が適切	(7)考える機会	(8)質問出やすい	-143.25
1	実習演習科目	(21)専門的関心等	22	(17)意欲的に学ぶ	(19)授業意義深い	(22)よい授業だ	-387.07
2	実習演習科目	(21)専門的関心等	22	(9)進み具合考慮	(19)授業意義深い	(20)授業内容理解	-213.00
1	実習演習科目	(21)専門的関心等	18	(5)教員の声	(8)質問出やすい	(17)意欲的に学ぶ	-274.89
2	実習演習科目	(21)専門的関心等	18	(7)考える機会	(9)進み具合考慮	(17)意欲的に学ぶ	-145.06
1	実習演習科目	(21)専門的関心等	13	(5)教員の声	(7)考える機会	(10)授業への情熱	-206.65
2	実習演習科目	(21)専門的関心等	13	(7)考える機会	(8)質問出やすい	(9)進み具合考慮	-139.36
1	実習演習科目	(22)よい授業だ	22	(3)ポイント説明	(19)授業意義深い	(21)専門的関心等	-408.34
2	実習演習科目	(22)よい授業だ	22	(4)説明が適切	(19)授業意義深い	(21)専門的関心等	-254.57
1	実習演習科目	(22)よい授業だ	18	(3)ポイント説明	(5)教員の声	(17)意欲的に学ぶ	-264.59
2	実習演習科目	(22)よい授業だ	18	(3)ポイント説明	(10)授業への情熱	(17)意欲的に学ぶ	-194.04
1	実習演習科目	(22)よい授業だ	13	(3)ポイント説明	(5)教員の声	(10)授業への情熱	-248.99
2	実習演習科目	(22)よい授業だ	13	(3)ポイント説明	(7)考える機会	(10)授業への情熱	-182.82

注:ゴシック体は、1年生および2年生で一致する項目である。

講義科目および実習演習科目において、目的変数と最も高い関連を示す説明変数の組み合わせは、各説明変数の数において、1年生と2年生を比較してみるとかなりの一致がみられた。(表117、表118)

総合評価の目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせが教育効果を高めることが期待され、教育改善および教育力の向上のために参考になるものとする。

また、最も高い関連を示す説明変数の組み合わせを計算した時の上位15個の計算結果をみると、AICの値と比較して、あまり大きな差のない組み合わせが存在する。これらも教育効果の改善に役立つものとする。

表117、表118において、目的変数と最も高い関連を示した説明変数の組み合わせの項目の中に、質問項目(17)意欲的に学ぶが多くみられる。この質問項目と最も高い関連を示す説明変数の組み合わせを計算したので下表(表119、表120)に示した。

ここでも、1年生と2年生に共通する質問項目が存在することがわかった。

表119 質問項目(17)意欲的に学ぶと最も高い関連性を示す説明変数の組み合わせ(講義科目)

学年	授業種別	目的変数	説明変数の数	説明変数			AIC
				最も高い関連を示す説明変数の組み合わせ			
1	講義科目	(17)意欲的に学ぶ	22	(15)受講態度良好	(18)予習復習行う	(21)専門的関心等	-666.36
2	講義科目	(17)意欲的に学ぶ	22	(15)受講態度良好	(18)予習復習行う	(19)授業意義深い	-347.74
1	講義科目	(17)意欲的に学ぶ	18	(3)ポイント説明	(15)受講態度良好	(18)予習復習行う	-549.06
2	講義科目	(17)意欲的に学ぶ	18	(4)説明が適切	(15)受講態度良好	(18)予習復習行う	-328.13
1	講義科目	(17)意欲的に学ぶ	13	(3)ポイント説明	(8)質問しやすい	(11)資料映像利用	-413.27
2	講義科目	(17)意欲的に学ぶ	13	(4)説明が適切	(7)考える機会	(10)授業への情熱	-205.44

注:ゴシック体は、1年生および2年生で一致する項目である。

表120 質問項目(17)意欲的に学ぶと最も高い関連性を示す説明変数の組み合わせ(実習演習科目)

学年	授業種別	目的変数	説明変数の数	説明変数			AIC
				最も高い関連を示す説明変数の組み合わせ			
1	実習演習科目	(17)意欲的に学ぶ	22	(15)受講態度良好	(18)予習復習行う	(21)専門的関心等	-280.09
2	実習演習科目	(17)意欲的に学ぶ	22	(15)受講態度良好	(18)予習復習行う	(22)よい授業だ	-206.69
1	実習演習科目	(17)意欲的に学ぶ	18	(4)説明が適切	(15)受講態度良好	(18)予習復習行う	-228.52
2	実習演習科目	(17)意欲的に学ぶ	18	(5)教員の声	(15)受講態度良好	(16)教授要綱役立	-191.02
1	実習演習科目	(17)意欲的に学ぶ	13	(4)説明が適切	(7)考える機会	(10)授業への情熱	-162.28
2	実習演習科目	(17)意欲的に学ぶ	13	(3)ポイント説明	(5)教員の声	(7)考える機会	-155.61

注:ゴシック体は、1年生および2年生で一致する項目である。

(6) 実験・実習・演習科目について

実験・実習・演習科目について、質問項目(24)から(28)までは、学科別に作成した。特に、教養基礎科目では語学などにおいて、科目ごとに質問項目を作成した。質問項目により科目が特定される可能性が考えられるので教養基礎については結果を公表しなかった。他の学科においては、共通した設問であるのでその結果を下表に報告した。(表 121、表 122)

設問は、下記の通りである。

産業情報学科

経営情報コース デザイン情報コース 共通

6. 実験・実習・演習科目について

- (24) テーマ(または課題)に興味をもって
- (25) 課題の趣旨、意図、展開方法を十分理解できた
- (26) 課題に対する時間配分は適切であった
- (27) 教員のコメントや評価は理解できた
- (28) 課題に対して積極的に取り組んだ

食物栄養学科

6. 実験・実習・演習科目について

- (24) 事故・けがを予防するように配慮している

- (25) 課題を実施・解決するための授業時間は十分であった
 - (26) 専門的な知識に対して理解が深まった
 - (27) 課題を実施・解決するための専門的な応用力がついた
- 社会福祉学科

6. 実験・実習・演習科目について

- (24) グループで授業を進める場合の1グループの人数は適切である
- (25) 課題の意図は理解しやすい
- (26) 時間配分は適切である
- (27) 事例の選択は適切である
- (28) 教員のコメントは理解しやすい

表 121 実験・実習・演習科目について(1年生 実習・演習科目)
(グループ中央値)

質問項目	教養基礎 (a)	産業情報		食物栄養 (e)	社会福祉 (f)	全 体
		経営情報 (b)	デザイン情報 (c)			
Q24(各区分で作成)		4.74	4.60	4.44	4.32	4.39
Q25(各区分で作成)		4.65	4.43	4.25	4.22	4.22
Q26(各区分で作成)		4.52	3.75	4.06	3.77	4.04
Q27(各区分で作成)		4.64	4.23	3.61	4.08	3.90
Q28(各区分で作成)		4.91	4.53		3.97	4.05

表 122 実験・実習・演習科目について(2年生 実習・演習科目)
(グループ中央値)

質問項目	デザイン情報	食物栄養	社会福祉	全 体
	(c)	(e)	(f)	
Q24(各区分で作成)	4.74	4.46	4.35	4.43
Q25(各区分で作成)	4.28	4.35	4.41	4.38
Q26(各区分で作成)	4.26	4.31	4.21	4.25
Q27(各区分で作成)	4.38	4.23	4.33	4.30
Q28(各区分で作成)	4.61		4.47	4.50

資料

デザイン手法の研究

コンピュータ・プログラムによる D. A. Norman のデザイン思想の研究(2)

学生による授業評価システムへの応用

会津大学短期大学部

産業情報学科

時野谷 茂

デザイン手法の研究

コンピュータ・プログラムによる D. A. Norman のデザイン思想の研究(2)

学生による授業評価システムへの応用

時野谷 茂

平成 15 年 11 月 28 日受付

【要旨】 本稿では D.A.Norman のデザイン思想を実際プログラム作成に反映させることを基本目的とし、併せて会津大学短期大学部における学生による授業評価システムについて考察した。D.A.Norman のデザイン思想はコンピュータの画面デザインと操作手順に取り入れた。そこでの基本的な考え方はわかりやすさでありそれを導くための可視性、フィードバック、グルーピング、マッピング、適切な概念モデルの形成できるシステムといった概念を当てはめた。具体的には操作ボタンの配置と表示である。操作ボタンは作業手順に従って配置または作業種毎にグルーピングして配置しわかりやすさとともに誤操作防止に努めている。そのためにボタンに作業内容を具体的に表示するようにした。

学生による授業評価は会津大学短期大学部自己評価総括委員会の活動の一環として行われた。本稿ではその手順、評価の集計結果についてシステム上の問題点を探ることを目的に研究を進めた。したがって評価内容について論じるものではなく、学生自身の回答作業性、集計作業性、評価に対する回答作業性といったシステム運用の簡便性と回答の信頼性ならびに誤入力、不正入力防止や集計作業中データの欠損等に対する入力・集計のシステムの信頼性といった観点から本システムを検証するものである。

アンケートへの回答率は 51.0% (重複入力データ削除前は 53.5%) であり、学科、コース、学年によって 60.8% から 22.9% と大きな差が見られた。1 科目も回答しなかった学生が 31.5% いた。回答科目数は全学生平均で 1 人 8.5 科目、回答 0 の学生を除くと 12 科目であった。設問別では選択式の設問は高い回答率を示したが無解答のものが 10% 前後含まれるものも数問あった。記述式の設問では回答率が 24.5% と低かった。また設問のないところに回答が入力されているものが 6.0%、多重入力データ削除前の段階では同一人同一科目で多重入力されたもの (3 回入力が 5 組、他は 2 回) が 3.5% 含まれていた。この多重入力データのうち 78.6% が相互に異なった値が入力されているなど一部入力データの信頼性に疑問が残る結果がみられた。

はじめに

本稿は「デザイン手法の研究 THE PSYCHOLOGY OF EVERYDAY THINGS コンピュータ・プログラムによる D.A.Norman のデザイン思想の研究(1)」(会津大学短期大学部研究年報第51号 1994)と同じく、D.A.Norman のデザイン思想を実際のプログラム作成に反映させることを基本目的とし、併せて会津大学短期大学部における学生による授業評価システムについて考察するものである。

① D.A.Norman と使いやすいデザイン

D.A.Norman のデザイン思想について詳しくは前掲の論文を参照して頂くとして基本的な考え方はわかりやすさであり、その考え方は「いついかなる時にも、その時点でどんな行為をすることができるのかを簡単に分かるようにしておくこと。」「対象を目にみえるようにすること。システムの概念モデルや、他にはどんな行為を行うことができるか、そして、行為の結果なども目にみえるようにすること。」「システムの現在の状態を評価しやすくしておくこと。意図とその実現に必要な行為の対応関係、行為とその結果起こることとの対応関係が目に見えること。」「情報とシステムの状態の解釈の対応関係などにおいて、自然な対応づけを尊重しそれに従うこと。」となる。キーワードとしては「可視性」、「フィードバック」、「マッピング」「概念モデル」等である。

コンピュータ・ソフトの使いやすさの問題についてはアラン・クーパーもその著「コンピュータはむずかしすぎて使えない」(アラン・クーパー 著 山形浩生 訳 翔泳社 2000)で触れ、「問題を解決する鍵となるのが、操作デザイン(interaction design)だ。ソフトウェアのふるまいを設計する、新しいプロの操作デザイナーという集団が必要だ。」(同書 20 頁)と述べ、コンピュータが人々の日々の生活で身近になればなるほどこの操作性、使いやすさがソフト開発の大きな要因となるとしている。

② 学生による授業評価について

会津大学短期大学部における学生による授業評価は平成11年度にはじめて実施され、今回は2回目である。今回は授業評価の対象を常勤教師全員各1科目という条件で行われた。「そう思う」、「いくらかそう思う」、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の5段階で答える設問21問と自由記述1問の計22の設問にアンケート用紙にて答える方式で、前期35科目、後期25科目の計60科目で実施された。今回は非常勤講師担当の科目も含め全科目について行うことを前提に自己評価総括委員会でその内容及び方式が検討された。

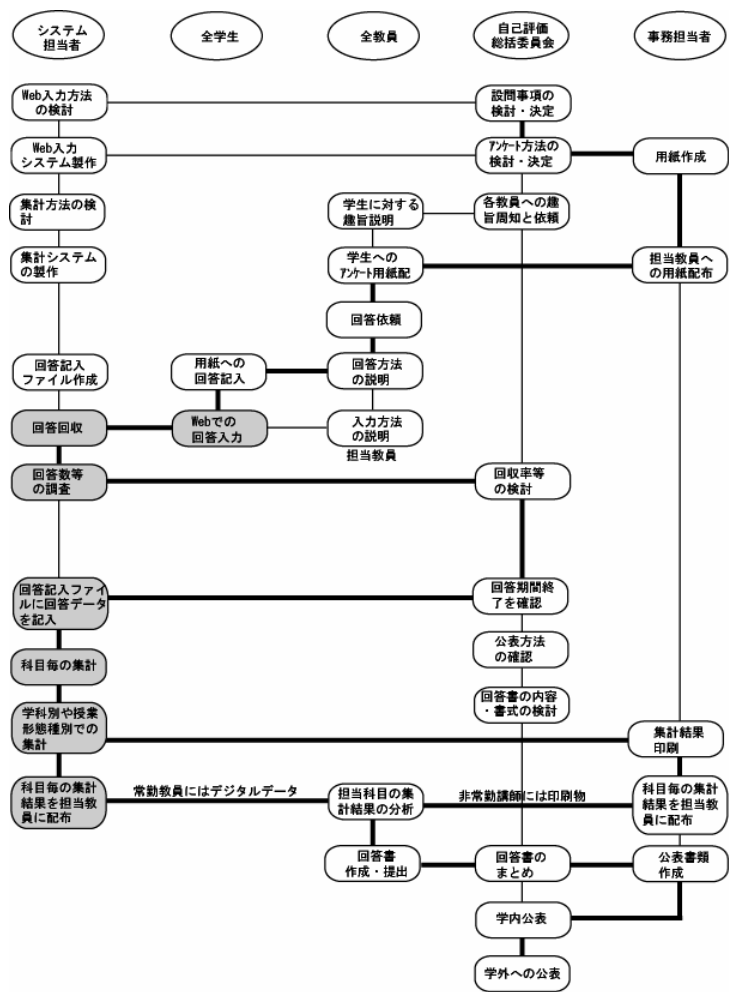


図-01：担当者別作業の流れ

内容については各科目に共通する項目と科目によって特有な項目（特に実習・演習系科目）に分ける必要があると確認され、講義系科目は共通設問項目で、実習・演習系科目は共通項目に科目特有な設問を6項目以内で付加することが決定された。また、複数教員で担当している科目については希望に応じて担当教員毎に評価を受けることが承認された。その結果分類上は前期分だけで145科目となった。

評価の実施方式については前回のようにアンケート用紙を配布して各授業の最終日に時間をとって記入してもらい、講義室の外の回収ボックスで回収する方法がまず検討された。学生の印象が鮮明なうちにやることで評価も確かなものになること、時間を設けることで高い回収率が期待できることは利点であるが集計作業に相当の時間を要することが問題点としてあげられた。145科目と

いう数を考えるとこれは見逃すことのできない問題であった。第2案としては、第1案の利点を生かし集計作業部分の省力化を図る案として、第1案に Web を用いて学生に直接入力してもらうことを付加させた案が提案された。ペーパーレスということを考えて全て Web 上で行う案も出されたが、数多くの授業についてメモも無しに一度に回答するのはその回答の信頼性に問題が生じるのではとの理由で却下された。また省力化ということではマークシートを用いた方法もだされたが、記述式の回答が得られないとの理由で採用には至らなかった。第2案についても学生が自主的に入力する時間をとってくれるか不安視する意見もあったが、今回はこの案で実施することとなった。

評価方式に関する作業の流れは「図-01：担当者別作業の流れ」に示す通りであるが、ここで特筆することは全学生に対して Web 入力の講習会を開き入力方法の説明とともに学生授業評価の意義について説明していること、入力に当たっては専用 ID（匿名性を確保するために ID は所属単位で用意されたものを学生がくじ引き方式でとる）を配布し多重入力を防ぼうとしている点である。

1. システム構築環境

会津大学短期大学部では平成10年に全学のネットワーク化が計られ全職員に Windows PC（産業情報学科デザイン情報コースでは他に Macintosh）、学生用として Windows PC が2つの演習室とホールにあわせて120台、Macintosh PC が2つの演習室と入室力室にあわせて59台設置されており、全職員ならびに全学生が ID を持ち自由に学内ネットワークやインターネット、電子メールを使える環境となっている。また学科間で程度の差はあるが全学科でコンピュータ教育も行われている。基本ソフトとしてはオフィス、通信系ではインターネット・エクスプローラが採用されており、学生の Web による回答、教員へのネットワークを通じての集計データ配信の環境は整っているが、非常勤の先生方の中にはコンピュータを使われない方もおられることから、常勤教員にはマイクロソフト・エクセルにデータを記録しサーバーに設置する各教員専用ホルダーに送信すること、非常勤講師へは紙面で配布することし、学生評価に対する回答は学内向けホームページに専用コーナーを設けて行うことが決定された。

2. Web 入力システム

Web システムの使用者は学生全般である。使用にあたっての基本的技術については問題は無いと思われるが、一人あたり十数科目になるのでできるだけ簡単な入力方法が望まれた。Norman の思想でいえば「作業の単純化」と「可視性」がデザインのテーマとなった。入力手順、入力画面、操作性の3点についてこのことを検証するとともにシステムの問題点について検証する。

① 入力手順

入力の手順は以下に示す5段階とし、できるだけ簡潔になるようにした。(1)での ID 入力と(3)

での記述回答以外は全てマウス操作ですむようになってきているなど「作業の単純化」が計られている。

- (1) 専用 ID を入れる。
- (2) 回答する科目名を選ぶ。
- (3) 回答を入力する。
- (4) 入力結果の正誤を確認した後送信する。
- (5) 他科目入力または終了を選択する。

② 入力画面

入力画面のデザインについても簡潔性を旨とした。ここでは画面に設問も表示すべきとの意見もあったが、既にアンケート用紙に記入してくること、設問を入れると画面スクロールが必要となり全体が把握しにくくなること、実習・演習科目では24番以降の設問が科目毎に異なる可能性があり、システムが複雑になることから、1画面で全体が見られるよう回答欄のみの表示として「可視性」を高めた。また誤入力をできるだけ防ぐために回答欄の配置はアンケート用紙のそれに倣った。

Norman のいう「スリップ」への対応である。

学生による授業評価 回答フォーム  回答したくない項目は「無回答」をクリックしてください。

日本の文学 <後藤 康>

1. 授業計画について						
5	4	3	2	1	無回答	
(1)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(2)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
2. 授業方法について						
5	4	3	2	1	無回答	
(3)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(4)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(5)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(6)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(7)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(8)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(9)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(10)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(11)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(12)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(13)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
3. あなた自身の学習方法・態度について						
5	4	3	2	1	無回答	
(14)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(15)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(16)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(17)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(18)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
4. 総合評価について						
5	4	3	2	1	無回答	
(19)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(20)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(21)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(22)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
5. 自由記述欄						
(23)	<input type="text"/>					
6. 実験・実習・演習科目について						
(24)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(25)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(26)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(27)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(28)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(29)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
(30)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

入力が進みましたら送信ボタンをクリックしてください。

図-02：回答入力画面

③ 操作性

操作性には入力手順そのものも含まれるが、ここではそれ以外で目標としたところを記す。ここでの基本的な考え方も「可視性」である。不必要なものは表示しない。これは入力科目を選択する

画面で強く意識した。具体的には入力された ID を利用してその学生が受講可能な科目のみを表示すること、また入力済みの科目を選択不可能にする（強制選択法）と同時に入力済みのマークを表示（フィードバック）する等の工夫を施した。

この考えをさらに進めると履修登録している科目のみを表示する方法が考えられるがそれには学籍番号やコンピュータ起動用 ID など入力者を特定できるデータが必要となる。それはアンケートは無記名でという基本に反することになり、学生が正直に回答しにくくなるという懸念もあった。コンピュータ起動時に入力される ID を読みとって処理してはとの意見もあったが、それは道義的にも法的にも問題があるとの意見があり、現在の専用 ID から得られる情報（学科、コース、入学年度）の範囲で表示科目の絞り込みを行った。

④ 本システムにおける問題点

1人に1枚配布という紙によるアンケートでは回答の機会は一人1回であるが、Webによる場合複数回回答することが可能となる。1人が複数回答えたのでは結果の信頼性は低いものとなってしまふ。そこで1人1回を守るために専用IDによる履歴管理で同一科目複数回入力はできないシステムとした。しかしこれで完璧というわけではない。なりすましや未履修科目への回答といったことへの対策にはなっていない。(今回はこれらのことが明らかとなる事態は見受けられなかったが、システムの不良による複数回入力が起こってしまった。)

3. 集計・配布システム

集計・配布システムの主たる作業は回答取り込み、科目毎の分配と集計、集計結果の配信または印刷配布の行程であるが、各担当教員の分析を手助けするためのデータ作成が付加された。システム構築に当たっては準備段階を除いてクリックひとつで各作業が遂行される「作業の単純化」を目指した。また、自動方式とマニュアル方式を並置して小回りのきくシステムとした。さらに操作画面においては作業内容が一見できる（可視性）こと、作業の流れに沿ったボタン配置（自然な対応付け）、類似機能でボタンの配置をまとめること（グルーピング）を心がけた。

① 集計・配布システム操作手順

集計システムは操作ファイルの開講科目データを入力するところから始まる。科目コード、科目名称、講義系・実習系の別、教員コード、代表教員名、分類（学科、コース、配当学年の別）を所定の位置に入力する。

次に科目毎のデータを集計するためのファイルを作成する。これは科目選択ボタンの「全科目」をクリックし、科目ボタン作成ボタンをクリックすることで操作ファイルと同一階層に作成される。

ファイル名は科目名と同じである。ファイル名は科目コードを使うことも考えられたが後のわかりやすさを考慮し科目名とした。

各科目ファイルへのデータの書き込みは Web サーバーに蓄積されたデータを csv 形式でとりだし所定の名称に変更して操作ファイルと同一階層に置き（ここはこの流れの中で唯一の手作業となる）、「評価データ取り込み・追加取り込み」ボタンをクリックすることで行う。追加データがある場合も同様の手順を踏むことで各科目ファイルに必要なデータが追加される。

この後には3つの作業が並列的にある。1つは集計結果を各教員へ配達することである。2つ目は学内ネットワークを使えない教員へ印刷物で配達するための印刷作業である。3つ目は学科等／常勤・非常勤／講義系・実習系の別でデータを集計し、評価への回答作成の際の参考資料をつくることである。これらはいずれも「ファイル配布」、「集計結果印刷」、「部門ファイル作成」「集計」「整理」ボタンをクリックすることで行う。

② ファイル構成と各ファイルの内容および特色

このシステムは操作ファイル、講義科目用雛形ファイル、実習系科目用雛形ファイル、部門別集計用ファイル（教養基礎、産業情報学科共通選択科目、産業情報学科経営情報科目、産業情報学科デザイン情報科目、食物栄養学科、社会福祉学科の6個）以上エクセル形式ファイルと元データ csv 形式ファイルからなる。ここでのデザイン上の狙いも作業の簡素化と分かりやすさである。

a. 操作ファイル 操作ファイルは集計作業全般をコントロールするファイルであり、[使用法]、[リスト] と [統計] の3シートからなる。シート名 [リスト] はこのシートへの機能の付加が随時なされたため、現時点では内容を十分に表現しているとは言い難い。「可視性」の観点から次期バージョンでは [リスト・操作] 等への変更が必要である。

[使用法] シートは文字通りこのファイルの操作手順を示したものである。

[統計] シートは用紙配布数、回答数、回答率を部門別に集計し表示するシートである。

[リスト] シートはこのファイルの主たる機能を内包している。①集計・配布システム操作手順に示した内容はすべてこのシートで行われる。シートの内容は一連の作業を行うマクロ実行ボタン群と科目リスト並びに作業の進行状態を示す表示部からなる。マクロ実行ボタン群は図-02からも明らかなように作業内容によってグループ分けした上で作業手順を示す形で配布されている。「可視性」に配慮し何をどう行うのかを視覚的に理解しやすいデザインとした。

科目リスト欄には

check：各操作の対象科目を指示する際使用。

科目コード：Web データを科目ごとに分割する際に使用。

科目名称：ファイル名称となる。

講義系・実習系の別：参照雛形の選択に使用。

教員コード：常勤、非常勤の区分けに使用（データ送信、データ印刷の区分け）。

代表教員名：集計結果送信先ホルダー名に使用。

科目配当学科：システム上は不使用。

分類（学科、コース、配当学年の別）：統計の際の分類に使用

と基本的作業に必要な項目の他に

受講人数、アンケート用紙の配布枚数、回答者数、回答率(%)：いずれも統計データ作成に使用。

データ更新日時、ファイル作成の完・未完、印刷の完・未完、作業日時：作業の進行状態確認に使用。

の項目がある。これらのうち回答率、データ更新日時、ファイル作成の完・未完、印刷の完・未完、作業日時は作業実施と同時に科目ごとに自動記入される。また科目ファイル作成作業実施日、追加作業実施日と回数、部門集計作業実施日、ファイル配布作業実施日も自動表示される。

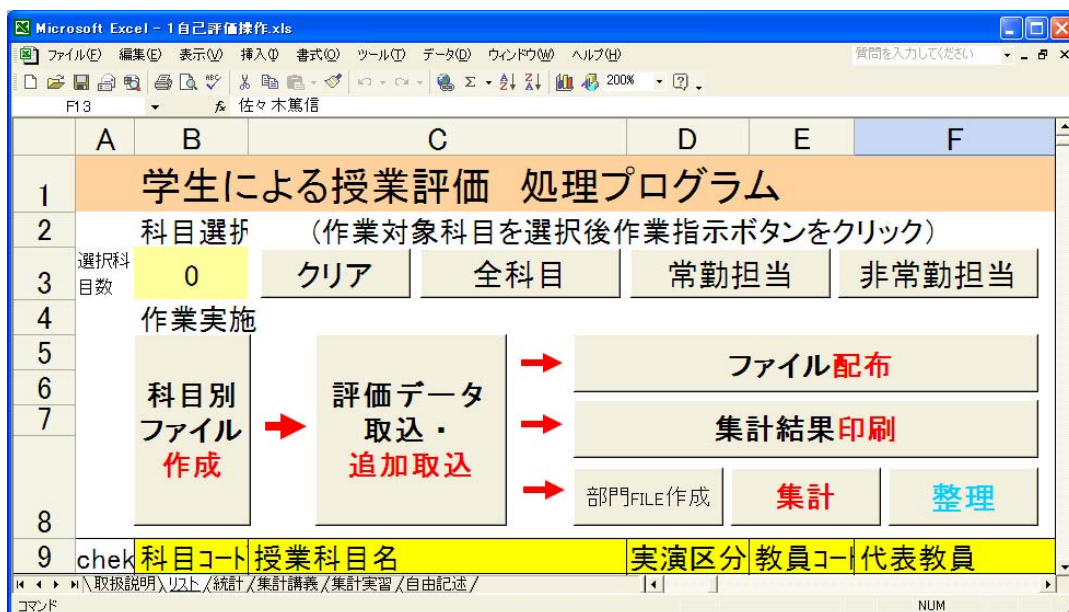


図-03：[リスト] シートのボタン配置

b. 講義科目用雛形ファイル、実習系科目用雛形ファイル 科目毎のデータを集計するためのファイルの雛形であり [印刷]、[アンケート集計]、[自由記述] の3シートから成る。シート名からこのファイルの概要が把握できるよう可視性に配慮している。[印刷] シートは内容の追加もあり次期バージョンから [印刷・分析] に変更予定である。科目ごとの集計用ファイルはこれを開きファイル名を科目名に変えて保存することで作成する。その際シート内の所定の位置に科目名称等が自動的に書込まれる。

[印刷] シートには各教員が独自に印刷できるよう各シートの印刷マクロ実行ボタンと各設問の最高評価点等のデータ分析が自動的に行えるマクロ実行ボタンが組み込まれていて、その実行結果もこのシートに表示される。また分析結果を見やすくするための色分け機能等も組み込みわかりやすさに配慮した。

[アンケート集計] シートには図-04に示すようにデータ書き込み欄の他、データ数、平均値、各評価値の実数、各評価値の割合とそのグラフを表す欄が用意されており、データ欄に記入するとエクセルの関数機能でそれらは自動的に表示される。

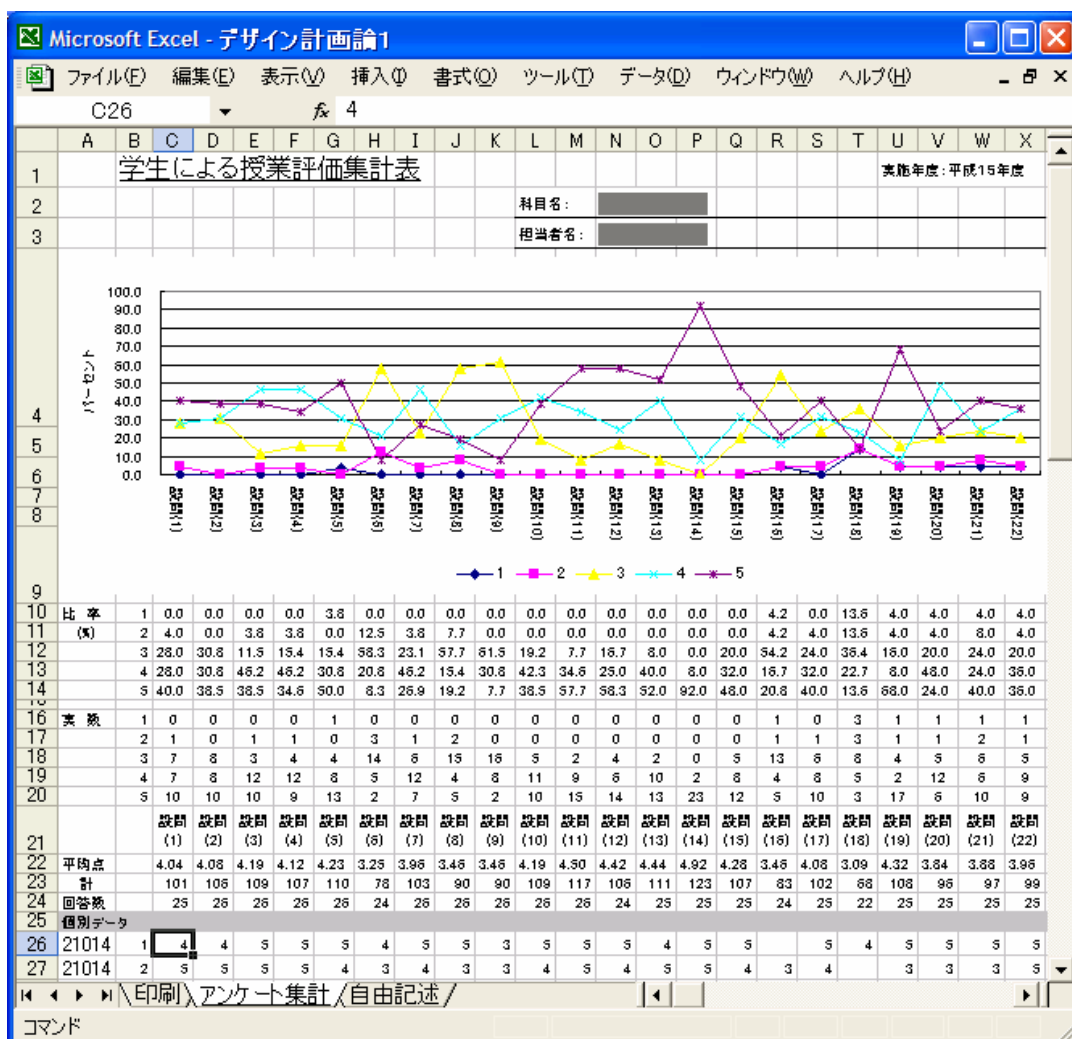


図-04 : アンケート集計シート

[自由記述] シートは自由記述形式の回答を表示する。各データには番号が付されており [アンケート集計] シートの回答との連携が計られている。

c. 部門別集計用ファイル 部門は教養基礎、産業情報学科共通選択科目、産業情報学科経営情報科目、産業情報学科デザイン情報科目、食物栄養学科、社会福祉学科の6部門に分かれる。各ファイルは [使用法]、[印刷]、[1講・常]、[1講・非]、[2講・常]、[2講・非]、[1実・常]、[1実・非]、[2実・常]、[2実・非] の10シートで構成されている。

[使用法] シートは文字通りこのファイルの操作手順を示したものである。

[印刷] シートには各シートの一括印刷マクロ実行ボタンと各設問の最高評価点等のデータ分析が自動的に行えるマクロ実行ボタンが組み込まれていて、その実行結果もこのシートに表示される。それらの点は科目ファイルと同様であるが、ここでは各部門間の相違が一望できるよう分析結果を配置した上で見やすくするための色分け機能等も組み込みわかりやすさに配慮している。

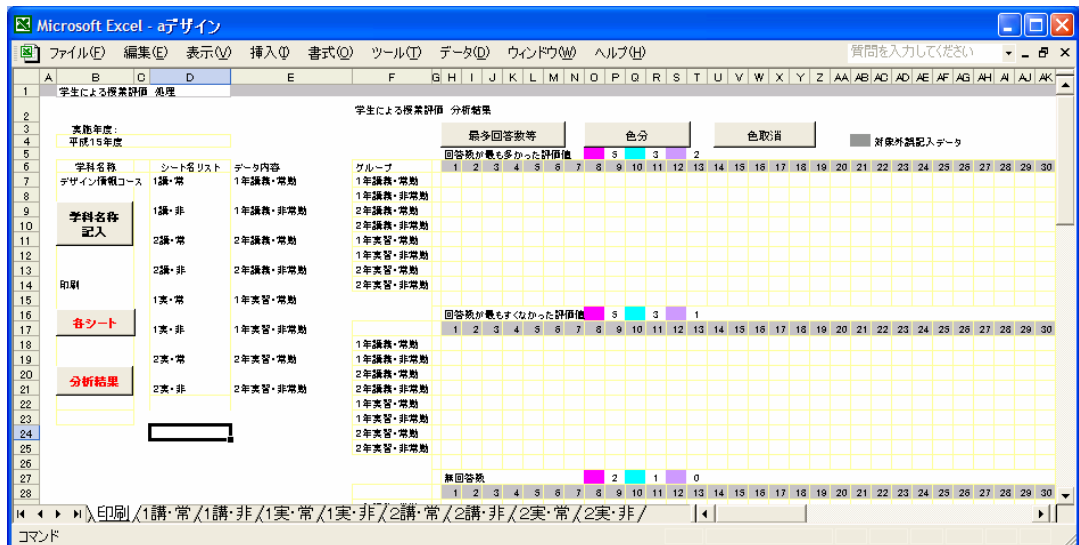


図-05：部門別集計ファイルの [印刷] シート（左に印刷関係ボタン 上に分析関係ボタン機能によってボタン配列をグループ分けしている。）

その他のシートの構成は科目ファイルの [アンケート集計] シートと同じであり、そのデータ内容は以下の通りである。

- [1講・常]：1年生講義科目・常勤担当分集計
- [1講・非]：1年生講義科目・非常勤担当分集計
- [2講・常]：2年生講義科目・常勤担当分集計
- [2講・非]：2年生講義科目・非常勤担当分集計
- [1実・常]：1年実習・演習科目・常勤担当分集計
- [1実・非]：1年実習・演習科目・非常勤担当分集計
- [2実・常]：2年実習・演習科目・常勤担当分集計

[2実・非]：2年実習・演習科目・非常勤担当分集計

この資料により担当教員がより共通点の多いグループ内で自己への学生評価を比較検討することができる他、学科間での相違、常勤教員担当科目と非常勤講師担当科目間の相違、また講義科目と実習系科目間の相違等を知ることができ、評価への回答作成の手がかりを得ることができる。

4. 授業評価アンケート実施結果

① 経過について

平成15年度前期の学生による授業評価は7月初旬に学生への説明会を開始し、中旬から入力可能となった。入力締め切りは集中講義科目を除き8月上旬とし、集中講義科目については受講後速やかにということになった。Web入力システムは初期に入力済みのマークがでないことという小さなトラブルが1件あったのみで概ね順調にみえた。回答の入力状況は8月1日時点で1600件、8月8日時点で920件、その後夏休み明けの10月1日までに13件、総回答率は44.5%であった。このため入力期間を10月10日まで延長し、10月1日の後期ガイダンスの際、再度入力を依頼した。その結果、新たに474件の回答が寄せられ、回答率は53.5%（重複削除前）となった。

② 結果について

a. 回答率 回答率は表-01：に示すように全体としては51.0%であった。部門別にみると全体としては1年生が57.9%であるのに対し2年生が39.3%と大きな差があり、1年生の方が高い。これは学科毎でも同様の結果となっている。極端な例としてはデザイン情報コースが挙げられる。1年生が60.8%と高率であるのに対し2年生は22.9%と最低となっている。学科コース別で見ると経営情報コースが60.8%で最高であるのに対し同じ産業情報学科のデザイン情報コースは43.3%と最低となっている。これは前回の回収率と比較すると大きな開きがあり、この

学科コース等別集計

学科等	履修者・配布数			回答者数			回答率(%)		
	小計	1年	2年	小計	1年	2年	小計	1年	2年
経営情報	637	353	284	387	229	158	60.75	64.87	55.63
デザイン情報	531	286	245	230	174	56	43.31	60.84	22.86
共通科目	521	373	148	279	215	64	53.55	57.64	43.24
産業情報	1,689	1,012	677	896	618	278	53.05	61.07	41.06
食物栄養	1,240	629	611	557	362	195	44.92	57.55	31.91
社会福祉	1,717	914	803	869	525	344	50.61	57.44	42.84
教養基礎	946	946	0	553	553	0	58.46	*	*
自由科目	96	96	0	25	25	0	26.04	*	*
合計	5,688	3,597	2,091	2,900	2,083	817	50.98	57.91	39.07

表-01：受講者、回答実数、回答率（重複入力データ削除後）

原因を探る必要がある。またこの表には無いが講義系・実習系の別でみると講義系が54.3%、実習系が41.1%であり講義系の方が高い結果となっている。

	全体			講義系			実習系		
	科目数	受講生数	受講生数平均	科目数	受講生数	受講生数平均	科目数	受講生数	受講生数平均
80%以上	2	35~51	43.0	2	35~51	18.0	0		
70%以上80%未満	7	36~48	43.7	4	37~51	42.8	3	36~48	40.0
60%以上70%未満	36	12~84	45.3	26	31~70	39.2	10	12~84	44.8
50%以上60%未満	38	6~51	41.3	25	6~36	36.4	13	6~51	36.1
40%以上50%未満	23	7~63	38.8	13	7~50	44.2	10	7~63	40.6
30%以上40%未満	12	16~47	35.2	6	17~47	53.2	6	16~47	37.8
20%以上30%未満	12	22~47	36.9	8	22~47	44.9	4	33~45	42.5
10%以上20%未満	10	7~47	29.6	6	17~47	47.7	4	7~45	28.5
0%	4	1~27	10.0	2	1~27	59.0	2	5~7	6.0

表-02：回答率を軸とした科目数と受講生の分布

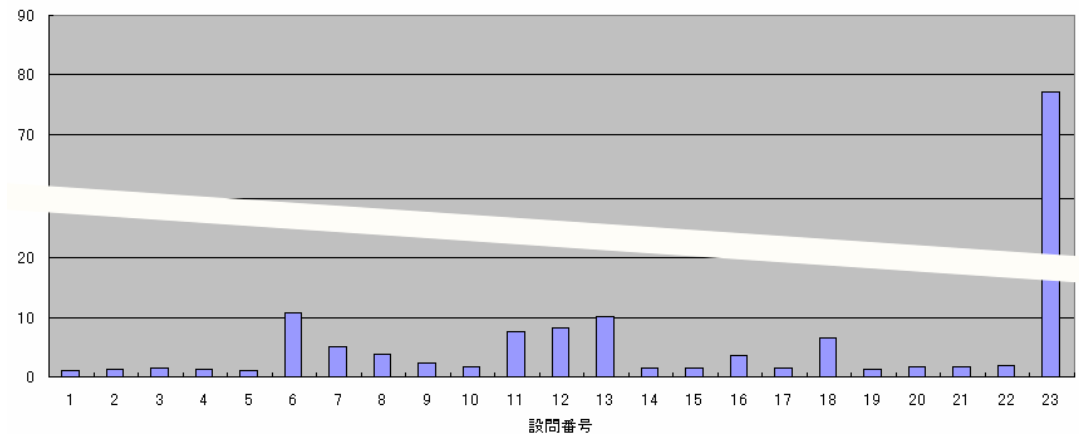
b. 科目ごとの回答率 回答結果を科目単位で見えていくと「表-02：回答率を軸とした科目数と受講生の分布」に示すとおり最高は82.6%で50%から70%に山があることがわかる。これを講義系と実習系の別で見ても同様の傾向がみられる。回答無しの科目も4科目あった。内訳は実習科目で2科目（受講生は7人と5人）、講義科目で2科目（受講生は1人と27人）である。少人数だと匿名性が保たれないとの懸念もあり回答しにくいということも考えられるが、受講生27人で回答0は別の原因がありそうである。

c. 回答者率 回答率は51.0%であったが果たして実人数はどれくらいであったろうか。そこで各1Dの回答科目数を調査し集計してみたのが「表-03：学科コース別1人当たり回答科目数の分布」である。これによると1科目も回答していない学生が全体で31.5%いる。最も少ないのは社会福祉学科1年生の15.7%、最も多いのはデザイン情報コース2年生の63.6%である。これを1科目以上回答した学生の割合という視点で見ると全体の69.5%、7割となる。実に社会福祉学科の1年生は84.3%の学生が回答していた。回答率22.86%で最低だったデザイン情報コースの2年生でも36.4%の学生は1科目以上回答しているのである。この結果をみると回答すべき科目数の多さが回答率の低下の一因と考えられる。またこの表をみると0、1科目の辺りの他に10科目前後と20科目前後に山がみられる。前者を形作るのは2年生であり後者は1年生である。履修科目数の多い1年生の方が回答率が高いという事実も見逃せない。

d. 設問ごとの回答率 「図-06：設問ごとの無回答率」は設問毎に無回答の割合をグラフで表したものである。今回のアンケートでは答えにくい設問には答えなくてよいとの断りがあったことから設問1から23（24以降は実習科目のみであり、科目によって内容も異なるのでここでは取り上げない）間での回答の有無を調べてみた。結果としては自由記述とした設問23を除けば設問6と13が僅かに10%を超えた程度で総体としては高い回答率を示している。特異な点としては1から22まで全門無回答が14、そのうち設問23のみ記入しているものが2、設問24から30に記入しているものが2件ある（これは画面の実習用ということだから実習はここだけ記入すべ

回答科目数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数
24	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	2.0	1	0.3	1
23	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	2.0	1	3.9	2	0.9	3
22	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	2.4	1	0.0	0	15.7	8	2.7	9
21	2.4	1	2.7	1	0.0	0	3.0	1	0.0	0	2.4	1	2.0	1	17.6	9	4.2	14
20	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	4.3	2	19.0	8	0.0	0	9.8	5	4.5	15
19	0.0	0	8.1	3	0.0	0	15.2	5	0.0	0	9.5	4	0.0	0	3.9	2	4.2	14
18	0.0	0	8.1	3	0.0	0	6.1	2	0.0	0	11.9	5	0.0	0	0.0	0	3.0	10
17	0.0	0	24.3	9	0.0	0	9.1	3	0.0	0	0.0	0	3.9	2	2.0	1	4.5	15
16	0.0	0	5.4	2	0.0	0	3.0	1	2.2	1	0.0	0	9.8	5	0.0	0	2.7	9
15	0.0	0	5.4	2	0.0	0	9.1	3	2.2	1	0.0	0	7.8	4	0.0	0	3.0	10
14	2.4	1	0.0	0	0.0	0	6.1	2	4.3	2	0.0	0	2.0	1	0.0	0	1.8	6
13	4.8	2	5.4	2	3.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	3.9	2	3.9	2	2.7	9
12	2.4	1	2.7	1	0.0	0	3.0	1	6.5	3	2.4	1	2.0	1	0.0	0	2.4	8
11	7.1	3	10.8	4	3.0	1	6.1	2	4.3	2	0.0	0	0.0	0	0.0	0	3.6	12
10	9.5	4	0.0	0	3.0	1	0.0	0	4.3	2	4.8	2	0.0	0	2.0	1	3.0	10
9	2.4	1	0.0	0	3.0	1	0.0	0	8.7	4	2.4	1	5.9	3	0.0	0	3.0	10
8	14.3	6	0.0	0	9.1	3	3.0	1	0.0	0	0.0	0	3.9	2	0.0	0	3.6	12
7	9.5	4	0.0	0	6.1	2	0.0	0	2.2	1	0.0	0	0.0	0	2.0	1	2.4	8
6	7.1	3	0.0	0	3.0	1	0.0	0	2.2	1	7.1	3	3.9	2	3.9	2	3.6	12
5	4.8	2	0.0	0	0.0	0	3.0	1	2.2	1	4.8	2	3.9	2	3.9	2	3.0	10
4	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	2.0	1	0.0	0	0.3	1
3	0.0	0	5.4	2	0.0	0	3.0	1	2.2	1	2.4	1	2.0	1	2.0	1	2.1	7
2	0.0	0	5.4	2	0.0	0	0.0	0	4.3	2	2.4	1	2.0	1	5.9	3	2.7	9
1	9.5	4	0.0	0	6.1	2	9.1	3	2.2	1	0.0	0	3.9	2	3.9	2	4.2	14
0	23.8	10	16.2	6	63.6	21	21.2	7	45.7	21	28.6	12	39.2	20	15.7	8	31.5	105
分類	経営2年	経営1年	デザイン2	デザイン1	食物2年	食物1年	社福2年	社福1年	合計									

表－03：学科コース別1人当たり回答科目数の分布



図－06：設問ごとの無回答率

きと誤解したためであろうか)。従って全門無回答のものは10件であった。このうち3件は後述するように入力済みマークが出なかったための複数回入力に原因があると思われる。

このグラフからは設問6, 11, 12, 13は学生が答えにくい問いであったことが読み取れる。

内容あるいは設問方法の見直しを検討すべきであろう。また自由記述とした設問 24 は 77.0% に記述が無かった。

e. **回答の信頼性** 今回集められた回答は 100% 信頼できるものなのであろうか。これは怪我の功名的なものであるが、入力画面を講義系も実習系も同一とし、画面上で分類を示したため結果として講義科目にもかわらず設問 24 から 30 に答えているものがみられた。その数 175、全データの 8.7% にあたる。アンケート用紙の記入結果をみて入力するという手続きが守られていればありえない結果である。またシステム上の不備から同一人物が同一科目に 2 回（92 組）ないし 3 回（5 組）回答していた。これは入力したのに入力済の表示がされないために再度入力したものと思われる。これを分析してみると問題となるデータは第 1 回目に集計されたものと第 2 回目に集計されたものとの渡る多重入力であった。同一データ群の中での多重入力は 18 組であった。第 1 群に 9 組（うち 2 組は 3 回のうちの 2 回）、第 2 群も 9 組（うち 1 組は 3 回のうちの 1 回のもの、2 組は 3 回全てが入っていた）。また多重入力の回答結果を見ると 98 組中 77 組、78.6% が異なった回答を入力している。同じ答えを入力しているものは 20 しかなくこれらはすべて同一データ群にみられる。換言すれば異なった日に入力するとはほぼ 100% 前回と異なる答えが入力されるということである。ここでもアンケート用紙の記入結果をみて入力するという手続きが守られていないことが見て取れる。

5. システムの運用結果

① Web システム

Web システムについては概ね順調に運用できたが、途中でデータを取り出したことで思わぬトラブルが発生した。現象としては入力済みマークが出ないというものであるが、これが多重入力という結果を招いてしまった。しかし数は少ないが同一グループ内での多重入力データの存在の原因は別にあると思われる。入力後確認ボタンをクリックせずにブラウザの「戻る」ボタンで科目選択画面に戻り、別の科目を入力しようとした場合である。このシステムでは確認ボタンをクリックせずとも入力結果が記録されてしまうにもかかわらず、入力済みのマークは表示されなかった。記録されると表示が出るという学生側の概念モデルとシステムイとに相違があったために起こった事故である。Norman のいうようにユーザーの作り出すイメージとシステムイメージの一致の大切さを痛感した。

② 集計システム

集計システムの方は政策担当者がこれを運用したことから大きな混乱は無かった。しかし非常勤

講師への配布のための印刷過程で印刷ができないというトラブルが生じた。これは事務の方が担当されたのだが、コンピュータが余り得意でない方に対し説明が十分でなかったことが最大の原因であった。当たり前と思われることでも必要とする人がある。そう思って付けておくとわずらわしく思う人もある。使用者に合わせたシステム状態の選択が可能になるようなデザインが必要である。

6. 考察

今回の回答率を前回の結果全学平均85%と比較してみると大きな差がみられる。ペーパーへの記入というところまでは前回とほぼ同じであったことを考えると、「記入後すぐに投函」と「センターまで出向いて入力」との差であろうか。学年間の回答率差は1年生は素直に要求に応じてくれたが2年生には無視されたことから生じたのであろうか。しかし学科別に学年の間の相違をみると経営情報コースのように2年生でも全体平均値を上回るものもある。また学科間でもかなりの差がみられる。経営情報コースの回答率が高いことからコンピュータを使用する科目の多少が回答率に影響するとも考えられるが、デザイン情報コースの2年生が極端に低いこと、コンピュータ関連科目の少ない社会福祉学科とかなり使う食物栄養学科の結果は逆（社会福祉学科50.6%、食物栄養学科44.9%）である上に1科目も回答しなかった学生の割合が社会福祉の1年生が1番低いことから、これが主たる原因とはいえない。また、前回は35科目であったのに対し今回140を超えるという数に原因があったのであろうか。「表-2：学科コース別1人当たり回答科目数の分布」をみると1人あたりの回答科目数は学年による履修科目数の違いを反映したものであり、これも主たる原因とはいえないと思えるが、無回答者数に着目すると多少の因を認めざるを得ない。回答率を上げること、回答の信頼性を上げることも結局のところ回答する側の問題であり、いかに学生授業評価が学生自身の利益につながる大切なことであるかを説き、学生自身のインセンティブを高めるかが鍵であるといえよう。

そしてシステムについては既存のアプリケーションを用いることで避けられない問題をカバーするためにデータを検査するシステムの追加が必要であると考えます。

おわりに

委員会で実施したデータをもとに本稿を執筆することを快諾して下さった上に励ましと貴重な助言を下された安江自己総括委員会委員長、Webシステムのデザイン並びにシステム作成の実務を担当し、本稿を執筆するに当たってはWeb画面の画像取り込み等にもご協力いただいた主任技員の湯田亜紀さんと産業情報学科実習助手の三浦円さんにこの場を借りて感謝の意を表します。

個人研究業績等

個人研究業績等 目次

産業情報学科

教授	牧田和久	-----	1
教授	須藤紀雄	-----	2
教授	松浦悠紀子	-----	3
教授	森文雄	-----	4
教授	時野谷茂	-----	5
助教授	石光真	-----	6
助教授	平澤賢一	-----	7
助教授	中澤真	-----	8
助教授	高橋延昌	-----	9
助教授	及川拓也	-----	10
講師	横尾誠	-----	11
講師	大津淳	-----	12

食物栄養学科

教授	成田健	-----	13
教授	渡邊幸夫	-----	14
教授	安江俊二	-----	15
教授	近藤哲	-----	16
助教授	宮下朋子	-----	17
助教授	西村政子	-----	18
講師	鈴木秀子	-----	19
講師	鈴木和	-----	20
助手	穴澤多美子	-----	21
助手	積口順子	-----	22
助手	小針文子	-----	23

社会福祉学科

教授	田中俊雄	-----	24
助教授	小林英義	-----	25
助教授	飯嶋尚	-----	26
助教授	長渕晃二	-----	27
助教授	藤澤宏樹	-----	28
助教授	酒井英明	-----	29
講師	三島亜紀子	-----	30
講師	利根川智子	-----	31

【職・氏名】 牧田和久 (Makita Masahisa) 産業情報学科 (デザイン情報コース) 教授
【専攻分野】 室内計画 住環境計画
【担当科目】 室内計画Ⅱ、設計製図、デザイン情報基礎実習、デザイン情報実習Ⅰ・Ⅱ、
デザイン情報概論、卒業研究Ⅰ・Ⅱ

【主要著書】

- ・「学校施設の人間工学資料集」(富国株式会社、1975) 共
- ・「住居-基礎編、実際編」(小原二郎編、開隆堂出版株式会社、1975) 共

【主要論文】

- ・インテリアイメージの類型化と嗜好に関する研究 (会津短期大学学報, 第 43 号, 1986. 3)
- ・住宅のインテリアカラーコーディネートについて (会津短期大学研究年報, 第 49 号, 1992. 3)
- ・街路景観構成要素のイメージ評価への影響-街路景観のイメージ構造 (その 1) (日本デザイン学会誌デザイン学研究, NO. 94, 1992. 11)
- ・インテリアの質的变化-家具の標準化とシステム化 (日本デザイン学会誌デザイン学研究特集号, 第 2 巻第 3 号, 1994. 11)

【所属学会等】

日本建築学会、日本デザイン学会、日本インテリア学会

【過去 5 年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・会津若松市における中心市街地商店街の街路環境 (地域研究「中心市街地の再生」, 第 11 号, 2001. 3)

【過去 5 年間に行った口頭発表】

- ・会津若松市における交通需要マネジメント施策の方向性 (交通安全事業主会, 2000. 2)
- ・まちづくりと TMO の役割 (日本デザイン学会、第 47 回研究発表大会、2000. 10) 共

【過去 5 年間に行った社会的活動】

会津若松市交通需要マネジメント施策検討会会長 (1998. 2~2000. 3)、三島町住宅マスタープラン推進委員会委員長 (1999. 7~2002. 3)、会津若松市観光審議会委員 (1999. 1~ , H14. 2~副会長)、南郷村優良建築賞審査会委員長 (1993~)、滝根町町制施行 60 周年記念キャラクター、シンボルマーク&キャッチフレーズに係わる審査委員 (2000. 9)、会津若松市都市計画審議会委員長 (2001, 7~)、会津若松市バスを活かしたまちづくり懇談会委員 (2003. 3)、新潟県畑野町佐渡海洋深層水ブランドマーク審査会委員 (2003. 5)、あいづふるさと市町村圏協議会会津いいものガイド作成委託業務プロポーザル審査会委員 (2003. 5)、会津地域道路懇談会会長 (2003. 7~10)、喜多方・耶麻地域道路懇談会座長 (2003. 7~10)、会津若松市国土交通省所管補助事業再評価委員長 (2003. 11~) 他

【職・氏名】 須藤紀雄 (Sudoh Toshiwo) 産業情報学科 (デザイン情報コース) 教授

【専攻分野】 漆工芸

【担当科目】 造形、工芸概論、工芸 A、デザイン情報基礎実習、デザイン情報概論、
デザイン情報実習 I・II、卒業研究ゼミ I・II

【主要作品・発表会】

- ・ 「県美術展招待出品」(県文化センター) 1999
- ・ 「うるし個展」(日本橋三越本店) 2000
- ・ 「県美術展招待出品」(県文化センター) 2000
- ・ 「県美術展招待出品」(県文化センター) 2001
- ・ 「県美術展招待出品」(県文化センター) 2002
- ・ 「県美術展招待出品」(県文化センター) 2003
- ・ 会津本郷町観光案内所外壁デザイン (2003)

【所属学会等】

日本デザイン学会、日本比較文化学会

【過去5年間に行った社会的活動】

扇町土地区画整理審議会委員 (1995～)、喜多方市美術品収集委員会委員長 (1995～)
ふるさとの風景展審査委員 (1995～)、福島県美術展運営委員 (1998～2000)
会津ブランド認定審査委員 (2002～)

- ・
- ・
- ・

- 【職・氏名】 松浦悠紀子(Matsuura Yukiko) 産業情報学科(デザイン情報コース)教授
【専攻分野】 服飾デザイン
【担当科目】 ファッションデザイン論Ⅰ・Ⅱ、デザイン構成、デザイン情報実習Ⅰ・Ⅱ
デザイン情報概論、卒業研究ゼミⅠ・Ⅱ

【主要著書】

- ・「下郷町史 第5巻民俗編」(下郷町史編纂委員会編、歴史春秋社、1982)共
- ・「会津大辞典」(会津辞典編纂会編、図書刊行会、1985)共

【主要論文】1

- ・現代女性のファッション意識の構造に関する研究(会津短期大学学報、第42号、1985)単
- ・正準相関分析による服装イメージとそのデザイン要素のイメージとの関連(繊維機械学会誌、第46巻 第4号、1993)共
- ・高校生のライフスタイルと被服行動に関する一考察(ファッションビジネス学会論文誌、Vol. 1、1995)共
- ・体型と服装デザインに関する研究(会津大学短期大学部研究年報、第53号、1996)単
- ・成人女性の体型に合う水平切替線と白黒を配した服装デザイン(ファッションビジネス学会論文誌、Vol. 5、1999)共

【所属学会等】

日本家政学会、日本繊維製品消費科学会、ファッションビジネス学会、日本デザイン学会

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・成人女性の体型に合う水平切替線と白黒を配した服装デザイン(ファッションビジネス学会論文誌、Vol. 5、1999)共
- ・高校生のライフスタイルと被服行動に関する一考察(第3報)―高校生のライフスタイル特性と被服行動特性との関連―(ファッションビジネス学会論文誌、Vol. 5、1999)共
- ・女子中・高校生下肢障害者のための被服デザインに関する事例研究(会津大学短期大学部研究年報、第59号、2002)共
- ・女子学生と母親の身体意識と着装行動に関する研究(ファッションビジネス学会論文誌、Vol. 8、2003)共

【過去5年間に行った社会的活動】

- ・福島県リゾート景観形成審議会委員(1991年度～1999年度)
- ・喜多方市基本計画審議会委員(2000年)
- ・うつくしま未来博 会場サービスアシスタントユニホームデザイン審査委員会委員(2001年)
- ・会津若松市公民館運営審議会委員(2002年度～現在に至る)

【職・氏名】 森 文雄 (Mori Fumio) 産業情報学科 (経営情報コース) 教授

【生年月日】 1946. 7. 18

【専攻分野】 マーケティング、流通論

【担当科目】 マーケティング、経営管理総論 I・II、産業経営史 I・II、経営情報概論、卒業研究 I・II

【主要著書】

- ・ 「小売マーケティング」『現代マーケティング論』安部文彦・岩永忠安編著、ミネルヴァ書房、1998、119～135 ページ、単。
- ・ 「マーケティングの系譜と新展開」『経営学の潮流』鈴木辰治編著、中央経済社、2000、127～146 ページ、単。
- ・ 「企業と消費者」『企業倫理の経営学』鈴木辰治・角野信夫編著、ミネルヴァ書房、2000、151～182 ページ、単。

【主要論文】

- ①日本の流通システムの変革と取引慣行(新潟大学大学院現代社会文化研究科博士論文 1996) 単
- ②消費者問題の特質と課題 (会津大学短期大学部研究年報第 57 号、2000) 単
- ③中心市街地活性化運動の主体について (会津大学短期大学部研究年報第 58 号、2001) 単
- ④伝統的地場産業の振興と地域ブランドを生かしたまちづくり (会津大学短期大学部研究年報第 60 号、2003) 単
- ⑤企業倫理とグローバル化: Unternehmensethik und Globalisierung, Horst Steinmann und Shinji Suzuki (会津大学短期大学部研究年報第 61 号、2004) 共訳

【過去 5 年間に行った口頭発表】

- ①会津にみるまちづくりの多面性とその主体 (日本産業科学学会、2000. 7)
- ②まちづくりの多面性とその主体-TMO によるまちづくりと NPO によるまちづくり (日本商業学会東日本大会、2000. 11)
- ③伝統産業の新たな産地形成について—漆器産地の伝統的構造からの変革 (第 26 回日本消費経済学会 2001. 6)
- ④伝統的地場産業の振興と中心市街地活性化との連携可能性 (第 8 回日本産業科学学会 2002. 7)
- ⑤伝統産業の工房と地域ブランドを活かした産業振興について (第 1 回地域政策学会 2002. 12)
- ⑥地域ブランド創出の手法と課題—会津ブランド「会津 史・季・彩・再」の事例を中心として (第 1 回地域政策学会 2002. 12)

【所属学会等】

日本商業学会、日本経営学会、日本消費経済学会、日本地域政策学会、日本中小企業学会

【社会的活動】

会津若松地域中高年雇用支援会議委員 (1998、1999)、会津若松酒造組合需要開発事業アドバイザー (1999)、会津若松市商工審議会会長 (2000-) 会津若松商工会議所販売士資格更新講習会講師 (1999-) 福島県地場産業振興指針検討委員会委員(2001) 会津ブランド推進幹事会幹事長(2001-) 福島県労政協会県南支部記念講演「変革の時代における地域産業」(2001) 会津ブランド認定審査委員会会長(2002-)「AIZU TERAKOYA 漆」地域づくりアドバイザー (財) 地域活性化センター助成事業(2002-) 「会津匠の会」アドバイザー：福島県地場産業振興事業(2002) 福島県地場産業振興委員会委員(2003) 会津若松商工会議所講演会「地域ブランド創出の意義と課題」(2003) 会津漆器経営者協会創立 30 周年記念講演「グローバル時代と伝統産業」(2003) 講演「地域ブランドを中心とした地域学習」城北、門田、湊小、若松二中(2003)

【職・氏名】 時野谷茂 (Tokinoya Shigeru) 産業情報学科 (デザイン情報コース) 教授

【専攻分野】 建築デザイン 工業デザイン

【担当科目】 デザイン計画論Ⅰ・Ⅱ、デザイン史、デザイン情報基礎実習、デザイン情報概論
デザイン情報実習Ⅰ、卒業研究Ⅰ・Ⅱ

【主要著書】

- ・「大工道具集」(新建築社、1984) 共
- ・「復元鹿鳴館・ニコライ堂・第一国立銀行」(ユークシープランニング、1996) 共

【主要論文】

- ・日本近代建築保存に関する基礎的研究」(東京大学修士論文 1980.2)
- ・Terraced Houses In London Facade composition analysis from townscape viewpoint (Third Asia Design Conference Proceeding 1998.10)

【所属学会等】

日本建築学会、日本デザイン学会、感性工学会

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・類似都市調査報告(地域研究「中心市街地の再生」、第11号、2001.3)
- ・デザイン手法の研究 コンピュータプログラムによる D.A.Norman のデザイン思想の研究(2) 学生による授業評価システムへの応用(会津大学短期大学部研究年報、第61号、2004.3)
- ・2003年度会津大学文化研究センター公開セミナー「まちと景観」(会津大学文化研究センター研究年報 第10号)

【過去5年間に行った口頭発表】

【過去5年間に行った社会的活動】

会津若松市景観審議会委員(1990～)、福島県良質木造住供給推進会議委員長(1999)、猪苗代地区道路景観整備検討委員会委員(1999)、49号三ツ和地区道路環境整備懇談会座長(1999)、会津歴史の町づくりシンポジウムコーディネータ(1999)、河東町住宅マスタープラン策定幹事会幹事長・策定委員会委員(2000～2001) ・推進委員会副委員長((2001～2004)、会津レクリエーション公園景観検討委員会委員長(2000)、サイクリングロード公衆トイレ検討委員会委員長(2000)、西若松駅自由通路(2000～2001) ・周辺施設(2003～2004)景観検討委員会委員長、田島町総合文化・保険複合施設新築工事プロポーザル競技審査委員会委員長(2000～2001)、地域木造住宅産業活性化シンポジウムコーディネータ(1999)、磐越高速道路4車線化記念座談会座長(2001)、富岡保育所基本設計簡易コンペ審査委員(2001)、都市計画道路亀賀門田線景観検討委員会委員長(2002～2003)、県営住宅八日町団地建替事業基本設計業務簡易プロポーザル審査委員(2002～2003)、東京大学生産技術研究所研究員(2003～)、会津本郷町住宅マスタープラン策定委員会委員長(2003～2004)、「田沼文蔵記念館」プロポーザル審査委員(2003)

【職・氏名】 石光真 (Ishimitsu Makoto) 産業情報学科 (経営情報コース) 助教授

【専攻分野】 財政学、経済学

【担当科目】 財政学、経済学 I・II、経済政策 I・II、日本経済論、くらしと経済、卒業研究ゼミ I・II、経営情報概論

【主要著書】

【主要論文】

- ・「クーポン税と源泉税——西ドイツにおける債券利子課税の推移——」証券経済研究所『証券研究』Vol. 88 (1989年9月) 単著
- ・「ドイツ連邦鉄道の経営と民営化の可能性」東北大学経済学会 研究年報『経済学』Vol. 52 No. 4 (1991年2月) 単著
- ・「西ドイツの経済安定政策」馬渡尚憲責任編集『現代の資本主義 構造と動態』御茶の水書房 (1992年3月) 単著
- ・「ドイツの年金改革——賦課方式内の財源措置と積立方式への部分的移行」会津大学短期大学部『会津大学短期大学部研究年報』第58号 (2001年3月)

【所属学会等】

日本財政学会 (1989年～)

公益事業学会 (1992年～)

東北経済学会 (1992年～。1993年から評議員)

International Institute for Public Finance (1996年～)

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・国債管理の日独比較『東北経済学会誌』1999年度 (2000年3月) 単
- ・ドイツの年金改革——賦課方式内の財源措置と積立方式への部分的移行会津大学短期大学部『会津大学短期大学部研究年報』第58号 (2001年3月) 単
- ・ドイツ年金改革の背景『東北経済学会誌』2001年度 (2002年3月) 単

【過去5年間に行った口頭発表】

- ・ドイツの年金改革 (日本財政学会第57回大会 2000年10月) 単
- ・German Economists on Pension Reform (東北経済学会第55回大会 2001年9月) 単
- 年金改革と少子化対策—国際比較— (東北経済学会第57回大会 2003年9月) 単
- ドイツ2001年年金改革の政治経済学 (日本財政学会第60回大会 2003年10月) 単

【過去5年間に行った社会的活動】

福島県大規模小売店舗審議会特別委員 (1997～2000)・

福島県 PFI 推進協会理事 (1999～2004)

会津北部・置賜南部交流シンポジウムパネリスト・ディスカッションコーディネーター (2000)

会津若松市下水道等料金運営審議会会長 (2000)

会津坂下町公共事業評価委員会委員 (2000～)

会津地方振興局主催シンポジウムパネリスト・ディスカッションコーディネーター (2001)

福島県労政協会県南支部記念講演 (2002)

会津地方環境パートナーシップ会議代表 (2003～)

会津若松市下水道料金審議会会長 (2003～)

【職・氏名】 平澤賢一 (Hirasawa, Ken-ichi) 産業情報学科(経営情報コース) 助教授
【専攻分野】 国際人事
【担当科目】 現代企業論Ⅰ・Ⅱ、外書講読Ⅰ・Ⅱ、国際経営論、経営情報概論、
卒業研究ゼミⅠ・Ⅱ

【主要著書】

- ・『経営の国際開発に関する研究～現代企業を動かす経営理念の実証研究』(奥村恵一編著、多賀出版、1997) 共
- ・『経営学講義』(奥村恵一編著、中央経済社、1997) 共

【主要論文】

- ・「銀行における組織の公式化」について(横浜国際開発研究第1巻第1号、1996) 単
- ・銀行における海外支店組織の公式化(横浜国立大学大学院国際開発研究科、博士論文、1997) 単
- ・外資系企業人事部の役割と意思決定プロセス(日本労務学会第34回全国大会報告論集、2004) 共

【所属学会等】

日本経営学会、日本労務学会、国際ビジネス研究学会、日本広報学会、異文化経営研究会

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・外資系銀行人事部の役割(経営学論集72集、日本経営学会編、2002) 共
- ・外資系企業人事部の役割と意思決定プロセス(日本労務学会全国大会報告論集、2004) 共

【過去5年間に行った口頭発表】

- ・ The Role of Human Resources Dept. in Japan Branches of Foreign Banks (The 3rd Asia Pacific International Conference of Association for Business Communication, Kyoto, August 2000)、単
- ・ 外資系金融機関における人事部の役割(日本経営学会東北部会、2000)、単
- ・ 外資系銀行人事部の役割について(日本経営学会全国大会、2001)、単
- ・ 外銀人事部の役割と意思決定プロセス—企業内コミュニケーションの観点から—(日本労務学会東北部会、2003)、単
- ・ 外資系企業人事部の役割と意思決定プロセス—日韓事例比較—(日本労務学会全国大会、2004)、単

【過去5年間に行った社会的活動】

- ・ 会津若松市水道事業経営審議会委員(1999～2000)
- ・ 会津若松市行政改革システム改革懇談会委員(2000)
- ・ 会津若松商工会議所主催「新規開業応援セミナー」個別相談員(2000)
- ・ 喜多方市行政改革推進委員(2003.2～)
- ・ 会津若松市行政機構審議会委員(2003.10～11)
- ・ 会津若松商工会議所65歳継続雇用達成会議委員長(2003.9～)
- ・ 会津若松市職員研修会講師「グループ制におけるグループリーダーの役割」(2004.2.17)

【職・氏名】 中澤真 (Nakazawa Makoto) 産業情報学科 (経営情報コース) 助教授
【専攻分野】 情報工学
【担当科目】 プログラミング論、プログラミング言語論、経営情報概論、
コンピュータ概論(経営)、コンピュータ概論(デザイン)、卒業研究ゼミ I・II

【主要著書】

- ・「PC ネットワーク利用ガイド 1999 年度版」(早稲田大学 MNC、1999) 共
- ・『OS 基礎』オンライン教科書」(法政大学大学院工学研究科、2002)

【主要論文】

- ・情報理論に基づく帰納推論に関する研究 (早稲田大学修士論文 1994.3)
- ・On the Complexity of Hypothesis Space and the Sample Complexity for Machine Learning (IEEE International Conference On SMC,1994) 共
- ・On Application of IC Card to Secure Distribution System of Software (IEEE International Conference On SMC,1994) 共
- ・形式言語と情報源符号化の関係について (IMSE Technical Report,2002) 共
- ・On a Weight Structure for On-line Learning and its Mistake Bound (IMSE Technical Report,2002) 共

【所属学会等】

IEEE (The Institute of Electrical and Electronic Engineers) 、ACM (Association for Computing Machinery)、情報処理学会、情報理論とその応用学会

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・Cut-And-choose 法を用いない Schnorr 認証を応用した電子現金について (日本経営工学会平成十二年秋期研究大会, 2000)
- ・「インターネットを用いた研究活動支援システム」システム構成 (PC カンファレンス, 2001) 共
- ・形式言語と圧縮に関する一考察 (電子情報通信学会技術研究報告,IT2001-46,2001) 共
- ・「インターネットを用いた研究支援システム」システム構成と評価 (日本経営工学会平成十三年秋期研究大会, 2001) 共
- ・計算論的学習と情報圧縮に関する一考察 (電子情報通信学会技術研究報告,IT2002-7,2002) 共
- ・「インターネットを用いたゼミと研究指導」実用化報告 (PC カンファレンス, 2002) 共
- ・計算論的情報源モデルと圧縮アルゴリズム (電子情報通信学会技術研究報告,IT2002-30,2002) 共
- ・インターネットを用いた研究支援システム (大学情報化全国大会,2003) 共

【過去5年間に行った口頭発表】

【過去5年間に行った社会的活動】

- ・1999 情報論的学習理論ワークショップ実行委員会委員 (1999)
- ・会津地区広域事業組合運営審議会委員 (2003)

【職・氏名】高橋 延昌(Takahashi Nobumasa) 産業情報学科 (デザイン情報コース) 助教授

【専攻分野】グラフィックデザイン

【担当科目】デザイン構成、デザイン情報概論、コンピュータ創造基礎演習 A、デザイン情報基礎実習、デザイン情報実習 I (グラフィック)、卒業研究ゼミ I・II (グラフィック)

【主要論文】

- ・教科書における図表デザインの研究-中学校社会科公民的分野の教科書を対象として-
(筑波大学芸術研究科修士論文梗概集、162-165、1996. 3) 単
- ・カメラ撮影を CG 教育の初期段階に活用する課程についての考察
(会津大学短期大学部研究年報第 61 号、2004. 3) 単

【所属学会等】

日本デザイン学会、日本基礎造形学会

【過去 5 年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・うしくについて I (第 5 回うしく現代美術展、1999. 11) 単
- ・うしくについて II (第 6 回うしく現代美術展、2000. 10) 単
- ・会津大学短期大学部 大学案内 2004 (AD FLASH MONTHLY 253 号、92、2003. 9) 共
- ・短大 VI 2003 (日本基礎造形学会 2003 年度作品集、20、2004. 1) 単

【過去 5 年間に行った口頭発表】

- ・教科書における図表デザインの研究・2 -中学校社会科公民的分野の教科書を対象として-
(日本デザイン学会第 48 回研究発表大会、2001. 10) 単
- ・出版業界にかかわるインターンシップ的デザインの試み-短大生によるタウン誌の編集参加-
(日本デザイン学会第 49 回研究発表大会、2002. 11) 単
- ・教科書のデザインに関する調査 [1] (日本基礎造形学会第 14 回大会、2003. 9) 単

【過去 5 年間に行った社会的活動】

- ・平成 13 年度 IT 基礎技能講習会 正講師 (会津大学短期大学部、2002. 1)
- ・第 15 回全国健康福祉祭ふくしま大会メダルデザイン選考委員会委員 (福島県、2002. 1-3)
- ・福島空港シンボルマーク選考委員会委員 (福島県、2002. 5-7)
- ・Open Junior College 2002 CG 入門「モーフィング」(平成 14 年度会津大学短期大学部公開講座、2002. 9)
- ・Open Junior College 2003 CG 入門「立体視」(平成 15 年度会津大学短期大学部公開講座、2003. 8)
- ・ふくしま学習空間・夢まなびとロゴ・マーク作品監修 (福島県教育庁生涯学習文化グループ、2003. 11)
- ・福島県学力向上事業により依頼された出張授業「コンピュータグラフィックス 1・2」(福島県立二本松工業高等学校、2004. 2)

【職・氏名】 及川拓也 (Oikawa Takuya) 産業情報学科 (経営情報コース) 助教授

【専攻分野】 財務会計 監査

【担当科目】 簿記概論 I・II、財務会計論 I・II、工業簿記論 I、経営情報概論、卒業研究ゼミ I・II

【主要著書】

【主要論文】

- ・ 年金負債の償却に係る経営者の会計行動 (博士論文、東北大学、2003年3月) 単
- ・ 年金負債の割引率について (企業会計、中央経済社、2001年2月) 共
- ・ 監査と株価形成—市場は監査役監査と内部監査を認識しているか— (月刊監査研究、日本内部監査協会、2003年12月) 共
- ・ ゴーイング・コンサーン情報の監査に関する考察—線形判別モデルの意義と限界— (現代監査、日本監査研究学会、2004年3月) 単
- ・ ゴーイング・コンサーン監査情報の情報価値 (月刊監査研究、日本内部監査協会、2004年3月) 共

【所属学会等】

日本会計研究学会、日本監査研究学会

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・ 年金負債の認識の体系と論理 (研究年報経済学、東北大学、2000年5月) 単
- ・ 年金会計情報と株価の反応 (研究年報経済学、東北大学、2000年9月) 単
- ・ 給付建年金プランを巡る経営者の会計行動 (研究年報経済学、東北大学、2000年12月) 単
- ・ 監査教育の現状と課題—国際比較と今後の展望— (中間報告) (日本監査研究学会、2003年9月) 共
- ・ 監査の資本コスト低減効果 (月刊監査研究、日本内部監査協会、2004年2月) 共

【過去5年間に行った口頭発表】

- ・ 年金負債の割引率について (日本会計研究学会東北部会、2001年5月) 単
- ・ 監査教育の現状と課題—国際比較と今後の展望— (中間報告) (日本監査研究学会第26回全国大会、2003年9月) 共
- ・ ゴーイング・コンサーン情報の監査に関する考察—線形判別モデルの意義と限界— (日本監査研究学会第26回全国大会、2003年、9月) 単

【過去5年間に行った社会的活動】

- ・ 会津若松市水道事業経営審議会委員 (2001年7月～2003年6月)

【職・氏名】 横尾 誠 (Yokoo Makoto) 産業情報学科 (デザイン情報コース) 講師
【専攻分野】 芸術工学 (インターフェースデザイン)
【担当科目】 デジタルデザイン論, デジタルデザイン演習, コンピューター創造基礎演習A (経営情報コース), デザイン情報実習 I・II, 卒業研究ゼミ I・II

【主要著書】

・なし

【主要論文】

- ・ A Design and Design Process of Reading Test Tool for Animating Character Display (4th. Asian Design Conference Bulletin pp711-720, 1999) 共
- ・ The Effect of Animating Character Displaying method to User's Reading (4th. Asian Design Conference Bulletin pp557~568, 1999) 共
- ・ モバイル情報機器におけるハングル文字コミュニケーションと動的表現 (芸術工学会, 芸術工学会誌 21 号 pp113~118, 1999) 共
- ・ アイゲイズインタフェースにおける文字入力ツール (芸術工学会, 芸術工学会誌 26 号, pp114~117, 2001) 共
- ・ アイゲイズインタフェースのユーザビリティ評価 (日本デザイン学会, デザイン学研究 49 号, pp51-60, 2002) 共

【所属学会等】

日本デザイン学会、芸術工学会

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・ 携帯情報端末における運動表示文字に関する研究 (九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科 修士論文 2000, 3)
- ・ 情報ツールとしてのアイゲイズインタフェースの特性とデザインの要件 (九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科 博士論文 (甲第 70 号) 2003, 3)

【過去5年間に行った口頭発表】

- ・ 文字の動的表示とユーザの生体負担の評価方法 (日本デザイン学会、第 47 回研究発表大会 2000, 10) 共
- ・ アイゲイズインタフェースにおける文字入力方式に関する研究 (日本デザイン学会、第 48 回研究発表大会 2001, 10) 共
- ・ アイゲイズインタフェースにおける注視点安定化要素 (日本デザイン学会、第 48 回研究発表大会 2001, 10) 共
- ・ アイゲイズインタフェースにおけるオブジェクトコントロール (日本デザイン学会、第 49 回研究発表大会 2002, 11) 共

【過去5年間に行った社会的活動】

会津大学開学 10 周年記念 CG コンテスト 審査委員 (2003 年度)

【職・氏名】 大津 淳 (Ootsu Kiyoshi) 産業情報学科 (経営情報コース) 講師
【専攻分野】 財務会計 税務会計
【担当科目】 会計学概論Ⅰ・Ⅱ、コンピュータ会計Ⅰ・Ⅱ、工業簿記論Ⅱ、経営情報概論、卒業研究ゼミⅠ

【主要著書】

- ・「最新簿記重要仕訳」(税務経理協会、2002年) 共

【主要論文】

- ・会計構造論に関する一考察ー包括利益概念の導入をめぐる財務業績の再検討ー (修士論文、東北大学、1999年3月) 単
- ・包括利益概念の財務業績としての妥当性ーアメリカ・イギリスにおける利益概念を中心としてー (研究年報経済学64(2)、東北大学、2002年10月) 単
- ・企業財務と株価に関する研究ー日本の財務優良企業における会計情報の株価説明力ー (博士論文、東北大学、2003年3月) 単

【所属学会等】

日本会計研究学会東北部会

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・会計構造論に関する一考察ー包括利益概念の導入をめぐる財務業績の再検討ー (修士論文、東北大学、1999年3月) 単
- ・包括利益概念の財務業績としての妥当性ーアメリカ・イギリスにおける利益概念を中心としてー (研究年報経済学、東北大学、2002年10月) 単
- ・企業財務と株価に関する研究ー日本の財務優良企業における会計情報の株価説明力ー (博士論文、東北大学、2003年3月) 単

【過去5年間に行った口頭発表】

【過去5年間に行った社会的活動】

【職・氏名】 成田 健 (Narita Takeshi) 食物栄養学科 教授

【専攻分野】 動物栄養生理学

【担当科目】 生物機能論、公衆栄養学概論、食品加工実習、栄養情報管理Ⅱ、食物栄養情報学Ⅰ、特別演習、生命のしくみ

【主要論文】

- Effect of Dietary Protein on Arginine Concentration and Arginase Activity of Intestinal Tract in Rats (Nutr. Rep. Internal., **37**, 173-178, 1988)
- Effects of Supplementing a Low Casein diet with Excess Cystine and Arginine on Arginase Activity in Rats (Anim. Sci. Technol., **62**, 1136-1141, 1991) 共
- Effects of Cystine and Arginine Supplementation on Recovery Rate of Body Weight Loss and Concentration of Liver Glutathione in Rats Fed a Choline-Deficient and Low-Methionine Diet (Anim. Sci. Technol., **63**, 474-480, 1992) 共

【所属学会等】

日本栄養・食糧学会、日本公衆衛生学会、日本生化学会

【職・氏名】 渡邊幸夫(Watanabe Yukio) 食物栄養学科教授

【専攻分野】 食品理化学 食品学 (食品物性)

【担当科目】 食品学総論、食品学総論実験、基礎化学、食物栄養情報学、特別演習、生活の化学

【主要著書】

- ・「食品タンパク質の科学 テクスチャーとレオロジー編」(山内文男編、食品資材研究会、1986) 共
- ・「食品の物性 13 集」(松本幸雄・山野善正編、食品資材研究会、1987) 共
- ・「レオロジー工学とその応用技術」(中江利昭監修、フジテクノシステム、2001) 共
- ・「おいしさの科学事典」(山野善正総監修、朝倉書店、2003) 共
- ・「混練・分散の基礎と先端的应用技術」(応用編:長谷川正・相馬 勲 編集、テクノシステム、2003) 共

【主要論文】

- ・各種食肉の粘弾性について、(日本畜産学会報、50 (6), 1979) 共
- ・鶏肉の粘弾性とその品種差ならびに性差について、(日本畜産学会報、50 (8), 1979) 共
- ・異なる週齢の鶏の胸肉と腿肉における粘弾性の比較ならびにこれらにおよぼす飼料に添加された脂質の影響、(日本畜産学会報、51 (8), 1980) 共
- ・鶏肉の粘弾性に関する官能評価ならびにこれと応力緩和試験成績との関係、(日本畜産学会報、51 (12), 1980) 共
- ・鶏肉の粘弾性におよぼすケージ内床面積の影響、(日本畜産学会報、52 (9), 1981)

【所属学会等】

日本食品科学工学会、日本畜産学会、日本レオロジー学会、日本食肉研究会

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

【著書】

- ・「健康からみた基礎食品学」(藤本健四郎・金子憲太郎編、アイケイコーポレーション、2002) 共
- ・「レオロジー工学とその応用技術」(中江利昭監修、フジテクノシステム、2001) 共
- ・「おいしさの科学事典」(山野善正総監修、朝倉書店、2003) 共
- ・「混練・分散の基礎と先端的应用技術」(応用編、長谷川正・相馬 勲 編集、テクノシステム、2003) 共
- ・固形状食品のかたさについて、(産業科学システムズ・セミナーテキスト、1999, 6)

【過去5年間に行った口頭発表】

- ・固形状食品のかたさについて、(産業科学システムズ・セミナー、1999, 6)

【過去5年間に行った社会的活動】

- ・日本食品科学工学会東北支部評議員 (1997年度- 現在に至る)
- ・会津若松市廃棄物処理運営審議会委員 (2003, 8- 現在に至る)

【職・氏名】 安江俊二 (Yasue Shunji) 食物栄養学科 教授

【生年月日】 1945. 6. 17

【専攻分野】 生化学 運動生理生化学

【担当科目】 生化学、生化学実験、有機化学 I・II、運動生理学、運動生理学実習、栄養学総論、食物栄養情報学 I・II、特別演習

【主要著書等】

- ・「生物化学ハンドブック」(編集委員会編、(株)技報堂、1970) 共

【主要論文】

- ・5 α -Reduction of Testosterone in Vitro by Seminiferous Tubules, Prostate and Muscle from Immature Rats, Endocrinologia (Japonica, 21, 1974) 共
- ・Factor Derived from Tumour Cells Lowering Thermotolerance in Mice (Jpn. J. Hyperthermic Oncol., 4 (3), 1988) 共
- ・On Combination Therapy of Selective Local Hyperthermia and Local Immunomodulator (Hyperthermic Oncology, 1, 1989) 共
- ・高体温下における循環動態、血中カテコラミンにおよぼすDantrolene Sodiumの影響, (日本麻酔・薬理学会誌, 2 (1), 1989) 共
- ・On Combination Therapy of Selective Local Hyperthermia and Local Injection of γ TNF and γ IL-2 into Tumor, (Hyperthermic Oncology in Japan 1989, 1, 1990) 共

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・地域における生活習慣病予防教室—栄養・運動指導の試み—
(保健の科学、42、2000) 共

【過去5年間に行った口頭発表】

- ・ライフロングカレッジを試みて(第1報～第6報)(第46回日本栄養改善学会、1999.10) 共
- ・糖尿病予防教室のシステムと指導結果について(第1報)(第54回福島県公衆衛生学会、2000.9) 共

【所属学会等】

日本生化学会、日本体力医学会、日本麻酔薬理学会

【社会的活動】

会津若松市環境審議会委員(1994～1996)、同副会長(1996～1999)、同会長(1999～)

【職・氏名】近藤 哲 (Kondo Satoshi) 食物栄養学科 教授

【専攻分野】英文学 比較文学

【担当科目】英語 I、英語 II、英語 III、英語 IV、基礎英語、総合科目、特別演習、
食物栄養情報学 I、食物栄養情報学 II

【主要著書】

- ・「ロマン派文学のすがた」(仙台イギリス・ロマン派研究会、1993) 共
- ・「漱石と會津っぼ・山嵐」(歴史春秋社、1995) 単
- ・「ロマン派文学のすがた II - 「未知なる存在様式」を求めて -」(英宝社、2004) 共

【主要論文】

- ・ワーズワスにおける死の問題 - *Lyrical Ballads* を中心にして - (会津短期大学研究年報 第46号、1989) 単
- ・ハーンと漱石の神秘主義 (会津大学短期大学部研究年報第54号、1997) 単
- ・ハーンのテニスン受容について (会津大学短期大学部研究年報第58号、2001) 単
- ・ハーンの「死後の恋」と漱石の「第一夜」(比較文化研究 No. 51、2001) 単
- ・ドロシー・ワーズワスの「大陸旅行記」(会津大学短期大学部研究年報第59号、2002) 単

【所属学会等】

日本英文学会、イギリス・ロマン派学会、東北英文学会、日本比較文化学会

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・ワーズワスのスコットランド周遊(1803)の跡を辿って (会津大学短期大学部研究年報 第56号、1999) 単
- ・夏目漱石未亡人・鏡子の手紙 (会津大学短期大学部研究年報 58号、2001) 単
- ・土井晩翠の手紙 (会津大学短期大学部研究年報 59号、2002) 単

【過去5年間に行った口頭発表】

【過去5年間に行った社会的活動】

- ・第1回会津図書館現代文学講座「英国詩人・ワーズワスの文学世界」(1)～(5) (1999.10～11)
- ・第2回会津図書館現代文学講座「百年前の夏目漱石」(1)～(5) (2000.10～11)
- ・会津高等学校同窓会坂下地区総会講演 (2001.6)
- ・葵高等学校評議員 (2002年度)
- ・会津高等学校2学年進路系統別学習特別講座語学系統講演 (2003.1)
- ・会津高等学校2学年進路系統別学習特別講座語学系統講演 (2003.10)
- ・福島県高等学校教育研究会英語部会会津方部「秋の研究会」講演 (2003.11)

【職・氏名】 宮下朋子(Miyashita Tomoko) 食物栄養学科 助教授

【生年月日】 1959.3.21

【専攻分野】 調理科学 食文化

【担当科目】 調理学、調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱ、食文化論、食物栄養情報学Ⅰ、特別演習

【主要著書】

【主要論文】

- ・ゼラチンゾルの冷却条件が及ぼす影響(日本家政学会誌、Vol.44、No.5、1993、363～368、共)
- ・寒天混合ゼラチンゾルのゲルへの変換とゲルのレオロジー的特性(日本調理学会、Vol.27、No.2、1994、363～368)共
- ・熱伝達率を利用した非破壊法による調理食品のゲル化温度の測定—従来法との比較—(福島大学教育学部理科報告、第56号、25～35、1995)単
- ・調理操作に見る食に対する価値観について—味噌汁への旨味調味料からの検討—
(会津大学短期大学部研究年報大58号、73～80(2001)単
- ・女子短大生における塩味感受性について(第3報)
(会津大学短期大学部研究年報大60号、21～30(2003)共

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

(論文)

- ・調理操作に見る食に対する価値観について—味噌汁への旨味添加方法からの検討(会津大学短期大学部年報第58号、2001)単
- ・女子短大生における塩味感受性について(第3報)—塩味感受性を高める授業運営に関する検討—(会津大学短期大学部年報第60号、2003)共

(学会発表)

- ・遠山郷におけるソバダangoをめぐる暮らし — 食文化に見る地域性に関する一試論 —
2003年5月31日 日本食生活学会 女子栄養大学駒込キャンパス 共
- ・ブラックバスの「Catch and Eat」に関する一提案
2004年5月29日 日本食生活学会 女子栄養大学駒込キャンパス 単

【所属学会等】

- ・日本家政学会、日本調理科学会、日本栄養改善学会、日本食生活学会、日本官能評価学会

【社会的活動】

会津若松市公民館運営審議会副委員長 (2000～2001)

福島県内水面漁業管理委員会委員 (2000～)

ライフロングカレッジ in Aizu 講師 (2002. 8) 全5回

福島県栄養士会浪江・相馬支部講習会講師「美味しさを科学する」(2002. 10. 17)

日本学校心理士会福島宮城支部主催 第3回思春期問題公開学習会パネラー(2003)

【職・氏名】 西村政子(Nishimura Masako) 食物栄養学科 助教授

【生年月日】 1946. 11.17

【専攻分野】 栄養学

【担当科目】 栄養学各論、栄養学各論実習、臨床栄養学実習、食物栄養情報学Ⅰ、
食物栄養情報学Ⅱ、栄養情報管理Ⅰ、特別演習

【主要著書】

【主要論文】

- ・地域における生活習慣病予防教室—栄養・運動指導の試み—(保健の科学、VOL. 42 NO.5、2000)共
- ・誤嚥防止のための嚥下補助食品の添加濃度の検討(女子栄養大学栄養科学研究所年報、第8号、2000)共

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・地域における生活習慣病予防教室—栄養・運動指導の試み—(保健の科学、VOL. 42 NO.5、2000)共
- ・誤嚥防止のための嚥下補助食品の添加濃度の検討(女子栄養大学栄養科学研究所年報、第8号、2000)共

【過去5年間に行った口頭発表】

- ・ライフロングカレッジを試みて—第1報～第6報—(第46回日本栄養改善学会、1999)

【所属学会等】

日本栄養改善学会、日本臨床栄養学会、日本臨床栄養協会、日本栄養士会、
トータルライフ医療研究会

【社会的活動】

【職・氏名】 鈴木秀子 (Suzuki Hideko) 食物栄養学科講師

【専攻分野】 栄養指導

【担当科目】 栄養指導論Ⅰ・Ⅱ、栄養指導論実習、食生活論、食物栄養情報学Ⅰ・Ⅱ、特別演習

【主要著書】

【主要論文】

- ・ CAPD の栄養管理 (摂取量、消費量からの一考察)
(福島県立会津総合病院雑誌第6巻 1990) 共
- ・ 生涯を通じた健康づくり体制の整備について～学校保健と連携した地域保健活動から～ (福島県保健衛生情報第9巻 1999) 共

【所属学会等】 日本栄養改善学会、日本公衆衛生学会、日本ヘルスプロモーション学会

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・ 小児期における成人病予防事業報告書(1999) 共
- ・ 健康ふくしま21計画(2001) 共
- ・ 南会津管内の生活実態調査報告書(2001) 共
- ・ 健康南会津21計画(2002) 共
- ・ 栄養摂取状況調査報告書 (健康南会津21推進事業) (2002) 共
- ・ 地区組織支援者のための手引(2003) 共

【過去5年間に行った口頭発表】

- ・ 集団給食施設栄養指導について(平成12年度福島県保健衛生学会 2000.9) 共
- ・ 健康南会津21推進事業栄養摂取状況調査からの一考察
(平成13年度福島県保健衛生学会 2001.9) 共
- ・ 健康南会津21推進事業生活習慣実態調査からの一考察
(平成13年度福島県保健衛生学会 2001.9) 共
- ・ 二次医療圏計画「健康南会津21」策定を通じた保健所と市町村の協働体制の構築
～栄養・食生活計画から～ (第61回日本公衆衛生学会 2002.10) 共
- ・ 二次医療圏計画「健康南会津21」策定の試み～計画策定の概要～
(第61回日本公衆衛生学会 2002.10) 共
- ・ 「山都町住民の食生活に関する調査事業」の取り組み(第一報)
(平成15年度福島県保健衛生学会 2003.8) 共
- ・ 「山都町住民の食生活に関する調査事業」の取り組み(第二報)
(平成15年度福島県保健衛生学会 2003.8) 共
- ・ 「山都町住民の食生活に関する調査事業」の取り組みからの一考察
～保健所の役割について～(平成15年度福島県保健衛生学会 2003.8) 共
- ・ 山都町住民の食生活に関する調査結果(第一報)(第62回日本公衆衛生学会 2003.10) 共
- ・ 山都町住民の食生活に関する調査結果(第二報): 健康習慣と食生活
(第62回日本公衆衛生学会 2003.10) 共

【過去5年間に行った社会的活動】

- ・ 社団法人福島県栄養士会 理事 (2002年度～2003年度まで)
- ・ 社団法人福島県栄養士会 行政栄養士協議会長 (2002年度～2003年度まで)
- ・ 会津若松市社会教育委員 (2003年6月～現在に至る)
- ・ 財団法人会津若松文化振興財団理事 (2004年度～現在に至る)

【職・氏名】 鈴木 和 (Suzuki Kazu) 食物栄養学科 講師

【専攻分野】 栄養学

【担当科目】 給食管理学内、給食管理学外

【主要著書】

特にありません。

【主要論文】

- ・ 肥満妊婦の体重管理・栄養管理および若年女性の食生活 (大阪教育大学家政学研究会生活文化研究 2002) 共
- ・ 若年女性の葉酸摂取状況 (微量栄養素研究会 2002) 共
- ・ 若年女性の栄養摂取状況—葉酸など微量栄養素を中心として— (大阪教育大学紀要 2002) 共
- ・
- ・

【所属学会等】

栄養改善学会、臨床栄養協会

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・ 肥満妊婦の体重管理・栄養管理および若年女性の食生活 (大阪教育大学家政学研究会生活文化研究 2002) 共
- ・ 若年女性の葉酸摂取状況 (微量栄養素研究会 2002) 共
- ・ 若年女性の栄養摂取状況—葉酸など微量栄養素を中心として— (大阪教育大学紀要 2002) 共

【過去5年間に行った口頭発表】

- ・ 肥満妊婦の体重管理と栄養管理について (第48回日本栄養改善学会学術総会 2001) 共
- ・ 若年女性の葉酸摂取状況 (第19回微量栄養素研究会 2002) 共
- ・ 若年女性の朝食の重要性 (第50回日本栄養改善学会学術総会 2003) 共

【過去5年間に行った社会的活動】

特にありません。

【職・氏名】 穴澤多美子 (Anazawa Tamiko) 食物栄養学科 助手

【専攻分野】

【担当科目】 給食管理実習、栄養指導論実習、食品衛生学実験、食品学各論実験、生化学実験

【主要著書】

【主要論文】

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

【所属学会等】

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・ 当院における透析患者の食事摂取の状況 (日本栄養改善学会 1999)
- ・
- ・

【過去5年間に行った口頭発表】

- ・
- ・
- ・

【過去5年間に行った社会的活動】

- ・ 県立会津看護専門学校 講師 (1999)
- ・ 須賀川健康アップ21事業 (2000～2001)
- ・ 学校法人東明幼稚園料理教室 講師 (2002)
- ・ 会津若松市立一箕小学校教養講座 講師 (2002～2003)
- ・ 会津若松市立一箕小学校親子料理教室 講師 (2003)
- ・ 会津若松市立一箕小学校総合学習 講師 (2003)

【職・氏名】 積口順子 (Sekiguchi Junko) 食物栄養学科 助手

【専攻分野】

【担当科目】 調理学実習・調理学実験・解剖生理学実習・給食管理学外実習等の補助

【主要著書】

【主要論文】

【所属学会等】 日本栄養改善学会

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・福島県集団給食施設指導マニュアル (福島県 平成11年3月 事務局)
- ・学校給食の手引 (福島県学校給食会 平成15年3月 事務局)
- ・学校給食の残滓に関する調査研究会集録 (福島県学校給食会 平成16年3月 指導助言者)

【過去5年間に行った口頭発表】

【過去5年間に行った社会的活動】

- ・相馬市学校調理師研修会講師 (H12. 8. 23)
- ・福島県学校給食研究会栄養士部会研修会講師 (H13. 5. 23)
- ・学校栄養職員経験者研修 I 「共通研修」講師 (H13. 5. 17)
- ・福島市学校給食研究会学校給食主任研修会講師 (H13. 9. 27)
- ・岩瀬地区学校給食研究会研修会講師 (H13. 10. 1)
- ・WHO 農業交渉と学校給食を考えるシンポジウムパネリスト (H13. 10. 20)
- ・伊達地区学校給食研究会研修会講師 (H13. 11. 9)
- ・福島県学校給食研究会栄養士部会会津方部研修会講師 (H14. 2. 21)
- ・学校給食用物資委員会委員 (福島県学校給食会 H12. 4~H15. 3)
- ・「残さに関する調査研究事業」指導助言者 (福島県学校給食会 H14. 4~H15. 3)

【職・氏名】 小針文子 (Kobari Ayako) 食物栄養学科 助手

【専攻分野】

【担当科目】 食品学総論実験、食品加工実習、臨床栄養学実習、ライフステージ栄養学実習等の補助

【主要著書】

【主要論文】

- ・透析患者の運動量調査 (東北腎不全研究会、1996) 共

【所属学会等】

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・食物の温度差摂取による血糖、HbA1Cの変動について
(福島県立病院医学研究誌第16巻、平成12年) 共

【過去5年間に行った口頭発表】

【過去5年間に行った社会的活動】

- ・福島県立会津若松看護専門学校 講師 (2000～2001)

【職・氏名】 田中俊雄 (Tanaka Toshio) 社会福祉学科 教授

【専攻分野】 障害者福祉 教育学

【担当科目】 障害者福祉Ⅰ・Ⅱ、障害児保育論、教育原理、社会福祉実習指導、保育実習Ⅲ、特別演習

【主要著書】

- ・『人間の教育』(担当「福祉と教育」126-155頁)(福村出版、1977) 共
- ・『新版・施設養護論』(担当「施設養護の体系」57-67, 72-79頁)(ミネルヴァ書房、1977) 共
- ・『施設養護の理論と実践』(担当「施設養護と教育」199-229頁)(福村出版1979) 共
- ・『現代の教育』(担当「福祉と教育」210-231頁)(福村出版、1981) 共
- ・『発達のすじみちと障害児の指導』(福村出版、1985) 単
- ・『障害児教育論』(日本図書館協会選定図書)(ミネルヴァ書房、1991) 単
- ・『地球環境と教育』(編著)(担当「自然環境と教育」28-54頁)(ミネルヴァ書房、1992) 共

【主要論文】

- ・孤児・貧困児・障害児に対する社会的養護の展開3(大垣女子短期大学研究紀要第9号、1978) 単
- ・障害児対策における自治体の責務に関する研究(大垣女子短期大学研究紀要第11号1980) 単
- ・障害児教育方法の研究(1)(大垣女子短期大学研究紀要第28号、1989) 単
- ・障害児教育方法の研究(2)(大垣女子短期大学研究紀要第29号、1989) 単
- ・自閉症の障害と発達(大垣女子短期大学研究紀要第39号、1998) 単

【所属学会等】

日本教育学会、総合社会福祉研究所、特別なニーズ教育とインテグレーション学会、日本社会福祉学会、日本発達障害学会、日本NPOセンター

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・障害者福祉と「障害観」「障害者観」の研究(大垣女子短期大学研究紀要第40号、1999) 単
- ・障害者福祉と「障害観」「障害者観」の研究(大垣女子短期大学研究紀要第41号、2000) 単
- ・障害者福祉事業とNPOの活動(会津大学短期大学部研究年報59号、2002) 単
- ・NPOへの支援の概要と考察(会津大学短期大学部研究年報60号、2003) 単

【過去5年間に行った社会的活動】

- ・社会福祉法人すずかけ福祉会(知的障害者通所授産施設、グループホーム経営)理事長(1996年6月～現在に至る)
- ・福島県知的障害者施設親の会連絡協議会大会記念講演(会津風雅堂大ホール 2001年9月)
- ・福島県障害者福祉施設職員研修会講演(福島県総合社会福祉センター 2001年11月)
- ・福島県知的障害者福祉等事務委譲市町村職員研修会講義(福島県青少年会館 2002年1月)
- ・財団法人福島県学術教育振興財団助成対象事業「障害者・高齢者・子ども用ヒューマン・コンピュータインターフェースの研究開発(Dr. ニコライ N. ミレンコフ会津大教授(学部・大学院分散並行処理学講座)と共同研究)(2002年度)
- ・福島県社会福祉事業団評議員(2002年～2004年3月)
- ・会津若松市交通バリアフリー・冬期バリアフリー懇談会会長(2002年～2003年2月)
- ・福島県介護福祉士受験準備講習会講師(2002年6月)
- ・平成15年度福島県障害者福祉施設職員研修会講師(福島県社会福祉協議会・福祉研修センター)2003.9
- ・平成16年度福島県福祉関係市町村職員研修会講師(福島県社会福祉協議会・福祉研修センター)2004.9

- 【職・氏名】 小林英義 (Kobayashi Hideyoshi) 社会福祉学科 教授
- 【専攻分野】 児童福祉、施設養護、少年非行
- 【担当科目】 児童福祉論 I a・I b、養護原理、養護内容論、保育実習 I a、社会福祉実習指導
特別演習

【主要著書】

- ・「ひとりぼっち (養護施設からの報告)」(みくに書房、1985)
- ・「愛と哀しみの少年たち (教護院・ある夫婦寮の記録)」(教育史料出版会、1992)
- ・「児童自立支援施設とは何か(子どもたちへの真の教育保障のために)」(教育史料出版会、1999)
- ・「少女たちの迷走 (児童自立支援施設からの出発)」(三学出版、2001)
- ・「虐待を受けた子どもへの自立支援 (福祉実践からの提言)」(中央法規、2002) 共
- ・「児童自立支援施設の可能性 (教護院からのバトンタッチ)」(ミネルヴァ書房、2004) 共

【主要論文】

- ・「教護院入所児童の教育保障 (公教育の位置づけを中心に)」(東洋大学大学院修士論文、1998)
- ・「施設入所児童の教育保障 (法改正による児童自立支援施設の動向) (会津大学短期大学部研究 年報第 60 号、2003)
- ・「改正児童福祉法の処遇理念 (児童自立支援施設をめぐる課題)」(会津大学短期大学部研究年報 第 61 号、2004)
- ・「触法少年の施設処遇 (児童自立支援施設をめぐる課題)」(司法福祉学研究第 4 号、2004)

【所属学会等】

日本社会福祉学会、日本子ども家庭福祉学会、日本司法福祉学会

【過去 5 年間に行った口頭発表】

- ・被虐待児への自立支援 (第 6 回日本子どもの虐待防止研究会あいち大会学術集会、2000) 共
- ・自立支援を支える職員の意識 (日本司法福祉学会第 3 回神戸大会、2002)

【過去 5 年間に行った社会的活動】

- ・福島県社会福祉研修センター運営協議会企画専門部会委員 (2000 年度～現在)
- ・福島県福祉人材センター運営委員会委員 (2000 年度～現在)
- ・福島県若松乳児院苦情解決第三者連絡会議委員 (2002 年度～現在)
- ・福島県会津児童相談所児童虐待対応専門員 (2002 年度～現在)
- ・厚生労働省「児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設第三者評価基準検討委員会」委員 (2002 年度)
- ・全国保育士養成協議会「児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設の第三者チェックリストマニュアル作り研究会」特別研究員 (2003 年度)

【職・氏名】 飯嶋尚 (Iijima Takashi) 社会福祉学科 助教授

【専攻分野】 声楽 音響学

【担当科目】 音楽 音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 特別演習

【主要著書】

【主要論文】

- ・ ハンドベルの歴史と奏法 会津短期大学研究年報 48号 単
- ・ 日本における音楽教育の現状と課題Ⅰ 会津大学短期大学部研究年報第60号掲載 単
- ・ 社会福祉施設における音楽環境の現状と課題 平成15年度地域調査掲載 単
- ・ 音感教育用時計開発Ⅰ 平成15年度会津大学研究年報掲載 単
- ・

【所属学会等】

日本音響学会 日本保育学会

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・ 会津若松市市政百周年記念演奏会 オーケストラ指揮 1999/11/6
- ・ 馬場ちひろソプラノ独唱会 ピアノ伴奏 2001/5/11
- ・ 日本における音楽教育の現状と課題Ⅰ 会津大学短期大学部研究年報第60号掲載 単
- ・ 社会福祉施設における音楽環境の現状と課題 平成15年度地域調査掲載 単
- ・ 音感教育用時計開発Ⅰ 平成15年度会津大学研究年報掲載 単
- ・

【過去5年間に行った口頭発表】

- ・ 公共施設における音楽練習室の作り方 会津大学短期大学部公開講座 2000/11/25 単
- ・ 日本における音楽教育の現状と課題 会津大学短期大学部公開講座 2003/10/25 単

【過去5年間に行った社会的活動】

- ・ 会津若松市図書館協議会委員 1997～2001
- ・ 会津若松市市政百周年記念演奏会副実行委員長 1998～1999
- ・ 会津若松市保育事業検討委員会委員 2002～2003
- ・ 会津若松市内小学校、中学校、高等学校での音楽指導
- ・ 児童養護施設での音楽指導
- ・ 老人福祉施設での音楽療法研修指導
- ・ 会津若松市内福祉施設でのハンドベル演奏指揮
- ・ 福島県合唱連盟での合唱指導

【職・氏名】 長渕晃二 (Nagabuchi Koji) 社会福祉学科 助教授

【専攻分野】 コミュニティワーク

【担当科目】 老人福祉論、介護概論、社会福祉援助技術演習、特別演習、社会福祉実習指導

【主要著書】

- ・「東村山発福祉のまちづくり」(筒井書房、1999) 分担執筆
- ・「地域福祉活動計画をつくる」(大活字、2001) 共
- ・「地域福祉イベントのノウハウ」(筒井書房、2001) 共
- ・「コミュニティワーカー実践物語」(筒井書房、2002)
- ・「音楽で福祉のまちづくり」(筒井書房、2002)
- ・「街の中の小さな拠点」(筒井書房、2002) 共
- ・「コミュニティワークを学ぶ」(久美、2003)
- ・「障害があるからこそ出かけよう」(筒井書房、2003) 共

【主要論文】

- ・コミュニティワークにおける事業別の計画・評価・記録の枠組みに関する一試論(東海女子短期大学紀要第28号、2002)
- ・福祉音楽活動の類型化と課題～福祉音楽論の構築に向けて～(日本福祉文化学会誌 Vol. 12、2003)
- ・大学ボランティアセンターの意義・方法・課題～社会福祉協議会の活動と比較して～(東海女子短期大学紀要第29号、2003)
- ・コミュニティワークの事例研究法に関する一試論(日本ソーシャルワーカー協会誌第7号、2003)
- ・社会福祉協議会における社会福祉援助技術現場実習の方法と課題(東海女子短期大学紀要第30号、2004)

【所属学会等】

日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本福祉教育ボランティア学習学会、日本福祉文化学会

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

主要著書・主要論文と同

【過去5年間に行った口頭発表】

- ・市町村社協の自主財源確保に関する実践・研究課題(日本地域福祉学会、1999.6)
- ・小地域福祉活動の拠点及びその支援のあり方に関する一考察(日本地域福祉学会、2002.6)
- ・障害者の移動支援相談の方法(日本福祉文化学会、2002.12)
- ・介護をテーマとした福祉音楽活動の方法と課題(日本福祉文化学会、2003.11)

【過去5年間に行った社会的活動】

- ・名古屋市南区および中村区社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会副委員長、作業部会長(2002年度～現在に至る)
- ・東村山市社会福祉協議会研究員(2001年度～現在に至る)

【職・氏名】 藤澤宏樹 (Fujisawa Hiroki) 社会福祉学科 助教授

【専攻分野】 憲法、社会保障法

【担当科目】 社会保障論、公的扶助論、社会福祉法制論

【主要著書】

- ・ 「理工系学生のための法学概論」(学術図書出版社、2000) 共

【主要論文】

- ・ 福祉受給権と違憲審査の基準 -アメリカ合衆国における福祉受給権判例の展開 (1) -
福島高専研究紀要 36 号 (1997) 64-73 頁 単
- ・ 福祉受給権と合理性の基準 -アメリカ合衆国における福祉受給権判例の展開 (2) -
福島高専研究紀要 37 号 (1998) 82-90 頁 単
- ・ 福祉受給権と手続的デュー・プロセス -アメリカ合衆国における福祉受給権判例の展開 (3) -
福島高専研究紀要 38 号 (1998) 76-83 頁 単
- ・ 福祉受給権と「二重の基準」論 -アメリカ合衆国における福祉受給権判例の展開 (4・完) -
福島高専研究紀要 39 号 (1999) 159-166 頁 単

【所属学会等】

日本公法学会、日本社会保障法学会、日米法学会、憲法理論研究会、東北労働法研究会

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

- ・ 生存権の法的性格論 (1) (2・完) 福島高専研究紀要 40 号 (2000) 123-132, 133-144 頁 共
- ・ 生存権と「二重の基準」論 社会保障法 18 号 (法律文化社、2003) 20-32 頁 単
- ・ 生存権の違憲審査基準論の再検討 法律時報 75 卷 10 号 (日本評論社、2003) 83-87 頁 単
- ・ なぜ生存権が保障されなければならないのか
ゆたかなくらし 259 号 (本の泉社、2003) 18-25 頁 単
- ・ サークル「ハンセン病を知る会」の活動
地域研究 12 号 (会津大学短期大学部地域総合調査室、2004) 71-108 頁 単

【過去5年間に行った口頭発表】

- ・ 生存権と「二重の基準」論 (第41回日本社会保障法学会、2002.5) 単
- ・ 憲法25条と立法裁量 (東北労働法研究会、2003.6) 単

【過去5年間に行った社会的活動】

- ・ うつくしま未来博成果継承基金活用会議委員・副コーディネーター (2002)
- ・ (うつくしま未来博成果継承基金を利用した) 公益信託支援組織検討会委員 (2002-2003)
- ・ うつくしまNPOネットワーク監査 (2003～現在に至る)
- ・ 福島県介護保険審査会委員 (2003～現在に至る)
- ・ 会津本郷町個人情報保護制度懇談会委員 (2003)
- ・ 会津本郷町個人情報保護制度審査会委員 (2003～現在に至る)

【職・氏名】 酒井英明(Sakai Hideaki) 社会福祉学科 助教授

【専攻分野】 小児科学、感染症学

【担当科目】 小児保健 I a、小児保健 I b

【主要著書】

【主要論文】

-
-
-
-
-

【所属学会等】

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

-
-
-

【過去5年間に行った口頭発表】

-
-
-

【過去5年間に行った社会的活動】

-
-
-

【職・氏名】 三島 亜紀子(Mishima Akiko) 社会福祉学科 講師
【専攻分野】 社会福祉学 社会学
【担当科目】 社会福祉学概論Ⅰ・Ⅱ 社会福祉援助技術総論Ⅰ・Ⅱ 社会福祉実習指導 特別演習(三島) 社会福祉実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

【主要著書】

- ・「医師とソーシャルワーカーの専門職化 —A・フレクスナーの及ぼした影響を中心に」、黒田浩一郎編『医療社会学のフロンティア—現代医療と社会』平成13年3月10日、世界思想社、111～132頁
- ・「障害者福祉の法制度」白澤政和・北野誠一編『社会福祉士の基礎知識』中央法規出版、平成16年

【主要論文】

- ・ソーシャルワークの学問的「体系化」についての一考察—フレックスナーのあたえた専門職化への影響(31～37頁)、『日本医療社会福祉学会誌』平成12年、第9巻第1号
- ・「ポストモダニズム」と相対化された social work theory—契機としてのクリーブランド児童虐待事件(307～312頁)、『ソーシャルワーク研究』平成13年、第104号
- ・社会福祉の理念に関する一考察(44～47頁)、『月刊総合ケア』平成13年、医歯薬出版、第11巻第12号
- ・社会福祉学における「主体」に関する一考察(39-44頁)『ソーシャルワーク研究』2002年、第28巻第1号、
- ・障害者観とジェンダー—『チャタレー婦人の恋人』にみる中途障害者(111-126頁)『会津大学短期大学部年報』2003年、第60号

【所属学会等】

日本医療社会福祉学会、日本社会福祉学会、社会福祉学会、日本社会福祉実践理論学会

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

上記は全て過去5年間

【過去5年間に行った口頭発表】

- ・ソーシャルワーク実践とM・フーコー、平成12年10月22日、日本医療社会福祉学会第9回大会
- ・ソーシャルワークにおける「主体(subject)」の問題について、平成12年11月4日日本社会福祉学会第48回大会

【過去5年間に行った社会的活動】

会津若松市高齢者向け優良賃貸住宅供給促進検討会委員(2003年度)
障害学会発起人・理事(2003年～現在に至る)
福島県介護保険審査会(2004年度)

【職・氏名】 利根川智子 (Tonegawa Tomoko) 社会福祉学科 講師

【専攻分野】 発達心理学

【担当科目】 保育原理 I a、保育原理 I b、保育実習 I b、保育実習 II、発達心理学、人間関係、特別演習

【主要著書】

無し

【主要論文】

- ・「幼児期における母子の愛着スタイルと子どもの社会的コンピテンス」『筑波大学発達臨床心理学研究』(筑波大学心理学系) 第6巻 29～42項 (首藤敏元・利根川智子) 1996年3月
- ・「挑発場面と偶発場面における幼児の社会的問題解決とその対人行動との関連」『埼玉大学紀要教育学部(教育科学I)』第45巻 第1号 83～94項 (利根川智子・首藤敏元) 1996年3月
- ・「幼児の愛着と社会的コンピテンスとの関係についての一考察」(修士論文) 埼玉大学大学院教育学研究科 全202項 1997年3月
- ・「幼児の愛着表象と社会的問題解決との関係」『埼玉大学紀要教育学部(教育科学)』第46巻 第2号 1～16項 (利根川智子・首藤敏元) 1997年9月

【所属学会等】

日本発達心理学会、日本教育心理学会、日本心理学会、日本パーソナリティ心理学会

【過去5年間に公表した著書・論文・報告書・作品・発表会等】

無し

【過去5年間に行った口頭発表】

- ・「4歳児クラスにおける対人葛藤解決 —3年保育と2年保育の差違—」(日本発達心理学会第10回大会) 1999年3月
- ・「幼稚園児における対人葛藤解決の発達的变化 —入園年齢による差違—」(日本教育心理学会第41回総会) 1999年8月
- ・「親の養育態度が特性不安と成功・失敗場面での社会的比較・原因帰属に及ぼす効果」(日本性格心理学会(現・日本パーソナリティ心理学会)第8回大会)(杉森伸吉・利根川智子・内藤まゆみ・松富名奈子) 1999年9月
- ・「家族関係と愛着③: 父母の育児意識と母子の愛着」(園田菜摘・数井みゆき・遠藤利彦・田中亜希子・利根川智子・北村琴美) 2000年3月
- ・「子どものジェンダー・ステレオタイプ判断の発達 —保育園児と小学校3年生の比較—」(日本心理学会第65回大会)(相良順子・利根川智子・仲江真奈・坂本章) 2001年11月

【過去5年間に行った社会的活動】

無し

2004 年度 会津大学短期大学部 自己点検・評価報告書

平成 17 年 3 月 31 日発行

編集 会津大学短期大学部自己評価総括委員会

発行 会津大学短期大学部

〒965-8570 会津若松市一箕町八幡字門田 1-1

TEL 0242(37)2300

ホームページ <http://www.jc.u-aizu.ac.jp>

E-mail info@jc.u-aizu.ac.jp